

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目標

高崎健康福祉大学（健大）を知り、健大への理解と自身の所属学科以外の他学科の理解をもとに、多様な職種に対する理解や自校理解の礎を作る。

健大の精神「自利利他」は、「人の喜びを自分の喜びとする心」であり、学生生活から将来に至るまで様々な局面での行動・成長基盤となりうるものである。健大精神のあり方を考えるきっかけとなる講義を行い、成長につなげる。SDGs（Sustainable Development Goals）は、持続可能な未来を形成するために意識すべき目標である。SDGsを知り、また具体的な関わりの例などから考えることで、様々な局面で貢献する為の素養を身につける。

以上を通じて、Well-being社会に貢献する人材へ成長するための基盤構築を本講義の目標とする。

②講義の実施方法

全講義オンデマンド式とする。

1. 講義の開講について

講義は第1回から9回までの講義で構成される。原則として毎週水曜日15時に1講義分の動画が公開されるので、各自で受講時間を確保して学習を進める。公開から1週間以内にオンラインシステムのリンクからアクセスし、講義動画視聴を行い、その後、オンラインシステム内で小テストを実施すること。

なお、動画へのアクセスは、高崎健康福祉大学Googleアカウントにログインした状態でのアクセスが必要となる。第1回の講義前、各学科ガイダンス等の中で受講方法に関する説明があるのでその指示に従い、各自で受講準備を行う事。

2. 講義の出席について

原則、各学科が1回を担当し学科の理解、学科における自利利他・SDGsとの関わりについて例を含めながら講義を行う。講義動画へのアクセスと小テスト実施をもって出席とする。

3. 講義後の入力提出について

講義視聴後に自身が感じた自利利他やSDGsへの考え、講義の感想など思った事をオンラインシステム上からアンケートに回答すること。アンケートは自由記述とするが講義改善の指標とするので、積極的な参加を期待する。

到達目標



1. 健大の学部・学科について知り、理解を深める。
2. 健大精神「自利利他」を知り、理解を深める。
3. SDGsを知り、理解を深める。■

使用教材



各講義回で利用する資料・教材がある場合にはオンラインシステムを通じて電子ファイルで配布を行う。

評価方法



第1回の受講（4%）と各講義回の講義動画閲覧と小テスト：2～9回（各12%）の合計100%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



小テストは点数のみ公開する。不正解の問題があった場合には講義を再視聴し、公開期間内に小テストをやり直したのち、自身の考えを醸成させること。小テストは再解答を3回まで認めるので、各自で適宜復習を行い、考えを発展させてほしい。

オフィスアワー



質問はオンラインシステムの連絡機能やメールで受け付ける。対面による質問を希望する場合はメールで事前に相談すること。

情報：松尾（1号館607研究室）

福祉：出雲（1号館511研究室）

栄養：高梨（3号館研究室）

薬：松岡（7号館312研究室）

看護：吉田久（5号館410研究室）

理学：中川（4号館413研究室）

子ども：栗原（8号館 学部長室）

農：橋田（10号館604研究室）

メールアドレス（#→@）



情報：松尾

matsuo#takasaki-u.ac.jp

福祉：出雲

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

栄養：高梨
 takanashi-m#takasaki-u.ac.jp
 薬：松岡
 isao#takasaki-u.ac.jp
 看護：吉田久
 yoshikumi#takasaki-u.ac.jp
 理学：中川
 nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp
 子ども：栗原
 kurihara-y#takasaki-u.ac.jp
 農：橋田
 hashida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	本学の歴史、大学としての自利利他、SDGsの考え（高崎健康福祉大学 学園長、学長）。	1, 2, 3	自利利他の意味、SDGsについて調べておく。 自身の端末で高崎健康福祉大学のアカウントにログオンできるようにしておく（各学科ガイダンス等で受講法の説明があるので、各自で第1回講義前までにオンライン受講準備を整え、ガイダンス動画を閲覧しておくこと）。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
2	医療情報学科（松尾）：情報技術が支える健康・医療	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
3	社会福祉学科（出雲）：誰も置き去りにしない社会	1, 2, 3	「誰も置き去りにしない社会」や「地域社会における支え合いの意義」について、調べておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。 講義で取り扱ったケースについて調べ、周囲と話しあってみる。	1h
4	健康栄養学科（高梨）：食と健康・福祉・医療	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
5	薬学部（松岡、須藤、高橋、田中）：Well-beingとクスリ	1, 2, 3	薬剤師の業務について調べておく。オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
6	看護学科（吉田、倉林、北原）	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
7	理学療法学科（中川）	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
8	子ども教育学科（栗原）：学校教育とLG	1, 2, 3	LGBTに関する新聞等の報道記事に目を通し、社会の動向を掴んでおく。	1h	講義動画での学びを基に、自身が今後どのような	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	BT ■				な行動をすべきかについて、身近な友人・知人との話し合いを通して明確にする。	
9	農学部（橋田、大政、吉積、石神、松岡、谷）	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h

合計時間（予習・復習）



18h

備考



授業の時間について
記載した予習復習時間で、講義内容の不明点が残る場合には各自で補完すること。

動画へのアクセスについて
各回講義動画の閲覧には、「高崎健康福祉大学のグーグルアカウント」にログオンした状態で端末でアクセスする事が必要です。講義動画にアクセスできない場合、アカウント設定やアクセス方法などを確認するようにして下さい。

質問などについて
各講義回で生じた内容に関する質問は講義回担当者へ、受講法に関する事は自学科担当教員に質問する事。
連絡をオンラインシステム経由で行う際には、「連絡・相談機能」を活用し、所属学科と学籍番号、氏名を記載の上、誰に対するどのような質問かを明記する事。返信がない場合にはE-mailで再度連絡を行う事。

成績評価について
講義回数は全9回で終了だが、成績付与は学期末に行われる。
本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。
なお、令和4年度以前の入学者が本講義を受講する場合は、単位認定時評価は「認定（N）」となり、GPA算出、卒業必要単位の対象外となる。また、履修登録時のCAPのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

基礎教養ゼミ

MYカモクに追加

英文名：Freshman Seminar (FYE)

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB001

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

2 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

町田 修三、長井 茂、小泉 英明

科目に関連した実務経験

小泉：人事、社員教育担当として企業にて勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

Think Pare & Share, Round Robin, 作文添削、個別指導など
小テスト等は採点后返却し解説する

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①充実して実り多い大学生活を送るには、どうしたらいいのだろうか？大学で失敗しないためには、初年時に学生生活の送り方を修得しておくことが極めて大切である。本講義では大学生活のキーとなる、学習方法やレポート執筆等にかかる「学習スキル」、コミュニケーション能力や主体性をはじめとした「ソーシャルスキル」、読み書きや数的能力などの「アカデミックスキル」など、学生にとって必要不可欠なスキルをしっかりと身につけていくことを講義の目標としている。また、早期にキャリア意識を獲得することも併せて目指している。受講学生には、積極的に講義に参加する受講態度が求められる。

る。

②本講義は複数の担当講師によるオムニバス形式での実施となる。授業では、ジェネリックスキルをつけるため、できる限りアクティブラーニングを取り入れる。日本語作文能力と数学基礎力は、学習支援センターとのコラボレーションで提出と添削を繰り返して涵養を目指す。

到達目標 ↑

- 1.大学での学習生活を確立する。
- 2.基礎学力を確認し、自己学習の方向性をつかむ。
- 3.社会人に必要とされる言葉使い・文章表現を習得する。■
- 4.総合適性検査（SPI）を意識し、対応するための基礎力を養成する。
- 5.キャリアデザインの構築を図るために、社会常識・マナー等を学び、自ら考え、自ら問える力を養う。■
- 6.効果的なアクティブラーニングを自ら体得し、実践できるようになる。

使用教材 ↑

資料、プリント

評価方法 ↑

参加貢献度50%、提出物50%で総合的に評価する。総合評価60%を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

提出物・レポート・小テストを返却し、解説をする。基礎力テストや実力テスト後に解説や結果を知らせる。

オフィスアワー ↑

学習支援センター（2号館2階）
月～金開室
以下の時間に質問を受け付ける。
●数的処理→月曜日
●言語関係・レポート等→水・金曜日

メールアドレス（#→@） ↑

町田：machida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	大学で何を学ぶか（意義と目的）	1	事前にシラバスを読み、目標を確認し、大学生活をプランニングする。	1h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。	1h
2	書くためのスキル（ノート、レポート・論文の書き方）	1,2,3	事前配布した資料に目を通しておく。	1h	ノートテキング、レポートの書き方をマスターする。	1h
3	基礎力テスト（計算／言葉）	1,2,3,4	言語・作文・計算や数式など基礎力を確認しておく。	1h	今までの学習を振り返り、復習する。	1h
4	解くためのワークⅠ（計算）	1,2,4	計算方法や文章題の復習をしておく。	1h	配布した問題の残りを解く。	1h
5	書くためのワークⅠ（文章表現、ライティング）■	1,2,3	事前配布した教材に目を通しておく。	1h	添削を受けた作文を書き直す。	1h
6	コミュニケーションスキルⅠ（アクティブラーニングGW）	1,2,3,6	事前配布した資料に目を通しておく。	1h	自己のコミュニケーションスキルを分析する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	キャリアデザインⅠ ■	1,2,5	自らの人生設計について考えておく。	1h	自らのキャリアを考え、自己分析する。	1h
8	解くためのワークⅡ (数的処理①)	1,2,4	前回の問題を解いておく。	1h	配布した問題の残りを解く。	1h
9	キャリアデザインⅡ ■	1,2,5	自らの人生設計について考えておく。事前配布した教材に目を通しておく。	1h	自らのキャリアを考え、自己分析する。	1h
10	読むためのスキル(新聞を読み説く) ■	1,2,3	事前配布した教材に目を通しておく。	1h	添削を受けた課題を確認する。与えられた教材を読む。	1h
11	解くためのワークⅢ (数的処理②)	1,2,4	前回の問題を解いておく。	1h	配布した問題の残りを解く。	1h
12	書くためのワークⅡ (文章表現、ライティング) ■	1,2,3	事前配布した教材に目を通しておく。	1h	添削を受けた作文を書き直す。	1h
13	コミュニケーションスキルⅡ(プレゼンテーションGW)	1,2,3,6	事前配布した資料に目を通しておく。	1h	プレゼンテーション資料を作成してみる。興味あるトピックについて発表できるようにする。	1h
14	実力テスト	1,2,3,4	今まで学習した内容を復習しておく。	1h	試験の内容を振り返り、学習する。	1h
15	シンポジウムーより充実した学生生活をめざして	1,2,3,4,5,6	これまでの講義内容を振り返り、どう活用するかを考えておく。	1h	大学生活を有意義に過ごすための方策を考える。	1h

合計時間(予習・復習)

30h

備考

GW＝グループワーク

記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

日本語表現法

MYカモクに追加

英文名：Japanese Expression Method

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB002

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

3 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

古澤 良文

科目に関連した実務経験

記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆、読者欄の投稿を添削。

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①日本人の極端な日本語能力低下が問題視される中で、「書き言葉」の表現力を向上させるために、まず自分の考えをまとめ、書くに至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、自分の考えをいかに文章化するかを修得する。同時に他者の考えを、発言や文面から把握するとともに、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。

②現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、毎回実例を示しながら説明する。また、高校までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明する。小論文を「書く→添削→返却」を3回程度実施する。

到達目標

- 1.自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。
- 2.日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。
- 3.日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■
- 4.文章の組み立て方を理解し、習得できる。
- 5.日本語表現的に正確な文章が書けるようになる。■

使用教材

担当教員作成のプリント。

評価方法

筆記試験（80％）・授業参加度（20％）によって総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通達する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦する。

オフィスアワー

授業の前後1～2時間。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は授業時に説明する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	原稿用紙の書き方（テーマに基づいて実際に執筆する）■	1	400字詰め原稿用紙の使い方	1.5h	カッコや句読点の書き方 その日の出来事を原稿用紙に書いてみる	1.5h
2	日常生活の心掛け 小テスト（漢字の特殊読み）■	1,4	社会の変動に関心を持つ	1.5h	活字を読む習慣を身に付けるにはどうすべきか考える	1.5h
3	三段論法と逆三角形 小テスト（書けそうで書けない漢字）■	2,4	新聞記事を段落ごとに考えながら読む（新聞は図書館にある）	1.5h	新聞記事を「逆三角形」を意識しながら熟読する	1.5h
4	文章をうまく見せる3力条 小テスト（同音異義語）■	2,4	1回目に書いた文章を見直す	1.5h	1回目に書いた文章を書き直してみる	1.5h
5	主語と述語 小テスト（四字熟語ことわざ①）■	2,3	テキストをチェックしておく	1.5h	テキストの悪文例を正しく直す	1.5h
6	小論文執筆（複数のテーマから1つを選んで書く）	1,2,3	4回目のプリントチェック	1.5h	書き足りなかったことがないか	1.5h
7	修飾語 短歌・俳句 小テスト（間違い探し①）■	2,4	文章はリズムが大切 短歌・俳句を作ってみる	1.5h	プリントの悪文例を見直す	1.5h
8	話し言葉と書き言葉 小テスト（四字熟語ことわざ②）■	2,3	「ら」抜き言葉の長所短所	1.5h	話し言葉を書き言葉にしてみる	1.5h
9	「心ひかれる一曲」などテーマに応じてエッセイを書いてみる	1,4	その曲になぜ、心ひかれるのか。具体的な体験を交えて表現する	1.5h	授業で書いたほかにも書いてみる	1.5h
10	センテンスは短く 小テスト（同義語反対語）■	3,4	新聞のコラムを読む	1.5h	悪文例を直す	1.5h
11	小論文執筆（同じ形容詞や動詞を何度も使わないように）■	1,2,3	4回目、7回目のプリント見直し	1.5h	別のテーマで書いてみる	1.5h
12	敬語 小テスト（四字熟語ことわざ③）■	3,4	敬語の種類を調べる	1.5h	プリントの問題を解く	1.5h
13	推敲 小テスト（間違い探し②）■	2,4,5	書籍、新聞を声に出して読む	1.5h	自分の文章を直してみる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	覚えておきたい短詩と台詞	3,4,5	知っている俳句や短歌を思い出してみる	1.5h	声に出して読んでおく	1.5h
15	小論文執筆（小論文のテーマに沿ってタイトルを自分で書く）■	1,2,3	社会問題を考える	1.5h	別のテーマで書いてみる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

↑

備考

↑

■：実務経験に基づく内容を示す
読者投稿欄のデスクを長く務めた経験を生かして、「読みやすい文章とは何か」「人の心を捉える文章とは何か」を伝えていきたい。

印刷



日本国憲法

MYカモクに追加

英文名 : Japanese Constitution

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB003

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

1 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

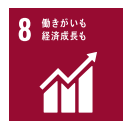
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

金井 洋行

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

テーマに関する課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①憲法の基本理念と日本国憲法に関する基礎的知識を習得することを第一義的な学習目標とする。第二に、社会人として要求される価値規範意識を、憲法学習を通して醸成することを目標とする。終局的に、身近な生活関係の中から人々の権利の保護や社会への参加の問題を探り出し、憲法上の課題の理解を深めることを目標とする。

②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的あるいは国際的に大きな政治の動きがあった場合には、その話題を飛び入りのに割り込ませることはある。日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。

到達目標

- 1.日本国憲法を貫いている思考や仕組みと日本国憲法の歴史的背景を理解することができる。
- 2.憲法が解決すべき紛争について、その歴史的、社会的背景を認識することができる。
- 3.市民相互間の法的関係や公的部門のそれに対する機能の関連性を考察することができる。
- 4.政治の世界で起きている出来事について、具体的な憲法規定と結びつけることができる。
- 5.主要な学説について、その対立の背景と主張のねらいを認識することができる。

使用教材 ↑

テーマ別レジュメ、概要・事例資料、憲法条文注釈資料（テキストの代替）
＊テーマによってはDVDの視聴あり。

評価方法 ↑

平常の授業に対する姿勢・課題提出（35%）、中間小テスト（15%）、期末の定期試験（50%）
課題提出は概ね4回のレポート、中間小テストは概ね3回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する（テーマについては適宜指示）

オフィスアワー ↑

出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。

メールアドレス（#→@） ↑

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	憲法とは何か？－憲法学習の意義と憲法の本質－	1	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	2h	予備知識アンケート	0.5h
2	国家・国民・政府－憲法を構成する基本要素の内容－	1	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
3	日本国憲法の制定過程	1,4	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明、資料；「日本国憲法の有効性」	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
4	日本国憲法の基本構造と特色	1,2	資料「日本国憲法の体系」熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
5	国民主権と天皇制	1,2,4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
6	平和主義と9条解釈の変遷	1,2,4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
7	基本的人権の沿革と観念	1,2,3	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
8	基本的人権規定の適用問題（範囲と限界）	2,3,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
9	日本国憲法上の諸権利の性格	1,2,3	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	国会の地位と国政選挙の仕組み	1,2,3	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
11	行政権の意義と内閣の組織・権限の特徴	4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
12	司法権の意義と法令審査権の性格	4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
13	財政処理の基本原則と予算の構造と機能	4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
14	権力分立制と地方自治・分権	1,4	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
15	憲法改正と憲法保障	1,2,4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
当日に即答できない質問や要望についてはC-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。
日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。

印刷 

法学

MYカモクに追加

英文名 : Law

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB004

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

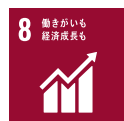
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

金井 洋行

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

テーマに関する課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①法の存在意義を人生の節目で生じる法律問題を通して理解することを基幹的目標とする。生活上生じる法律問題や法的処理事項の背景にある法社会学的意味を考える。法律関係は権利義務の変動の関係であるので、それぞれ権利義務とその変動要因にどのような種類があるかを知ることを目指す。法律関係の基本的システムを習得することによって、社会的生活者に要求される法規範意識を身につける。

②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に大きな社会問題が発生した場合には、その話題あるいは関連する事項を飛び入りのに割り込ませることがある。

到達目標

- 1.法の存在意義や社会的機能の全体的な姿を理解することができる。
- 2.法制度の社会学的意義を理解することができる。
- 3.契約関係のシステムの意義と特色を理解することができる
- 4.家族関係の法的処理の方法を理解することができる。
- 5.法的紛争処理の限界を知り円滑な生活関係を維持する手法を考察することができる。

使用教材

テーマ別レジュメ、概要・事例資料（テキストに代替するプリント） ＊テーマによってはDVDの視聴あり。

評価方法

- ・平常の授業に対する姿勢・課題提出（35%）、中間テスト（15%）、期末の定期試験（50%）
- ・課題については概ね4回のレポート、中間小テストは概ね3回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテストを実施する。

課題・評価に対するフィードバック方法

重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)

オフィスアワー

出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	法の意義と機能	1,5	高校時の社会の教科書「法分野」の箇所を読んでおくこと	2h	予備知識アンケート	0.5h
2	成人と法－人の年齢と能力の法的意味	1,2,4	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
3	就職と法－採用の法的意味と選別の法的問題	2,3,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
4	労働と法－労働契約の内容と労働条件の保護	2,3	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
5	結婚と法－婚姻の要件と夫婦の法律関係	2,4,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
6	親子と法その1－出生をめぐる法律問題と親子関係の形成	1,2,4	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
7	親子と法その2－親権関係と扶養関係	2,4,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
8	教育と法－義務教育の意義と就学過程の法律問題	2,3	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
9	社会活動と法－団体の法律関係と団体生活の法律問題	1,2,3	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	社会負担と法－租税等の国民負担と公共生活上の法律問題	2,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
11	国際化と法－出入国管理の法律関係と渉外事件の処理	1,2,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
12	財産関係と法－取引の法律関係と契約締結上の法律問題	1,2,3	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
13	犯罪と法－犯罪・刑罰の法的意味と科罰手続の法律問題	1,2	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
14	争い事と法－紛争の法的処理方法と裁判の仕組み	1,2,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
15	老年期と法－介護・医療の法律問題と人の死の法的意味	1,2,4,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

合計時間（予習・復習）

37.5h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
 当日に即答できない質問や要望についてはC-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。
 日々の社会の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりにその背景や解決策を考えておくことを期待する。

印刷 

経済学

MYカモクに追加

英文名：Economics

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB005

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

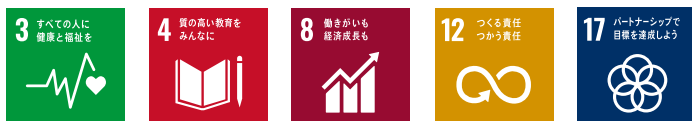
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

町田 修三

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業内での問いかけ、QUIZ、質疑応答（ミニツツペーパー上の質問を含む）などを用いた双方向性授業。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、学生が新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考にして理解を深めてほしい。

②授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。

到達目標

- 1.日本の経済の現状を説明できる
- 2.需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる
- 3.景気やGDPについて理解を深め、概説できる
- 4.国の予算や税金制度について説明できる
- 5.お金の流れや物価変動について説明できる
- 6.経済政策について理解を深め、他者に説明できる
- 7.為替レートの変動と貿易の実態について概説できる
- 8.新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる

使用教材

^

必修テキストはない。講義では毎回資料、データを配布する。

参考文献

^

推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。

評価方法

^

学期末試験80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物（クイズ、小レポートなど）20%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する。

オフィスアワー

^

月曜日4限目、金曜日2限目
研究室：1号館6階603

メールアドレス（#→@）

^

machida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション（一部AL[アクティブラーニング]実施）	8	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく	1h	ニュースに触れる習慣（新聞、テレビ、ネット）を開始する	1h
2	日本経済の流れ（世界との比較のなかで）	1,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
3	経済政策の2大潮流―マーケットorケインズ（一部AL実施）	1,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
4	需要と供給（需要曲線の意味）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
5	市場メカニズムと価格（どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう？）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
6	価格の変動（どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう？）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	国民所得Ⅰ（国の経済力はどう測るんだろう？GDPって何？）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
8	国民所得Ⅱ（あなたが1万円使うとGDPはいくら増える？）（一部AL実施）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
9	財政（日本の借金は大丈夫？消費税は何%に？）	1,4,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
10	景気と失業（不景気で学生の就職はどうなる？）（一部AL実施）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
11	金融（日本銀行は何をすること？）（一部AL実施）	1,5,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
12	経済政策のしくみ（アベノミクスは何をした？トランプは何をする？）	1,6,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
13	為替レートメカニズム（円高、円安ってどうして起こるの？）	1,7,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
14	世界と日本（日本の貿易は黒字？赤字？）（一部AL実施）	1,7,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
15	まとめと確認のためのテスト	1,2,3,4,5,6,7,8	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3h	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5h

合計時間（予習・復習）

39h

備考

AL（アクティブラーニング）は、クローズドクエスション、オープンクエスション、ペアワーク、グループワークなど。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修（推薦テキストの講読、新聞・雑誌の経済記事講読等）により、必要な学修時間を各自で補完すること。

印刷 

社会学

MYカモクに追加

英文名 : Sociology

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB006

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会学的なものの見方とは、どのようなものなのか、社会学的にものを考えるときに使用する専門的概念・用語には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本的理解を目指す。

②使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説することによって、基本的な社会学の考え方を身につける。

到達目標



- 1.大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。
- 2.社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。
- 3.日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につける。
- 4.社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。
- 5.現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■

使用教材



篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』晃洋書房。

参考文献



講義中に、適宜指示する。

評価方法



平常点（毎回提出してもらうリアクションペーパー（設問形式）については、第1回目の講義で説明します）50%、学期末試験50%です。

課題・評価に対するフィードバック方法



各受講生の提出したリアクションペーパー（設問形式）に書かれた質問、意見、要望などに対して、つぎの講義の前に答える。

オフィスアワー



火曜日5限・6限
1号館5階510研究室

メールアドレス（#→@）



adachi-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、第1章社会学とは何か（1～12頁）について解説する。	1,2,3,4	第1章を読んでおくこと。	1.5h	第1章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
2	第2章社会を観察する方法（13～24頁）を解説する。	1,2,3	第2章を読んでおくこと。	1.5h	第2章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
3	第3章社会で生きる「私」（25～35頁）を解説する。	1,2,3	第3章を読んでおくこと。	1.5h	第3章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
4	第4章変容する家族のかたち（36～47頁）を解説する。実務で得た調査結果を提示する。■	1,2,3	第4章を読んでおくこと。	1.5h	第4章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
5	第5章性の多様なあり方を考える（48～59頁）を解説する。	1,2,3	第5章を読んでおくこと。	1.5h	第5章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
6	第6章「現実を生きる」ための社会学—労働・産業・消費—（60～72頁）を解説する。	1,2,3,4	第6章を読んでおくこと。	1.5h	第6章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
7	第7章日本で進展する環境・災害社会学（73～86頁）を解説する。	1,2,3,4	第7章を読んでおくこと。	1.5h	第7章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	第8章社会学から医療を見つめる（87～97頁）を解説する。	1,2,3,4	第8章を読んでおくこと。	1.5h	第8章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
9	第9章社会学は教育とどう向き合うのか（98～109頁）を解説する。	1,2,3,4	第9章を読んでおくこと。	1.5h	第9章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
10	第10章逸脱行動と社会問題（110～121頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第10章を読んでおくこと。	1.5h	第10章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
11	第11章「格差」の社会学（122～134頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第11章を読んでおくこと。	1.5h	第11章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
12	第12章生活空間としての地域社会（135～149頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第12章を読んでおくこと。	1.5h	第12章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
13	第13章グローバル社会とエスニシティ（150～162頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第13章を読んでおくこと。	1.5h	第13章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
14	第14章宗教から社会を捉える（163～176頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第14章を読んでおくこと。	1.5h	第14章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
15	第15章社会の中のメディア／メディアが動かす社会（177～189頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第15章を読んでおくこと。	3h	第15章を再読して、その内容を理解しておくこと。	3h

合計時間（予習・復習）



48h

備考



各受講生が、毎回の講義内容を自分自身の身近な具体的な状況のなかで理解することによって、社会学の考え方を深めることができるので、そうした観点から意欲的に講義に臨んでほしい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



生涯健康論

MYカモクに追加

英文名：Lifelong Health Theory

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB007

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

7 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

渡邊 秀臣、五十嵐 康、蒲 章則

科目に関連した実務経験

渡邊：非常勤医師（整形外科医）として病院に勤務

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約10年も短い。本講義では、健康寿命の延伸に向けて生涯にわたる健康維持・管理について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎知識を身に着けることを目的としている。

②講義においては、前半はテーマについて概要を説明し、後半は質疑応答する形式ですすめる。レポートについても発表する時間を持ちたい。

到達目標



- 1.健康の定義と集団の健康評価指標について理解できる。■
- 2.個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解できる。■
- 3.環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解できる。■
- 4.健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解できる。■

使用教材



テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。

参考文献



参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向2020/2021」を利用する。

評価方法



授業参加内容：40点、課題に対するレポート内容：60点　：総合60点以上を合格とする。（対面講義でもオンライン講義でも同様）

課題・評価に対するフィードバック方法



レポートに対し必要なコメントをする。（対面講義でもオンライン講義でも同様）

オフィスアワー



渡邊：（金）13：00～14：30

研究室　4号館2階学部長室

メールアドレス（#→@）



渡邊：watanabe-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康の定義と健康評価指標（渡邊） WHOの提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、＜平均寿命＞、＜平均余命＞、＜健康寿命＞、＜最長寿命＞などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。■	1	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。	1. 5h	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。	1. 5h
2	健康を維持するための食物と物質代謝（五十嵐） 食物（栄養素）は健康に欠かすことのできないエネルギー源である。その物質代謝（同化・異化作用）に関わる体の構造とその働きを理解しながら健康維持について学習する。	2	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1. 5h	食物のエネルギー代謝と健康について理解する。	1. 5h
3	恒常性維持機構の役割と相互作用（五十嵐） 生体には様々な生理機能をバランスよく正常に機能・維持するための調節機構、すなわち「恒常性維持機構（ホメオスタシス）」が備わっている。このシステムは主に神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。また、食物の消化・吸収を担う腸管では細菌の侵入を防ぐ恒常性機構が働いている。これらの様々な維持機構の働きと相互作用について学習する	2	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1. 5h	生体の恒常性機構と健康維持の関係を理解する。	1. 5h
4	運動と健康（渡邊） 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書	1. 5h	健康維持における運動の生理学	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。また、運動による突然死防止のための運動前内科的メディカルチェックの重要性について理解する。■		及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。		的意義と健康寿命延伸に向けた運動について理解する。	
5	喫煙による健康障害（渡邊） たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの〈喫煙と健康障害〉のメカニズムについて理解する。〈受動喫煙の影響〉についても考える。■	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1. 5h
6	生活習慣病の起因となる肥満（五十嵐） 肥満は原因により原発性肥満（エネルギー摂取過多など）と二次性肥満（性腺機能低下など）に分けられるが、いずれも高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの代謝障害の基盤となり、虚血性心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患を発症する危険因子となる。それらの起因となる肥満の発症と予防について学習する。	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	肥満とメタボリックシンドロームの病態と対策を理解する。	1. 5h
7	生活習慣病の危険因子としての糖尿病（五十嵐） 2型糖尿病（インスリン抵抗性糖尿病）は、冠状動脈や脳動脈の動脈硬化、さらには腎障害、視力障害及び神経障害の3大合併症の誘発のみならず、健康寿命短縮の危険因子でもある。危険因子としての糖尿病とその予防法について学習する。	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	糖尿病の病態と対策を理解する。	1. 5h
8	生活習慣病(脳血管障害)と認知症（五十嵐） 血管性認知症はアルツハイマー病に次いで2番目に多い認知症である。脳は全身の20%近い血液を必要とする臓器であることから、その発症は循環器障害などの生活習慣病と密接に関係する。ここでは血管性認知症と他の認知症の病態を比較しながら、その予防と治療の現状について学習する。	1, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	認知症の病態と原因、予防、治療などの現状について理解する。	1. 5h
9	ロコモティブシンドローム（渡邊） 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。	3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1. 5h
10	生活習慣病(がん)と生活習慣（渡邊） 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣〈(がん発症危険因子)〉を知る。また、〈がん予防のための生活習慣〉及び早期発見・早期治療のための〈がん検診〉の重要性について理解する。■	3,4	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1. 5h
11	WHOの歴史と活動内容（蒲） 第2次世界大戦後に設立された国際専門機関として、戦後から現代にいたるまでの活動変遷を検証する。WHOの取り組みを理解し、現在あるWHOの問題点、改善点を考察する。健康であることがいかにその国の活力（国力）に寄与するかを理解する。	1,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1. 5h	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 2	WHOの戦略（蒲） アルマータ宣言で採択された「すべての人に健康を」スローガンのもとに、」各国が公衆衛生の原点に立ち返り、保健行政戦略を作成、さらに現代進められている持続可能開発目標（SDGs）に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）にいたることを検証する。	1,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1. 5h	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1. 5h
1 3	途上国の保健行政（蒲） 途上国の人種、風土、歴史的背景、宗教等を考察し、独自の保健行政戦略を実施しているが、その成果や反省点を検証し、日本における地域医療の課題を含めて、今後の対策を考察する	1, 3,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1. 5h	国際機関で発展途上国への保健戦略を学習する	1. 5h
1 4	日本の保健行政と世界の保健行政（蒲） 膨大な医療・介護予算をどのように有効に使うか、保健医療行政の立場から検証考察をする。各国の取り組みを比較検証し、今後の行政の取り組みを考える。	1, 3,4	厚生労働省のウェブサイト で該当部分を学習する。	1. 5h	日本における厚生労働省の保健戦略と動向を理解する。	1. 5h
1 5	地域における健康支援チーム構成員とその役割（チーム医療）（渡邊） これまで、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置く とされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。■	4	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

レポートの提出をもって出席とする。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

生涯学習概論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Lifelong Learning

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB008

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

4 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

平林 茂、三村 国宏

科目に関連した実務経験

（平林）公立小学校・中学校の教員、校長（経験）。群馬県教育委員会(指導主事、所長)では生涯学習教育の推進業務、社会教育主事及び地域・学校ボランティア対象の生涯学習推進に関わる研修会講師（経験）。

（三村）公立中学校の教員、高等学校、中等教育学校の校長（経験）。伊勢崎市教育委員会（指導主事、指導係長、教育プラン推進担当課長、学校教育課長）にてコミュニティ・スクール推進（経験）。大学・企業との教育連携協定推進等（経験）。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト等についてコメントを行い、授業中に振り返り質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人が学習する場は学校だけではなく、図書館・公民館等の社会教育施設やさまざまな団体での学習機会などがある。本授業では生涯学習を実践していく上で必要な基礎的知識や多様な生涯学習施設、学校の現状を学び、理解を深めていく。

②授業の進め方：各テーマの説明に加え、話し合い活動や調査活動などを通して課題に取り組み、その成果の発表などの学習活動を行います。今後、変化の激しい現代社会において重要になる「生涯学習」について学ぶことは、社会の一員としての自己の生き方を考える上で意義が大きいと思います。

到達目標 ^

- 1.生涯学習の理念や学校や社会教育施設などで行われる学習について理解する。■
- 2.生涯学習に関わる様々な現代的課題の内容を把握しその解決に向けた考察をする。■
- 3.社会を構成する一員として自らの生き方を積極的に考える。

使用教材 ^

『よくわかる生涯学習 改訂版』（香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編、ミネルヴァ書房、2024年2,500円（税別）

参考文献 ^

講義中に適宜、紹介する。

評価方法 ^

テストに50%、小テストの評価30%、日常点（授業への参加。授業態度。課題への取り組み、貢献度等）に20%を配分して総合評価をする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

授業中の貢献度や発表については、その都度評価する。
試験前後に出題の意図等を説明する。

オフィスアワー ^

月曜・1限、水曜・1限、
教職支援センター

メールアドレス（#→@） ^

平林 s-hirabayasi#takasaki-u.ac.jp
三村 k-mimura#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、生涯学習の定義、制度（平林、三村）	1,3	シラバスを読み、講義の概要及び、「生涯学習とは何か」を理解する。	1.5h	テキストをまとめ、生涯学習の定義や制度について理解する。	1.5h
2	生涯学習と人間形成■（三村）	3	生涯学習にわたる人間形成についてテキストなどで調べる。	1.5h	テキストや配布資料をまとめ、生涯学習について理解する。	1.5h
3	生涯学習を支える思想（三村）	1,3	「生涯学習を支える思想」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	生涯学習における「生きがい・健康づくり」についてまとめ、内容を理解する。	1.5h
4	生涯学習の現代的課題①■（三村）	2,3	「健康・高齢者等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
5	現代的課題②■（三村）	2,3	「高度情報化と人権等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料を読んで、内容を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	現代的課題③ ■（三村）	2,3	「国際交流と人権尊重」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
7	現代的課題④ ■（三村）	2,3	「まちづくり等」についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
8	生涯学習の多様な学習方法 ■（三村）	1,2	学習方法の類型等について関連する図書などで調べる。	1.5h	学習方法及び、持続可能な社会づくりへの取組について理解する。	1.5h
9	行政による生涯学習の振興（前編）（平林）	1,2	国の行政による生涯学習支援策についてテキストなどで調べる。	1.5h	テキストや協議内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
10	行政による生涯学習の振興（後編） ■（平林）	1,2	都道府県レベルの生涯学習支援策についてテキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
11	民間団体・機関による生涯学習支援（前編） ■（平林）	1,2	それぞれの団体の活動内容について、テキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや協議・発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
12	民間団体・機関による生涯学習支援（後編） ■（平林）	1,2	NPO、カルチャーセンターやスポーツ施設について、図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
13	施設に基づいた生涯学習活動（前編）（平林）	1,2	社会教育施設についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
14	施設に基づいた生涯学習活動（後編） ■（平林）	1,3	博物館や青少年・女性教育施設についてテキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
15	生涯学習社会において、どう生きるか（職業能力開発の生涯学習）（平林）	1,2,3	講義内容に関連する項目について、図書などで調べておく。	1.5h	図書や資料を読んで、内容を理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回小テストや資料の提示をC-learningで行いますので、パソコン等を持参してください。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

生命と環境の科学

MYカモクに追加

英文名 : Science of Environment and Life

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB009

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

10 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

奥 浩之

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことがあるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。(パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。)

到達目標

- 1.地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。
- 2.生命を構成する分子(核酸、タンパク質)について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。
- 3.私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、プラスチックごみ、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。
- 4.グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。
- 5.様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。

使用教材

使用しない（講義にて用いるスライドを配布予定）

評価方法

レポート課題50%、授業参加度50%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。

オフィスアワー

質問等は、授業中でもよく、授業開始前もしくは終了後にも応じる。

メールアドレス（#→@）

oku#gunma-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生命と環境－自己紹介と研究について	1,5	(1) 免疫系と免疫グロブリンについて調べてみよう。 (2) DNA配列を測定する方法について調べてみよう。	1h	(1) 抗体医薬品について (2) 免疫グロブリンの分子構造と役割について（特にIgGを構成する重鎖と軽鎖はどのような結合で結びついているか？着目してみよう。） (3) 次世代シーケンサーについて	1.5h
2	生命と環境－地球における元素の循環	1,5	元素周期表（ http://stw.mext.go.jp/series.html ）を読んでみよう。	1h	(1) 人体を構成する元素の存在比 (2) 主要元素・微量-超微量元素の具体的な元素名 (3) 様々な元素の生体または医薬品における役割	1.5h
3	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化	1,5	(1) ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大量使用と地球環境への影響について調べてみよう。	1h	(1) 大気・土壌における物質循環 (2) 水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 (3) 人類の活動による物質循環への影響	1.5h
4	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化	1,5	(1) 温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。	1h	(1) 地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する （大気を暖める要因と冷やす要因） （物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測） (2) IPCC第5次報告書（2014年）におけるRCPシナリオ （気候モデルによって予測された21世紀末の世界の気温） （世界全体のCO2累積排出量と気温上昇量は比例する） (3) 国連気候変動枠組条約	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					(日本における温室効果ガス削減目標)	
5	生命と生体分子・・・DNA二重らせんとX線構造解析	2,5	ワトソンとクリックによるDNA二重らせんモデル (1) 当時用いられた分子モデル (ロンドン・サイエンスミュージアム) http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145 (2) 1953年の論文 http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf (3) DNA構造について (英文なので、最初は図を見るのがよい) 特にFigure 5を見て、3種類の二重らせん構造があることに注目しよう http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397	1h	(1) DNAの分子構造はX線回折法によって求められる (2) ブラッグの回折条件式 (3) DNA繊維写真のX型パターン	1.5h
6	生命と生体分子・・・タンパク質の構造と機能	2,5	(1) タンパク質を構成する20種類のアミノ酸とは？ (2) アミノ酸の“光学活性”とは？	1h	(1) アミノ酸20種類の分子構造 (2) X線回折測定によるタンパク質の3次元構造解析 (3) NMR測定によるタンパク質の3次元構造解析	1.5h
7	生命と生体分子・・・さまざまなタンパク質	2,5	(1) 膜タンパク質とは？ (2) リボソームにおけるタンパク質合成 (3) アイスクリームの成分について。特に、低脂肪アイスクリームはなぜ低脂肪なのか？調べてみよう。	1h	(1) 70S リボソームとtRNAの分子構造 (PDB ID: 4v4j) (PDB ID: 2tra) (2) カルモデュリンの分子構造変化 (PDB ID: 3cln) (PDB entry 2bbm)	1.5h
8	生命と生体分子・・・ヘム蛋白 (Mb、Hb、Cyt c、CYP450)	2,5	(1) ヘムタンパク質とは？ (2) ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？ (3) CYP3A4とは？	1h	(1) ミオグロビン (PDB ID, 1A6M) (2) チトクロームc (PDB ID, 2B4Z) (3) チトクロームP450 (PDB ID, 1W0E) (4) 医薬品の代謝におけるCYP3A4の影響について	1.5h
9	ヒトの活動と環境・・・さまざまな医薬品	2,5	(1) コレステロールと高コレステロール血症 (2) 認知症とコリン仮説について (3) ポリ乳酸とは？	1h	(1) スタチン (2) タクロリムス (3) ドネペジル (4) レボフロキサシン	1.5h
10	ヒトの活動と環境・・・バイオマスとバイオリファイナリー	3,5	(1) バイオマスとは？ (2) バイオエタノールとは？ (3) プラスチックゴミ問題とは？	1h	(1) バイオリファイナリーとは？ (2) バイオガソリンの成分は？ (3) バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 1	ヒトの活動と環境・・・食品の安全確保（加工食品の成分）	3,5	（1）アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1h	（1）行政（農水省）では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5h
1 2	ヒトの活動と環境：食べると甘い香りが発散するお菓子について	3,5	（1）ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう（ヘッドスペース装置の付いたガスクロトグラフィー/質量分析計） （2）ヒトにおける薬物代謝のしくみ	1h	（1）ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか？ （2）お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は？ （ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。）	1.5h
1 3	生命と環境・・・さまざまな感染症（AIDS, 結核, マラリアなど）	4,5	（1）感染症とは？	1h	（1）さまざまな感染症について （2）薬剤耐性について	1.5h
1 4	生命と環境・・・インフルエンザワクチンの成分	4,5	（1）ワクチンによる予防免疫のしくみ	1h	（1）様々なインフルエンザの治療薬について （2）様々なインフルエンザワクチンについて	1.5h
1 5	生命と環境・・・グローバル化によって必要となる新しいワクチン	4,5	（1）蚊によって媒介される感染症とは？ （2）グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1h	（1）グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか？ （2）新しいワクチンの開発例について	1.5h

合計時間（予習・復習）

37.5h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。

印刷 

国際関係論

MYカモクに追加

英文名 : International Relations

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB010

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

2 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

片桐 庸夫

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回当日の講義内容に関する10-15分程度のレポートを課し、学んだ内容についての確認を求める。翌週に問題提起、結論、段落の付け方、使用すべき漢字、レポートの書き方、内容の評価、問題点を指導する。授業中に質問をすることによって学生との対話の機会を設け、参加意識を高める。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①新聞、テレビ、インターネット等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。

②配布プリントを中心に、講義を行います。現代世界を象徴するドキュメントを収録したDVDを数回用います。また、授業

の最後に毎回レポートを実施する。指導方法は上記の通り。毎回課すレポートの評価を基に成績評価を行うので、前期試験は行わない。

到達目標

- 1.現代世界の理解
- 2.第2次世界大戦後の世界の基本構造の理解
- 3.国家間の対立要因の理解
- 4.国家間の相互理解の理解
- 5.自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解
- 6.現代の戦争の特徴についての理解
- 7.国家の安全保障の理解
- 8.核の下での平和の理解
- 9.国際秩序概念の理解
- 10.国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解
- 11.戦後日本の原型についての理解
- 12.戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解
- 13.日本の課題である国際貢献問題の理解

使用教材

配布するプリントを教材として用いる。

参考文献

細谷雄一『国際秩序』中公新書。高坂正堯『国際政治』中公新書

評価方法

講義の最後に毎回行うレポート評価試験（60％）、講義参加・貢献度（40％）等により総合評価を行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

原則としてレポートを課した翌週の講義の際に論文やレポートの書き方、文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。

オフィスアワー

- ・ 前期木曜日の昼休み
- ・ 非常勤講師控室

随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義概要（講義の展開、出席の取り方、レポートの書き方、成績評価等）についての説明を行う。	1	シラバスを読んでおくこと。	0h	講義概要の確認を行いこと。	1h
2	世界の混迷した状況、中国の現状打破勢力としての台頭、米中の覇権争い等について理解する。	1,3,7,8,10	1週間分の新聞の1,2面の記事に目を通しておくこと。	2h	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。	2h
3	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。	1,2,3,9	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。	1.5h	細谷雄一『国際秩序』中公新書のp.115-120,282を読み、内容をノートにまと	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					めること。	
4	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。	2,4,7	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5h	『国際秩序』のp.121-124を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
5	国際コミュニケーションにとって重要な価値観の共有の意味について理解する。	3,4,5	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.128-130を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
6	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。	2,3,4,5,8	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.237-241を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
7	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。	3,5,7	プリントのイデオロギー対立の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.237-241を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
8	米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化（DVD画像による）について理解する。	6,7,8	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	2h	DVD画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	2h
9	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。	2,6,7,8	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5h	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社のp.6-10を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
10	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下での平和について理解する。	1,6,7,8	究極の兵器がもたらした核の下での平和についての項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.253-255を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
11	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。	1,7,8,9	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.256-260を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
12	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。	2,7,9	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.281-285を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
13	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生、冷戦と呼ばれた戦後の米ソ対立と今日の米中対立との違いについて理解する。	6,7,10	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5h	『文明の衝突と21世紀の日本』集英社新書のP.21-36を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
14	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF講和、憲法第9条、日米安保について理解する。	7,11,12	プリントの終戦からSF講和に至る項を読んでおくこと。	1.5h	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会のp.288-306を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
15	「戦後」の克服の意味、今日の日本が直面する外交の課題について理解する。	1,10,13	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおくこと。	1.5h	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



世界の動き、平和、戦争、日本の進路などについて関心のある学生の履修が望ましい。

「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねている。随時利用すること。予習・復習の結果、不明な点、理解しにくい、または出来ない点などあれば、遠慮なく質問すること。

印刷



体育理論

MYカモクに追加

英文名 : Physical Education: Theory

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB011

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大家 千枝子

科目に関連した実務経験

「元気に“動こう・歩こう”」実践リーダー養成講座の講師として、リーダー養成事業に従事している。
(群馬県健康長寿社会づくり推進課・2018年度～)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力の現状を把握し、健康・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。

②講義中心だが、自身の「体力を知る」ために体育館にて新体力テストを実施する。また新聞や文献を活用した課題を設定しているため、図書館も利用する。

到達目標

- 1.現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、具体的に述べることができる。
- 2.自身の健康・体力の状況とわが国の健康・体力の現状を把握し、問題点をあげることができる。■
- 3.健康の保持増進を図るためのアイデアを探り、方法を創造することができる。■
- 4.課題に積極的に取り組み、履修者同士でコミュニケーションをとることができる。
- 5.人間が創造した運動・スポーツの文化としての意味を考え、認識を深めることができる。

使用教材 ^

プリントを適宜配布する。

参考文献 ^

参考文献を適宜紹介する。

評価方法 ^

授業への取り組み実践点（講義後コメント、測定、コラボ企画、提出状況など）60%、
課題点（これまでの授業を踏まえた最終課題）40%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

自分以外の履修者による課題（体力テストの結果など）や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learning
を使ってフィードバックする。

オフィスアワー ^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ^

oie#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、大学での学び・健康とは・上達の秘訣を考える	1,2,5	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	0.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5h
2	A組：体力を知る（新体力テスト）・B組：図書館利用術（図書館コラボ企画）	2,4	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとす。	0.5h	C-learningに測定結果と必要事項を入力する。	0.5h
3	A組：図書館利用術（図書館コラボ企画）・B組：体力を知る（新体力テスト）	2,4	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとす。	0.5h	C-learningに測定結果と必要事項を入力する。	0.5h
4	体力を評価する（体力とは）	2,4	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとす。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
5	運動・スポーツの実施状況、運動継続の仕組みづくり、問題解決のための作戦を立てる■	2,4	配布された資料に目をとす。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
6	体組成、体脂肪の測定方法、エネルギー消費量の算出方法、内臓脂肪について	1,2	配布された資料に目をとす。フィットネスルームで体組成を測定しておく。	0.5h	今後どのように身体活動・運動を取り入れるか検討する。	0.5h
7	トレーニングの原理・原則	1,2	配布された資料に目をとす。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	まとめ、到達度チェックと最終課題の発表	1,2,3,4,5	授業でとったノートを読み直し、最終課題に備える。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

^

8h

備考

^

【単位修得に必要な時間について】
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
※C-learning「出席管理」の不正行為はしないこと（発覚時には厳正に対処する）。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



体育実技

MYカモクに追加

英文名 : Physical Education: Sports & Physical Activities

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB012

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

3 生涯学習力

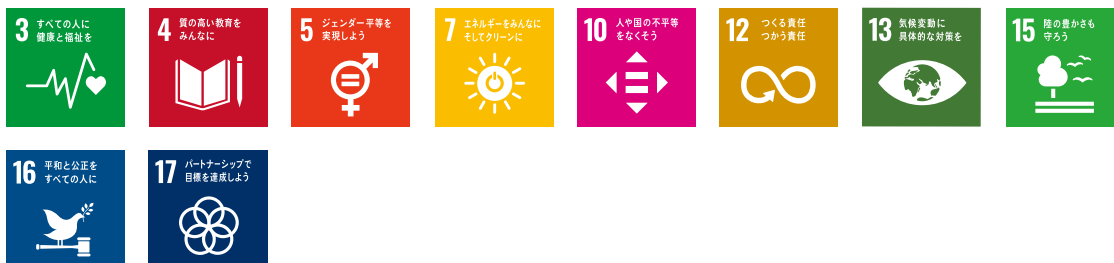
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

佐藤 孝之

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①余暇時間の増大や高齢化が進むなかで、生涯にわたってスポーツに親しむことは、活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要不可欠である。本講義では、人との交流を深めながら生涯スポーツへの自己の取り組み方について学ぶ。

②前半は準備運動やチーム練習などを行い、後半は試合を行う。授業の最後にまとめレポートを作成する。

到達目標

- 1.知識・理解の観点：各スポーツ種目の歴史、ルール、マナーを理解・実践できる。
- 2.思考・判断の観点：安全に効率よく練習およびゲーム運営における自分の役割を思考し、行動できる。
- 3.関心・意欲の観点：種目特性によって異なる身体感覚について関心をもつことができる。

- 4.態度の観点：積極的に取り組み、参加者と十分なコミュニケーションを築くことができる。また施設、器具を大切に扱うことができる。
- 5.技能・表現の観点：基本スキルを獲得することができる。また相手の力量に合わせ、楽しみながらゲームができる。

使用教材 ^

授業内において適宜配布する。

評価方法 ^

授業参加度50%、レポート25%、授業記録25%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

授業時間内に行う。

オフィスアワー ^

火曜1～2限（非常勤講師）

メールアドレス（#→@） ^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ストレッチとレジスタンストレーニング	1, 2,4	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 知っているストレッチ方法にチャレンジしてみること。	1h	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を送るために普段の生活を見直すこと。 授業内で行ったストレッチやレジスタンストレーニングを積極的に行うこと。	1h
2	男女混成での団体スポーツ（バドミントン・チーム練習）	1, 2,3	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 チーム内でのコミュニケーションを高めておくこと。	1h	チーム内で話し合いの場を持ち、それぞれの長所、短所を明らかにすること。	1h
3	男女混成での団体スポーツ（バドミントン・模擬ゲーム）	1, 2, 3, 4,5	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 明らかになった長所、短所について、大学体育施設（フィットネスルームを含む）等を積極的に利用しながら確認すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1h	チーム内で話し合いの場を持ち、勝つためのゲームおよび楽しむためのゲームの進め方を探ること。	1h
4	男女混成での団体スポーツ（バドミントン・リーグ戦）	1, 2, 3, 4,5	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 話し合った内容を実現するために大学体育施設（フィットネスルームを含む）等を積極的	1h	チーム内で話し合いの場を持ち、リーグ戦での反省事項を見つけ出すこと。 次講義からのチーム内で	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			に利用しながらチェックすること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。		話し合い、コミュニケーションを高めておくこと。	
5	男女混成でのチームスポーツ（ドッジボール・チーム練習）	1, 2,3	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 チーム内でのコミュニケーションを高めておくこと。	1h	チーム内で話し合いの場を持ち、それぞれの長所、短所を明らかにすること。	1h
6	男女混成でのチームスポーツ（ドッジボール・模擬ゲーム）	1, 2, 3, 4,5	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 明らかになった長所、短所について、大学体育施設（フィットネスルームを含む）等を積極的に利用しながら確認すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1h	チーム内で話し合いの場を持ち、勝つためのゲームおよび楽しむためのゲームの進め方を探ること。	1h
7	男女混成でのチームスポーツ（ドッジボール・リーグ戦）	1, 2, 3, 4,5	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 話し合った内容を実現するために大学体育施設（フィットネスルームを含む）等を積極的に利用しながらチェックすること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1h	チーム内で話し合いの場を持ち、リーグ戦での反省事項を見つけ出すこと。 次講義からのチーム内で話し合い、コミュニケーションを高めておくこと。	1h
8	男女混成での団体スポーツ（ソフトバレーボール・チーム練習）	1, 2,3	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 チーム内でのコミュニケーションを高めておくこと。	1h	チーム内で話し合いの場を持ち、それぞれの長所、短所を明らかにすること。	1h
9	男女混成でのチームスポーツ（ソフトバレーボール・模擬ゲーム）	1, 2, 3, 4,5	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 課外時間に大学体育施設（フィットネスルームを含む）等を積極的に利用し、授業の予習・復習を行うこと。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1h	チーム内で話し合いの場を持ち、それぞれの長所、短所を明らかにすること。	1h
10	男女混成でのチームスポーツ（ソフトバレー	1, 2,	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。	1h	チーム内で話し合いの場を持ち、リーグ戦での反省事項を見つけ出すこ	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	ボール・リーグ戦)	3, 4, 5	大学体育施設（フィットネスルームを含む）等を積極的に利用すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。		と。 次講義のチーム内で話し合い、コミュニケーションを高めておくこと。	
1 1	ミニ運動会	1, 2, 3, 4, 5	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 大学体育施設（フィットネスルームを含む）等を積極的に利用すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1h	今回のチーム内でお互いに感想を話し合い、コミュニケーションを高めておくこと。	1h
1 2	男女別チームによるチームスポーツ（バスケットボール・チーム練習）	1, 2, 3	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 チーム内でのコミュニケーションを高めておくこと。	1h	チーム内で話し合いの場を持ち、それぞれの長所、短所を明らかにすること。	1h
1 3	男女別チームによるチームスポーツ（バスケットボール・模擬ゲーム）	1, 2, 3, 4, 5	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 明らかにになった長所、短所について、大学体育施設（フィットネスルームを含む）等を積極的に利用しながら確認すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1h	チーム内で話し合いの場を持ち、勝つためのゲームおよび楽しむためのゲームの進め方を探ること	1h
1 4	男女別チームによるチームスポーツ（バスケットボール・リーグ戦）	1, 2, 3, 4, 5	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 大学体育施設（フィットネスルームを含む）等を積極的に利用すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1h	チーム内で話し合いの場を持ち、リーグ戦での反省事項を見つけ出すこと。	1h
1 5	まとめ	1, 2, 3, 4, 5	栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 大学体育施設（フィットネスルームを含む）等を積極的に利用すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。	1h	科目内で知り合った学生と話し合いの場を持ち、大学体育施設等を積極的に利用すること	1h

合計時間（予習・復習）



30h

備考



受講上の注意

- 1.運動にふさわしいジャージおよびシューズ（屋内外別、スパイク禁止）を着用の上、参加すること（ジーパンなどの普段着での受講は不可）。
- 2.ケガを未然に防ぐために、時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアス等の貴金属類はすべて外し、髪が肩にかかる学生は髪を纏めて参加すること。
- 3.実技授業を進める上で配慮を必要とする学生は初回授業までに授業担当者まで申し出ること。
- 4.貴重品の管理は各自で行うこと。
- 5.授業で実施するスポーツ種目の器具は大学が用意しますが、個人で所有する器具がある場合は積極的に持参してください。
- 6.天候により施設変更する場合があります。担当教員および事務局からの連絡を確認するようにしてください。

印刷



キャリア形成論

MYカモクに追加

英文名 : Career Development

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB013

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

3 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小泉 英明

科目に関連した実務経験

社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○		○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト・レポートに対してコメントを付し返却。授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

AI（人工知能）をはじめとする各種テクノロジーの進化や地球規模的な気候変動など、社会は今、大きな激動期を迎えています。そのような中で、私たちを取り巻く経済・雇用環境も目まぐるしく変わり、生活や仕事の内容までもが大きく変わっています。

本講座ではそのような社会の動きを見据え、私たちが近い将来に求められる『能力』について理解を深めるとともに、キャリア形成の基盤づくりを行います。

授業では社会で求められている高次元のコミュニケーション能力や思考力、さらには問題解決能力などの『社会人基礎

力』を身につけるとともに、ケーススタディ等によって社会適応力を習得します。また本学卒業後、社会人として適切なスタートを切ることができるよう、“自身”の強化プラン策定と目標管理ができる自律的人材の養成を目指します。

【授業期間全体を通じた授業の進め方】

教員作成のレジューメを使い、要点をまとめていきます。授業では、ニュースで取り上げられる時事について考察しながら、卒業後における社会の中でどのように取り組んでいくべきか実体験を織り交ぜた説明を行います。また必要な箇所にはグループディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための課題を課します。

到達目標

- 1.社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■
- 2.自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。■
- 3.社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■
- 4.コミュニケーションの本質を理解し、高次元のコミュニケーション力を身につける。■
- 5.論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。■
- 6.アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。■
- 7.気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。■
- 8.問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■
- 9.自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■
- 10.自律型人材に向けての目標管理ができる。■
- 11.社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。■

使用教材

C-learningを利用し、各学生に教員作成の教材データを授業前に配信します。

参考文献

授業内で提示します。

評価方法

ファイナルレポート60%、毎授業後の提出課題30%、授業参加度・授業態度10%
それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価60%以上を合格とします。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業後の課題レポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。
ファイナルレポートに関するフィードバックは、出題テーマの意図など掲示等によって示します。

オフィスアワー

木曜日（12～17時）

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示します。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス／キャリア形成のために必要なこと■	1	事前配信教材をはじめ、新聞、テレビ、ネットなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む。	1.5h	キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。	1.5h
2	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■	1,3	事前に配信する第2回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。	1.5h
3	自己の理解■	2	事前に配信する第3回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自己理解を深め、自己効力感と自分のパーソナリティを理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	コミュニケーション力 ■	3,4	事前に配信する第4回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	チェックシートによって自身のコミュニケーション力を客観的につかむ。	1.5h
5	実践コミュニケーション力 ■	3,4	事前に配信する第5回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	コミュニケーションの重要ポイントを理解し、自身の弱点と強化ポイントをつかむ。	1.5h
6	気づく力（問題発見能力） ■	3,7	事前に配信する第6回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究課題に取り組む。 ※問題解決に繋がることを理解する。	1.5h
7	考える力Ⅰ（ロジカルシンキング・クリティカルシンキング） ■	3,5	事前に配信する第7回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって論理的思考を理解する。	1.5h
8	考える力Ⅱ（クリエイティブシンキング） ■	3,6,7,8	事前に配信する第8回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想の演習を行う。	1.5h
9	創造力を伸ばす ■	3,6,7,8,9	事前に配信する第9回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって創造力の阻害要因を理解し、力を伸ばすポイントをつかむ。	1.5h
10	問題解決能力Ⅰ（問題点を探る・WHYツリー） ■	3,7,8,9	事前に配信する第10回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身が抱える問題の「問題点」をWHYツリーで探る。	1.5h
11	働く意味／「仕事力」と「就業力」 ■	1,3	事前に配信する第11回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身の「仕事観」「就業観」を見つめ、自身の将来について深く考える。	1.5h
12	問題解決能力Ⅱ（問題解決の手法・HOWツリー／課題発見・目標設定） ■	3,8,9,10	事前に配信する第12回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身の課題をHOWツリーで探り、今後の目標・計画を設定する。	1.5h
13	社会における人間関係 ■	3,11	事前に配信する第13回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。	1.5h
14	自己の確立（バリュープロポジションとキャリア自律） ■	3,10	事前に配信する第14回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	将来のキャリア形成に向けて、キャリア自律の重要性を理解する。	1.5h
15	ストレスマネジメント ■	3,11	事前に配信する第15回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	ストレス対処法と対人耐性力を理解し、社会進出後のストレスに対する耐性力を高める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

C-learningにて配信する教材をもとに予習し、授業に臨んでください。教材はファイリングし、いつでも内容を振り返ることができるようにしてください。また、毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。授業は積み上げ方式で進めていきますから、わからないことがないように授業後は必ず復習してください。新聞、テレビ、ネットなどのニュースには常に関心を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。

〔健康福祉学部の学生に求められる基本的な資質〕

- ①人の役に立つという心構え
- ②生活者本位の視点
- ③コミュニケーション能力
- ④チームワーキングへの参画
- ⑤自己研鑽

※オンラインで授業を行う場合（※オンデマンド）

- ①教材のデータを授業日の3日前までに配信します。
- ②事前に配信された教材の内容を良く理解して講義に臨んでください。
- ③毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。（提出期限を厳守してください）
- ④提出されたレポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。
- ⑤授業への出席は、レポートの提出をもって「出席」とします。
- ⑥期末試験はレポート(ファイナルレポート)にて行い、第15回の授業後に提出の予定です。
- ⑦評価方法は以下の通りです。

ファイナルレポート60% 毎授業後の提出課題レポート30% 授業参加度10%

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

哲学

MYカモクに追加

英文名 : Philosophy

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH001

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

1 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

2 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石 桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①「他者とどう関わっていけばよいか」「絶対に正しいことはあるのか」、「病気や“弱さ”にどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち考えるのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わる者として考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や、統計からみえる社会情勢などを手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。

②配布プリントを中心に講義を行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見交換する場を設ける。

到達目標

- 1.人與人、人と社会の関係、平等性、自由と責任などについて、多様な視点から説明できる。
- 2.共生の意義や、弱者の排除が社会にもたらす影響を説明できる。
- 3.各テーマについて、自分の意見をもつことができる。
- 4.課題やグループワークを通して、自分の考えを他者に伝わりやすく表現できる。
- 5.自分と異なる他者の考えを受け止め、そこから新たな発見ができる。

使用教材 ^						
講義中にプリントを配布する。						
評価方法 ^						
定期試験（60％）、講義中に作成する課題（40％）に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価60％以上を合格とする。						
課題・評価に対するフィードバック方法 ^						
提出された課題の内容にコメントを付けて、授業中に紹介する。						
オフィスアワー ^						
水曜日の2時限、金曜日の2時限 （1号館6階601）						
メールアドレス（＃→＠） ^						
oishi#takasaki-u.ac.jp						
授業計画表 ^						
回数	講義内容	該当 到達 目標	予習内容	予 習 時 間	復習内容	復 習 時 間
1	ガイダンス	1	シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。	1h	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。	1.5h
2	自分と他者（1）「人に認められたい」のは本能？——ヘーゲル	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。	1.5h
3	自分と他者（2）「本当の自分」とは何か——キルケゴール	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	キルケゴールの「大衆と実存」の違いを理解する。	1.5h
4	自分と他者（3）人と人の関係性——ブーバー、サルトル	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	第2回から第4回までの内容を整理する。	1.5h
5	ディスカッション——これからの自分に大切なこと	1,3,4,5	第2回から第4回までの内容について、自分の考えをまとめる。	1h	自分にとって大切なことを改めて熟考し、課題を仕上げる。	1.5h
6	平等と共生（1）誰もが信じられる正しさはあるか——ロールズ	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	1.5h
7	平等と共生（2）環境は人の心にどう影響するのか	2,3,4	配布プリントに目を通す。	1h	「無知のヴェール」について理解する。平等について課題を仕上げる。	2h
8	自由・正しい自己決定のために——カント	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	「自律」の意義について理解する。	1.5h
9	心と身体（1）「私」を形づくるのは心か身体か——ニーチェ	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	身体がものの見方や価値観に影響する例を考える。	1.5h
10	心と身体（2）人間の中心は脳なのか	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	脳死の問題について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	エンハンスメント（1）変化する「病」の定義	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5h
12	エンハンスメント（2）「弱さ」を否定する社会——ハーバーマス、サンデル	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5h
13	ディスカッション——医療技術と自己決定	2,3,4,5	個人の欲求でどこまで医療技術を利用してよいか、自分の考えをまとめる。	1h	エンハンスメントについての自分の考えをまとめる。	1.5h
14	責任（1）責任の範囲はどこまで？——アリストテレスほか	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	責任が問われる基準について理解する。	1.5h
15	責任（2）「何もしなかった」ことに責任はあるのか——ヤスパース	1,3,4	配布プリントに目を通す。	1h	講義中にあげた事例について、自分の考えを課題にまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

38h

備考

本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組むこと。

予習・復習については試験前の学習で補完すること。

*オンライン授業になった場合は、C-learning上で講義資料（PDFファイル等）を閲覧し、課題を提出する形式とする。

印刷 

倫理学

MYカモクに追加

英文名 : Ethics

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH002

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中にアンケートを実施し、その結果を共有、分析する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 現代の医療をめぐる問題をとりあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。講義中、一つの問題をめぐる様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んでほしい。
- ② C-Learningの教材倉庫にアップした資料に基づいて講義を行い、毎回、ドリルと小テストを実施して知識の定着を図る。

到達目標

1. 医療に関連する倫理的諸問題について正確な知識を習得し、
2. 自分の考えを表現することができる。

3. また、自分と対立する考えについても理解を深める。

使用教材

講義中に資料を配布する。C-Learningの教材倉庫に毎回アップする。

参考文献

加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療—バイオ・エシックスの練習問題』、PHP新書、1999年。
小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理—「いのち」は誰が決めるのか』、筑摩書房、2011年。

評価方法

講義への参加態度（資料の閲覧、ドリルやアンケートの実施など）・・・30%
小テストなどの課題・確認テスト・期末レポート・・・70%

課題・評価に対するフィードバック方法

講義中、C-Learning「アンケート」を通じて、意見などを提出してもらう場合がある。有意義な意見に関しては講義中に紹介する。

オフィスアワー

1号館511研究室
面談希望の場合はC-Learning「連絡・相談」あるいは下記メールアドレスまで。

メールアドレス（#→@）

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス—生命倫理学について	1	・シラバスやC-learningのニュースを読み、講義の実施方法や目的を理解する。 ・予習資料を確認する。	1.5 h	生命倫理学の成立事情について、技術の発展と人間観の変化から理解する。	1.5 h
2	不妊治療（1）人工授精、体外受精	1,2,3	予習資料を確認し、人工授精（AI）の定義について知り、関連情報を取得しておく。	1.5 h	人工授精の特徴とそこで生じる倫理的問題について理解する。	1.5 h
3	不妊治療（2）代理母出産をめぐる議論	1,2,3	予習資料から、体外受精（IVF）とAIの差異、代理母について確認しておく。	1.5 h	人工授精、体外受精、代理母の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5 h
4	遺伝子操作（1）ヒトゲノム計画がもたらす未来	1,2,3	予習資料から、ヒトゲノム計画と現代におけるその活用について知る。	1.5 h	遺伝情報が現在社会においてどのように利用されようとしているか理解する。	1.5 h
5	遺伝子操作（2）遺伝子診断技術がもたらす未来	1,2,3	予習資料より遺伝子診断技術について確認する。	1.5 h	遺伝子診断技術がこれから社会に及ぼす変化を考えてみる。	1.5 h
6	人工妊娠中絶をめぐる問題	1,2,3	予習資料より日本における人工妊娠中絶の法的規定について調べておく。	1.5 h	人工妊娠中絶をめぐる現在の状況、議論について理解する。	1.5 h
7	優生思想をめぐる問題	1,2,3	予習資料より優生思想について知識を得ておく。	1.5 h	これまでの議論を優生思想の問題と関連させて振り返っておく。	1.5 h
8	インフォームド・コンセントと患者の権利	1,2	予習資料からインフォームド・コンセントが求められた歴史的な発端を読み解く。	1.5 h	患者を主役とする医療という考え方について確認しておく。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	QOLの追求	1,2,3	予習資料からQOLとは何かについて知識を得る。	1.5 h	様々なQOLのあり方について考えてみる。	1.5 h
10	告知をめぐる問題	1,2	予習資料から告知をめぐる現状について知る。	1.5 h	告知について自分ならどのような選択をするか考えてみる。	1.5 h
11	延命医療について	1,2,3	予習資料をもとに延命医療について自分の考えをまとめてみる。	1.5 h	延命とQOLを関連させて考えてみる。	1.5 h
12	安楽死について	1,2	予習資料から安楽死の区分について知る。	1.5 h	安楽死の区分について理解し、自分の意見をまとめてみる。	1.5 h
13	臓器移植（1）生体臓器移植	1,2,3	予習資料から日本での生体臓器移植の位置づけについて知る。	1.5 h	生体臓器移植の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5 h
14	臓器移植（2）死後移植と臓器移植法改正	1,2,3	予習資料から日本における昨今の死後移植の位置づけについて知る。	1.5 h	改正臓器移植法について理解し、自分の意見をまとめてみる。	1.5 h
15	総括	1,2	これまでのトピックの中から特に関心を持ったものを確認してみる。	1.5 h	紹介した文献や映像資料などを参照しつつ、自分の考えをまとめてみる。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・C-learningの「教材倉庫」「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」機能を活用する。毎回、授業日の前週水曜日に予習用の教材をアップするのであらかじめ目を通しておくこと。授業終了後は復習用の資料をアップするので、よく確認し、ドリル・小テストで知識の定着を図ること。
- ・詳細な成績評価の方法や、期末レポートの課題や規定など連絡事項はC-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。
- ・「自分ならどう考え、行動するか」を自らに問いかける姿勢を大切にほしい。また、授業内容と関連する「報道」などがあった場合には、通常の予習・復習とあわせて確認しておくことが望ましい。

印刷 

心理学

MYカモクに追加

英文名 : Psychology

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH003

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

岡本 香

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○						○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義時間中に質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問です。本科目では、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学び、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図ることを目標とします。

②講義では、その日のテーマの主要なポイントを開設し、板書をします。板書と教員の話をしっかりノートにとりましよう。また毎回ディスカッション（意見交換等）の時間を設けます。その際は、積極的に話し合いに参加し、テーマについて理解を深めましよう。

到達目標

- 1.科学としての心理学の基本的な考え方について説明できる。
- 2.心の基本的な仕組み及び働きについて説明できる。
- 3.心理学的視点に基づいて心の問題を説明できる。
- 4.心理的支援の考え方について説明できる。

使用教材

^

金沢創・市川寛子・作田由衣子『ゼロからはじめる心理学・入門』有斐閣 2015年 1,800円+税

評価方法

^

毎回の授業態度（積極的発言，ディスカッション参加）30%（2点×15回），学期末筆記試験70%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

学期末筆記試験後に解説を行う。

オフィスアワー

^

初回講義時に告知する。

メールアドレス（#→@）

^

okamoto-ka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：心理学の考え方	1	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。	0.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
2	目に見えない心をどのようにとらえるか：計量心理学	1	教科書P.1～P.15を読み、意味がわからなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
3	さまざまな心のとらえ方（1）：知覚心理学	2	教科書P.18～P.32を読み、意味がわからなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
4	さまざまな心のとらえ方（2）：学習心理学	2	教科書P.31～P.51を読み、意味がわからなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
5	さまざまな心のとらえ方（3）：進化心理学	1	教科書P.52～P.64を読み、意味がわからなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
6	さまざまな心のとらえ方（4）：神経心理学	2	教科書P.65～P.80を読み、意味がわからなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
7	さまざまな心のとらえ方（5）：個人差心理学	1	教科書P.81～P.93を読み、意味がわからなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
8	さまざまな心のメカニズム（1）：認知心理学	2	教科書P.96～P.111を読み、意味がわからなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
9	さまざまな心のメカニズム（2）：発達心理学	2	教科書P.112～P.125を読み、意味がわからなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	さまざまな心のメカニズム（3）：感情心理学	2	教科書P.126～P.138を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読みし、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
11	さまざまな心のメカニズム（4）：社会心理学	2	教科書P.139～P.149を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読みし、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
12	心の問題のとらえ方（1）：ストレスと心の病気	3	教科書P.152～P.164を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読みし、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
13	心の問題のとらえ方（2）：発達障害	3	教科書P.165～P.177を読み、読み方や意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読みし、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
14	心の問題のとらえ方（3）：アセスメントと支援	4	教科書P.178～P.191を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読みし、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
15	総括	1,2,3,4	これまでの学習内容を振り返る。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読みし、ノートをまとめなおす。期末筆記試験に備えて、15回の講義で学んだことを復習する。	2.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷



文学と人間

MYカモクに追加

英文名 : Literature and Humanity

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH004

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 豊かな人間性と幅広い教養

1 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

4 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

菅野 陽太郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

近現代の文学作品を読み、文学が人間の営みや文化の形成にどのように関わっているかを考え、文学を今後の生活に役立てていけるようになるための素地を養うことを目標とする。

②講義の実施方法

各回の授業では、予習した教材についての解説や話題提供を行った後、ディスカッションやアンケート等による意見の交流を行う。

到達目標

1. 文学を楽しみ、今後の生活に役立てていくことができる。
2. 授業で取り上げる文学作品の内容や特徴等について考え、理解することができる。
3. 授業で取り上げる文学作品について、オマージュやアダプテーションの見地から批評することができる。

使用教材 ^						
『伊豆の踊子』，川端康成，新潮社，1950，473円						
参考文献 ^						
『〈転生〉する川端康成Ⅰ引用・オマージュの諸相』，仁平政人・原善，文学通信，2022，2700円						
『〈転生〉する川端康成Ⅱアダプテーションの諸相』，仁平政人・原善，文学通信，2024，3500円						
評価方法 ^						
・各回の課題（30％）・レポート（70％）						
課題・評価に対するフィードバック方法 ^						
レポートは評価とコメントを付して返却する。						
オフィスアワー ^						
水曜2限、木曜2限（8号館506研究室）						
メールアドレス（#→@） ^						
kanno-y#@takasaki-u.ac.jp						
授業計画表 ^						
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、「物語」とその効用	1	シラバスを読み、これまでに読んだ文学作品について振り返る。	1h	授業内容を振り返り、課題に取り組む。	2h
2	文学のジャンルと要素	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
3	作品構造の理解①	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
4	作品構造の理解②	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
5	比喩表現の理解と効用	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
6	アフォリズムの魅力	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
7	比べるという思考①（二つの文学作品）	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
8	比べるという思考②（J-POPと文学作品）	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
9	引用・オマージュ①	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
10	引用・オマージュ②	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
11	引用・オマージュ③	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
12	アダプテーション①	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
13	アダプテーション②	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	アダプテーション③	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
15	他学問との関わり	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



授業時にC-learning等を使用した意見の交流を行うので、ノートPCやタブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。

印刷



芸術論

MYカモクに追加

英文名 : Art Theory

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH005

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石原 綱成、志尾 睦子

科目に関連した実務経験

志尾 : 映画上映・宣伝・企画・製作、イベントプロデュース

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○					○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①この講義は芸術を通して、人間の営為の総体として芸術を学ぶ。それによって、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術（絵画、映像等）を深く理解する。

②講義は前半が石原による芸術史、後半は志尾による映画芸術論となる（オムニバス形式）となる。

到達目標

1. 視覚芸術の歴史を理解できる
2. 芸術を人間の営為の総体として理解できる。
3. 映像芸術を通して、映画の文化的意義を理解できる。■
4. 様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく■

使用教材

講義スライドの資料を配布する。

参考文献

担当教員が逐次紹介する。

評価方法

試験を実施する。（石原50点、志尾50点、計100点）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。

オフィスアワー

石原：月曜3限、金曜2限、
志尾：火曜日2限

メールアドレス（#→@）

石原：ishihara#takasaki-u.ac.jp
志尾：m-shio#takasaki-cc.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス（石原・志尾）	2	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する	1.5 h	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する	1.5 h
2	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー	1,2,4	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5 h	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する	1.5 h
3	芸術史概説	1,2,4	芸術史の流れを体系的に理解しておく	1.5 h	配布した資料を基に芸術史の歴史を理解する	1.5 h
4	宗教芸術とは何か	1,2,4	世界の主要な宗教の特色を理解する	1.5 h	配布した資料を基にキリスト教の教義を理解する	1.5 h
5	キリスト教美術とシンボル	1,2,4	シンボルの本質について理解する	1.5 h	キリスト教のシンボルの法則性を理解する	1.5 h
6	ルネサンス美術ー古典古代の芸術ー	1,2,4	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する	1.5 h	遠近法と人間の「主体」への意識を考える	1.5 h
7	ルネサンス美術ー図像解釈学と美術ー	1,2,4	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する	1.5 h	アイデア論の違いが視覚芸術にいかに関与するかを理解する	1.5 h
8	中間テスト	1,2,4	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5 h	試験内容を自分なりに再考する	1.5 h
9	メディア芸術とは何か 映画芸術の入り口に立つ■	2,3,4	メディア と称されるもののイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5 h	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5 h
10	映画の誕生と変遷を辿る■	2,3,4	映画の仕組みを理解する	1.5 h	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5 h
11	映画の表現方法について学ぶ■	2,3,4	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5 h	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	映画の構造を知る ■	2,3,4	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5h	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5h
13	演習1：見えるもの 見えないもの 映画が伝えることを意識する ■	2,3,4	映画を観てみる	1.5h	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5h
14	演習2：演出とは何か ■	2,3,4	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5h	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5h
15	総論：映画は時代を映す鏡である 映画で世界を知る ■	2,3,4	興味のある国について調べる	1.5h	映画が語る文化、時代性を考える	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



ボランティア・市民活動論

MYカモクに追加

英文名 : Civil and Voluntary Activities

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH006

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

3 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

一柳 大輔

科目に関連した実務経験

前職でボランティア団体の運営支援に従事。災害ボランティアセンター職員として派遣経験も多数あり。また、様々なボランティア活動実践者と交流がある。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動である。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り組み、今日の社会に不可欠な存在である。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成する。

②毎回の授業は、ボランティアのテーマに基づく講義、ゲストスピーカー講義（予定）、振り返り、次週の予定、という流

れで進める。

③1、2回目の講義は対面、3回目以降の講義はオンデマンド形式で進める。詳細は、初回ガイダンス時に説明する。

到達目標

1. ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■
2. ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■
3. ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■
4. 参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■

使用教材

各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業・c-learningにて配布する。テキストは使用しない。

参考文献

その他、講義に必要な教材・資料は適宜配付する。

評価方法

成績評価

- ① 毎回の授業後に作成するリアクションペーパー(c-learning)による評価（84%）。
- ② ボランティア活動に参加して作成する実践レポートによる評価（16%）。評価方法は、ボランティア実践の回数や時間ではなく、ボランティア活動に参加することによる学びを評価する。
- ③ 追再試は実施しない。

その他の評価

- ① 授業開講数の2/3以上を出席することにより、成績の評価対象とします。
- ② 忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出（要添付書類）を提出すれば出席扱いとする。なお、15分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ③ ボランティア実践の時間（1回当たり4時間×2回＝8時間相当）も本時の講義時間に含める。

課題・評価に対するフィードバック方法

質問や相談についてはC-learningで適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。

オフィスアワー

質問は授業の前後、またはC-learningでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）

hitotsuyanagi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い■ ボランティア・市民活動支援センター（VSC）の活用方法、授業の進め方を確認する。 （教室にて行う）	1,3	シラバスの内容をよく読んで、現時点でのボランティアの理解を把握する。	1. 5h	講義内容、学位授与方針、成績評価方法、VSC利用方法などを確認する。	1. 5h
2	ボランティアの力を活かす仕組み～	1, 2,	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織	1. 5h	ボランティアセンターの活用方法を理解する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	ボランティアセンターの役割 ■ (教室にて行う)	3,4	や活動内容を調べる。			
3	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	児童を対象としたボランティア活動を調べる。	1. 5h	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。	1. 5h
4	人々はどのようにボランティアに取り組んできたか～欧米と日本の歴史(オンデマンド)	1, 2, 3,4	世界の国々でボランティア活動がどのように取り組まれているか調べる。	1. 5h	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1. 5h
5	障害者スポーツ・レクリエーションをサポートするボランティア活動 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	障害者を対象としたスポーツやレクリエーションについて調べる。	1. 5h	障害者との接し方や支援の内容や方法を理解する。	1. 5h
6	被災地に届け、災害支援ボランティア活動 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1. 5h	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1. 5h
7	ユニバーサルデザイン・バリアフリーとボランティア活動 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	バリアフリーに関わるボランティア活動を調べる。	1. 5h	バリアフリーをすすめるボランティア活動のあり方を理解する。	1. 5h
8	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1. 5h	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1. 5h
9	地域ささえあいのボランティア ～ふれあい・いきいきサロン～ ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1. 5h	高齢者の介護予防や健康、子育て家庭を住民で支える活動について理解する。	1. 5h
10	生活課題を抱えた方への支援とボランティア活動について ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	福祉における"複合的な課題"、"重層的な課題"を調べる。	1. 5h	"複合的な課題"、"重層的な課題"等の生活課題を抱えている地域住民の事例紹介、そういった住民を対象とした居場所事業やコーディネート実践の紹介を通してボランティアとしてどう関われるかを考察する。	1. 5h
11	ボランティアとNPO法人 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	NPO法人とは何かについて調べる。	1. 5h	NPO法人の活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。	1. 5h
12	"ごみ屋敷"とボランティアについて ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	ごみ屋敷の住人に関する課題について調べる。	1. 5h	ごみ屋敷の住人の支援において、ボランティアがどのように関わるかという点を理解する。	1. 5h
13	行政に協力するボランティア ～民	1, 2,	行政に協力するボランティアについて調べる。	1. 5h	民生委員・児童委員の活動を理解し、自分の地域の民生委員を確認する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	生委員・児童委員の活躍～■(オンデマンド)	3,4				
14	ボランティアに関する企業の取り組みについて(オンデマンド)	1, 2, 3,4	ボランティアに関する企業の取り組みについて調べる。	1. 5h	民間企業の社会貢献活動の取り組みを紹介し、卒後の専門職キャリアを歩むうえでのボランティア活動の捉え方を考察する。	1. 5h
15	まとめ～新しい支え合いと20年後の自分の生き方■(オンデマンド)	1, 3,4	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題について考える。 また、既に提出のあったボランティアレポートの紹介をする。	1. 5h	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて、ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・ボランティア実践は、もちろん強制ではないので、自分の興味や関心のある分野や活動に参加する契機として設定している。大学生として様々な活動にチャレンジすること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう（予定）。

・ボランティア・市民活動支援センター（VSC、9号館1階）を活用すること。活動を始める前には必ず、ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じる。

VSC直通TEL：027-352-1108、VSCメールアドレス：vsc#takasaki-u.ac.jp（#→@）

・シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。

印刷 

人権論

MYカモクに追加

英文名：Theory of Human Right

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH007

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

1 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

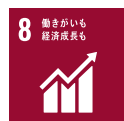
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

金井 洋行

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

テーマについての課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人権の観念について、他の観念－人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等－との比較を通して分析し、人間の本性（human nature）との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。

②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入的に割り込ませることがある。

到達目標

- 1.人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。
- 2.人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。
- 3.個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。
- 4.人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。
- 5.人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。

使用教材

テーマ別レジюме、基礎知識資料（テキストに代替するプリント） * テーマによってDVDの視聴あり

評価方法

- ・ 平常の授業に対する姿勢・課題提出（35%）、中間小テスト（15%）、期末の定期試験（50%）
- ・ 課題は概ね4回のレポート、中間小テストは概ね3回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト

課題・評価に対するフィードバック方法

重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する（テーマについては適宜指示）

オフィスアワー

出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人権の観念と内容	1	日本国憲法における基本的人権の項目の資料等による再チェック	2h	予備知識アンケート	0.5h
2	人権の享有主体と人権規定の適用関係	1,2	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
3	人権の制約と限界	1,2,4	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
4	個人主義の観念と幸福追求権の意義	1,2,4	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
5	法の下での平等－平等権と平等原則－	1,2,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
6	人間の内心の価値と保護	1,3,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
7	自由と自由主義	1,3,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
8	表現の自由とその抑制	3,4,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
9	経済活動の自由と財産権	3,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	人身の自由と刑事手続の保障	3,4,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
11	政治活動の自由と参政権	3,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
12	生存権の意義と福祉国家の諸権利	3,4,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
13	教育を受ける権利と学習権	3,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
14	人権の国際化	3,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
15	世界の情勢と人権(A Iと人権、戦争と人権等)	1,4	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
 当日に即答できない質問や要望についてはC-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。
 日常の身の回りに起こる権利侵害や条理違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。

印刷

人間関係論

MYカモクに追加

英文名：Theory of Human Relations

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH008

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

2 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田 純喜

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人間関係論という言葉は、大別すると二通りの意味がある。一つは、ホーソン実験を基盤として体系化された、主に経営学で用いられる理論のことである。もう一つは、人間の行為や生活上の諸現象を、人と人との関係において研究しようとする社会科学における研究アプローチのことである。本講義では本学の特性を考慮し、後者の観点から、生活上の人と人との関係を理解することを目的とする。ただし、本講義を受講することで、すぐに良好な人間関係を築けるようになるわけではない。人と人との関係とはいかなるものか、人との関係において喜びや苦しみが生まれるのはなぜか、といった根本的な問いを探ることが中心的な課題となる。

②授業は主に講義形式で進めるが、事前課題や授業内のワークを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。

到達目標

- 1.人間関係論の基礎的内容を理解している。
- 2.社会状況・生活形態と人間関係との関連を説明できる。
- 3.身の周りの人間関係を多角的な視点から説明できる。
- 4.現代社会で生じている人間関係に関する諸問題への対応について考察できる。

使用教材

参考文献

授業内で適宜紹介する。

評価方法

レポート（50％）、試験（30％）、課題・参画度（20％）

課題・評価に対するフィードバック方法

試験前後に出題の意図等を説明する。

オフィスアワー

水曜5限、木曜5限（8号館406）

メールアドレス（#→@）

tomita-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ホーソン実験と人間関係論	1	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。	1h	人間関係論の成り立ちについて理解する。	1h
2	「友人重視指向」の日本の高校生（はじめに）	1	テキストの該当ページ（p.11-16）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
3	人は一人では生きられない？（第1章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.17-26）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
4	幸せも苦しみも他者がもたらす（第2章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.27-37）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
5	幸せも苦しみの他者がもたらす（第2章）②後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.37-46）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
6	共同性の幻想（第3章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.47-55）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
7	共同性の幻想（第3章）②中盤	2,3,4	テキストの該当ページ（p.55-63）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
8	共同性の幻想（第3章）③後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.63-79）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
9	「ルール関係」と「フィーリング共有関係」（第4章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.80-96）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
10	熱心さゆえの教育幻想（第5章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.97-105）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
11	家族との関係と、大人になること（第6章）①前	2,3,4	テキストの該当ページ（p.106-113）を読み、事前課題に	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	半		取り組む。		深める。	
12	家族との関係と、大人になること（第6章）②後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.113-120）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
13	「傷つきやすい私」と友だち幻想（第7章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.121-131）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
14	言葉によって自分を作り変える（第8章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.132-153）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
15	まとめ（これまでの授業の復習をとおして理解を深める）	4	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理する。	2h	現代社会における人間関係について自身の考えをまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

印刷

ジェンダー論

MYカモクに追加

英文名 : Gender Theory

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH009

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

10 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

山田秀頌

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

教員が提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

ジェンダーをめぐるさまざまな問題についての正しい知識と考え方を身につけることは、自分が生きていく上ではもちろんのこと、多様化する社会においてプロフェッショナルとして働いていく上でも重要なことがらとなっている。この授業では、主に女性やセクシュアルマイノリティに対する不利益がどのような社会的なしくみの中で生み出されているのか、そうしたしくみに対してどのような批判がなされてきたのかを学ぶことで、性にかかわる社会問題について多面的に考えるための方法を獲得する。

②実施方法

教科書および配布資料の内容をふまえながら、各回のテーマにおける主要な問題や概念について解説する。教員が提示す

るトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。現在の社会問題とのつながりを意識してもらうため、講義の内容に関連するニュース動画を流すことがある。

到達目標 ↑

- 1. ジェンダーやセクシュアリティにかかわる重要概念について説明できる。
- 2. ジェンダー論の基本概念や枠組みにもとづいて、性にかかわる社会問題について自分の考えを表現できる。
- 3. 性の多様性をはじめ、様々な社会的背景を持つ人々とともに性にかかわる社会問題に取り組むための視点を、自分の考えに反映させることができる。

使用教材 ↑

『フェミニズムってなんですか？』清水晶子著、文春新書、2022年。他に文献資料を適宜配布する。

評価方法 ↑

中間レポート（40％）および期末レポート（60％）で評価する。
総合評価60％以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

中間レポートについては簡単な講評を行う。

オフィスアワー ↑

質問等は、授業中もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ↑

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義全体の説明		性にかかわる身近な問題について考える。	1.5 h	講義内容、到達目標、成績評価法などを確認する。	1.5 h
2	フェミニズムの歴史	1,2,3	教科書の「はじめに」、第1章、第2章を読む。	1.5 h	フェミニズムの4つの波について再確認する。	1.5 h
3	公的領域と私的領域	1,2,3	教科書第3章、第7章を読む。	1.5 h	公的領域と私的領域の違いを確認し、なぜ私的領域の問題が重要なのかについて理解を深める。	1.5 h
4	第三波フェミニズムと「ガールパワー」	1,2,3	教科書第4章、対談Ⅰを読む。	1.5 h	ジェンダーの自由を商業主義的な自由として考えることの問題を理解する。	1.5 h
5	インターセクショナリティ	1,2,3	教科書第5章、第6章を読む。	1.5 h	さまざまな差別の重なりについて考察を深める。	1.5 h
6	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ①（性教育）	1,2,3	教科書第10章を読む。	1.5 h	リプロダクティブ・ヘルス/ライツにおける性教育の重要性について理解する。	1.5 h
7	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ②（中絶）	1,2,3	教科書第14章を読む。	1.5 h	中絶をめぐる歴史と現代の状況について理解する。	1.5 h
8	セクシュアル・ハラスメントと性暴力	1,2,3	教科書第8章を読む。	1.5 h	権力関係の問題として理解する。	1.5 h
9	結婚と家族	1,2,3	教科書第11章を読む。	1.5 h	伝統的家族観と制度の問題について理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	フェミニズムとケア	1,2,3	教科書第9章、第16章を読む。	1.5h	なぜケア労働は軽視されているのか、どのようにケアが重要なのかについて考える。	1.5h
11	セックスワーク	1,2,3	教科書第12章を読む。	1.5h	セックスワークという考え方について理解を深める。	1.5h
12	セックス／ジェンダー／セクシュアリティの概念	1,2,3	教科書第15章を読む。	1.5h	ジェンダー論の基本概念について再確認する。	1.5h
13	レズビアン、トランスジェンダーとフェミニズム	1,2,3	教科書「対談Ⅱ」「対談Ⅲ」を読む。	1.5h	インターセクショナリティの視点から理解する。	1.5h
14	トランスジェンダーと医療・法律をめぐる問題	1,2,3	指定する文献資料を読んでおく。	1.5h	トランスジェンダーに対するケアのあり方や、戸籍の性別変更をめぐる状況について理解を深める。	1.5h
15	大学教育とジェンダー／全体のまとめ	1,2,3	教科書第13章、「おわりに」を読む。	1.5h	講義で得た自分の問題関心について、考察を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



教科書と事前配布する資料を読み込み、授業での理解を深めるよう努力すること。
ジェンダー論では、自身の経験や価値観もふまえながら、自分なりの考えを深め、表現することにもっとも大切な意味がある。したがって、レポート課題で生成AI（chatGPT等）の文章をそのまま使うことは認めないので注意すること。AIの使用が強く疑われる場合は大幅な減点の対象となる。

印刷



共生の倫理

MYカモクに追加

英文名 : Ethics of Symbiosis

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH010

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石 桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代では多様な価値観・文化をもつ人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。誰もがもちやすい偏見や排除をのりこえ、共生を実現するためどのような取り組みができるか。多くの事例から基礎的な理論と方法の知識を習得し、今後の生活に生かす基盤を培うことを目標にする。

②授業ではパワーポイントを用いる。定期的に資料分析、考察する機会を設ける。

到達目標

1. 現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。
2. 共生の歴史について理解し、説明できる。
3. 共生を支える社会学、倫理学、心理学また教育的・臨床的なアプローチを理解し、説明できる。

- 4.共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。
- 5.各テーマについて自分の考えをもつことができる。

使用教材

講義中にプリントを配布する。

参考文献

講義中に指示する。

評価方法

定期試験（60％）、講義中に作成する課題（40％）に、参加態度を加えて総合的に評価する。
総合評価60％以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。

オフィスアワー

月曜日の3時限、金曜日の2時限。
（1号館6階601）

メールアドレス（#→@）

oishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラパスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。	1h	講義の目的や学ぶ意義を理解する。	1.5h
2	ノーマライゼーションから当事者主権へ	1,2	ノーマライゼーションの定義を調べる。	1h	障害者の権利をめぐる歴史を理解する。	1.5h
3	障害者権利条約と意思決定支援	1,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	各国での意思決定支援の制度・取り組みを理解し、課題を作成する。	1.5h
4	ユニバーサルデザイン	1,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5h
5	優生思想	2,5	配布プリントに目を通す。	1h	20世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。	1.5h
6	援助行為の動機とは	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	人がなぜ他者を援助できるのか、様々な理論を理解する。	1.5h
7	偏見といかに向き合うか	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	偏見が生じるメカニズムを理解し、その解消に向けた取り組みについて考える。	1.5h
8	認知症介護・ケアへの取り組み①社会制度の側面から	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	認知症介護をめぐる現代の課題を理解する。	1.5h
9	認知症介護・ケアへの取り組み②身体拘束を減らすために	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	拘束を減らす手法、コミュニケーション改善の取り組みを理解し、考察する	1.5h
10	いじめ問題にどう取り組むか①いじめが発生する	3,5	配布プリントに目を通す。	1h	国内でのいじめの状況、発生メカニズムを理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	メカニズム					
11	いじめ問題にどう取り組むか②いじめへの対応策	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	国内外でのいじめ予防・対応の実践例を理解し、有効な手段を考察する。	1.5h
12	環境問題と世代間倫理① ヨナスの世代間倫理	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	現在世代が未来世代への責任をどのようにもつか、理解できる。	1.5h
13	環境問題と世代間倫理② 環境問題をめぐる論争	1,2,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	環境問題についての議論を理解し、みずからの考えをもつ。	1.5h
14	社会のレジリエンスを高める	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	災害復興支援、暴力犯罪の低減などの事例をもとに、有効な手段を考察する。	1.5h
15	まとめ・共生社会へ向けて	1,2,3,4,5	これまでのノート・資料に目を通す。	1h	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）



38h

備考



予習・復習については試験前の学習で補完すること。

*オンライン授業となった場合は、C-learning上で講義資料（PDFファイル等）を閲覧し、課題を提出する形式とする。

印刷



チーム医療アプローチ論

MYカモクに追加

英文名：Team Approach to Health Care

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH011

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

3 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川喜代美、加藤大輔、竹内真理、梅原里実、渡邊秀臣、篠原智行、小竹利夫、高橋雄太

科目に関連した実務経験

大川（情報）：診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）

加藤（福祉）：医療ソーシャルワーカーとしてケアミックス病院に勤務（経験）

竹内（栄養）：管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）。健大附属クリニック管理栄養士兼務

梅原（看護）：看護師として病院に勤務、病棟・外来・地域医療連携室の管理業務（経験）

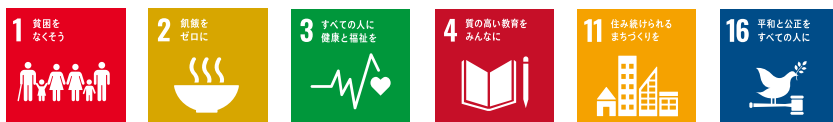
渡邊（理学）：整形外科医として医療機関に勤務（非常勤）

篠原（理学）：急性期、回復期病院に勤務経験あり。現在は生活期病院に非常勤勤務

小竹（子ども）：障害児母子通所支援施設に勤務（経験）

高橋（薬学）：薬剤師として大学病院に勤務（経験）、調剤薬局に非常勤勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

より安全で質の高い医療の提供にはチーム医療が欠かせない。

①福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解す

る。

②各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。

到達目標

- 1.チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。■
- 2.各専門職の役割と活動について理解できる。■
- 3.チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。■

使用教材

講義のスライドのファイルおよび資料をC-learningに公開する。

評価方法

授業参加への積極性40%、レポート60%

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・多学科の学生が参加していることからC-learningの協働板機能を用いてパソコン上での双方向の通信手段によって行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。
- ・課題レポートや小テストの成果から感じた点や補正すべき点について文章化し、C-learningを用いて受講生にフィードバックする。

オフィスアワー

大川（情報）
木曜3限（1号館609研究室）
加藤（福祉）
火曜4限（1号館515研究室）
竹内（栄養）
金曜3限（1号館308研究室）
梅原（看護）
金曜1～2限（5号館502研究室）
渡邊（理学）
金曜3限（5号館1階学部長室）
篠原（理学）
水曜3限（4号館416研究室）
小竹（子ども）
水曜3時限（8号館403研究室）
高橋（薬学）
水曜2限、7号館323研究室

メールアドレス（#→@）

大川（情報）
okawa-ki#takasaki-u.ac.jp
加藤（福祉）
kato-d#takasaki-u.ac.jp
竹内（栄養）
mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp
梅原（看護）
umehara#takasaki-u.ac.jp
篠原（理学）
shinohara-t#takasaki-u.ac.jp
小竹（子ども）
kotake#takasaki-u.ac.jp
高橋（薬学）
takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp
※メールでの質問可の教員のみ掲載

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について■	1	チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。	1.5h	21世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。	1.5h
2	チーム医療における看護師の役割と活動■	1,2,3	看護師の役割や業務について調べる	1.5h	看護師の役割・活動、チーム医療における看護職の役割について講義内容から復習しておく。	1.5h
3	チーム医療における理学療法士の役割と活動■	1,2,3	理学療法士の一般的な役割について調べる	1.5h	チームにおけるリハビリテーションの位置づけを復習し、チーム医療に求められる個人の資質について考察する。	1.5h
4	チーム医療における薬剤師の役割と活動■	1,2,3	チーム医療（病院・薬局）における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。	1.5h	医薬品が患者や社会に与える影響（メリットとデメリット）を考え、その上でチーム医療を行うことの有益性についてレポートにまとめる。	1.5h
5	チーム医療における管理栄養士の役割と活動■	1,2,3	今までに学習した1～4のコメディカルの役割と活動について復習し、一般的な管理栄養士の役割と活動について各自で調査する。	1.5h	管理栄養士と他のコメディカルとの関わりについて理解し、それぞれの立場においてチーム医療で求められる役割・活動と、多職種連携について考察する	1.5h
6	チーム医療における社会福祉士の役割と活動■	1,2,3	①高齢化社会の現状を調べる ②地域における医療・介護・福祉の連携、地域包括ケアシステムの進展を調べる。 ③医療ソーシャルワーカーについて調べる。	1.5h	地域での自立生活に必要となる、チーム医療における社会福祉士の役割を考察する。	1.5h
7	チーム医療における特別支援学校教諭の役割と活動■	1,2,3	乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。	1.5h	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5h
8	チーム医療における診療情報士の役割と活動■	1,2,3	診療情報管理士と病院事務職について調べてみる。	1.5h	診療情報管理士と病院事務職について得た知識を整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

【キーワード】 専門職、チーム医療、チームアプローチ、多職種連携

「チーム医療アプローチ演習」（3または4年次開講）履修には、原則として本科目の単位修得が必要となる。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



国際保健医療論

MYカモクに追加

英文名：Theory of International Health

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH012

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

李孟蓉, 町田修三

科目に関連した実務経験

開発途上国の健康支援（経験）

元JICA専門家をゲストスピーカーとして招く（第11回）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○		○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

クローズドクエスション、オープンクエスションなど、授業中に質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ、新たな国連の目標であるSDGsを軸に、グローバルヘルスの基本理念と戦略を学び、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識できる。また、地球規模の健康課題やその影響要因、国際保健医療の関連分野の活動の理念と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得し、グローバル化の時代に活躍する医療職を目指すことができる。また本講義では、学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的に、学生が実際に海外に赴き実体験として諸外国の医療事情を見聞することにより、単位を取得

することができる。

②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう学習内容を体系的に提示し進めいく。また、学生が自律的に学習を進められるようグループワークを取り入れ、発表させる。

到達目標



1. 国際保健医療学、国際保健医療協力の概念と変遷を理解できる。
2. 保健医療分野での国際協力の必要性と意義を理解できる。
3. 諸外国の医療教育や医療の実態、医療制度、福祉を理解し、日本との違いを説明できる。
4. 国際保健医療協力の実際や実践手法を理解できる。■
5. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解できる。■
6. 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる。（海外研修参加者）

使用教材



配布資料、各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと

参考文献



- ①「国際保健医療学」第3版 国際保健医療学会編 杏林書院
- ②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」 山本敏晴 小学館
- ③「国際協カ―その新しい潮流」 下村恭人 有斐閣
- ④ 世界の厚生労働2019 有限会社正陽文庫/
厚生労働省. 2023年海外情勢報告 https://www.mhlw.go.jp/stf/toukei_hakusho/kaigai23_00001.html
- ⑤「国民衛生の動向2024/2025」 厚生労働統計協会
- ⑥「SDG sを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社」（電子ブック）
- ⑦「世界の貧国 1日1ドルで暮らす人びと」 ジェレミーシーブルック 青土社 適宜参考書を紹介する

評価方法



【学内授業の場合】

・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、授業・発表・討論の参加度30点（30%）（個人/グループワーク、プレゼンテーション）、期末レポート70点（70%）の配分で合計60点以上を合格とする。
海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス（30%）、研修レポート（30%）、研修中 のパフォーマンス（40%）

【オンライン授業の場合】

・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、レポート10点（10%）、授業・参加度20点（20%）（個人/グループワーク、プレゼンテーション）、期末レポート70点（70%）の配分で合計60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。

発表や討論については、その都度コメントやアドバイスを。レポ―については、コメントを付して返却する。（対面授業・オンライン授業とも共通）

オフィスアワー



李：木曜日2限目、金曜3限目；研究室：5号館3階 302
町田：月曜日4限目、金曜日2限目；研究室：1号館 6階 603

メールアドレス（#→@）



ri#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義オリエンテーション、国際保健、国際保健医療学の定義、国際保健医療協力の概念（一部 AL 実施）	1,2	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく。国際保健医療協力に関する新聞・雑誌などの記事を読んでくこと。	1. 5h	配布資料を目を通し、国際保健協力の定義、世界や国内の国際協力の概念についてまとめ、理解を深めること。また、自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する。	1. 5h
2	グローバルヘルスと開発理念の変遷（プライマリーヘルスケア～SDGs）（一部 AL 実施）	1,2	参考文献①「国際保健医療学」第3版の第Ⅰ部1～4、10～11まで目を通しておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、世界の歴史の中でのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、MDGsの基本理念と変遷について理解を深め、SDGsの目標と活動について興味関心をまとめること。	1. 5h
3	国際保健医療関連の国際機関、NGOの取り組みと日本の国際協力（一部 AL 実施）	1,2	参考文献②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」、③国際協力ーその新しい潮流に目を通しておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、国際保健医療協力の仕組み、国際保健医療関連の国際機関やNGO団体、ODAの活動についてまとめ、理解を深めること。	1. 5h
4	日本の医療教育、医療制度、医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
5	諸外国（イギリス）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
6	諸外国（ヨーロッパ①）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
7	諸外国（ヨーロッパ②）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
8	諸外国（アメリカ）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
9	諸外国（発展途上国、インドネシア）における健康の格差①（保健指標、母子保健）（一部 AL 実施）	2, 3,4	参考文献④世界の厚生労働2019 p. 102-136、⑤「国民衛生の動向2024/2025」を参考し、日本における衛生の主要指標、保健と医療の動向（人口動態、生命表、母子保健など）について目を通しておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、世界で生じている健康格差の実態とその原因についてまとめ、理解を深めること。	1. 5h
10	諸外国（発展途上国、タイ・ベトナム）における健康の格差②（感染症と非感染性疾	2, 3,4	参考文献⑥SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社（電子ブック）第2章 保健・健康SDG3に目を通しておくこと。	1. 5h	開発途上国の保健医療課題とその原因についてまとめて、理解を深めること。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	患) (一部 AL 実施)					
1 1	国際保健医療協力と異文化理解 ■ (一部 AL 実施) 元JICA専門家を招き、異文化の中での国際協力活動について事例をもとに解説を加えて講義する	2, 3, 4, 5	世界で行われてる国際保健医療協力を調べておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、国際協力として行われている支援について、目的、実際の活動内容、異文化適応について考察したことをまとめ、理解を深めること。	1. 5h
1 2	訪日外国人・在日外国人の背景、医療における課題と健康支援	5	日本、群馬県内の在日外国人(人口、国籍、在留資格、居住地域、生活など)について調べ、体験、新聞等の媒体から実情に関心をもち把握しておくこと。	1. 5h	在日外国人が抱えている健康問題と健康支援について理解を深める。また、異文化に遭遇した際に求められる必要な対処について考え、今後学習や実践に活用できる資料をまとめること。	1. 5h
1 3	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク① (一部 AL 実施)	2, 3, 4, 5, 6	興味ある国の医療事情や興味関心のあるSDGの目標について調べておくこと。	1. 5h	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のあるSDGの目標やターゲットについてまとめて、発表の準備をすること。	1. 5h
1 4	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク② (一部 AL 実施)	2, 3, 4, 5, 6	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のあるSDGにおける諸外国、国際機関や世界でのNGO、企業等の活動・取り組みを調べておくこと。	1. 5h	調べてまとめた興味関心のあるSDGについて、第12回講義と関連付けて自分たちが取り組めることをまとめて、発表の準備をすること。	1. 5h
1 5	学生プレゼンテーションとまとめ	2, 3, 4, 5, 6	第13回～第14回の個人ワーク/グループワークの発表資料と発表の準備。	1. 5h	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入。	1. 5h

合計時間 (予習・復習)

45h

備考

AL (アクティブラーニング) は、ペアワークを含むグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー、その他クロードク

エスチョン、オープニングエスチョンなど、授業中に質疑応答の時間を設ける。

1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

2. ルール

1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。

2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。

3. 出席登録の方法

出席の登録は、C-learningの下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は授業、「ニュース」で確認すること。

1) 「レポート」の課題をする。

2) 「アンケート」を提出する。

4. グループワークとレポートの詳細については授業を進めながら提示する。

5. オンライン講義を実施する場合には、講義内容のワークショップを変更することがある。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

Introduction to Healthcare Sciences

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Healthcare Sciences

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH013

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

3 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

町田 修三、東福寺 幾夫、松尾 仁司、ターン・クリストファー、應本 真、今井 純、大石 時子、富田 洋介

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

QUIZ、問いかけ、授業内カンバセーション等による双方向性授業

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。

②数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。英語を使用する授業であるので、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。

到達目標



- 1.医療に関する基礎的な内容に関して，英語での説明を理解できる
- 2.理解した内容について，第三者に説明できる
- 3.医療に関するトピックに関して，英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる
- 4.医療に関するトピックについて，外国の学生と話をすることができる

使用教材



各教員が作成した資料やデータを用いて講義する

評価方法



担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は，毎回の授業参加度（20%程度）や講義終了時に課す提出物または小レポート（80%程度）により，それぞれの持ち点に応じて学生を評価する

課題・評価に対するフィードバック方法



提出物や小レポートには，コメントを付して返却する

オフィスアワー



月曜日4限目、金曜日2限目
研究室：1号館6階603

メールアドレス（#→@）



machida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction of the course （町田）	1	シラバスを熟読し，講義の概要や目標を理解しておく	1h	講義内容の復習，特に専門用語（英語）を覚える	1h
2	Medical globalization and Japan's healthcare system （町田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
3	Healthcare system of foreign countries （町田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
4	Introduction of nursing education in Japan and other countries （大石）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
5	Introduction to telemedicine （東福寺）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
6	Methods for Obtaining Medical Information in English I （松尾）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	Methods for Obtaining Medical Information in English II (松尾)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
8	Immunity and diseases I (今井)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
9	Immunity and diseases II (今井)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
10	Medical information system (松尾)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
11	Introduction to sensory science (應本)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
12	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation I (富田)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
13	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation II (富田)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
14	Mental health and social skills (ターン)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
15	Summary and concluding remarks (ターン)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h

合計時間（予習・復習）

44h

備考

講義内容は学生の興味を持てそうな分野から、基礎的なものを選んでいる。学生の積極的な授業参加が求められる。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修により医療の国際化に関する理解を深め、単位修得に必要な時間を各自確保すること。

印刷



囲碁の世界

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Igo

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH014

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

3 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

三谷 哲也

科目に関連した実務経験

2002年に公益財団法人日本棋院に入段。囲碁教室や他大学の囲碁授業の講師（現在）

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

インターネット・携帯電話アプリケーションでの対局を指示する場合あり

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。

また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。

②実施方法

- 講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。
- 囲碁の心得や法則「ナナメにご用心」等、言葉で表したものを積極的に使い上達を図る。
- 決め打ち碁（模範的な碁を並べ、途中から打つ）で布石の考え方を身につけ、初心者でもすぐに終局まで打てるようになる。

到達目標

^

- 1.囲碁を全く知らない状態から囲碁の世界を知り、19路盤で最後まで打てるようになる。■
- 2.「囲碁の心得、法則」の形を言葉で覚え、積極的に使い囲碁の考え方を身につける。■

使用教材

^

光文社新書「東大教養囲碁講座」 （備考欄を要確認）

参考文献

^

日本棋院「実践囲碁総合演習」

評価方法

^

毎回の授業貢献度、コメントシート、技術の習熟度を総合的に判断する（60%）

試験（20%）×2回 ※対局結果は成績評価に含まない

課題・評価に対するフィードバック方法

^

試験後に解説を行う。

オフィスアワー

^

質問及び学習相談は授業の前後に応じる。状況により次回の授業での対応となる場合がある。

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	囲碁の歴史と基本ルール■	1,2	教科書 第1章1〜3に目を通し講義の目的を理解する。	1.5h	囲碁の基本的なルールを理解する。	1.5h
2	ルールの復習（1）■	1,2	教科書 第2章1-1〜1-3に目を通し基本ルールを確認する。	1.5h	囲碁の5つの基本ルールを理解する。	1.5h
3	ルールの復習（2）■	1,2	教科書 第2章1-4〜1-5に目を通し基本ルールを確認する。	1.5h	打てない場所、打てる場所を理解する。インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5h
4	ルールの復習及び初歩技術（1）■	1,2	教科書 P97に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。	1.5h	基本的な3つの心得を理解する。	1.5h
5	ルールの復習及び初歩技術（2）■	1,2	教科書 第3章2に目を通し、石の取り方を確認する。	1.5h	取れている石、シチョウを理解する。	1.5h
6	問題演習■	1,2	教科書 第2章1〜2に目を通し基本的な考え方を理解する。	1.5h	地の数え方、石のつながりを理解する。	1.5h
7	技術の解説（1）■	1,2	教科書 P188〜199に目を通し終盤の考え方を確認する。	1.5h	19路盤の終盤の考え方を理解する。	1.5h
8	技術の解説（2）■	1,2	教科書 P173〜188に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5h	19路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5h
9	技術の解説（3）■	1,2	教科書 P158〜172に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5h	19路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	9子局の解説・連碁（対局）■	1,2	教科書 第5章1に目を通し9子局の打ち方を理解する。	1.5h	9子局の打ち方を理解する。	1.5h
11	技術の解説（4）■	1,2	教科書 P207～220に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5h	隅の死活を理解する。	1.5h
12	技術の解説（5）とペア碁■	1,2	教科書 第4章に目を通し、19路盤の考え方を理解する。	1.5h	19路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5h
13	問題演習■	1,2	教科書 第2章4に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5h	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5h
14	技術の解説（6）■	1,2	教科書 P259～267に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5h	19路盤の序盤～中盤の打ち方を理解する。	1.5h
15	イベント対局とまとめ■	1,2	教科書 第4章～5章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5h	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

●履修条件

- ・本講義は、囲碁を知らない状態から19路盤で最後まで打てるようになることが目標です。
- ・囲碁の未経験者や囲碁のルールを知らない者を強く求めます。

●その他、授業に関する事項

- ・第5回目の授業までは基本的なルールを学び復習します。欠席や遅刻などしないこと。
- ・使用教材（教科書）は、授業形態（オンラインや録画配信）への変更により使用しない場合があります。
- ・授業では毎回対局を行います。道具の準備や片づけも授業の一環であるため、積極的に関わること。
- ・PCや携帯端末で囲碁の対局ソフト（アプリ）を指示、使用する場合があります。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

英語IA

MYカモクに追加

英文名 : English IA

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL001

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Angela Marli Karsten Tsunoda

アンジェラ マルリ カルステン 角田

科目に関連した実務経験

Over 30 years of experience as an English language educator. Has taught from kindergarten to university students in Japan and abroad. 国内外で30年以上の英語指導経験（幼稚園から大学生まで）

履修を必須とする資格

Master degree in International Communication

国際コミュニケーション修士号

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1.Course Objectives

実施概要 講義の目標

- Improve self-confidence and accurateness in English skills (writing, reading, speaking, listening)

英語の4技能と自信の向上

- Gain experience in making use of technology while using English.

デバイスや機器を利用した英語学習

- Gain a better understanding of oneself and of human life & culture related topics, while relating these to the use

of English language.

自己理解、人間関係、文化といったトピックスについて英語を通じて学ぶ

•Practice of interactions and presentations in English

英語での相互作用とプレゼンテーションの練習

2. Implementation Method

講義の実施方法

•Target topics will be discussed in class. English sentences related to the topics will be practiced, while enhancing vocabulary, grammar and communication skills.

授業では、目標とするトピックについて話し合います。トピックに関連する英語の文章を練習しながら、語彙、文法、コミュニケーションスキルを強化します。

•Students will also work in groups while researching, discussing and creating presentations to share what they have learned with the rest of the class.

生徒はグループで作業しながら、リサーチ、ディスカッション、プレゼンテーションの作成を行い、学んだ内容をクラスの他の生徒と共有します。

到達目標

Attainment Target

1. Being able to understand English vocabulary related to daily life at university;

大学生活に関わる英語の語彙が理解できる。

2. Being able to engage in simple English conversation related to common daily topics;

日常的な話題に関連した簡単な英会話ができる

3. Being able to make effective use of online tools to improve English skills in general;

オンラインツールを効果的に活用して、英語力全般を向上させることができる。

4. Being able to perform short presentations in English while using classroom tools;

教室のツールを使用しながら英語で短いプレゼンテーションを行うことができる。

5. Being able to recognize and effectively write the parts of an English paragraph;

英語の段落の各部分を認識し、効果的に書くことができる。

6. Being able to express opinions in simple English;

簡単な英語で意見を述べることができる。

使用教材

ワークシートは教師から提供されます。教科書を購入する必要はありません。

参考文献

<https://www.allthingstopics.com>

<https://www.allthingsgrammar.com>

Reference book 参考書籍: ※購入の必要はありません。

Topic Talk – David Martin

(No need to buy books. Material will be provided by the instructor).

評価方法

15% - Participation in online questionnaires (アンケートへの参加)

40% - Group Assignments & Presentations (2 X) 月次レポートとプレゼンテーション (2X)

20% - Homework (大学の宿題)

25% - Final Report & Presentation (once in the end of the term)

最終レポート、プレゼンテーション (学期末1回)

課題・評価に対するフィードバック方法

Self-assessment 自己評価 and Peer assessmentピアアセスメント

Instructor's comments 教員によるコメント

Assignments/Final Report assessment 課題、最終レポート評価

オフィスアワー

Feel free to talk to the instructor every Tuesday, right after class.

毎週火曜日の授業終了後、インストラクターに気軽に相談してください。

メールアドレス (#→@)

Please use C-Learning - messages
C-Learning上（連絡・相談）を通して
詳細は授業で説明します。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	TALKING ABOUT MYS ELF 1	1,2, 3	Please read this syllabus carefully and send me any questions you may have. You can use C-learning ➡ messages for this. シラバスを読み、質問がある場合はC-learning（連絡・相談）から質問する。 Please take a look at C-learning using the English display (Change display) C-learningを英語表示で確認	1.5 h	Reread this syllabus. シラバスの再確認 Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please do your weekly homework 毎週宿題をしてください	1.5 h
2	TALKING ABOUT MYS ELF 2	1,2, 3, 5,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5 h
3	HUMAN RELATIONSHIPS 1	1,2, 3, 5,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる	1.5 h
4	HUMAN RELATIONSHIPS 2	1,2, 3, 5,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					現、文の復習 Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる	
5	FIRST ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日	4,5,6	First Assignment Deadline! Please send it to the instructor. 課題提出期限！（教員へWeb上の提出） Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み	1.5 h
6	INTERESTS 1	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取り組み Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5 h
7	INTERESTS 2	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取り組み Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5 h
8	INTERESTS 3	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取り組み	
9	MIDTERM ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日	1,2,3,6	MID-TERM Assignment Deadline! Please send it to the instructor. 課題提出期限！（教員へWeb上の提出） Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み	1.5 h
10	HEALTH AND WELL-BEING 1 /FINAL REPORT INSTRUCTIONS最後のレポートの指示	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework 宿題への取り組み Please review the instructions for the FINAL REPORT and start working on it 最終レポートについて内容確認し取り組み開始	1.5 h
11	HEALTH AND WELL-BEING 2	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取り組み	1.5 h
12	HEALTH AND WELL-BEING 3	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework 宿題への取り組み Please work on your FINAL REPORT	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					最終レポートへの取り組み	
13	OPINIONS & REFLECT IONS 1	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning (アンケート) より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning (教材倉庫) より、単語、表現、文の復習 Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取り組み	1.5 h
14	FINAL REPORT PRESENTATION DAY ファイナルレポートプレゼンテーションデー	1,2,3,4,6	FINAL REPORT Deadline! Please send it to the instructor. 最終レポート提出期限! (教員へWeb上の提出) Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning (アンケート) より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning (教材倉庫) より、単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5 h
15	OPINIONS & REFLECT IONS 3	1,2,3,4,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning (アンケート) より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning (教材倉庫) より、単語、表現、文の復習	1.5 h

合計時間 (予習・復習)

45h

印刷 

英語IB

MYカモクに追加

英文名：English IB

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL001

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

岡田 和子

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 日常的・社会的なトピックを扱ったテキストに触れ、大学生レベルの英文を読むために必要となる基礎的能力を身につける。

また、基礎的な英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。

② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 日常的・社会的な話題に関する基礎的な語彙を身につける。
2. 日常的・社会的な話題についての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を簡単な英語で表現できるようになる。

使用教材

Ambitions:Beginner 静 哲人他著、金星堂 2024

評価方法

平常点20%（予習・発表状況など）、定期試験80%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



課題、試験等の解説は授業中に行う。必要な場合は添削・コメントを付した後返却する。

オフィスアワー



火曜の4限まで。1号館1階の講師室

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ネットに潜む危険な罠(1)---slash readingによる直訳の実践と段落の理解	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する。	1h	SとVを見抜き、文章を意味の塊で分けて、前から読む練習を繰り返す。 English Reading の基本を理解する。	1h
2	ネットに潜む危険な罠(2)---練習問題	1,2,3	練習問題を解く	1h	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1h
3	マスクは病気予防のためだけではない(1)---slash readingによる直訳の実践と段落の理解	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する	1h	SとVを見抜き、文章を意味の塊で分けて、前から読む練習を繰り返す。 English Reading の基本を理解する。	1h
4	マスクは病気予防のためだけではない(2)---練習問題	1,2,3	練習問題を解く	1h	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する。	1h
5	育児休暇が取りやすい国は(1)---slash readingによる直訳の実践と段落の理解	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する	1h	SとVを見抜き、文章を意味の塊で分けて、前から読む練習を繰り返す。 English Reading の基本を理解する。	1h
6	育児休暇が取りやすい国は(2)---練習問題	1,2,3	練習問題を解く	1h	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する。	1h
7	セラピーアニマルは良き友達(1)---slash readingによる直訳の実践と段落の理解	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する	1h	SとVを見抜き、文章を意味の塊で分けて、前から読む練習を繰り返す。 English Reading の基本を理解する。	1h
8	セラピーアニマルは良き友達(2)---練習問題	1,2,3	練習問題を解く	1h	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1h
9	蜂がいなくなる？(1)---slash readingによる直訳の実践と段落の理解	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する	1h	SとVを見抜き、文章を意味の塊で分けて、前から読む練習を繰り返す。 English Reading の基本を理解する。	1h
10	蜂がいなくなる？(2)---練習問題	1,2,3	練習問題を解く	1h	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	YouTuberと広告収入(1)---slash readingによる直訳の実践と段落の理解	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する	1h	SとVを見抜き、文章を意味の塊で分けて、前から読む練習を繰り返す。 English Reading の基本を理解する。	1h
12	YouTuberと広告収入(2)---練習問題	1,2,3	練習問題を解く	1h	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1h
13	スマホの使用はほどほどに(1)---slash readingによる直訳の実践と段落の理解	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する	1h	SとVを見抜き、文章を意味の塊で分けて、前から読む練習を繰り返す。 English Reading の基本を理解する。	1h
14	スマホの使用はほどほどに(2)---練習問題	1,2,3	練習問題を解く	1h	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1h
15	日本の自転車にまつわる法律は厳しい？	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する	1h	English Reading の基本を理解する。 専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1h

合計時間（予習・復習）



30h

備考



欧米の文章に関する留意点：

1. まず出だしの部分を読むこと。

欧米の文章(passage)、特に論説文の書き方は、第1段落で〈何が言いたいのか〉を明言する、というやり方です。ですから、どんな長い文章でも、まず出だしの部分を読み、次に最後の結論部を読むと、大雑把な粗筋がわかります。

2. ～ing形、過去分詞の用法を見抜くこと。

この二つは、関係代名詞と同じような使われ方をします。前者は進行形とは限りません。また後者は、過去形と過去分詞が同形

の場合、過去分詞だと見抜けるか、が大切です。

3. 和訳する時、後ろから前に戻らないようにすること。

高校までは、関係代名詞があると、後ろから前に戻って読むのが普通です。しかし大学では、書かれている順番に前から流し読

み(slash reading)をしましょう。そうすることで、英語の順序で考えることができるようになります。

印刷



英語IC

MYカモクに追加

英文名 : English IC

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL001

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Louise Arai

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

②授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 情報医療を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。
2. 情報医療についての英語を読めるようになる。
3. 情報医療について英語で話せるようになる。

使用教材

Everything will be provided by the instructor

評価方法

Classroom participation and attitude 30%, Flipgrid videos 30%, Assignments 10%,
Final report 30%

課題・評価に対するフィードバック方法

Most results from videos, assignments and reports will be returned to students after marking.

オフィスアワー

授業の前後に対応する。

メールアドレス（#→@）

louisebarnett75@yahoo.co.nz

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English	1,2,3	Look at syllabus and make name cards	0.5 h	Self introductions and read Useful Classroom/online English	0.5 h
2	Learn how to write an email	1,2,3	Read handout	0.5 h	Send email to teacher	0.5 h
3	Meeting people and Flipgrid introduction	1,2,3	Read handout	0.5 h	Submit video on Flipgrid	0.5 h
4	Restaurant English and Movies	1,2,3	Read handout	0.5 h	Introduce your favorite movie	0.5 h
5	Talking about events and festivals	1,2,3	Prepare to talk about your favorite festival	0.5 h	Introduce your favorite festival	0.5 h
6	Food Culture and Cooking in English	1,2,3	Be ready to talk about your favorite recipe	0.5 h	Introduce a healthy recipe	0.5 h
7	Emergencies	1,2,3	Think about emergency kit	0.5 h	Prepare an emergency kit	0.5 h
8	Useful travel English	1,2,3	Read handout. Be ready to talk about the best place you have visited	0.5 h	Write about your favorite place	0.5 h
9	Talking about pets	1,2,3	Be ready to talk about your pet or your favorite animal	0.5 h	Review the benefits of having pets	0.5 h
10	Online Friends	1,2,3	Be ready to talk about if you prefer online or in person communication	0.5 h	Write about the benefits of both	0.5 h
11	Corona Virus and stress	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
12	A healthy lifestyle	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
13	Make a blog	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Prepare blog	0.5 h
14	Blog presentation	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Review blogs in groups	0.5 h
15	Communication activities	1,2,3	Prepare for fun!	0.5 h	Review the activities	0.5 h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



Syllabus may change a little.

印刷 

英語IIA

MYカモクに追加

英文名 : English IIA

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL002

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Louise Arai

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

②授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 情報医療を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。
2. 情報医療についての英語を読めるようになる。
3. 情報医療について英語で話せるようになる。

使用教材

Everything will be provided by the instructor

評価方法

Classroom participation and attitude 30%, Flipgrid videos 30%, Assignments 10%,
Final report 30%

課題・評価に対するフィードバック方法

Most results from videos, assignments and reports will be returned to students after marking.

オフィスアワー

授業の前後に対応する。

メールアドレス（#→@）

louisebarnett75@yahoo.co.nz

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English	1,2,3	Look at syllabus and make name cards	0.5 h	Self introductions and read Useful Classroom/online English	0.5 h
2	Learn how to write an email	1,2,3	Read handout	0.5 h	Send email to teacher	0.5 h
3	Meeting people and Flipgrid introduction	1,2,3	Read handout	0.5 h	Submit video on Flipgrid	0.5 h
4	Restaurant English and Movies	1,2,3	Read handout	0.5 h	Introduce your favorite movie	0.5 h
5	Talking about events and festival	1,2,3	Prepare to talk about your favorite festival	0.5 h	Introduce your favorite festival	0.5 h
6	Food Culture and Cooking in English	1,2,3	Be ready to talk about your favorite recipe	0.5 h	Introduce a healthy recipe	0.5 h
7	Emergencies	1,2,3	Think about emergency kit	0.5 h	Prepare an emergency kit	0.5 h
8	Useful travel English	1,2,3	Read handout. Be ready to talk about the best place you have visited	0.5 h	Write about your favorite place	0.5 h
9	Talking about pets	1,2,3	Be ready to talk about your pet or your favorite animal	0.5 h	Review the benefits of having pets	0.5 h
10	Online Friends	1,2,3	Be ready to talk about if you prefer online or in person communication	0.5 h	Write about the benefits of both	0.5 h
11	Corona Virus and stress	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
12	A healthy lifestyle	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
13	Make a blog	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Prepare blog	0.5 h
14	Blog presentation	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Review blogs in groups	0.5 h
15	Communication activities	1,2,3	Prepare for fun!	0.5 h	Review the activities	0.5 h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



Syllabus may change a little.

印刷 

英語IIB

MYカモクに追加

英文名 : English IIB

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL002

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Angela Marli Karsten Tsunoda

アンジェラ マルリ カルステン 角田

科目に関連した実務経験

Over 30 years of experience as an English language educator. Has taught from kindergarten to university students in Japan and abroad. 国内外で30年以上の英語指導経験（幼稚園から大学生まで）

履修を必須とする資格

Master degree in International Communicaton.

国際コミュニケーション修士号

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1.Course Objectives

実施概要 講義の目標

- Improve self-confidence and accurateness in English skills (writing, reading, speaking, listening)

英語の4技能と自信の向上

- Gain experience in making use of technology while using English.

デバイスや機器を利用した英語学習

- Gain a better understanding of oneself and of human life & culture related topics, while relating these to the use

of English language.

自己理解、人間関係、文化といったトピックスについて英語を通じて学ぶ

•Practice of interactions and presentations in English

英語での相互作用とプレゼンテーションの練習

2. Implementation Method

講義の実施方法

•Target topics will be discussed in class. English sentences related to the topics will be practiced, while enhancing vocabulary, grammar and communication skills.

授業では、目標とするトピックについて話し合います。トピックに関連する英語の文章を練習しながら、語彙、文法、コミュニケーションスキルを強化します。

•Students will also work in groups while researching, discussing and creating presentations to share what they have learned with the rest of the class.

生徒はグループで作業しながら、リサーチ、ディスカッション、プレゼンテーションの作成を行い、学んだ内容をクラスの他の生徒と共有します。

到達目標

Attainment Target

1. Being able to understand English vocabulary related to daily life at university; 大学生活に関わる英語の語彙が理解できる。

2. Being able to engage in simple English conversation related to common daily topics; 日常的な話題に関連した簡単な英会話ができる

3. Being able to make effective use of online tools to improve English skills in general; オンラインツールを効果的に活用して、英語力全般を向上させることができる。

4. Being able to perform short presentations in English while using classroom tools; 教室のツールを使用しながら英語で短いプレゼンテーションを行うことができる。

5. Being able to recognize and effectively write the parts of an English paragraph; 英語の段落の各部分を認識し、効果的に書くことができる。

6. Being able to express opinions in simple English; 簡単な英語で意見を述べることができる。

使用教材

ワークシートは教師から提供されます。教科書を購入する必要はありません。

参考文献

<https://www.allthingstopics.com>

<https://www.allthingsgrammar.com>

Reference book 参考書籍: ※購入の必要はありません。

Topic Talk – David Martin

(No need to buy books. Material will be provided by the instructor).

評価方法

15% - Participation in online questionnaires (アンケートへの参加)

40% - Group Assignments & Presentations (2 X) 月次レポートとプレゼンテーション (2X)

20% - Homework (大学の宿題)

25% - Final Report & Presentation (once in the end of the term)

最終レポート、プレゼンテーション (学期末1回)

課題・評価に対するフィードバック方法

Self-assessment 自己評価 / Peer assessmentピアアセスメント

Instructor's comments 教員によるコメント

Assignments/Final Report assessment 課題、最終レポート評価

オフィスアワー

Feel free to talk to the instructor every Tuesday, right after class.

毎週火曜日の授業終了後、インストラクターに気軽に相談してください。

メールアドレス (#→@)

Please use C-Learning - messages

C-Learning上（連絡・相談）を通して

More details will be provided on the first class. 詳細は初回授業時にお知らせします。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	TALKING ABOUT MYS ELF 1	1,2, 3	Please read this syllabus carefully and send me any questions you may have. You can use C-learning ➡ messages for this. シラバスを読み、質問がある場合はC-learning（連絡・相談）から質問する。 Please take a look at C-learning using the English display (Change display) C-learning上の英語ディスプレイを確認	1.5 h	Reread this syllabus. シラバスの再確認 Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please do your weekly homework 毎週宿題をしてください	1.5 h
2	TALKING ABOUT MYS ELF 2	1,2, 3, 5,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5 h
3	HUMAN RELATIONSHIPS 1	1,2, 3 5,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる	1.5 h
4	HUMAN RELATIONSHIPS 2	1,2, 3 5,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					現、文の復習 Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる	
5	FIRST ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日	4,5,6	First Assignment Deadline! Please send it to the instructor. 課題提出期限！（教員へWeb上の提出） Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み	1.5 h
6	INTERESTS 1	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取り組み Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5 h
7	INTERESTS 2	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取り組み Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5 h
8	INTERESTS 3	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取り組み	
9	MID-TERM ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日	1,2,3,6	MID-TERM Assignment Deadline! Please send it to the instructor. 課題提出期限！（教員へWeb上の提出） Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み	1.5 h
10	HEALTH AND WELL-BEING 1 /FINAL REPORT INSTRUCTIONS最後のレポートの指示	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework 宿題への取り組み Please review the instructions for the FINAL REPORT and start working on it 最終レポートについて内容確認し取り組み開始	1.5 h
11	HEALTH AND WELL-BEING 2	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取り組み	1.5 h
12	HEALTH AND WELL-BEING 3	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning（アンケート）より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning（教材倉庫）より、単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework 宿題への取り組み Please work on your FINAL REPORT	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					最終レポートへの取組み	
13	OPINIONS & REFLECT IONS 1	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning (アンケート) より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning (教材倉庫) より、単語、表現、文の復習 Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取組み	1.5 h
14	FINAL REPORT PRESENTATION DAY ファイナルレポートプレゼンテーションデー	1,2,3,4,6	FINAL REPORT Deadline! Please send it to the instructor. 最終レポート提出期限! (教員へWeb上の提出) Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning (アンケート) より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning (教材倉庫) より、単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework. 宿題への取組み	1.5 h
15	OPINIONS & REFLECT IONS 3	1,2,3,4,6	Please answer the weekly questionnaire (go to C-learning ➡ questionnaire) C-learning (アンケート) より、アンケート回答	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") C-learning (教材倉庫) より、単語、表現、文の復習	1.5 h

合計時間 (予習・復習)

45h

印刷 

英語IIC

MYカモクに追加

英文名：English IIC

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL002

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松田 幸子

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 日常的・社会的なトピックを扱ったテキストに触れ、大学生レベルの英文を読むために必要となる基礎的能力を身につける。また、基礎的な英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 日常的・社会的な話題に関する基礎的な語彙を身につける。
2. 日常的・社会的な話題についての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を表現できるようになる。

使用教材

静哲人他『AMBITIONS Beginner』（金星堂、2021年）

評価方法

期末試験 60% 平常点 40%（授業への参加度、課題、小テストなど）の総合評価とする。



15h

備考



辞書とテキストを必ず持参すること。

印刷 

英語IIIA

MYカモクに追加

英文名：English IIIA

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL003

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

柳澤順一

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッシ ョン、ディバ ート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 日常的・社会的なトピックを扱ったテキストに触れ、大学生レベルの英文を読むために必要となる基礎的能力を身につける。また、基礎的な英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 日常的・社会的な話題に関する基礎的な語彙を身につける。
2. 日常的・社会的な話題についての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を簡単な英語で表現できるようになる。

使用教材

Ambitions-Elementary, VELC Materials development Group (Shizuka, Mochizuki & Kumazawa), Kinseido (2021)i

評価方法

平常点50%（受講態度、小テスト、課題の提出状況など）、定期試験50%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートは評価またはショートコメントを付した後返却する（学期末課題については返却しないことがある）。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

jyanagisawa555@gmail.com

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction, vocabulary quiz, DVD-watching with Q&A (1)	1,2,3	No preparations needed	0h	Review of the vocabulary quiz, working on exercises with the DVD scene	1.0h
2	Unit 1 Cross-cultural understanding, DVD-watching with Q&A (2)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, writing your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0h
3	Unit 2 Foods, DVD-watching with Q&A (3)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, writing your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0h
4	Unit 3 Foreign language learning, DVD-watching with Q&A (4)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, writing your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0h
5	Unit 4 Sports, DVD-watching with Q&A (5)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, writing your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0h
6	Unit 5 Fashion, DVD-watching with Q&A (6)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, writing your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0h
7	Unit 6 Living things, DVD-watching with Q&A (7)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, writing your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0h
8	The Mini Test, DVD-watching with Q&A (8)	1,2,3	Preparing for the Mini Test	1.0h	Review of the Mini Test, working on exercises with the DVD scene	1.0h
9	Unit 7 Art, DVD-watching with Q&A (9)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, writing your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0h
10	Unit 8 Global issues, DVD-watching with Q&A (10)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, writing your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0h
11	Unit 9 Japanese culture, DVD-watching with Q&A (11)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, writing your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0h
12	Unit 10 Human rights, DVD-watching with Q&A (12)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, writing your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0h
13	Unit 11 Health & medical issues, DVD-watching with Q&A (13)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, writing your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0h
14	Unit 12 Environmental issues, DVD-watching with Q&A (14)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, writing your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	With Q&A (14)		o the sound file		tences in 'Say What You Think'	
15	Review of all the units (Units 1-12)	1,2,3	Scanning all of the dialog scripts and the essays	1.0 h	Preparing for the final exam	2.0 h

合計時間（予習・復習）

30h

↑

印刷 

英語IIIB

MYカモクに追加

英文名 : English IIIB

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL003

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

山田HAY美由紀

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目 : 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○	○		○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

英語会話で必要なアクティブラーニングに使える単語や文を指導する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この講義では、教育の現場において必要とされるコミュニケーション能力を英語をツールとして習得する。各自が自分の考えを持って英語で意見交換できる課題、コミュニケーションを必要とするグループ活動課題等を通し、日常英語の語彙、リスニング能力、英語表現力、プレゼンテーションの基本を身につける。また、専門用語に使用される英語についての理解、発音、使用例などに触れる。時事問題について時勢に沿ったテーマを取り上げる時間も設ける。講義は学生の既習内容を考慮した上、英語で行う。質問、疑問、意見等はその都度か講義後に発言すること。質問や意見は、積極的な参加態度、自己表現として奨励し評価の対象となる。グループ課題終了後、自己評価・講義に対する評価用紙に意見を記入することもできる。

到達目標

- 1. 英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。
- 2. コミュニケーションに必要な英語表現を学び、日常的に実践できる。
- 3. 協力して課題を解決していくことにより、互いの能力を認め合い、個人を尊重する姿勢を身につける。

使用教材

^

課題により印刷教材を配布する。

評価方法

^

講義は実技中心のため、時間内のコミュニケーション状況 (30%)、課題発表 (50%)、講義への参加 (20%)を評価する。個人課題は、内容を講義の始めに毎回評価する。ペア、グループ課題は講義内での実践中、各人の英語によるコミュニケーションの様子を評価する。コミュニケーションのためのキープフレーズを毎時紹介するので、記録して課題実践中に使うことが期待される。講義内外でのコミュニケーション（参加度）も評価の対象となる。自己評価用紙の記入は行うが、筆記試験による評価は行わない。講義に参加することが評価の対象になるので、欠席は3日を超えないよう留意すること。超える場合は要相談。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

実技実施中、グループ課題発表後に口頭にてフィードバックする。

オフィスアワー

^

授業の前後で対応する。C-Learningを欠席理由報告、講義や課題に対する質問などに活用してもらいたい。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義内容、出欠、評価の概要について理解する。個人活動。	1,2,3	英語に触れる機会を増やすための個人課題を出すので、受講期間中続けること。	0.5h	コミュニケーションのためのキープフレーズを練習する。	0.5h
2	個人課題について発表し教員評価を受ける。簡単なグループ活動と発表。ペア活動の紹介と実践。	1,2,3	個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキープフレーズを練習する。	0.5h
3	個人課題について発表し教員評価を受ける。ペア活動。グループ課題1の紹介。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキープフレーズを練習する。	0.5h
4	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題1について理解する。専門用語・時事問題等	1,2,3	個人課題を修正しながら続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキープフレーズを練習する。	0.5h
5	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題1の実践。専門用語・時事問題等	1,2,3	個人課題を修正しながら続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキープフレーズを練習する。	0.5h
6	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の実践。専門用語・時事問題等	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキープフレーズを練習する。	0.5h
7	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の実践。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1のリハーサル。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。	0.5h
9	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の発表。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキープレーズを練習する。	0.5h
10	発表について教員から口頭評価。自己評価・講義に対する評価（印刷物配布）。グループ課題2の説明	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキープレーズを練習する。	0.5h
11	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の内容構成。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキープレーズを練習する。	0.5h
12	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の内容構成。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキープレーズを練習する。	0.5h
13	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の練習。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキープレーズを練習する。	0.5h
14	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2のリハーサル。	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5h	グループ課題2の練習をしておく。	0.5h
15	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題の発表。口頭で評価。自己評価・講義に対する評価の記入（印刷物配布）。	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキープレーズを練習する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

- ・講義内で電子辞書またはスマートフォンによる辞書検索を行うので持参すること。検索以外の使用については学生として品位のある態度で取り扱うこと。
- ・コミュニケーションのためのフレーズを毎回紹介するので、記録して講義中に使用すること。記録用媒体はノート、スマートフォンなど個人で選択する。

印刷 

英語IIIC

MYカモクに追加

英文名 : English IIIC

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL003

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 栄作

科目に関連した実務経験

他大学に教授として勤務(現在)

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○		○		○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

医療情報・健康に関する英語表現に親しみ、専門的な内容を扱った基礎的なレベルの英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。

②講義の実施方法

授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 医療情報・健康に関する基礎的な語彙を身につける。
2. 医療情報・健康についての英文を読解できるようになる。

3. 読解したことについて、自分の考えや意見を表現できるようになる。

使用教材

Better Health for Every Day 西原俊明他 (2014) 金星堂

参考文献

授業内で紹介する。

評価方法

向上的変化 10%、 平常点 (確認テスト、提出物、出席状況など)50%、定期試験40%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

質問などはリアクションペーパーで確認する。確認テストなどは採点后返却する。

オフィスアワー

授業終了後

メールアドレス (#→@)

eisaku#tcue.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction、Warm-up Activity	1, 2, 3	教科書のはしがき、Contents などを読む。	0.45 h	Warm-up Activity の内容を理解する。	0.3 h
2	Unit 1 Fuel Your Body and Mind	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h
3	Unit 2 What Helps keep a Doctor Away?	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h
4	Unit 3 Laughing Will Save You from Going Crazy	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h
5	Unit 4 The French Paradox	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h
6	Unit 5 Americans' Interest in Sushi	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h
7	Unit 6 Don't Stay Away from Natto	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h
8	Unit 7 Acute Alcohol Intoxication Can Kill You	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h
9	Unit 8 Is Snoring a Bad Sign?	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h
10	Unit 9 Getting a Good Night's Sleep is a Challenge	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	Unit 10 Chocolate and its Magical Power	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h
12	Unit 11 The Health Risks of Eating Processed Food	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h
13	Unit 12 Is Genetically Modified Food Safe Enough?	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h
14	Unit 13 Environmental Health Threats	1, 2, 3	学習するUnitの課題に取り組み、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h
15	これまで学習したすべてのUnitの振り返り	1, 2, 3	これまで学習したUnitについて、疑問点などを明らかにする。	0.45 h	ノートで今時の内容を確認する。	0.3 h

合計時間（予習・復習）



11.25

印刷



英語IVA

MYカモクに追加

英文名：English IVA

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL004

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

岡田和子

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 医療情報・健康に関する英語表現に親しみ、専門的な内容を扱った基礎的なレベルの英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 医療情報・健康に関する語彙を身につける。
2. 医療情報・健康についての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を簡単な英語で表現できるようになる。

使用教材

Good Health, Better Life. 西原俊明他著、金星堂、2022（第7版）

評価方法

平常点20%（予習・発表状況など）、定期試験80%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題、試験等の解説は授業中に行う。必要な場合は添削・コメントを付した後返却する。

オフィスアワー

^

火曜の4限まで。1号館1階の講師室

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	虫刺されにご用心(1)---<introduction><body><conclusion>の理解とslash readingによる直訳の実践	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する。	1h	slash readingと文法を意識して、直訳を見直す。	1h
2	虫刺されにご用心(2)---段落の理解と要約の作成	1,2,3	slash readingと文法を意識して、直訳を見直す。	1h	各段落の出だしの部分を抜き出して要約を作成するやり方を確認する。 English Writing の基本を理解する。	1h
3	虫刺されにご用心(3)---練習問題	1,2,3	練習問題を解く	1h	専門用語と重要表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する。	1h
4	綺麗な海に潜む危険(1)---<introduction><body><conclusion>の理解とslash readingによる直訳の実践	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する。	1h	slash readingと文法を意識して、直訳を見直す。	1h
5	綺麗な海に潜む危険(2)---段落の理解と要約の作成	1,2,3	slash readingと文法を意識して、直訳を見直す。	1h	各段落の出だしの部分を抜き出して要約を作成するやり方を確認する。 English Writing の基本を理解する。	1h
6	綺麗な海に潜む危険(3)---練習問題	1,2,3	練習問題を解く	1h	専門用語と重要表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する。	1h
7	カフェイン依存の生活の問題(1)---<introduction><body><conclusion>の理解とslash readingによる直訳の実践	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する。	1h	lash readingと文法を意識して、直訳を見直す。	1h
8	カフェイン依存の生活の問題(2)---段落の理解と要約の作成	1,2,3	slash readingと文法を意識して、直訳を見直す。	1h	各段落の出だしの部分を抜き出して要約を作成するやり方を確認する。 English Writing の基本を理解する。	1h
9	カフェイン依存の生活の問題(3)---練習問題	1,2,3	練習問題を解く	1h	専門用語と重要表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	潔癖症っていいことづくめ？(1)	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する。	1h	lash readingと文法を意識して、直訳を見直す。	1h
11	潔癖症っていいことづくめ？(2)	1,2,3	slash readingと文法を意識して、直訳を見直す。	1h	各段落の出だしの部分を抜き出して要約を作成するやり方を確認する。 English Writing の基本を理解する。	1h
12	潔癖症っていいことづくめ？(3)	1,2,3	練習問題を解く	1h	専門用語と重要表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する。	1h
13	ロボペットと本物のペット、どちらを選ぶ？(1)	1,2,3	テキストを読んで内容を理解する。	1h	lash readingと文法を意識して、直訳を見直す。	1h
14	ロボペットと本物のペット、どちらを選ぶ？(2)	1,2,3	slash readingと文法を意識して、直訳を見直す。	1h	各段落の出だしの部分を抜き出して要約を作成するやり方を確認する。 English Writing の基本を理解する。	1h
15	ロボペットと本物のペット、どちらを選ぶ？(3)	1,2,3	練習問題を解く	1h	専門用語と重要表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する。	1h

合計時間（予習・復習）



30h

備考



欧米の文章に関する留意点：

1. まず出だしの部分を読むこと。

欧米の文章(passage)、特に論説文の書き方は、第1段落で＜何が言いたいか＞を明言する、というやり方です。ですから、どん

な長い文章でも、まず出だしの部分を読み、次に最後の結論部を読めば、大雑把な粗筋がわかります。

2. 段落(paragraph)に注意すること。

段落は、欧米語の文章の基本です。その段落のテーマ(topic)は、段落の始めの部分に書かれています。よって、1.と2.を合わ

せることで、要約(summary)を作ることができます。

3. 和訳する時、後ろから前に戻らないようにすること。

高校までは、関係代名詞があると、後ろから前に戻って読むのが普通です。しかし大学では、書かれている順番に前から流し読

み(slash reading)をしましょう。そうすることで、英語の順序で考えることができるようになります。

印刷 

英語IVB

MYカモクに追加

英文名 : English IVB

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAB004

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

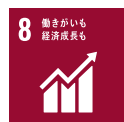
担当教員

鈴木 文也

科目に関連した実務経験

英語教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 医療情報・健康に関する英語表現に親しみ、専門的な内容を扱った基礎的なレベルの英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

- 医療情報・健康に関する基礎的な語彙を身につける。
- 医療情報・健康についての英文を読解できるようになる。
- 読解したことについて、自分の考えや意見を表現できるようになる。

使用教材

Better Health for Every Day 毎日の健康に学ぶ大学総合英語、金星堂、2014、2,000円＋税

参考文献

参考となる文献はその都度紹介する。

評価方法

授業参加（10%）、単語テスト（30%）、試験（60%）等から総合的に評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

単語テストは採点の後返却する。

オフィスアワー

火曜日2限、木曜日2限
(9号館306研究室)

メールアドレス（#→@）

suzuki-b#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Guidance	1,2,3	シラバスを読んで学習内容を把握する	0.5h	講義の目標、学位授与方針、評価方法などを確認する。	0.5h
2	Unit 1 Fuel Your Body and Mind	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h
3	Unit 2 What Helps Keep a Doctor Away?	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h
4	Unit 3 Laughing Will Save You from Going Crazy	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h
5	Unit 4 The French Paradox	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h
6	Unit 5 Americans' Interest in Sushi	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h
7	Unit 6 Don't Stay Away from Natto	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h
8	Unit 7 Acute Alcohol Intoxication Can Kill You	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h
9	Unit 8 Is Snoring a Bad Sign?	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h
10	Unit 9 Getting a Good Night's Sleep is a Challenge	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	Unit 10 Chocolate and its Magical Power	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h
12	Unit 11 The Health Risks of Eating Processed Food	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h
13	Unit 12 Is Genetically Modified Food Safe Enough?	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h
14	Unit 13 Environmental Health Threats	1,2,3	Vocabulary Studyの問題を解いてくる。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h
15	Review	1,2,3	14回目の講義の際に指示をする。	0.5h	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



質問はメールでも受け付ける。授業は、アクティブ・ラーニングの方法を用いて行うので、授業外学修（ワークシートに基づいた予習・復習）を丁寧にやること。また、授業でのペア・グループ・全体での発表などの活動では、積極的に参加することが望まれる。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



英語IVC

MYカモクに追加

英文名 : English IVC

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL004

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

山田 HAY 美由紀

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ バート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○		○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

英語会話に必要なアクティブラーニングに使える単語や文を指導する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①この講義では、英語をツールとして、情報医療の現場において必要とされるコミュニケーション能力を習得する。各自が自分の考えを持って英語で意見交換できる課題、コミュニケーションを必要とするグループ活動課題等を通し、日常英語の語彙、リスニング能力、英語表現力、プレゼンテーション能力を身につける。また、専門用語に使用される英語についての理解、発音、使用例などに触れる。時事問題について時勢に沿ったテーマを取り上げる時間も設ける。

②講義は学生の既習内容を考慮した上、英語で行う。質問、疑問、意見等はその都度か講義後に発言すること。質問や意見は、積極的な参加態度、自己表現として奨励し評価の対象となる。グループ課題終了後、自己評価・講義に対する評価用紙に意見を記入することもある。

到達目標

- 1.英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。
- 2.コミュニケーションに必要な英語表現を学び、日常的に実践できる。
- 3.協力して課題を解決していくことにより、互いの能力を認め合い、個人を尊重する姿勢を身につける。

使用教材

課題により印刷教材を配布する。

評価方法

講義は実技中心のため、時間内のコミュニケーション状況（30%）、課題発表（50%）、講義への参加（20%）を評価する。個人課題は、講義の始めに毎回評価する。ペア、グループ課題は講義内での実践中、各人の英語によるコミュニケーションの様子を評価する。コミュニケーションのためのキープレーズを毎時紹介するので、記録して課題実践中に使うことが期待される。講義内外でのコミュニケーション（参加度）も評価の対象となる。自己評価用紙の記入は行うが、筆記試験による評価は実施しない。講義に参加することが評価の対象になるので、欠席は3日を超えないよう留意すること。超える場合は要相談。

課題・評価に対するフィードバック方法

実技実施中、グループ課題発表後に口頭にてフィードバックする。

オフィスアワー

授業の前後に対応する。C-Learningを欠席理由報告、講義や課題に対する質問などに活用してもらいたい。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義内容、出欠、評価の概要について理解する。個人活動。	1,2,3	英語に触れる機会を増やすための個人課題を出すので、受講期間中続けること。	0.5h	コミュニケーションのためのキープレーズを練習する。	0.5h
2	個人課題について発表し教員評価を受ける。簡単なグループ活動と発表。ペア活動の紹介と実践。	1,2,3	個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキープレーズを練習する。	0.5h
3	個人課題について発表し教員評価を受ける。ペア活動。グループ課題1の紹介。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキープレーズを練習する。	0.5h
4	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題1について理解する。専門用語・時事問題等	1,2,3	個人課題を修正しながら続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキープレーズを練習する。	0.5h
5	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題1の実践。専門用語・時事問題等	1,2,3	個人課題を修正しながら続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキープレーズを練習する。	0.5h
6	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の実践。専門用語・時事問題等	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキープレーズを練習する。	0.5h
7	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の実践。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。	0.5h
8	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1のリハーサル。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の発表。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
10	発表について教員から口頭評価。自己評価・講義に対する評価（印刷物配布）。グループ課題2の説明	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
11	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の内容構成。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
12	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の内容構成。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
13	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の練習。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
14	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2のリハーサル。	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
15	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題の発表。口頭で評価。自己評価・講義に対する評価の記入（印刷物配布）。	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

- ・講義内で電子辞書またはスマートフォンによる辞書検索を行うので持参すること。検索以外の使用については学生として品位のある態度で取り扱うこと。
- ・コミュニケーションのためのフレーズを毎回紹介するので、記録して講義中に使用すること。記録用媒体はノート、スマートフォンなど個人で選択する。

印刷



Integrated English I

MYカモクに追加

英文名 : Integrated English I

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL005

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Tarn, Christopher

ターン・クリストファー

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○		○			○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ケーススタディ：福祉分野のシナリオを英語で分析する。

ロールプレイ：面接や紛争解決など、現実的な状況を練習する。

フィードバックセッション：コミュニケーションスキルの改善に向けた振り返りを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1. 学生がコミュニケーション能力を向上させ、感情知能（EQ）、異文化理解、実践的な英語の応用力を身につけることを目的としています。基礎的スキル、英語力、リーダーシップの開発を統合し、学生が多様な個人、学術、職業的な場面で自信を持って効果的にコミュニケーションできるよう準備します。

2. グループディスカッション、ケーススタディ、プレゼンテーション、ロールプレイを中心としたアクティブラーニング

到達目標

1. コミュニケーションの概念、自分自身の理解、マインドフルネスについて理解できる。

2. 異文化における言語および非言語的コミュニケーションの違いを理解できる。

3. 共感、ストレス管理、アサーティブネス、アクティブラーニングを活用できる。

4.リーダーシップのためのコミュニケーション能力を身につけ、効果的にソーシャルメディアとオンラインコミュニケーションを活用できる。

使用教材 ^

授業中に配布されるハンドアウトおよびデジタルリソース

評価方法 ^

- 1.授業参加: 30%
- 2.グループワークとプレゼンテーション: 40%
- 3.最終発表と振り返り: 30%

オフィスアワー ^

C-Learning + mail

メールアドレス（#→@） ^

tarn#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コミュニケーションとは何か？ ・コミュニケーションの定義（内的、外的、言語的、非言語的）。 ・現在のコミュニケーション習慣の自己評価。 ・コミュニケーションにおける文化的影響（日本の文脈）を探る。	1	コミュニケーションに関する自身の考えや経験を事前に整理する。	1.0 h	授業で提示されたコミュニケーションの定義や文化的影響の具体例をまとめる。	0.5 h
2	EQ（感情知能）と自己認識 ・感情知能（EQ）の導入。 ・自分の感情を認識し、理解する。 ・コミュニケーションにおける感情を管理するための戦略を学ぶ。	1,3	感情知能（EQ）に関する基本的な知識を事前に調査する。	1.0 h	自身の感情認識と管理の傾向について分析し、授業で学んだ戦略を適用する方法を考える。	0.5 h
3	マインドフルネスと内的対話 ・自己認識を高めるためのマインドフルネスを実践する。 ・否定的な自己対話を認識し、再構築する。 ・コミュニケーション経験を振り返るジャーナリングを行う。	1	自己認識を高めるためのマインドフルネスの実践方法を調べ、簡単なエクササイズを試みる。	1.0 h	授業で行ったマインドフルネスの体験を振り返り、自己対話のパターンに気づいた点を記録する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	コミュニケーションのための基本的な英語 ・日常の挨拶、自己紹介、質問を練習する。 ・発音とスピーキングの流暢さに焦点を当てる。 ・簡単なロールプレイシナリオを取り入れる。	1	基本的な英語の挨拶、自己紹介、質問の表現を練習する。	1.0 h	授業で学んだ発音や流暢さのポイントを意識しながら、自己紹介などのロールプレイを再度行う。	0.5 h
5	異文化における非言語コミュニケーション ・ジェスチャー、ボディランゲージ、表情を解読する。 ・日本と他文化の非言語的手がかりの違いを比較する。 ・感情を当てようなどのアクティビティを通じて練習する。	2	日本と異なる文化における非言語コミュニケーションの例をいくつか調査する。	1.0 h	授業で扱われた非言語的手がかりの違いを整理し、感情を当てるアクティビティでの気づきを考察する。	0.5 h
6	コミュニケーションスタイルと適応 ・直接的スタイルと間接的スタイル、形式性、礼儀正しさを探る。 ・対象者や状況に応じたコミュニケーションを調整する戦略を学ぶ。 ・異なるコミュニケーションスタイルのシナリオを用いたロールプレイを行う。	2	直接的および間接的なコミュニケーションスタイルについて考え、自身がどちらの傾向があるか分析する。	1.0 h	異なるコミュニケーションスタイルのロールプレイを振り返り、状況に応じたコミュニケーションの調整方法を検討する。	0.5 h
7	コミュニケーション障壁の克服 ・日本人学習者が直面する英語コミュニケーションの課題を特定する。 ・誤解や言語的な困難に対処する方法を学ぶ。 ・翻訳ツールや技術を利用してコミュニケーションを支援する。	2	自身が英語コミュニケーションで課題を感じる点を具体的な場면을想定して考える。	1.0 h	授業で学んだ課題への対処法や翻訳ツールの活用方法を、具体的な場면을想定して試す。	0.5 h
8	感情スキルと社会的コミュニケーション ●第2回で学んだ共感とアクティブリスニングを再確認する。	1,3	共感とアクティブリスニングが重要となる具体的な場면을想像する。	1.0 h	共感とアクティブリスニングを意識した会話を実践し、相手の反応や自身の気づきを記録する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	- 社会的なコミュニケーションにおけるストレス管理を学ぶ。 - 共感を実践するロールプレイとアクティブライスニングの練習を行う。					
9	実践的かつアサーティブなコミュニケーション - コミュニケーションの課題に対してクリティカルシンキングを応用する。 - アサーティブネス（要求を伝える、ニーズを表現する、境界を設定する）を練習する。 - 自信を高めるための言葉によるセルフディフェンスを探る。	1,3	アサーティブなコミュニケーションの具体的な表現例を調べ、練習する。	1.0 h	授業で行ったアサーティブネスのロールプレイを振り返り、より効果的な自己表現のための改善点を明確にする。	0.5 h
10	リーダーシップのためのコミュニケーション - 説得力のある技術と明確な指示の出し方を学ぶ。 - リーダーシップの「声」を発展させる。 - グループディスカッションをリードする練習を行う。	1,4	効果的なリーダーシップを発揮するためのコミュニケーション要素を考察する。	1.0 h	グループディスカッションをリードする練習を行い、参加者からのフィードバックを分析する。	0.5 h
11	ソーシャルメディアコミュニケーション - 英語で効果的なソーシャルメディア投稿を作成する方法を学ぶ。 - オンラインのエチケットと自分をポジティブに表現する方法を議論する。 - グループプロジェクトでシンプルなソーシャルメディアキャンペーンを作成する。	4	英語での効果的なソーシャルメディア投稿の例をいくつか分析し、自身の投稿のアイデアを考える。	1.0 h	授業で作成したソーシャルメディアキャンペーンの内容を改善するためのアイデアを考える。	0.5 h
12	プレゼンテーションと振り返り - 学んだコミュニケーションスキルを活用して短いプレゼンテーションを行う。 - コース全体の学習成	1,3,4	これまでの授業で学んだコミュニケーションスキルをどのように活用するかを具体的に考え、プレゼンテーションの構成を計画し、発表練習の準備をする。	1.0 h	自身のプレゼンテーションを振り返り、改善点と今後の学習目標を定める。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	果を振り返る。 ・実生活でのスキル活用について議論する。					
1 3	交渉と紛争解決 ・個人と職業的なコミュニケーションのための交渉戦略を学ぶ。 ・ロールプレイを通じて紛争解決技術を練習する。 ・紛争解決における文化的な違いを議論する。	2,3, 4	個人と職業的なコミュニケーションにおける交渉や紛争解決の基本的な戦略を調べる。	1.0 h	ロールプレイで行った交渉や紛争解決の場面を分析し、学んだ戦略がどのように適用できたか考察する。	0.5 h
1 4	協力的コミュニケーションとチームワーク ・効果的なコミュニケーションにおけるチームワークの重要性を探る。 ・グループ問題解決タスクなどの協力的な活動を実践する。 ・建設的なフィードバックの提供と受け取り方を学ぶ。	3,4	効果的なチームワークに貢献するために必要なコミュニケーションスキルを考える。	1.0 h	グループワークでの自身の役割とコミュニケーションを振り返り、建設的なフィードバックの提供と受け取り方について考察する。	0.5 h
1 5	実世界応用とキャリアコミュニケーション ・職場コミュニケーション技術（例：Eメールの書き方、ブリーフィングの実施）を学ぶ。 ・就職面接やキャリアに関する議論での英語コミュニケーションを練習する。 ・コミュニケーションスキルがキャリアの成功をサポートする方法を議論する。	3,4	職場やキャリアに関する英語コミュニケーションの具体的な場面（メール、面接など）を想定し、必要な表現やスキルを調べる。	1.0 h	模擬面接やキャリアに関する議論を振り返り、今後の学習課題を明確にする。	0.5 h

合計時間（予習・復習）

22.5h

印刷 

Integrated English II

MYカモクに追加

英文名：Integrated English II

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL006

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

6 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋栄作

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○								○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

英語の基礎文法事項を整理し、語彙力をつけながらTOEIC®テスト受験に必要とされる基礎的な英語力養成を目指す。

②講義の実施方法

TOEIC®テスト形式の問題演習を中心に、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。練習問題の音声をリピートしたり、スクリプトを音読したり、耳に英語が入った瞬間に理解できるようにインプットする。リーディングでは正解不正解の確認だけでなく、解答の根拠を理解し、応用可能な解法を身につける。

到達目標

1. TOEIC®テストの形式と内容を理解できる。
2. 語彙力が身につく。
3. 文法事項を理解できる。
4. リスニング力が身につく。
5. リーディング力が身につく。

使用教材

Ayako Yokogawa and Tony Cook. (2016). Level-up Trainer for the TOEIC® TEST. 東京：センゲージラーニング.

参考文献

授業内で紹介する。

評価方法

授業への参加度、発表、課題（40%）、期末試験（60%）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題は返却して解説する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

eisaku#tcue.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・TOEICテストとは Pre-test	1, 2, 3, 4, 5	教科書の「はじめに」「目次」「本書の使い方」「シラバス」などの内容を読んで、講義の目標などを理解する。	0.4 5 h	Pre-testの誤りを復習する。	0.3 h
2	Unit 1: テスト形式を知る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 1 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
3	Unit 2: 基本戦略 ①	1, 2, 3, 4, 5	Unit 2 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
4	Unit 3: 基本戦略 ②	1, 2, 3, 4, 5	Unit 3 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
5	Unit 4: 英文の基本構造を見抜く	1, 2, 3, 4, 5	Unit 4 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
6	Unit 5: 解答根拠の登場順	1, 2, 3, 4, 5	Unit 5 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
7	Unit 6: 正解の言い換えパターンを知る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 6 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて	0.3 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					練習問題に回答する。	
8	Units 1-6のまとめ	1, 2, 3, 4, 5	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	0.4 5 h	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.3 h
9	Unit 7: 機能疑問文を聞き取る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 7 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
10	Unit 8: 動詞の時制を見極める	1, 2, 3, 4, 5	Unit 8 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
11	Unit 9: 接続詞 v s. 前置詞	1, 2, 3, 4, 5	Unit 9 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
12	Unit 10: 複数パッセージ問題の攻略	1, 2, 3, 4, 5	Unit 10 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
13	Unit 11: 接続副詞に強くなる	1, 2, 3, 4, 5	Unit 11 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
14	Unit 12: NOT型設問のコツ	1, 2, 3, 4, 5	Unit 12 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
15	まとめ Post-test	1, 2, 3, 4, 5	Post-testの問題を解く。	0.4 5 h	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.3 h

合計時間（予習・復習）

11.25 h

備考

予習をして授業に出席してください。
テキストは新しいものを購入してください。

印刷 

ドイツ語

MYカモクに追加

英文名 : German

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL007

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①ドイツの文化や取り組み、また基礎的な文法を知ることを通じて、多様な価値観への関心を深め、日本の文化と比較することで、自己理解の参照項とする。

②C-Learning「教材倉庫」に公開する資料などを用いて講義を実施する。文化などに関しては、学生による調査やそれにもとづいたディスカッションを組み込みながら行う。語学の部分に関しては、ドイツ語でのコミュニケーションに最低限必要な文法や挨拶などの定型表現を練習する。毎回、C-Learningの「ドリル」「小テスト」で知識の定着を図る。

到達目標

1. ドイツの文化や現代の取り組みを知り、自らと比較し、意見を述べることができる。
2. ドイツ語の初級文法を用いて挨拶や平易な表現をすることができる。

使用教材

C-Learning「教材倉庫」に予習・復習資料を公開する。

評価方法

授業への参加態度（資料の閲覧、ドリル・アンケートの実施状況など）・・・30%
小テストなどの課題、確認テスト・・・70%

課題・評価に対するフィードバック方法

C-Learning「ドリル」「小テスト」「アンケート」などに対して解説、コメントを行う。

オフィスアワー

1号館511研究室
面談希望の場合はC-Learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

メールアドレス（#→@）

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンスー日本とドイツ、 外来語としてのドイツ語とその アルファベットー	1,2	シラバスを読み講義内容を 理解する。教材倉庫の予習 用資料に目を通しておく	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 外来語としてのドイツ語 について調べてみる。	1.5 h
2	母音の発音①、あいさつ ドイツ人の精神における 「森」	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 ドイツの森林について調 べてみる	1.5 h
3	母音の発音②、お店での注文 ドイツの食事、料理	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 ドイツの料理について調 べてみる。	1.5 h
4	子音の発音① 首都ベルリン、ユダヤ人慰霊 碑、ベルリンの壁	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 現代ドイツが直面した歴 史について調べてみる。	1.5 h
5	子音の発音② オクトーバーフェスト	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 オクトーバーフェストと 日本のイベントについて 調べてみる。	1.5 h
6	子音の発音③ 第三の都市ミュンヘン	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 ミュンヘンについて調 べてみる。	1.5 h
7	ドイツ語の文の作り方（一般 動詞①） 第二の都市ハンブルク	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 ハンブルクについて調べ てみる。	1.5 h
8	ドイツ語の文の作り方（一般 動詞②） ドイツの気候・住居	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 ドイツの住居について調 べてみる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	ドイツ語の文の作り方 (haben) ドイツの城・宮殿・美意識	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツの建築文化について調べてみる。	1.5 h
10	ドイツ語の文の作り方(sein 動詞①) ドイツの美術	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツにおけるアートについて調べてみる。	1.5 h
11	ドイツ語の文の作り方(sein 動詞②) ドイツの音楽 クラシック、テクノ、ラブパレード	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツの音楽について調べてみる。	1.5 h
12	ドイツ語で自己紹介① ドイツのピオ食品	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツのピオの認定基準について調べてみる。	1.5 h
13	ドイツの年未年始	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツの年未年始について調べてみる。	1.5 h
14	ドイツ語で自己紹介② ドイツにおけるエコ	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 環境先進国ドイツの取り組みを調べてみる。	1.5 h
15	まとめ	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	必要に応じて、補習課題を実施する。ドイツに対する関心を深める。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・毎回、授業の前週の水曜日に、C-Learning「教材倉庫」に予習用の教材をアップする。授業終了後は、復習用の教材やドリル・小テストを用いて知識の定着を図ること。
- ・詳細な成績評価の方法や、課題などについての連絡事項はC-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。

印刷 

フランス語

MYカモクに追加

英文名：French

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL008

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

5 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松島 洋子

科目に関連した実務経験

医療通訳・翻訳（産婦人科、形成外科、外科）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

フランス語を通じて世界に関心を持ち、豊かな人間性を育む。

①フランスの文化や習慣に触れ、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

②毎回1つのテーマを中心に、「伝わるフランス語」を学ぶ。文法は会話に取り入れ、生徒が楽しんで身に付けられるように進める。

到達目標

1. フランス語で簡単な会話ができる ■

2. フランス語検定4級相当の文法を理解する ■

使用教材



①新ゼロからスタート フランス語単語集 BASIC1000／Jリサーチ出版
ISBN-13 978-486392543-4
②フランス語をひとつひとつわかりやすく。一超基礎からの個人授業／学研教育出版
ISBN-13 978-4-05-303813-5

評価方法



授業内の課題及び期末テストにて文法理解度を確認60%、
授業内の発言・質問・ロールプレイ等40%

課題・評価に対するフィードバック方法



授業内で取り組んだ課題とテストをチェックして返却する。

オフィスアワー



質問等は、開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	フランス語の基本／アルファベの発音、発音記号、挨拶、仏語の特性や文化に触れる■	1,2	第1回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第1回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
2	名詞／男性名詞と女性名詞の単数形、複数形■	1,2	第2回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第2回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
3	動詞の活用①■ ・フランス語の基礎となる不規則動詞 ・名詞「性格」「国名」 ・自分のことを紹介する	1,2	第3回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第3回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
4	動詞の活用②■ ・不規則動詞avoirの使い方 ・英語のhaveとの共通点	1,2	第4回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第4回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
5	動詞の活用③■ ・不規則動詞 aller ・英語のGoとの共通点 ・目的地の場所につける前置詞	1,2	第5回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第5回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
6	所有形容詞■ ・「私の」「彼の」 ・名詞「家族・友人・日用品」 ・名詞と冠詞の関係	1,2	第6回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第6回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
7	否定文の作り方■ ・動詞「話す」の活用 ・名詞「職業」	1,2	第7回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第7回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
8	動詞の活用④■ ・ER動詞の使い方 ・数えられる名詞と数えられない名詞	1,2	第8回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第8回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
9	疑問文①■ ・答えが「はい・いいえ」になる疑問文と「具体的な答え」を求める疑問文	1,2	第9回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第9回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	動詞の活用⑤ ■ ・「faire～する」の使い方 ・日常生活での活用	1,2	第10回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第10回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
11	疑問文② ■ ・「どこですか？」 ・「誰ですか？」 ・友人や家族を紹介する	1,2	第11回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第11回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
12	疑問文③ ■ ・方向、位置を尋ねる ・「上下」「前後」「左右」	1,2	第12回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第12回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
13	動詞の活用⑥ ■ ・「faire」の応用 ・名詞「スポーツ」との活用	1,2	第13回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第13回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
14	時計の読み方 ■ ・時間、曜日、月、季節 ・「何時ですか」と質問する	1,2	第14回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第14回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
15	動詞の活用⑦ ■ ・「○○が欲しい」 ・「○○ができる」 ・ 基礎～応用まとめ	1,2	第15回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第15回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷

ポルトガル語

MYカモクに追加

英文名：Portuguese

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL009

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

5 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

アンジェラ マルリ カルステン 角田

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○					○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ロールプレイングと教育的ゲーム

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1. クラスでは、基本的なポルトガル語を紹介し、練習しながら、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、および基本的な文法知識の習得と語学スキルの向上を目指す。
2. クラスは、ディスカッションやビデオ視聴による日常会話に役立つポルトガル語の導入と、練習で構成され、その後、ロールプレイ、教育的ゲーム、グループ活動を通じて実用性を高める。

到達目標

1. 初級レベルの日常会話
2. 各回に、ポルトガルの文化に触れる時間を設け、自身の文化と比較し、多様な価値観への関心を深める。

使用教材

教材プリント

参考文献

ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語著者: Silvia Noriko Kaneyasu

評価方法

- 15% - アンケートへの参加
- 25% - 宿題
- 30% - 中間グループプレゼンテーション
- 30% - 最終グループプレゼンテーション

課題・評価に対するフィードバック方法

教員は学生の授業活動をチェックしながら、実践的な活動や内容についてアドバイスや指導を行う。

オフィスアワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じる。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コースとクラスの紹介	1,2	シラバスを読み、疑問点があればメモしておく。	1.5 h	1. 授業で練習した自己紹介や挨拶を覚える。 2. ビデオを見てポルトガル語のアルファベットを覚える。	1.5 h
2	ブラジルについて。自分自身について話す。(ポルトガル語の“Be”動詞 – ser/estar)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	自己紹介文を見直す。	1.5 h
3	家族について。(私の、あなたの、彼女の、彼の... meu, seu, dele, dela...)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	家族についての話し、文を見直す。	1.5 h
4	数字、曜日、月、天気、について。	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語で曜日、1から10までの数字、月を学ぶ。	1.5 h
5	好き嫌いについて。動詞「gostar」（ポルトガル語で色、食べ物、飲み物など）	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	好きなことや嫌いなことについての話し方、文を見直す。	1.5 h
6	物事の説明。(形容詞、反対語)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語の便利な形容詞とその反対語を見直す。	1.5 h
7	日常の活動について。(よく使われる規則動詞)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	動詞「comprar」、「estudar」、「trabalhar」、「comer」、「beber」、「escrever」、partir、abrir の活用と使い方の練習。	1.5 h
8	これまでの内容の復習、中間グループ発表。	1,2	中間グループプレゼンテーション	1.5 h	授業で示される重要語彙の復習。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			ン準備。			
9	疑問詞の使い方。(Como? Onde?, O que? Quem?...)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語での質問文を見直す。(どのように、いつ、どこで、誰...)	1.5 h
10	時間について。	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語で時間を言う練習をする。	1.5 h
11	ポルトガル語の動詞「estar」の使い方。 (前置詞、動詞の動名詞形)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	動詞の継続時制を使う練習をする。	1.5 h
12	私たちが持っているもの、欲しいもの、やっていること。 (不規則動詞「ter」、「querer」、「fazer」)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	あなたが持っているもの、欲しいもの、やっていることについて書き、話す練習をする。	1.5 h
13	予定について。(動詞「行く」と「来る」 - 「ir」と「vir」)	1,2	宿題、アンケートの実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	予定の短いリストを書き、読む練習をする。	1.5 h
14	知っていること、できることについて。(動詞「saber」と「conhecer」の使い方)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく	1.5 h	自分にできることについて書き、話す練習をする。	1.5 h
15	プレゼンテーション。クラス全体でのディスカッション。	1,2	グループプレゼンテーションの準備。	1.5 h	学習した動詞を使用しながら自分自身について話す練習をする。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 

中国語

MYカモクに追加

英文名：Chinese

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL010

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

6 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

渡邊 賢

履修を必須とする資格

無し

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。

②1) 授業は全15回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性のある程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を身に付けられたい。

2) 毎回、中国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

到達目標

- 1.中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。
- 2.中国語音を表記する音声記号を習得する。
- 3.中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。
- 4.中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。
- 5.日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。

使用教材

↑

教科書『大学一年生のための合格る中国語』小幡敏行著（朝日出版社）
ISBN97-4-255-45224-1C1087

参考文献

↑

講義中に適宜指示する。

評価方法

↑

毎回の小試験20%、発音中間試験30%、学期末筆記試験50%により評価する。
総合評価60%以上を合格とみなす。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。

オフィスアワー

↑

授業開始前もしくは授業終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

↑

公開しない。必要があれば適宜指示する。

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバス内容、教科書第8頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特性などについて理解する。	1h	不要	0h
2	発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h
3	発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声（子音）」の唇音・舌先音・舌根音などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h
4	発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声（子音）」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h
5	教科書第1課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第1課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
6	教科書第2課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。	2,3,4,5	教科書第2課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
7	教科書第3課、形容詞述語文や数量表現などの学習。	2,3,4,5	教科書第3課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	教科書第4課、存在文や構造助詞「的」などの学習。	2,3,4,5	教科書第4課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
9	教科書第5課、介詞構造や方位詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第5課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
10	教科書第6課、連動文や能願動詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第6課、連動文や能願動詞などの学習。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
11	教科書第7課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。	2,3,4,5	教科書第7課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
12	教科書第8課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。	2,3,4,5	教科書第8課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
13	教科書第9課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。	2,3,4,5	教科書第9課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
14	教科書第10課、方向補語や結果補語などについての学習。	2,3,4,5	教科書第10課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
15	教科書第11課、主述述語文や比較表現などについての学習。	2,3,4,5	教科書第11課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

26h

備考

復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷 

ハングル語

MYカモクに追加

英文名：Korean

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL011

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

4 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

丁 美貞

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。

②ハングルの文字と単語の書き方、読み方から発音練習や会話表現の練習を行う。毎回、韓国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

到達目標

1. 正確なハングル文字の表記及び発音を習得する。
2. 합니다体の叙述・疑問に関する表現を習得する。
3. 100語程度を用いた簡単な挨拶や自己紹介などの基本文型を習得する。
4. 日常生活でよく使われる基本的な表現や言い回しを理解し、簡単な会話ができる。

使用教材

朴庚卿, 仲島淳子, 金美順, 徐明煥（2023）『ワンアクション韓国語』朝日出版社

参考文献

評価方法

授業への参加度10%、課題・小テスト30%、定期試験60%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題にはコメントを付けて返却する。小テストを毎回返却し解説する。

オフィスアワー

質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくはメールで連絡すること。

メールアドレス（#→@）

mjjeong621#gmail.com

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業概要、ハングルについて、基本母音	1	テキストを用意し、2頁～6頁を読んでくる。韓国語のノートを用意すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
2	基本子音（平音、激音、濃音）	1	7頁～17頁を読んでくる。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
3	複合母音	1	18頁～21頁を読んでくる。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
4	終声（パッチム）	1	22頁～25頁を読んでくる。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
5	発音の変化	1	26頁～30頁を読んでくる。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
6	基礎まとめ、日本語のハングル表記、ハングル入力（メール）	1	31頁～32頁を読んでくる。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
7	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다	1,2,3,4	32頁～35頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
8	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다、作文練習	1,2,3,4	34頁～43頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	「状況を説明する」합니다体、助詞「를/을」	1,2,3,4	44頁～47頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
10	「状況を説明する」助詞「에서」、助詞「에」（位置）、否定形「지 않다」、作文練習	1,2,3,4	48頁～53頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
11	「買い物をする」指示語、助詞「가/이」、助詞「와/과」	1,2,3,4	54頁～59頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
12	「買い物をする」漢数詞、가/이 아니다、作文練習	1,2,3,4	60頁～65頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
13	「予定を述べる」固有数詞、助詞「에」（時間）、助詞「에」（方向）	1,2,3,4	66頁～71頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
14	「予定を述べる」助詞「에서/부터～까지」、否定形「안」、를/을 좋아합니다、作文練習	1,2,3,4	72頁～77頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
15	総まとめ	1,2,3,4	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5h		1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回課題や小テストを行うため必ず予習・復習を行うこと。音源を活用しテキストの読みを練習すること。メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語：名前」を必ず記入すること。

印刷 

情報リテラシー I

MYカモクに追加

英文名 : Information Literacy I

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL012

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

鈴木 亮二、木幡 直樹

履修を必須とする資格

データサイエンス・AI実務パスポート

上級データサイエンス・AI実務パスポート

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的スキルを身につけることを目標とする。

②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

1. 書誌的事項を過不足なく記載でき、参考資料や引用文献を適切に取り扱い、レポートが作成できる。

2. メールやSNSを正しく扱うことができる。

3. 授業における調べものやレポート作成に使用するパソコンを適切に取り扱うことができる。

- 4.大学のメールや学生ポータルサイト、学習支援サイトを適切に利用できる。
5.情報倫理やアクセシビリティを理解し、パソコンや情報機器を利用できる。

使用教材

配布資料

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

前期 水曜3限、後期 水曜3限
1号館6階615研究室

メールアドレス（#→@）

kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	レポートの書き方 ①レポートの記載事項 ②参考文献・資料引用の注意点 ③知的財産権・著作権の取り扱い上の注意点	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	メール・SNS利用のマナーと注意点 ①メールの書き方(件名、本文の書き方、TO/CC/BCCの使い分け、署名) ②ファイルの添付/添付ファイルのダウンロード ③不審メールへの対処 ④SNS利用上の注意（マナー、リスク、注意事項） ⑤クラウドサービス利用上の注意事項	2,4	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	Widows PCの操作1（基本操作編） ①起動、シャットダウン、スリープ、ロック、サインアウト/サインイン ②文字入力とカナ漢字変換 ③ネットワークの接続設定（無線/有線）とWebサイトへの接続 ④Webブラウザの便利機能とセキュリティ管理	3	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	Widows PCの操作2（エクスプローラ操作編） ①各種表示機能のON/OFF ②フォルダ・ファイル操作に関する基本機能と応用機能 ③ファイル情報の表示と検索 ④ショートカットの作成	3	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	Widows PCの操作3（実用操作編） ①画面キャプチャ、アプリ強制終了、スタートアップ設定 ②Windowsの各種設定とメンテナンス	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	③アプリのインストール/アンインストール、関連付け、メニュー登録 ④パーティションの作成 ⑤クラウドの利用(OneDrive、GoogleDrive)					
6	Gメールの設定と利用 ①本学メールシステムへのログイン・ログアウト ②画面構成（受信トレイ・送信済み・迷惑メール・ゴミ箱） ③メールの作成・送信（To/Cc/Bcc）・返信・転送 ④署名の設定、ファイルの添付 ⑤実践（履修者同士での練習）	2,4	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	情報の倫理とモラル ①個人情報保護と情報倫理 ②情報利用のモラル	5	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	情報通信のアクセシビリティ ①アクセシビリティについて ②キーボード補助機能・マウス補助機能・見やすさの機能・他機能 ③音声認識アプリ・会話補助装置・意思伝達装置・他	5	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）



24h

印刷

情報リテラシー II

MYカモクに追加

英文名 : Information Literacy II

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL013

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 大志、石川 雅弘、木幡 直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的技能を身につけることを目標とする。
- ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

- 1.情報量の表示に関わる接頭語が理解でき、正しく使える。
- 2.論理演算が理解でき、真値表やベン図で説明できる。
- 3.コンピュータの5大要素を説明でき、主要な入出力装置やインターフェースを適切に利用できる。
- 4.OSの役割を説明できる。

使用教材

オンラインでPDF資料を配布、動画閲覧

評価方法

^

各単元で実施する小テストの合計を100点満点に換算し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

^

前期 水曜3限、後期 水曜3限
1号館6階615研究室（木幡 直樹）

メールアドレス（#→@）

^

kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コンピュータの仕組み1 ①情報量と補助単位（接頭語） ②2進数、8進数、16進数	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	コンピュータの仕組み2 ①2値論理 ②真理値表 ③ベン図	2	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	コンピュータの仕組み3 ①コンピュータの概要（5大要素） ②コンピュータの種類	3	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	コンピュータの仕組み4 ①入力装置 ②出力装置 ③記憶装置 ④演算装置 ⑤制御装置	3	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	コンピュータの仕組み5 ①周辺装置（入力装置・出力装置） ②周辺装置（補助記憶装置） ③ドライバー	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	コンピュータの仕組み6 ①OSの種類 ②OSの役割（ファイル管理） ③OSの役割（タスク管理・メモリ管理・デバイス管理） ④OSとGUIインターフェース	3	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	コンピュータの仕組み7 ①LANとインターネット ②IPアドレスとルーティング ③ファイヤーウォール ④WebとWebアプリ	4	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	コンピュータの仕組み8 ①パソコンの構造 ②筐体 ③マザーボード ④各種拡張ボード	3	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）↑

24h

備考↑

学習時間が不足した場合は各自で補完する事

印刷 

情報リテラシーⅢ

MYカモクに追加

英文名：Information Literacy Ⅲ

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL014

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 真悟、木幡 直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
				○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①大学での学習に必要な文書作成やプレゼンテーションの基礎的技能を身につけることを目標とする。
- ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

- 1.Wordを使って各種文書を作成できる。
- 2.PowerPointを使ってスライドを作成でき、プレゼンテーションが出来る。

使用教材

30時間でマスターOffice2021 実教出版

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、適宜回答する。

オフィスアワー

前期 水曜3限、後期 水曜3限
1号館6階615研究室

メールアドレス（#→@）

kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Word利用の基礎（演習）1 ①Wordの起動と画面構成 ②文書の入力と編集 ③ページ設定	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
2	Word利用の基礎（演習）2 ①文書の作成 ②文字の配置 ③文字の修飾	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
3	Word利用の基礎（演習）3 ①表の作成 ②表のレイアウトの変更 ③表の編集	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
4	Word利用の基礎（演習）4 ①ページの色や罫線 ②ワードアートの利用 ③図形の挿入 ④テキストボックスの挿入	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
5	Word利用の基礎（演習）5 ①文書作成のまとめ（文書資料の作成）	1	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2h	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1h
6	PowerPoint利用の基礎（演習）1 ①PowerPointの画面構成 ②プレゼンテーションの作成 ③文字修飾と図形の活用	2	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
7	PowerPoint利用の基礎（演習）2 ①グラフの活用 ②スマートアートの活用 ③アニメーション効果 ④その他の機能	2	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
8	PowerPoint利用の基礎（演習）3 ①プレゼンテーション資料作成のまとめ（プレゼンテーション資料の作成）	2	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2h	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

講義での演習は、大学から推奨された性能のPCで進めること。なお、講義ではoffice系ソフト（Word、PowerPoint）を使用するものとする。

印刷 

情報リテラシーⅣ

MYカモクに追加

英文名：Information Literacy Ⅳ

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL015

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田村 拓郎、木幡 直樹

履修を必須とする資格

データサイエンス・AI実務パスポート

上級データサイエンス・AI実務パスポート

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①大学での学習に必要な表計算処理の基礎的技能を身につけることを目標とする。

②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

- 1.Excelを使って基本的な集計ができる。
- 2.Excelの簡単な関数機能が利用できる。
- 3.Excelの表データからグラフを作成できる。
- 4.Excelでデータの検索や並べ替えができる。

使用教材

30時間でマスターOffice2021 実教出版

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、回答する。

オフィスアワー

前期 水曜3限、後期 水曜3限
1号館6階615研究室

メールアドレス（#→@）

kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Excel利用の基礎（演習）1 ①Excelの画面構成 ②ブックの操作 ③データの入力と編集 ④オートフィル	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	Excel利用の基礎（演習）2 ①計算式の入力 ②表示形式の変更 ③書式の変更	1	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	Excel利用の基礎（演習）3 ①合計（SUM）関数 ②平均（AVERAGE）関数 ③最大（MAX）最小（MIN）	2	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	Excel利用の基礎（演習）4 ①グラフの作成	3	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	Excel利用の基礎（演習）5 ①条件判定（IF関数）と順位付け（RANK.EQ関数）I	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	Excel利用の基礎（演習）6 ①条件判定（IF関数）と順位付け（RANK.EQ関数）II ②検索関数の利用	4	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	Excel利用の基礎（演習）7 ①セルの参照機能 ②文字列の結合 ③セルの条件付き書式 ④並び替え	4	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	Excel利用の基礎（演習）8 ①フィルター ②文字の結合 ③WordとExcelの活用	4	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

備考

講義での演習は、大学から推奨された性能のPCで進めること。なお、講義ではoffice系ソフト(Excel)を使用するものとする。

印刷 

情報リテラシーV

MYカモクに追加

英文名 : Information Literacy V

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL016

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

長澤 亨、松尾 仁司、木幡 直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①ネットワークに情報機器を接続し、安全かつ適切に利用できる基礎的知識と技能を身につけることを目標とする。
- ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

1. ネットワーク利用に必要な基礎知識があり、利用できる。
2. 情報セキュリティに関する基礎知識があり、安全に気を配り情報機器やシステムを利用できる。
3. 専攻領域におけるICTの利用事例や先進的利用について、説明できる。

使用教材

配布資料

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

前期 水曜3限、後期 水曜3限
1号館6階615研究室

メールアドレス（#→@）

kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ネットワークの基礎知識1 ①DHCP(IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS) ②ブラウザ ③プロバイダと回線接続業者	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	ネットワークの基礎知識2 ①Wi-Fiによるネットワーク接続（SSIDとパスワード、接続周波数） ②4Gと5G・無線LAN規格、テザリング ③セキュリティの選択、トラブル対策	1	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	情報セキュリティの基礎1 ①情報資産の脅威・脆弱性とリスク ②サイバー攻撃 ③マルウェア対策	2	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	情報セキュリティの基礎2 ①アクセス管理と認証 ②不正アクセス対策 ③暗号とデジタル署名	2	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	情報セキュリティの基礎3 ①組織のセキュリティ対策 ②情報セキュリティ関連の法規と制度 ③知的財産保護と個人情報保護	2	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	社会とICT活用1 ①医療・健康分野でのICTの活用 ②社会福祉分野でのICTの活用 「※健康・医療・福祉分野のICT活用」	3	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	社会とICT活用2 ①教育分野でのICTの活用	3	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	社会とICT活用3 ①農業・食糧生産分野でのICTの活用 ②食品産業分野でのICTの活用 「※食品・農業分野のICTの活用」	3	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

情報リテラシーVI

MYカモクに追加

英文名：Information Literacy VI

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL017

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

光山 訓、木幡 直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①情報数理統計・データサイエンスの基礎的知識と処理の技能を身につけることを目標とする。
- ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

- 1.度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理ができ、ヒストグラムによるデータの可視化ができる。
- 2.最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法が説明できる。
- 3.四分位数、5数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法を理解し、説明できる。
- 4.分散と標準偏差の意味、定義、計算方法を理解し、説明できる。

使用教材

オンラインでPDF資料を配布

評価方法

^

各単元で実施する小テストの合計を100点満点に換算し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

^

前期 水曜3限、後期 水曜3限
1号館6階615研究室

メールアドレス（#→@）

^

kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	データサイエンスの基礎1 ①データサイエンスとは何か ②度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理 ③ヒストグラムによるデータの可視化 ④ヒストグラムから読み取るデータの特徴	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	データサイエンスの基礎2 ①Excelを使った度数分布とヒストグラムの作成	1	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	データサイエンスの基礎3 ①最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法 ②最頻値、中央値、平均値と度数分布、累積度数分布、ヒストグラムの関係	2	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	データサイエンスの基礎4 ①Excelを使った代表値の算出	2	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	データサイエンスの基礎5 ①分位数の考え方 ②四分位数、5数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法 ③箱ひげ図による5数要約の可視化 ④箱ひげ図とヒストグラムの形状との関係	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	データサイエンスの基礎6 ①Excelを使った5数要約の算出、箱ひげ図の作成	3	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	データサイエンスの基礎7 ①Σ記号の定義と性質 ②分散と標準偏差の意味、定義、計算方法 ③データの一次変換と平均、分散、標準偏差 ④変動係数の定義と性質	4	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	データサイエンスの基礎8 ①Excelを使った分散、標準偏差、変動係数の算出	4	8回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）↑

24h

印刷 

情報化社会を生きる ～疑う力・創る力～

MYカモクに追加

英文名 : Confronting the Information Oriented Society : The Power of Doubt and the Power of Creation

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSH001

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

3 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

岡田 豊

科目に関連した実務経験

日本経済新聞記者 共同通信記者

テレビ朝日(経済部記者・外報部デスク・災害報道統括・報道番組プロデューサー・ニューヨーク支局長・アメリカ総局長・コメンテーター)

新聞協会委員、民放連災害放送専門部会委員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

フェイク情報・フェイク映像が世界中で氾濫する今の情報社会において、正確な情報は、水や空気のように欠かせない存在になった。正確な情報を見極められなければ、的確な判断ができないからだ。何も考えず、ただ情報の渦に身を委ねているとすれば、かけがえのない自分の人生の選択を見誤ることになりかねない。まず、この基本的な認識を自覚したい。

講義の最大の目標は、情報の「受け手」として、情報をきちんと疑い、正確な事実をしっかりと見極める力を修養することにある。同時に、情報の「送り手」として、正確な事実、的確な見識や、社会創生につながるアイデアを発信する力を修養する。つまり、情報の「受け手」「送り手」双方の立場において、質の高いリテラシーを身に付ける。この2つのリテラシーを「ジャーナリズム・リテラシー」と称する。この「ジャーナリズム・リテラシー」は、学問のみならず、日常生活、

仕事など、人間のあらゆる活動において基本素養に位置付けられるであろう。
この際、古びた常識に流されずに、自分の心で自由に感じ、自分の頭で自分のオリジナルな考え方、やり方を見いだす、つまり自考（じこう）をベースにしていく。自考は、日本人にとって、実に苦手な行為だったのではなかろうか。自考は、これからの日本人にとって必要不可欠な思考法だと考える。

授業は、時事問題や身近な社会的課題、もしくはみなさんが抱える課題や疑問などを題材にする。みなさんが感じていること、考えていることを遠慮なく口に出し合い、自由に論考していきたい。予習・復習で求める課題は、授業の前提であり、こなしていくことで、目的とする力を確実に修養することにつながる。適宜実施するグループ討論やミニレポートなどでは、みなさんのオリジナルで、大胆なアイデア、考え方を遠慮なく表現してほしい。素敵な考えを持っていても、うまく表現できなければ、宝の持ち腐れになってしまうので、表現する力も修養していきたい。定期試験も実施する。素の自分をさらけ出し、楽しみながら、本授業がみなさんの成長のきっかけになることを期待している。

到達目標

^

- 1.時代が大きく変容し日本の衰退が加速している実状を踏まえ、情報化社会の諸課題を理解したうえで、それらの解決策を提案し、実践できる。■
- 2.「世のため人のために」機能するジャーナリズムの意義を理解し、自らが「市民ジャーナリスト」として実践できるリテラシーを身に付ける。■
- 3.情報の「受け手」として、情報を疑い、正確な事実を見極めるリテラシーを身に付ける。■
- 4.情報の「送り手」として、正確な事実、的確な見識、「社会創生」につながる情報やアイデアを発信できるリテラシーと志を身に付ける。■
- 5.自分の心で自由に感じ、自分の頭で自由に大胆に考える「自考」の意義を理解し、実践できる。■

使用教材

^

「ジャーナリズム・リテラシー 疑う力と創る力」（岡田豊著、彩流社、2024年10月）＝第1回講義ガイダンスなどにおいて割引で販売予定。
その他、映像、ニュース記事などを適宜講義で活用する。

参考文献

^

- ・「自考 日本人の最後の切り札」（岡田豊著、プレジデント社、2022年2月）
- ・「あいまいさに耐える ネガティブリテラシーのすすめ」（佐藤卓己著、岩波新書、2024年8月）
- 理解が深まるので、もし経済的な余裕があれば、購入して読むことをお勧めする。

評価方法

^

定期試験40%、レポート30%、発言・プレゼンなど授業中のアクション30%、で評価する。
総合評価65%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートにはコメントを付けて返却する。授業での発言・プレゼンにはその場で必要に応じて適宜コメントする。

オフィスアワー

^

授業後の1時間

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2, 3,4, 5	シラバス全体を読み、講義の目標を理解し、講義をどう活用するか考える	1.5 h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する	1.5 h
2	日本人に必要な思考法「自考」■	2,5	自分の心や自分の考え方を大切にしてきたかどうか、これ	1.5 h	自考について3回目の授業以降に実践できるよう深く理解する	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			までの生き方を振り返っておく			
3	フェイク情報があふれる社会 ■	1,2,3	フェイクの実例を見つけ、それがどんな支障を招いたか、自分の体験の中から見つけておく	1.5 h	フェイクの影響に伴う社会の諸課題を理解し、解決策を見いだす	1.5 h
4	SNSの功罪 AIの功罪 ■	1,2,3	SNSのメリットとデメリット、AIのメリットとデメリットを自らの体験から実例をピックアップする	1.5 h	SNSのメリットとデメリット、AIのメリットとデメリットを整理して理解する	1.5 h
5	事実にたどり着く難しさ ■	1,2,3	事実と思っていたのに事実でなかったケースを自らの経験から見つけておく	1.5 h	事実を得ることは簡単ではないということを理解し、どうやって事実にたどり着けるか具体的な技術を理解する	1.5 h
6	「新聞・テレビ」依存の終焉 マスゴミの姿 ■	1,2,3,4,5	新聞・テレビの報道の具体的な事例を自由に拾い、その評価を発表できるようにしておく	1.5 h	新聞、テレビが抱える課題を理解し、解決策を見いだす	1.5 h
7	ジャーナリズムという重要な社会機能 ■	1,2,3,5	「世のため人のため」になったジャーナリズムのケースを自分なりに見つけておく	1.5 h	ジャーナリズムという社会機能がいかに重要かということを理解する	1.5 h
8	他国のジャーナリズム ■	1,2,3,4,5	アメリカと中国のニュースをインターネットで拾って見て、感想をまとめておく	1.5 h	他国のジャーナリズムのレベルや質について、日本との違いを理解する	1.5 h
9	企業広報とメディア ■	1,2,3,4	トヨタ自動車の独自メディア「トヨタタイムズ」のHPを見ておく	1.5 h	自分が組織の広報担当となった場合に、情報をどう発信すればよいのか整理しておく	1.5 h
10	大きく立ち遅れた日本の「リテラシー教育」 ■	1,2,3,4,5	情報やメディアをめぐるリテラシー教育を自ら受けた経験について整理しておく	1.5 h	情報やメディアをめぐる日本のリテラシー教育の遅れによる弊害を理解する	1.5 h
11	情報の「受け手」と「送り手」の機能 ジャーナリズム・リテラシーの意義 ■	1,2,3,4,5	情報の「送り手」と「送り手」の2つの立場が、自らにもあるということに気付く	1.5 h	特に、情報の「送り手」としての社会的使命や意義を理解する	1.5 h
12	「疑う力」 情報をどう見極めるか ■	1,2,3,4,5	情報の疑い方、見極め方について、自分がこれまでどうしてきたか、整理しておく	1.5 h	情報を疑い、見極めるための基礎的なリテラシーを理解する	1.5 h
13	「疑う力」 市民の自己責任 ■	1,2,3,4,5	前回12回の講義を振り返り、「疑う力」の意義を自分なりに深めるよう考察しておく	1.5 h	情報は自己責任で見極めるしかないという基本姿勢を理解する	1.5 h
14	「創る力」 市民が社会を変える ■	1,2,3,4,5	自らが発信する情報が、社会課題をどう解決できるのか、自分のアイデアを自由にかつ大胆に考えておく	1.5 h	自分をはじめとする市民一人ひとりの健全な情報発信が、社会課題の解決につながるということを理解する	1.5 h
15	「創る力」 市民が社会を創る ■	1,2,3,4,5	自らが発信する情報で、どう社会創生に取り組みたいか、自由かつ大胆にアイデアを考えておく	1.5 h	自分をはじめとする市民一人ひとりの志ある情報発信が、社会創生につながるということを理解する	1.5 h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



次の3点を抱いて授業に臨んでいただきたい。

1. 「自分の心で自由に感じ、自分の頭で自由かつ大胆に考え、楽しむ」というマインド。
2. 「自分の人生を切り拓くのは自分以外にいない」という自覚。
3. 「自分が生きるこの社会を良くするのは自分だ」という志。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



人間行動学

MYカモクに追加

英文名：Theory of Human Behavior

科目区分：専門教養科目

科目ナンバリング：LSH002

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

10 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

上原 徹、服部 卓

科目に関連した実務経験

精神科医として大学病院等で勤務経験35年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている（上原）。臨床心理士として大学病院等で勤務経験は約35年、現在に至る（服部）。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

前半の授業で、一部実技や演習を取り入れる

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生が行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することができる。前半を服部、後半を上原が担当する。

②前半授業では配布資料も使って要点をまとめ、後半ではDVDを視聴しつつ進める。

到達目標

- 1.医療などの対人支援における基本的姿勢を身につける
- 2.ケアを受ける人の心理や行動を理解できる
- 3.適切な対人的交流のための知識と技術が説明できる
- 4.他職種と機能的に連携する視点を持てる■
- 5.行動科学や心理学の初級知識を解説できる

使用教材 ↑

特定の教科書は指定しない。服部担当授業では、印刷プリントを配布する。上原担当授業では、おもにDVD教材を用いるが、補助的にC-learning上に資料をアップする。

参考文献 ↑

福村出版「行動科学への招待〔改訂版〕 現代心理学のアプローチ」など

評価方法 ↑

レポートを90%とし、授業中の態度を10%程度参考にして総合評価する。授業態度（不適切な授業態度、不必要な私語など）に問題がある場合は、個別に減点する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、評価の目安を伝える。

オフィスアワー ↑

月4 金3 研究室:1号館5階512（上原）

メールアドレス（#→@） ↑

授業で提示する

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	青年期の心理と性格	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	0.5h	ノートを読むこと。	2.5h
2	ノンバーバルコミュニケーション	1,2	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
3	人と人との関係■	2,3,4	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
4	集団■	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
5	見る・感じる・考える	1,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
6	ポジティブサイコロジー■	2,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
7	生涯発達心理学	2,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
8	行動と錯覚	1,2,3	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
9	発達	1,2,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
10	記憶	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
11	睡眠■	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	ストレス■	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
13	音楽と脳	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
14	傾聴とカウンセリングマインド■	4,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
15	まとめ（レポート準備）	1,2,3,4,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



複数の学科学生が多人数で聴講し、非常勤講師を迎え行うので、静粛に臨むこと。授業中の不必要な私語や不謹慎な態度は、厳に慎むこと（成績評価に影響する）。DVD上映による映像授業を多用する。場合によって代替えとなるパワーポイントおよびウェブサイト動画の紹介を行う。

予習・復習については、試験前後の学習などで各自補完すること。オフィスアワーや連絡先は、主任講師の上原がオリエンテーション時に案内する。■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



健康運動実技

MYカモクに追加

英文名 : Health Exercise Skills

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSH003

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

1 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

2 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大家 千枝子

科目に関連した実務経験

「元気に“動こう・歩こう”」実践リーダー養成講座の講師として、リーダー養成事業に従事している。（群馬県健康長寿社会づくり推進課・2018年度～）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①健康保持増進のための運動実践力育成と体力の向上を図り、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質と能力を身につける。

②実技を中心に授業を進めていく。

到達目標

- 1.運動に対する欲求や運動が好きであることを感じることができる。
- 2.運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。■
- 3.公正・協力・責任・参画・勇気などに対する意欲をもつことができる。

- 4.仲間や教員と積極的にコミュニケーションを図ることができる。
- 5.健康・安全を確保して、運動を継続するための工夫や仕組みを創造することができる。■

使用教材 ↑

プリントを適宜配布する。

参考文献 ↑

参考文献を適宜紹介する。

評価方法 ↑

授業ごとの取り組みの評価点85%、記録（提出物・コメント）15%

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

毎回の授業後に授業記録カードの提出を求める。授業記録カードに付したコメントやスタンプは必ずチェックすること。また最終日には、授業で学んだことの整理・課題・目標到達度の確認（ループリックにて自己評価）を行う。課題は返却しないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。

オフィスアワー ↑

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ↑

oie#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・履修者からの需要調査 ■	3,4,5	シラバスを読んで講義目標などを理解する。要配慮の場合は申告する。	0.5h	到達目標、学位記授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5h
2	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
3	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
4	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
5	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
6	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
7	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
8	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
10	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
11	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
12	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
13	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
14	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
15	まとめ、授業で学んだことの整理・確認テスト（または課題）・目標到達度の確認 ■	1,2,3,4,5	これまで授業で学んだこと、自身の授業態度を振り返る。	0.5h	目標達成度の確認。今後どのように運動を継続できるか検討する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

【単位修得に必要な時間について】

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

【受講上の注意】

- ①運動に適した服装（ジャージ、Tシャツなど）とシューズ（屋内外別）を着用すること。（※ジーンズ・普段着での受講は不可。スマホや時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアスなどは外しておく。）
- ②原則として見学は認めない。配慮を必要とする学生は初回ガイダンス終了までに申し出ること。
- ③貴重品は各自で管理すること。
- ④授業で使用する用具は基本的に大学側で用意するが、個人所有のラケットなどがあれば持参を推奨する。
- ⑤天候による施設変更がある。C-learningで確認すること。
- ⑥フットサルコートの人混みがとれやすく、靴下やウエアに付着することがある。
- ⑦屋外でウォーミングアップの際、グラウンドの砂で汚れることがある。※屋外の際は、汚れてもよい服装を推奨。

【履修条件】

準備・後片付けなどの授業運営は受講生の積極的な姿勢を求める。また、技術の高低や得意不得意、好き嫌い、勝ち負けにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しむ能力や積極的に体を動かすことが求められる。

【ルール】

授業開始時には整列し、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録カードの提出がある。次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

宗教と倫理

MYカモクに追加

英文名 : Religion and Ethics

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSH004

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中にアンケートを実施し、その結果と分析を共有する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。「宗教」は「非日常的なもの」として敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、しばしば漠然と過ごされている私たちの日常を省みる絶好の機会を提供してくれる。自分が普段どのような判断や行動をしているか常に考えつつ、講義に臨んでほしい。

② C-Learningの教材倉庫にアップした資料に基づいて講義を行い、毎回アンケートに意見を記述してもらう。また、定期的にドリルと小テストを実施して知識の定着を図る。新型コロナの感染状況によってはオンデマンド形式に移行する。

到達目標

- 1. 講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。
- 2. そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。

使用教材

^

C-Learningの教材倉庫に資料をアップする。

参考文献

^

関根正雄（訳）『旧約聖書 ヨブ記』、岩波文庫、1971年。
金子大栄『歎異抄』、岩波文庫、改版、1981年。

評価方法

^

授業への取り組み（資料の閲覧、アンケートの実施状況など）・・・30%
課題（小テスト、期末レポート）・・・70%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回、授業終了時に意見や質問などをC-Learning「アンケート」に記述してもらい、それらに対してコメントを返す。有意義な意見に関しても紹介の時間を設ける。

オフィスアワー

^

1号館511研究室
面談希望の場合はC-Learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

メールアドレス（#→@）

^

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス:宗教と文化、常識	1	シラバスやC-learningのニュース、予習資料を読み、授業のアウトラインや成績評価の方法について理解しておく。	1.5h	自分自身の内にある「思い込み」について考えてみる。	1.5h
2	『聖書』の思想：一神教の系譜	1,2	予習資料から一神教について知識を得ておく。	1.5h	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、それぞれの特徴について確認しておく。	1.5h
3	善人とは何か:『旧約聖書』「ヨブ記」より（1）「契約」について	1,2	予習資料から、「契約」について知識を得ておく。	1.5h	「旧約」、「新約」とは何か、「応報主義」とは何か理解する。	1.5h
4	善人とは何か「ヨブ記」より（2）生誕の災い	1,2	予習資料から『ヨブ記』のプロローグを確認しておく。	1.5h	ヨブ記、ギリシア神話、仏教などにおけるペシミスティックな人間観を理解する。	1.5h
5	善人とは何か：「ヨブ記」より（3）自己の在り方を省みる	1,2	予習資料をもとに『ヨブ記』の登場人物の関係性について考えておく。	1.5h	自己と他者の間にある鏡像的な相互関係について理解する。	1.5h
6	善人とは何か：「ヨブ記」より（4）現代の事例から考える	1,2	予習資料からヨブと彼の友人たちの議論を確認しておく。	1.5h	自己批判の欠如がもたらす事態について歴史的事件を通じて理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	善人とは何か：「ヨブ記」より（5）「懺悔」ということ	1,2	予習資料から『ヨブ記』エピソードについて確認しておく。	1.5 h	聖書の思想における「懺悔」の位置づけについて理解する。	1.5 h
8	旧約から新約へ：イエスの教え	1,2	予習資料よりイエスの教えについて知識を得ておく。	1.5 h	イエスの教えが登場してくる背景とその意義について理解する。	1.5 h
9	悪人とは何か：『歎異抄』より（1）『歎異抄』について	1,2	予習資料から『歎異抄』という書について知識を得ておく。	1.5 h	『歎異抄』第三条の特異性について理解する。	1.5 h
10	悪人とは何か：『歎異抄』より（2）罪の意識	1,2	予習資料から『歎異抄』第三条に関する様々な見解を確認しておく。	1.5 h	親鸞の内面を支配していた深い罪の意識を理解する。	1.5 h
11	悪人とは何か：『歎異抄』より（3）浄土思想の展開（1）	1,2	予習資料から親鸞の師である法然が登場してきた時代背景について知る。	1.5 h	当時の人々の心に去来していた思いについて理解する。	1.5 h
12	悪人とは何か：『歎異抄』より（4）浄土思想の展開（2）	1,2	予習資料から親鸞の生涯について知る。	1.5 h	親鸞の罪の意識の由来について理解し、自らに引きつけて考える。	1.5 h
13	悪人とは何か：『歎異抄』より（5）「悪人正機説」	1,2	予習資料とあわせてこれまでの議論を確認しておく。	1.5 h	『歎異抄』第三条の悪人正機説の意味を理解する。	1.5 h
14	悪人とは何か：『歎異抄』より（6）悪の不可避性とそれゆえの無力	1,2	予習資料をもとに親鸞における悪について自らに引きつけて考えておく。	1.5 h	我々が気づかず捕らわれている自己中心的な考え方について理解する。	1.5 h
15	総括：東西の宗教	1,2	聖書の思想と浄土思想の核心部分について確認しておく。	1.5 h	東西の宗教、倫理思想の共通点について理解する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・C-learningの「教材倉庫」「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」機能を活用する。毎回、授業日の前週木曜日に予習用の教材をアップするのであらかじめ目を通しておくこと。授業終了後は復習用の資料をアップするので、よく確認し、アンケートにコメントを記入すること。
- ・詳細な成績評価の方法や、期末レポートの課題や規定など連絡事項はC-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。
- ・「自分ならどう考え、行動するか」を自らに問いかける姿勢を大切にしてほしい。

印刷 

レクリエーション論

MYカモクに追加

英文名 : Recreation Theory

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSH005

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

5 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大家 千枝子

科目に関連した実務経験

レクリエーション・インストラクター養成講習会講師として、公認指導者養成に従事（現在）。
（公益財団法人日本レクリエーション協会公認・群馬県レクリエーション協会主催、2015年度～）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人びとの「心を元気にする」ための手助けができるレクリエーション支援の強み（専門性）を理解する。支援の目的とそれを達成するための方法の裏付けとなる人の心の仕組みを学ぶ。

②教員による講義がベースとなるが、グループワークによるテーマに沿った共同作業も予定している。「心を元気にする」ための理論をその実践へと結び付けるため、各グループによるレクリエーション活動を用いた短時間のレクリエーション支援を行い、「集団をリードする」、「コミュニケーションを促進する」、「楽しい空間をつくる」という感覚を養う。

到達目標

- 1.レクリエーション支援の目的と手段について、理解し、説明できる。■
- 2.レクリエーション活動の楽しさが心を元気にすることについて、理解できる。■
- 3.コミュニケーションの促進がレクリエーション支援の基盤であることを理解し、説明できる。■
- 4.授業の性質やグループ内での個人の役割について、理解し、行動することができる。
- 5.必要な資料や情報を収集し、意見をまとめ、期日を守って提出できる（C-learningも含む）。

使用教材

「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」、公益財団法人日本レクリエーション協会、1,800円+税 ISBN978-4-931180-95-6

参考文献

「基本のアイスブレーキング・ゲーム」、公益財団法人日本レクリエーション協会、2,530円（税込）ISBN978-4-931180-92-5 C2076

評価方法

授業の取り組み実践点30%、
課題点（小テスト、確認テスト、レク支援経験）70%

課題・評価に対するフィードバック方法

自分以外の履修者による課題や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learningを使ってフィードバックする。また紙媒体の提出課題は、適宜返却を予定している。ただし最終日の確認テストは返却予定がないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

oie#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、さまざまな現場でのレク支援について理解を深める（視聴覚教材使用）■	1,2,3,4,5	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	0.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5h
2	レクリエーション支援の方法（アイスブレーキングのプログラムを体験する）■、グループわけ	1,2,3,4,5	自身がこれまで体験したレクリエーション活動について振り返る。	0.5h	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5h
3	レクリエーション概論（レクリエーションの主旨と手段を理解する）■、レク支援の説明と日程抽選	1,2,3,4,5	テキスト第1章（p.9～17）を読んでおくこと。	0.5h	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5h
4	楽しさと心の元気づくりの理論（楽しさをとおした心の元気づくりを理解する）①	1,2,3,4,5	テキスト第2章（p.19～32）を読んでおくこと。	0.5h	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5h
5	楽しさと心の元気づくりの理論（楽しさをとおした心の元気づくりを理解する）②	1,2,3,4,5	テキスト第2章（p.33～36）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
6	レクリエーション支援の理論（コミュニケーションと信頼関係づくりの理論）	1,2,3,4,5	テキスト第3章（p.37～43）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	レクリエーション支援の理論（良好な集団づくりの理論）	1,2,3,4,5	テキスト第3章（p.44～49）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
8	レクリエーション支援の理論（自主的、主体的に楽しむ力を高める理論）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.50～55）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
9	レクリエーション支援の方法（信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.57～65）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
10	レクリエーション支援の方法（ホスピタリティの体験的理解 その1・その）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.66～69）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
11	レクリエーション支援の方法（ハードル設定の習得）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.70～82）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
12	レクリエーション支援の方法（アレンジ方法の習得）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.70～82）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
13	レクリエーション支援の方法（CSプロセスの習得）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.70～82）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
14	安全管理の方法■	1,2,3,4,5	これまでの自身のレク活動における安全管理について振り返る。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
15	授業で学んだことの整理・確認テスト（または課題）・目標到達度の確認	1,2,3,4,5	これまでの授業を振り返る。	0.5h	確認テストについて、授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

【単位修得に必要な時間について】

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

【履修条件】

- ・心を元気にする知識と技術を習得して人前に立つことを目指すため、積極的に参加する学生を求める。
- ・学内外のレクリエーション活動に関心をもち、問題意識をもつことや自らすすんで支援に関わる姿勢を求める。

【ルール】

レクリエーション論を学ぶうえで、信頼関係づくりの方法における「あたたかくもてなす意識と配慮」の観点より、次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用、③私語、わがまま、ふざけた態度をとる、④C-learning「出席管理」の不正行為（発覚時には厳正に対処する）

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

数学基礎 I

MYカモクに追加

英文名 : Mathematics Basic I

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : HII101

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

東福寺 幾夫

科目に関連した実務経験

メーカー勤務中に、生産ラインで使用する製品性能測定器や、血液分析装置のデータ処理方式の研究開発やシステム開発に従事し、データの解析やノイズ対策のために、微分積分等数学的知見を応用した。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①大学での学習に必要な数学の基礎を習得し、以下の範囲の基礎的問題が解けるようになる。

②授業は、教科書の例題を解説後に各自練習問題を解き、指名された学生が解答例を板書する形式を基本とする。その他、必要に応じて関連するプリントを配布し、宿題を出すことがある。学期末には、総合的な演習問題を配布し、授業内容の復習を行う。

到達目標

- 1.式に示された計算の手順を論理的に分析・理解し、正しく数の計算・式の計算ができる。
- 2.式の展開や因数分解ができ、各種の一次方程式・二次方程式を解くことができる。

- 3.一次式・二次式・円・楕円・双曲線のグラフの概形が描ける。
- 4.三角比と弧度法を理解し、三角関数のグラフの概形が描け、公式の説明ができる。■
- 5.指数法則・対数法則を理解し指数・対数の計算ができ、指数関数・対数関数のグラフの概形が描ける。■

使用教材

^

「大学新入生のための数学入門増補版」石村園子著・共立出版 ISBN4-320-01769-2

評価方法

^

授業への参加と貢献10%、授業毎のドリル20%、期末試験70%で評価し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回の授業の冒頭で前回授業の振り返りを行う。
また、出席カードで自宅での学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集する。

オフィスアワー

^

月曜日の4時限と水曜日3時限
1号館6階605

メールアドレス（#→@）

^

tofukuji#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2,3,4,5	教科書のまえがき、シラバスを読む。	1h	プリントの課題を解く。	1h
2	数と式の計算1 整数、分数、小数、繁分数、平方根、複素数	1	教科書の1章p.2～3、6～7を読む。	1h	教科書14章の練習問題1.1、1.2、1.5、1.6のAを解く。	1.5h
3	数と式の計算2 展開公式、因数分解、分数式の計算、部分分数の計算、無理式の計算	2	教科書の1章p.4～5、8～10を読む。	1h	教科書14章の練習問題1.3、1.4、1.7～1.9のAを解く。	1.5h
4	数と式の計算3 方程式、連立一次方程式、代数方程式	2	教科書の1章p.11～12を読む。	1h	教科書14章の練習問題1.10、1.11のAを解く。	1.5h
5	数と式の計算1 練習問題を解き、解法を確認する。	1,2	教科書の14章の練習問題1.1～1.11のBを解く。	1h	教科書の14章の練習問題1.1～1.11のCを解く。	1.5h
6	関数とグラフ1 関数、直線、放物線	2	教科書の2章p.14～18を読む。	1h	教科書の14章の練習問題2.1～2.3のAを解く。	1.5h
7	関数とグラフ2 円、楕円、双曲線	3	教科書の2章p.19～21を読む。	1h	教科書の14章の練習問題2.4、2.5のAを解く。	1.5h
8	関数とグラフ3 不等式	3	教科書の2章p.22～24を読む。	1h	教科書の14章の練習問題2.6、2.7のAを解く。	1.5h
9	関数とグラフ4 練習問題を解き、解法を確認する。	3	教科書の14章の練習問題2.1～2.7のBを解く。	1h	教科書の14章の練習問題2.1～2.7のCを解く。	1.5h
10	三角関数1 三角比、ラジアン単位と一般角、三角関数■	4	教科書の3章p.26～34を読む。	1h	教科書の14章の練習問題3.1～3.5、3.7のAを解く。	1.5h
11	三角関数2 三角関数、三角関数のグラフ、三角関数の公式■	4	教科書の3章のp.35～39を読む。	1h	教科書の14章の練習問題3.1～3.5、3.7のBを	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					解く。	
12	三角関数3 三角関数の基本を確認する。■	5	配布されたプリントを読む。	1h	プリントの課題を解く。	1.5h
13	指数関数・対数関数1 指数と指数法則、指数関数とグラフ、特別な関数■	5	教科書の4章p.42～49を読む。	1h	教科書の14章の練習問題4.1～4.3のAを解く。	1.5h
14	指数関数・対数関数2 対数と対数法則、常用対数と自然対数、対数関数とグラフ■	5	教科書の5章p.52～58を読む。	1h	教科書の14章の練習問題5.1～5.4のAを解く。	1.5h
15	指数関数・対数関数3	5	教科書の14章の練習問題4.1～4.3、5.1～5.4のBを解く。	1.5h	教科書の14章の練習問題4.1～4.3、5.1～5.4のCを解く。	1.5h

合計時間（予習・復習）



37h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



数学基礎Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Mathematics Basic Ⅱ

科目区分：専門導入科目

科目ナンバリング：HII102

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

2 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

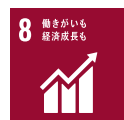
担当教員

東福寺 幾夫

科目に関連した実務経験

メーカー勤務の中で、生産ラインで使用する製品性能測定器や、血液分析装置のデータ処理方式の研究開発やシステム開発に従事、データの処理には様々な経験を積んだ。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①大学での学習に必要な数学の基礎を習得し、上記範囲の基礎的問題が解けるようになる。

②授業は、教科書の例題を解説後に各自練習問題を解き、指名された学生が解答例を板書する形式を基本とする。その他、必要に応じて関連するプリントを配布し、宿題を出すことがある。学期末には、総合的な演習問題を配布し、授業内容の復習を行う。

到達目標

- 1.独立変数の変動に対応した関数値の変動について理解でき、極限値の収束・発散が説明できる。
- 2.ある区間における関数の平均変化率を計算できる。

- 3.平均変化率の極限値としての微分係数の演算式が理解でき、接線の方程式を求めることができる。■
- 4.不定積分、原始関数の意味が説明できる、2次式までの不定積分ができる。
- 5.定積分が計算でき、複数の曲線が囲む領域の面積を計算できる。■
- 6.集合の概念を理解し、集合の演算や要素の個数の問題を解くことができる。
- 7.順列、組み合わせや二項定理を説明できる。
- 8.確率と期待値の説明ができる。■

使用教材

^

「大学新入生のための数学入門増補版」石村園子著・共立出版 ISBN4-320-01769-2

評価方法

^

授業への参加と貢献10%、授業毎のドリル20%、期末試験70%で評価し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回の授業の冒頭で前回授業の振り返りを行う。
また、出席カードで自宅での学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集する。

オフィスアワー

^

月曜日の4時限と水曜日3時限
1号館6階605

メールアドレス（#→@）

^

tofukuji#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバスを読む	1h	プリントの課題を解く。	1.5h
2	関数の極限	1	教科書の6章p.60～65を読む。	1h	教科書14章の練習問題6.1～6.2のB,Cを解く。	1.5h
3	関数の極限 極限公式	1	教科書の6章p.66～68を読む。	1h	教科書14章の練習問題6.3を解く。	1.5h
4	微分係数■	2,3	教科書の7章p.70～72を読む。	1h	教科書14章の練習問題7.1～7.2を解く。	1.5h
5	導関数、微分計算■	2,3	教科書の7章p.73～75を読む。	1h	教科書14章の練習問題7.3～7.5のA,Bを解く。	1.5h
6	接線の方程式、関数の増減とグラフ■	3	教科書の7章p.76～82を読む。	1h	教科書14章の練習問題7.6～7.8のAを解く。	1.5h
7	不定積分、定積分■	4,5	教科書の8章p.84～87を読む。	1h	教科書の14章の練習問題8.1～8.2のA,Bを解く。	1.5h
8	面積■	5	教科書の8章p.88～92を読む。	1h	教科書の14章の練習問題8.3～8.4のA,Bを解く。	1.5h
9	集合1 集合と要素、数の集合、部分集合、包含関係、ベン図	6	教科書の12章p.120～122を読む。	1h	教科書の14章の練習問題12.1、12.2を解く。	1.5h
10	集合2 集合の演算、要素の個数	6	教科書の12章p.123～124を読む。	1h	教科書の14章の練習問題12.3、12.4を解く。	1.5h
11	順列と組合せ	7	教科書の13章p.126,127を読む。	1h	教科書の14章の練習問題13.1、13.2を解く。	1.5h
12	二項定理	7	教科書の13章p.128、p.129を読む。	1h	教科書の14章の練習問題13.3を解く。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	確率1 ■	8	教科書の13章p.130～131を読む。	1h	教科書の14章の練習問題1 3.4、13.5を解く。	1.5h
14	確率2 ■	8	教科書の13章p.132～133を読む。	1h	教科書の14章の練習問題1 3.6を解く。	1.5h
15	期待値 ■	8	教科書の13章p.134を読む。	1h	教科書の14章の練習問題1 3.7を解く。	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



物理学基礎

MYカモクに追加

英文名：Physics Basis

科目区分：専門導入科目

科目ナンバリング：HII103

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

10 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 大志

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義終了時には振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①3年生での講義（生体情報学Ⅰ、Ⅱ）の内容（生体情報を適切に計測するための技術）を理解できるように、本講義では力や電気、熱などといったエネルギーの基本的な物理現象を学習する。

②本講義ではスライドによるアニメーションを用いて物理現象を視覚的に理解させるとともに演習問題も適宜実施する。

到達目標

1. 物体の運動とエネルギーについて概念を理解できる。
2. 光、音、熱、電気などの性質や現象を説明できる。
3. 健康や医療との関係について理解できる。

使用教材							^
「大学新入生のための物理入門（廣岡 秀明著、共立出版）」及び自作スライドを使用する。							
評価方法							^
中間試験（50％）および期末試験（50％）の総合結果で評価し、60％以上を合格とする。							
課題・評価に対するフィードバック方法							^
中間および期末試験は記述式として、評価のポイントを解説する。							
オフィスアワー							^
質問はメールで受け付ける。 研究室：1号館314							
メールアドレス（#→@）							^
takahashi-d#takasaki-u.ac.jp							
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	導入	1,2,3	教科書p.1～5を読む。	1.5h	配布資料を理解する。	1.5h	
2	力とつり合い	1	教科書教科書p.1～4を読む。	1.5h	教科書p.1～4の問題を解く。	1.5h	
3	摩擦と弾性力	1	教科書p.4～9を読む。	1.5h	教科書p.4～9の問題を解く。	1.5h	
4	モーメントと圧力	1	教科書p.13～17を読む。	1.5h	教科書p.13～17の問題を解く。	1.5h	
5	液体による圧力、運動の法則仕事量と仕事率	1	教科書p.17～20を読む。	1.5h	教科書p.17～20の問題を解く。	1.5h	
6	物体の運動	1	教科書p.23～29を読む。	1.5h	教科書p.23～29の問題を解く。	1.5h	
7	等加速度直線運動 熱と温度	2	教科書p.29～31、34～38を読む。	1.5h	教科書p.29～38の問題を解く。	1.5h	
8	中間まとめ	1,2	7回目までの講義内容を確認する。	1.5h	7回目までの講義のポイントを整理する。	1.5h	
9	エネルギー 音波、ドップラー効果	2	教科書p.73～78を読む。	1.5h	教科書p.73～78の問題を解く。	1.5h	
10	仕事率、エネルギーと熱	2	教科書p.78～79、81～89、102～103を読む。	1.5h	教科書p.78～79、81～89、102～103の問題を解く。	1.5h	
11	熱平衡と熱容量、波	2	教科書p.104～108、120～121を読む。	1.5h	教科書p.104～108、120～121の問題を解く。	1.5h	
12	波面と音波、ドップラー効果	2	教科書p.122～124、132～146、151～153を読む。	1.5h	教科書p.122～124、132～146、151～153の問題を解く。	1.5h	
13	光波、静電場	2	教科書p.157～162、179～187を読む。	1.5h	教科書p.157～162、179～187の問題を解く。	1.5h	
14	電流と磁場	2	教科書p.190～193、200～203を読む。	1.5h	教科書p.190～193、200～203の問題を解く。	1.5h	
15	全体まとめ	1,2,3	講義全体で実施した内容を確認する。	1.5h	講義全体を通して重要なポイントを整理する。	1.5h	

合計時間（予習・復習）



45h

備考



本講義では、自ら考えて物理学を理解してもらうため必ず予習と復習に取り組むこと。

オンラインで実施する場合、成績は毎週提出してもらうレポートで評価（100%）し、60%以上で合格とする。なお、毎週のレポート提出をもって当該講義に出席したものとする。

印刷 

生物学基礎

MYカモクに追加

英文名 : Biology Basis

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : HII104

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂井 隆浩

履修を必須とする資格

診療情報管理士 選択科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

生物学の基本的な知識を修得するために「細胞の機能」「多細胞生物のからだ」「タンパク質・糖・脂質」「遺伝」「遺伝情報とその発現」「エネルギー代謝と物質代謝」「生体内の情報伝達」「免疫」などについて学習する。

②講義の実施方法

講義の最初に前回の復習、講義の最後に練習問題を実施することによって理解度を高める。

到達目標

- 1.細胞の構造や機能について説明できる。
- 2.動物のからだの構造や組織や器官の働きについて説明できる。

- 3.生命活動を支える分子の構造や役割について説明できる。
- 4.遺伝子の構造と機能について説明できる。
- 5.生命活動に必要なエネルギーの産生について説明できる。
- 6.生体内の情報伝達機構について説明できる。
- 7.免疫のしくみについて説明できる。

使用教材

^

教科書： 「ZEROからの生命科学」（南山堂）、 他に随時プリントを配布する。

評価方法

^

定期試験の成績により評価する（100％）。評価基準の詳細は初回講義時に説明する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

定期試験後に、解答を掲示すると同時に、指定した期間内に必要に応じて個別にフィードバックをおこなう。講義で実施した練習問題については、講義の中で解説する。

オフィスアワー

^

木曜2限（7号館203研究室・坂井）

メールアドレス（#→@）

^

sakai#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	細胞の構造と機能 ① 細胞の多様性	1	細胞の多様性について、教科書5頁～10頁を読んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考に して、講義内容の要点をま とめておく。	1.5h
2	細胞の構造と機能 ② 細胞の基本構造とその はたらき	1	細胞の構造とはたらきについ て、教科書10頁～25頁を読 んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考に して、講義内容の要点をま とめておく。	1.5h
3	動物の組織と器官	2	動物のからだの構造につい て、教科書27頁～38頁を読 んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考に して、講義内容の要点をま とめておく。	1.5h
4	からだを作る物質 ① タンパク質	3	タンパク質について、教科書 29頁～54頁を読んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考に して、講義内容の要点をま とめておく。	1.5h
5	からだを作る物質 ② 糖質	3	糖質について、教科書55頁～ 71頁を読んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考に して、講義内容の要点をま とめておく。	1.5h
6	からだを作る物質 ③ 脂質	3	脂質について、教科書71頁～ 77頁を読んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考に して、講義内容の要点をま とめておく。	1.5h
7	体内における物質代謝 ①消化と吸収	4	体内における物質代謝につい て、教科書78頁～88頁を読 んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考に して、講義内容の要点をま とめておく。	1.5h
8	体内における物質代謝 ②物質の代謝	4	体内における物質代謝につい て、教科書88頁～100頁を読 んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考に して、講義内容の要点をま とめておく。	1.5h
9	メンデル遺伝	5	メンデルの法則について、教 科書101頁～108頁を読んで おく。	1.5h	教科書や配布資料を参考に して、講義内容の要点をま とめておく。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	DNAの構造と複製	5	DNAの構造と複製について、教科書109頁～118頁を読んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考にして、講義内容の要点をまとめておく。	1.5h
11	遺伝子の発現とその調節	5	DNAの構造と複製について、教科書119頁～130頁を読んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考にして、講義内容の要点をまとめておく。	1.5h
12	DNA損傷と修復	5	DNA損傷と修復について、教科書131頁～137頁を読んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考にして、講義内容の要点をまとめておく。	1.5h
13	遺伝子の操作	5	遺伝子の操作について、教科書137頁～146頁を読んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考にして、講義内容の要点をまとめておく。	1.5h
14	恒常性の維持 内分泌系と神経系	6	恒常性について、教科書147頁～156頁を読んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考にして、講義内容の要点をまとめておく。	1.5h
15	生体の防御 免疫系	7	免疫について、教科書163頁～171頁を読んでおく。	1.5h	教科書や配布資料を参考にして、講義内容の要点をまとめておく。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



本講義は可能な限り、対面型の講義をする予定であるが実施するが、オンライン形式に変更する場合もある。

印刷



化学基礎

MYカモクに追加

英文名：Chemical Basis

科目区分：専門導入科目

科目ナンバリング：HII105

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

10 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

永井 俊匡

履修を必須とする資格

診療情報管理士 選択科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生命現象の多くは化学的な知識で説明できる。本科目では化学の基礎（物理化学・無機化学・有機化学）を学び、医療や環境を理解するために必要な化学の知識を修得する。

②板書等をノートにとる機会が多い。

到達目標

- 1.原子と分子の構造について、化学的に説明できる。
- 2.物質量の概念を用いて、量的計算ができる。
- 3.中和反応、酸化還元反応について、説明できる。
- 4.酵素の働きを、説明できる。

- 5.糖質の構造的特徴を説明できる。
- 6.単純脂質と複合脂質の性質を説明できる。
- 7.タンパク質の構造を説明できる。
- 8.DNA・RNAの構造を説明できる。

使用教材

^

「生理学・生化学につながる ていねいな化学」 白戸亮吉・小川由香里・鈴木研太・著
羊土社、2020年、2,200円。
基本的にテキストに沿って授業を進める。補足の必要な内容については、適宜プリントを配布する。

評価方法

^

筆記試験 「70%」
毎回のミニレポート 「30%」

課題・評価に対するフィードバック方法

^

筆記試験の答案および正答は、試験実施後に返却する。
ミニレポートは、必要に応じてコメントを返答する。

オフィスアワー

^

月曜2限（農学部4階・動物生命科学研究室）

メールアドレス（#→@）

^

tnagai#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、物質の構成	1	教科書の第1章[1]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
2	原子構造と周期表	1	教科書の第1章[2]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
3	イオン結合、金属結合	1	教科書の第2章[1], [3]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
4	共有結合	1	教科書の第2章[2]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
5	原子量、分子量、式量	1,2	教科書の第3章[1]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
6	物質質量と化学反応式	2	教科書の第3章[2]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
7	酸と塩基	3	教科書の第4章[1]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
8	酸化還元反応	3	教科書の第4章[2]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
9	酵素反応	4	教科書の第5章[1]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
10	体液の酸塩基平衡	3,4	教科書の第5章[2]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
11	有機化合物	5,6,7,8	教科書の第6章[1]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
12	糖質	5	教科書の第6章[2]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	脂質	6	教科書の第6章[3]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
14	タンパク質	7	教科書の第6章[4]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h
15	核酸	8	教科書の第6章[5]を精読し、章末問題を解く。	1.5h	授業中に指示された観点に基づき、ミニレポートをまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- ・オンライン講義となった場合は、オンデマンドの動画を主とする。詳細は第1回の講義日または適宜連絡する。
- ・キーワード：原子と分子、物質量、中和、酸化還元、糖質、脂質、タンパク質、核酸、代謝、電解質。

印刷



医療概論（医学英語 I を含む）

MYカモクに追加

英文名：Introduction to Medicine & Medical English I

科目区分：専門導入科目

科目ナンバリング：HII106

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 輝彦

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

各講義後に復習問題を課し、理解度を確認するほか、各自の解答に対し次回講義時にコメントを行い知識の定着を図る。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①医学の体系、医学の歴史、医学倫理、医療制度など医学・医療に関する包括的な事項、および、英語による医学用語の表現法を理解する。

②医の倫理、医学の進歩と現代医学の特徴等について、実務経験を含めて解説する。医学英語では、各自に課題を課し他者の前で自ら発表する方式も取り入れる。

到達目標 ^

- 1.医学の体系、医学の歴史について概要を説明できる。
- 2.医療と社会の関わり、医療の倫理、医療制度を理解する。■
- 3.医学英語に関して、英語で表記された基本的な医学用語を日本語に訳することができる。

使用教材 ^

テキスト：
①診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」第8版 日本病院会
②診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅱ（基礎・医学用語編）」第8版 日本病院会
参考図書：
③学生のための医療概論 第4版 医学書院

評価方法 ^

期末試験80%、レポート、ミニテスト、授業参加度を20%として、合計60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

講義の際のミニテストでは、実施後に出題の意図、問題に対する模範解答を解説する。

オフィスアワー ^

質問等はメールで受け付ける。

メールアドレス（#→@） ^

sakamoto-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医学の体系（基礎医学、臨床医学、予防医学）、および社会と医療	1,2	テキスト①の3-6ページに目を通す。	1. 5h	基礎医学、臨床医学、予防医学の役割、それぞれの分野の学問体系を理解する。また、医療と社会の関わりについての重要事項を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
2	医学の歴史（1）ギリシャ、ローマ、中世、中国の医学	1	テキスト①の6-9ページ、③の2-5、104-109、164-167ページに目を通す。	1. 5h	ギリシャ、ローマ、中世の有名な医学者の名前と業績を覚え、復習問題を解く。	1. 5h
3	医学の歴史（2）近代の医学（ルネッサンスから19世紀はじめまで）	1	テキスト①の9-11ページ、③の104-110ページに目を通す。	1. 5h	今回登場した有名な医学者の名前と業績を覚え、復習問題を解く。	1. 5h
4	医学の歴史（3）19世紀の医学	1	テキスト①の11-12ページ、③の104-110、113-114ページに目を通す。	1. 5h	19世紀の有名な医学者の名前と業績を覚え、復習問題を解く。	1. 5h
5	医学の歴史（4）20世紀の医学	1	テキスト①の12-14ページ、③の104-116ページに目を通す。	1. 5h	20世紀の有名な医学者の名前と業績を覚え、復習問題を解く。	1. 5h
6	医学の歴史（5）現代の医学（治療医学および検査・診断	1	テキスト①の16-18ページ、③の136-143ページ	1. 5h	現代までに大きく発展を遂げた診断法、検査法、治療法の	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	学の進歩) ■		に目を通す。		概略を理解し、復習問題を解く。	
7	医学の歴史 (6) わが国の医学の歴史	1	テキスト①の18-21ページ、③の104-107、109-116ページに目を通す。	1. 5h	わが国の医学の歴史、特に明治期以降の発展を理解し、医学研究において医学者の成し遂げた先端的研究業績について学び、復習問題を解く。	1. 5h
8	医の倫理 (医療人の遵守すべき倫理規範、臨床医学研究の在り方など) ■	2	テキスト①の27-33ページ、③の2-19、173-181ページに目を通す。	1. 5h	医療倫理規範、倫理綱領、脳死と臓器移植、インフォームド・コンセントなどについて理解し、復習問題を解く。	1. 5h
9	社会保障制度と医療制度	2	テキスト①の42-50ページ、③の202-207、221-230ページに目を通す。	1. 5h	わが国の社会保証制度の全体像、国民総医療費の現状、医療保険制度、およびそれらの問題点について理解し、復習問題を解く。	1. 5h
10	現代の医療法規、健康提言、パンデミックとの闘いなど ■	2	テキスト①51-61ページ、③62-102、118-125、208-220、258-274ページ通読。	1. 5h	現代医療法規や健康提言を理解し、パンデミックの歴史を知り、復習問題を解く。	1. 5h
11	医学英語 I (1) 造語の基本	3	テキスト②の1-2ページを精読する。	1. 5h	医学用語の構成を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
12	医学英語 I (2) 語根、接頭語	3	テキスト②の1-10ページを精読する。	1. 5h	基本となる語根、接頭語、接尾語を理解して覚え、復習問題を解く。	1. 5h
13	医学英語 I (3)、接尾語	3	テキスト②の6-9ページを精読する。	1. 5h	基本となる接尾語を理解して覚え、復習問題を解く。	1. 5h
14	1-13回の講義の振り返り、重要事項を含む例題問題の出題と学生がグループワークにより例題問題の解答を行い、その都度解説を行う。	1, 2, 3	テキスト、授業教材をもう一度見直し、例題問題が解答できるように準備する。	1. 5h	テキストや例題解説の見直し、期末試験に備える。	1. 5h
15	まとめ	1, 2, 3	テキスト、講義教材等を利用して1-14回の講義の内容を復習し、特に講義中に強調された点について理解を深め、終了試験に備える。	1. 5h	C-Learningの解説を参考にしながら終了試験を復習し、まとめ、重要事項の解説で示されたすべての事項を理解したことを確認する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

情報セキュリティ I

MYカモクに追加

英文名：Cyber Security I

科目区分：専門導入科目

科目ナンバリング：HII107

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松尾 仁司

科目に関連した実務経験

情報系企業で医療情報システムの研究開発に従事（経験）

保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）運営幹事（経験）

履修を必須とする資格

情報セキュリティマネジメント(SG)対応科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①デジタル社会の発展に伴い、基盤となる情報システムの安全確保や個人情報の保護など情報セキュリティは益々重要になっている。本講義では情報ネットワークにおける脅威の理解と情報セキュリティ技術と対策、システム運用の方法を体系的に学ぶ。

②講義の中で小テストを実施し理解度の確認と解答の理解による再学習を行う。

到達目標							^
1.情報セキュリティの基本知識を習得することができる。■ 2.保健医療分野で必要とされる情報セキュリティに関する知識を習得することができる。■							
使用教材							^
情報セキュリティマネジメント合格教本（最新版）（株）技術評論社							
評価方法							^
期末試験の成績60%、授業中の小テスト40%で評価。 総合評価60%以上を合格とする。							
課題・評価に対するフィードバック方法							^
小テストは次回の授業で解説を行う。							
オフィスアワー							^
水曜日3限 （研究室：1号館6階607室）							
メールアドレス（#→@）							^
matsuo#takasaki-u.ac.jp							
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	導入：情報セキュリティ	1	教科書の目次と1-1を熟読する。	1h	教科書1-1の演習問題を解く。	2h	
2	情報資産・脅威・脆弱性	1	教科書1-2を熟読する。	1.5h	教科書1-2の演習問題を解く。	1.5h	
3	サイバー攻撃手法	1	教科書1-3を熟読する。	1.5h	教科書1-3の演習問題を解く。	1.5h	
4	暗号	1	教科書1-4を熟読する。	1.5h	教科書1-4の演習問題を解く。	1.5h	
5	認証■	1	教科書1-5を熟読する。	1.5h	教科書1-5の演習問題を解く。	1.5h	
6	マルウェア対策	1	教科書3-1を熟読する。	1.5h	教科書3-1の演習問題を解く。	1.5h	
7	ネットワークの基礎	1	教科書5-1-1～5-1-7を熟読する。	1.5h	教科書5-1の関連演習問題を解く。	1.5h	
8	不正アクセス対策	1	教科書5-1-8～5-1-10、3-2を熟読する	1.5h	教科書5-1、3-2の関連演習問題を解く。	1.5h	
9	情報漏洩対策とアクセス管理	1	教科書3-3～3-4を熟読する	1.5h	教科書3-3～3-4の演習問題を解く。	1.5h	
10	リスクマネジメント■	1,2	教科書2-1を熟読する。	1.5h	教科書2-1の演習問題を解く。	1.5h	
11	セキュリティポリシ■	1,2	教科書2-2を熟読する。	1.5h	教科書2-2の演習問題を解く。	1.5h	
12	人的対策とシステム監査■	1,2	教科書3-5、2-6を熟読する。	1.5h	教科書3-5、2-6の演習問題を解く。	1.5h	
13	情報セキュリティ関連法規とガイドライン■	1,2	教科書4-2,4-3,2-3を熟読する。	1.5h	教科書4-2,4-3,2-3の演習問題を解く。	1.5h	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	経営とセキュアシステム ■	1,2	教科書6-1, 6-2を熟読する。	1.5h	教科書6-1, 6-2の演習問題を解く。	1.5h
15	全体まとめ	1,2	講義全体を通して重要なポイントを確認する。	1.5h	演習問題を復習し理解を確実にする。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



プログラミング I (Cプログラミング基礎)

MYカモクに追加

英文名 : Programming I (C Programming Foundation)

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : HII108

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 孝

科目に関連した実務経験

SEとして情報通信企業に勤務（経験）

履修を必須とする資格

基本情報技術者試験対応科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①プログラミング言語としてC言語を用い、基本的なプログラミング技法を習得することを目的とする。毎回5～10題程度の小課題に取り組み、ステップアップ学習方式で多くの課題をこなすことにより、プログラミングにおける様々な手法を身につける。

②講義テーマごとに教員が作成したプリントを使い、各回、前半は例題の説明を行い、後半は例題を参考にしながら各自課題に取り組む形式で進める。課題は毎回5～10題程度あるので、授業内にできなかった分も含めて、次回授業までに仕上げて提出する。

到達目標



- 1.プログラミングに必要なPC環境と操作方法について理解できる。
- 2.入力した数値に演算を施して適切な結果を出力することができる。■
- 3.条件によって処理を振り分けて適切な結果を出力することができる。■
- 4.繰り返し処理を行って適切な結果を出力することができる。■
- 5.複数の数値を処理して合計値・平均値・最大値・最小値・公倍数・公約数等を求めることができる。■

使用教材



自作のプリント

評価方法



課題提出状況（60%）、試験（20%）、授業における学習姿勢（20%）により評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



課題の解答例を提示し、解説する。

オフィスアワー



火曜日4時限と5時限

メールアドレス（#→@）



sakamoto#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	プログラミング環境と基本操作	1	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	3h
2	文字列の表示 ■	1,2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
3	変数の表示と演算 ■	1,2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
4	キーボードからの数値入力 ■	1,2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
5	条件分岐処理① if文 ■	1,2,3	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
6	条件分岐処理② if文のネスティング ■	1,2,3	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
7	反復処理① while文 ■	1,2,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
8	反復処理② while文を使った一覧表出力 ■	1,2,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
9	合計計算 ■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
10	最大値・最小値 ■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
11	まとめ問題と復習	1,2,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
12	前回までの内容に関する確認テスト	1,2,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	反復処理① for文 ■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
14	反復処理② for文を使った応用 ■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
15	特別課題とりくみ ■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



予習・復習についての時間は参考程度であり、単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



Webデザイン I

MYカモクに追加

英文名 : Web Design I (Introduction to Web Design)

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : HII109

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田村 拓郎、長澤 亨

履修を必須とする資格

Webクリエイタ認定試験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①ネットワークで情報を発信する場合には、ホームページに関する知識が必要であり、きめ細やかなサイトを作成に基礎となるHTML5の知識を修得する。特にHTMLのタグの利用方法、CSSの記述方法を学習して、基本的なWebサイトを作成できる能力を身につける。

②授業の進め方は、指定教科書を基本に授業を進め、単元毎に演習問題を解き知識の定着を図る。最終段階では総合的な知識の定着度を確認するために総合問題を解く。

到達目標

- 1.HTMLとCSSについて説明できる。
- 2.HTMの記述方法、一般定義を記述できる。

- 3.HTMLの仕切り、文字修飾、イメージ、作表、リンクを記述できる。
- 4.CSSの記述方法、スタイル関連のHTMLタグを記述できる。
- 5.CSSによるテキスト、フォント、背景、ボックス、配置、疑似クラス、IDを記述できる。

使用教材

^

HTML5&CSS3標準デザイン講座 30LESSONS
ISBN978-4-7981-5813-6

評価方法

^

定期試験40%、課題提出40%、授業の参加度20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

提出物（ファイル）の内容が、求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し、その結果を学生に伝え、必要に応じ、再提出を求める。

オフィスアワー

^

火曜日の3時限、4時限
質問はメールでも受け付ける。
研究室：1号館6階604

メールアドレス（#→@）

^

tamura-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、HTML文章とは	1,2	LESSON1～2を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
2	文章構造、絶対パスと相対パス	2,3	LESSON3～6を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
3	表組み	2,3	LESSON11を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
4	リンクの設定	2,3	LESSON4を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
5	CSSの基本書式	4	LESSON5～7を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
6	CSSを用いた基本的な文章の装飾	4,5	LESSON5～7を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
7	ボックスの設定	2,3,4,5	LESSON5～8を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
8	背景画像を用いた装飾	2,3,4,5	LESSON8を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
9	floatレイアウト	2,3,4,5	LESSON10、13を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
10	疑似クラス、displayプロパティ	2,3,4,5	LESSON7、10を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
11	フォームの設置	2,3,4,5	LESSON11を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
12	CSSを指定したWebページの作成練習1	2,3,4,5	CHAPTER1～3を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	CSSを指定したWebページの作成練習2	2,3,4,5	CHAPTER1～3を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
14	デザインを指定したWebページの作成練習1	2,3,4,5	CHAPTER1～3を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
15	デザインを指定したWebページの作成練習2	2,3,4,5	CHAPTER1～3を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷 

情報システム概論

MYカモクに追加

英文名 : Overview of Information System

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : HII110

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 真悟

履修を必須とする資格

ITパスポート

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に授業内容の振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①IT化の進む社会において、情報システムは必要不可欠なものである。医療機関や一般企業内にも様々な情報システムがあり、それらを結ぶ大規模なシステムも存在する。これらの基本的な知識を学ぶとともに、情報システムを通して情報技術の知識を習得する。

②本講義はテキストおよび資料を用いて進めていく。また、毎回C-Learningを用いてテストを実施する。

到達目標

- 1.企業と法務に関する基本的な知識を取得する
- 2.経営戦略、システム戦略に関する基本的な知識を取得する
- 3.開発技術やマネジメントに関する基本的な知識を取得する
- 4.コンピュータシステムに関する基本的な知識を取得する

使用教材

^

ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集（FOM出版）、最新版を使用する。

評価方法

^

授業毎のテスト90%、授業への取り組み10%。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小テストの正答率が低い箇所などをフィードバックする。

オフィスアワー

^

火曜日 3時限、4時限
（1号館6階612研究室）
質問はメールでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）

^

takahashi-shin#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	教科書の目次とシラバスを熟読し、勉強の進め方についても理解する	1.5h	講義の概要、目的、評価方法を理解する。	1.5h
2	企業活動の基礎	1	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
3	法務の基礎	1	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
4	経営戦略、技術戦略の基礎	2	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
5	システム戦略の基礎	2	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
6	開発技術の基礎	3	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
7	プロジェクトマネジメントの基礎	3	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
8	サービスマネジメントの基礎	3	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
9	システム構成要素の基礎	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
10	ハードウェアの基礎	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
11	ソフトウェアの基礎	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
12	ネットワークの基礎	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
13	ユーザ・インタフェースの基礎	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	セキュリティの基礎	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
15	最新テクノロジー	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

講義では、大学が推奨する性能のPCを使用する。
※オンラインでの実施となった場合、各講義の課題提出をもって出席とする。

印刷

Early Exposure

MYカモクに追加

英文名 : Early Exposure

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : HII111

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

3 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

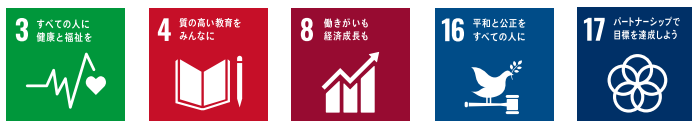
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

学科全教員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会人として必要とされる基礎知識やマナーなどを身につけるとともに、将来の進路を考えるための礎を築く。また、接遇や礼儀作法、一般常識、資料作成などの病院実習やインターンシップに必要な知識と技能を身につける。

②講義は、オムニバス形式で、将来の社会人生活に必要な知識や技能、接遇や礼儀作法、一般常識、表現方法を学ぶ。卒業生ゲストスピーカによる講演を予定。

到達目標

1. 一般常識を身につけることができる。
2. コミュニケーション能力を身につけることができる。
3. 社会人としてのマナーを身につけることができる。
4. 論理的な思考能力を身につけることができる。

使用教材

講義資料を随時配布する。

評価方法

レポート80%、授業への参加度20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

オムニバス形式の講義であり、課題に対してはその都度担当教員がフィードバックを行う。

オフィスアワー

質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

連絡手段については、各自で教員に確認すること。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・社会人の常識	1,2,3,4	シラバスを熟読しておく。	1h	講義全体の目的とスケジュールを理解する。	2h
2	Society5.0時代に必要とされる知識と技能	1,2,3	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
3	医療事務管理士・診療情報管理士に必要とされる知識とコミュニケーション	1,2,3,4	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
4	PG・SEの業務内容、資格取得に必要な知識と技術	1,2	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
5	病院と事務系人材について	1,2	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
6	医療情報の基礎と生成AIの活用	1,2	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
7	医療機関の概要と医療制度	1,2,3	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
8	医療事務管理士と診療情報管理士の実務	1,2,3	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
9	電話対応とコミュニケーションスキル	1,2,3	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
10	企業における社会生活の基本	1,2,3	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
11	インターンシップ制度の活用	1,2,3	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
12	医療人材に必要な教養とは？	1,2,3	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
13	実地医療現場に、医療情報知識をどう活かすか	1,2,3,4	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
14	就職に向けての心構えと準備	1,2,3,4	講義資料を熟読する。	1h	講義内容を復習し、提示された課題に取り組む。	2h
15	キャリアサポートの仕組み	1,2,3,4	ゼミ毎に分かれレポートを作成する。	1h	レポートを作成する。	2h

45h

印刷 

データサイエンス I

MYカモクに追加

英文名 : Data science I (Introduction to Data Science)

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : HII112

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性と幅広い教養
- 2 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 4 問題解決力
- 1 コミュニケーションスキル
- 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

光山 訓

科目に関連した実務経験

企業において医療、産業分野のデータ分析に関連した製品・サービス開発に従事

履修を必須とする資格

データサイエンス・AI実務パスポート（選択必修）

上級データサイエンス・AI実務パスポート

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

データサイエンスは、単なる数値、記号の集まりであるデータから情報を読み取り、現実世界に役立つ判断を行うことを目的とした分野である。データの取得、蓄積、解析、モデル構築、検証、課題解決の全てを含む広範な知識が必要になる。大学4年間を通じて関連科目を学び知識を涵養する。本講義では、データから情報を読み取る際に不可欠な記述統計を中心にデータ分析の基礎知識を習得し、分析の実践力を身に着ける。

②講義の実施方法

授業は、指定教科書に基づいた講義により基礎知識の習得と理論の理解を進め、PCを利用した演習により知識の定着と実践・応用力の獲得を図る。最終段階では総合的な知識の定着度を確認するために総合演習を行う。なお、内容を理解し、スキルを身につけるためには、予習復習が必要である。

到達目標

- 1. データの種類を理解し、データの種類と分析目的に応じた適切な可視化ができる ■
- 2. 可視化したデータから、データの特徴を読み取り、その特徴の背景を考察することができる ■
- 3. 分布の形状を定量化する統計量(代表値、分散、標準偏差、5数要約等)とその特徴を説明できる
- 4. 分布の特徴を定量的に説明することができる
- 5. 2変数の関連性を、相関係数を用いて説明することができる
- 6. 回帰分析について説明することができる ■
- 7. 確率の基本的性質について説明できる

使用教材

「データの分析」日本統計学会編、東京図書、ISBN978-4-489-02332-3
講義資料・演習教材は随時プリントして配布またはネット配信する。

評価方法

総合演習80%、授業への参加度20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎週演習を行い、授業中に解き方を説明する。誤りの多かった箇所については、気を付けるべきポイントを翌週フィードバックする。

オフィスアワー

火曜日2限、木曜日2限
質問はメールでも受け付ける。
1号館6階602研究室

メールアドレス（#→@）

mitsuyama#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	本講の概要、データサイエンスとは何か、データの種類	1	高校の「データの分析」を復習し、教科書の「1.1データの種類」を読む。	1.5h	講義資料を読み、復習する。	1.5h
2	質的データの集計と可視化	1, 2	教科書「1.2 質的変数の要約」「1.3 グラフによるデータの要約」「1.4 グラフ表現の工夫と注意点」を読む	1.5h	講義資料を読み、復習する。	1.5h
3	時系列データの可視化■	1, 2	教科書「1.5 時系列データの要約」「1.6 時系列グラフ作成上の注意点」を読む。	1.5h	講義資料を読み、復習する。	1.5h
4	度数分布とヒストグラム■	1, 2	教科書「2.1 度数分布表の作成」「2.2 ヒストグラムと度数分布多角形」「2.3 分布の特徴の把握」を読む	1.5h	講義資料を読み、復習する。	1.5h
5	分布の位置を表す代表値	3, 4	教科書「3.1 位置に関する代表値」「A.1 総和記号Σ」を読む。	1.5h	講義資料を読み、復習する。	1.5h
6	5数要約と箱ひげ図	3, 4	教科書「2.4 分位数と5数要約」「2.5 データの散らばり」「2.6 箱ひげ	1.5h	講義資料を読み、復習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			図」を読む。			
7	分散と標準偏差	3, 4	教科書「3.2 観測値の散らばりの尺度」「3.3 変数の変換と平均値、分散、標準偏差」を読む。	1.5 h	講義資料を読み、復習する。	1.5 h
8	観測値の標準化とはずれ値	3, 4	教科書「3.3 変数の変換と平均値、分散、標準偏差」「3.4 探索的データ解析法と外れ値」を読む。	1.5 h	講義資料を読み、復習する。	1.5 h
9	相関と散布図	1, 2	教科書「4.1 2つの変数の相関」「4.2 層別散布図」を読む。	1.5 h	講義資料を読み、復習する。	1.5 h
10	相関係数	5	教科書「4.3 相関係数」「4.4 相関係数の注意点」「4.5 相関と因果」を読む。	1.5 h	講義資料を読み、復習する。	1.5 h
11	回帰分析■	6	教科書「5. 回帰直線と予測」を読む	1.5 h	講義資料を読み、復習する。	1.5 h
12	確率の基本的な性質	7	教科書「6.1 事象と確率」を読む。	1.5 h	講義資料を読み、復習する。	1.5 h
13	反復試行と条件付き確率	7	教科書「6.2 事象の独立性と試行の独立性」「A.2 階乗、順列、組合せ」「6.3 条件付き確率」を読む。	1.5 h	講義資料を読み、復習する。	1.5 h
14	総合演習(1) Excelを使ったデータの分析	1～6	これまでの講義内容を講義資料、教科書で復習しておく。	2.0 h	理解できていなかった事柄について、講義資料、教科書で復習する。	1.0 h
15	合演習(2) 本講義全体の復習	1～7	これまでの講義内容を講義資料、教科書で復習しておく。	2.0 h	理解できていなかった事柄について、講義資料、教科書で復習する。	1.0 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

情報活用 I

MYカモクに追加

英文名 : Information Utilization I

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : HII113

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 孝

科目に関連した実務経験

SEとして情報通信企業に勤務（経験）

履修を必須とする資格

J検情報活用試験対応科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回、講義内容が理解できているかを確認するためのテストを実施・採点・返却を行い、誤回答が多かった問題に対する解説・質疑応答を行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①IT社会においてコンピュータを真に活用するためには、ただ単にコンピュータの操作ができるだけでなく、その背景となる技術を理解することが必要不可欠である。「情報活用」の前編である本講義では、情報活用に関する基礎知識を習得し、

コンピュータ内でのデータの扱いや構成装置の機能等について学ぶ。
②各講義において、最初に前回授業内容の確認テストを実施、その後、各回テーマについて教員が作成したプリントを使って、説明および問題取組みを行っていく。

到達目標

1.情報関連資格の内容と意義について理解できる。
2.コンピュータのハードウェアの仕組みを説明できる。■
3.コンピュータのソフトウェアの役割を説明できる。■
4.コンピュータ内部で情報がどのように記憶・処理されているかを説明できる。■
5.現代社会におけるコンピュータの利用分野とその役割を説明できる。■

使用教材

自作のプリント

評価方法

毎回の確認テスト（80％）、検定結果（20％）により評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の確認テストは採点して翌週返却する。

オフィスアワー

火曜日4時限と5時限

メールアドレス（#→@）

sakamoto#takasaki-u.ac.jp

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義概要と情報関連資格について	1	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、様々な資格について調べる。	1.5h
2	コンピュータの歴史と種類■	2,3	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
3	コンピュータの基礎知識■	2,3	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
4	情報社会とコンピュータ■	2,5	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
5	コンピュータの構成と性能■	2	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
6	基数変換① n進数のしくみ■	4	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
7	基数変換② 2進数、8進数、16進数の相互変換■	4	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
8	文字データの表現■	4	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
9	記憶装置① 主記憶装置と補助記憶装置の分類■	2	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
10	記憶装置② ハードディスクの仕組み■	2	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
11	J検対策	2,3,4,5	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	入出力装置 ■	2	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
13	入出力インターフェース ■	2	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
14	論理演算 ■	4	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
15	まとめ ■	2,3,4,5	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



予習・復習についての時間は参考程度であり、単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



情報活用Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Information Utilization Ⅱ

科目区分：専門導入科目

科目ナンバリング：HII114

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 孝

科目に関連した実務経験

SEとして情報通信企業に勤務（経験）

履修を必須とする資格

J検情報活用試験対応科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回、講義内容が理解できているかを確認するためのテストを実施・採点・返却を行い、誤回答が多かった問題に対する解説・質疑応答を行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①IT社会においてコンピュータを真に活用するためには、ただ単にコンピュータの操作ができるだけでなく、その背景となる技術を理解することが必要不可欠である。「情報活用」の後編である本講義では、ネットワークとセキュリティを中心と

した基本知識について学ぶ。

②各講義において、最初に前回授業内容の確認テストを実施、その後、各回テーマについて教員が作成したプリントを使って、説明および問題取組みを行っていく。

到達目標

1.コンピュータ内部での演算の仕組みやファイルの扱いについて説明できる。■
2.ネットワークの基本用語について説明できる。■
3.IPアドレスの設定について理解し、自分で適切な設定できる。■
4.セキュリティ対策の基本用語について説明できる。■
5.システムの性能についての計算ができる。■

使用教材

自作のプリント

評価方法

毎回の確認テスト（80％）、検定結果（20％）により評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の確認テストは採点して翌週返却する。

オフィスアワー

火曜日4時限と5時限

メールアドレス（#→@）

sakamoto#takasaki-u.ac.jp

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	補数■	1	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、様々な資格について調べる。	1.5h
2	負の数■	1	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
3	演算のしくみ■	1	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
4	ファイルシステム■	1	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
5	ファイル形式■	1	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
6	ネットワーク① 基本用語■	2	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
7	ネットワーク② プロトコル、サーバ■	2,3	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
8	IPアドレスとサブネットマスク① ネットワーク設定の基本■	2,3	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	IPアドレスとサブネットマスク② ネットワーク設定の詳細 ■	2,3	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
10	コンピュータ犯罪とセキュリティ対策 ■	4	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
11	J検対策	1,2,3,4	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
12	バックアップ ■	4	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
13	RAIDシステム ■	4	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
14	小数の表現 ■	1,5	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h
15	システムの性能 ■	5	配布資料を読み、穴埋め部分を自分で調べる。	1h	講義での説明内容をまとめ、次回テストに備える。	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



予習・復習についての時間は参考程度であり、単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



情報活用実習

MYカモクに追加

英文名 : Information Utilization Practice

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : HII115

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

10 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 大志

履修を必須とする資格

Excel表計算処理技能認定試験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①Excelはあらゆるビジネスシーンにおいて最も活用されている表計算ソフトである。本講義では、Excelを活用して効果的に実務を行うための、高度な技術、知識を習得することを目的とする。

②講義では説明を行った後、実際にExcelファイルを操作する。

到達目標

- 1.Excel表計算処理技能認定試験3級に合格する。
- 2.Excel表計算処理技能認定試験2級に合格する。
- 3.Excel表計算処理技能認定試験1級に合格する。

使用教材

Excel表計算処理技能認定試験1・2級問題集 サーティファイ ソフトウェア活用能力認定委員会

参考文献

30時間アカデミックOffice2021 実教出版

評価方法

期末試験（100％）で評価する。また、資格合格の場合には合格級で成績を評価（100％）する。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義にて解答・解説を行なう。

オフィスアワー

質問は講義終了時及びメールで受け付ける。研究室：1号館314

メールアドレス（#→@）

takahashi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義全体のガイダンス、作業環境、基本操作	1	Excelの使用方法を確認しファイルをダウンロードする。	1h	ファイルの操作方法を確認する。	1h
2	3級実技模擬試験1	1	Excelの使用方法を確認する。	1h	課題を実施する。	1h
3	3級実技模擬試験2	1	課題を実施する。	1h	次週のファイル（練習02問題.xlsm）をダウンロードし実施する。	1h
4	2級実技練習問題1-1	2	2級知識問題を解く。	1h	実技ファイルを実施する。	1h
5	2級実技練習問題1-2	2	2級知識問題を解く。	1h	実技ファイルを実施する。	1h
6	2級実技練習問題2-1	2	2級知識問題を解く。	1h	実技ファイルを実施する。	1h
7	2級実技練習問題2-2	2	2級知識問題を解く。	1h	実技ファイルを実施する。	1h
8	2級実技練習問題3-1	2	2級知識問題を解く。	1h	実技ファイルを実施する。	1h
9	2級実技練習問題3-2	2	2級知識問題を解く。	1h	実技ファイルを実施する。	1h
10	2級実技模擬問題1-1	2	2級知識問題を解く。	1h	実技ファイルを実施する。	1h
11	2級実技模擬問題1-2	2	2級知識問題を解く。	1h	実技ファイルを実施する。	1h
12	1級実技練習問題1-1	3	1級知識問題を解く。	1h	実技ファイルを実施する。	1h
13	1級実技練習問題1-2	3	1級知識問題を解く。	1h	実技ファイルを実施する。	1h
14	1級実技練習問題2-1	3	1級知識問題を解く。	1h	実技ファイルを実施する。	1h
15	1級実技模擬問題2-2	3	1級知識問題を解く。	1h	実技ファイルを実施する。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

本講義では、学生自身のコンピュータを用いて実習を行う。

またExcelの操作方法を習得するために必ず予習と復習に取り組み、予習・復習時間の不足分は各自で実施すること。

オンラインで実施する場合であっても講義内容は変更せず、各自のPCで実施してもらう。

成績も対面と同様に評価し、出席はコメントや課題提出等で確認する。

Excel表計算処理技能認定試験（各級）に対応

印刷 

人体構造・機能論

MYカモクに追加

英文名：Structure & Function of the Human Body

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB201

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

佐藤 賢

科目に関連した実務経験

常勤医師として病院・診療所に勤務（現在）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①人体の構造と機能についての基本的事項、およびそれらの基礎的知識に基づく病気の起こるメカニズムの概要を理解する。
- ②各講義で人体の構造と機能の異常がどのような病態を生じさせるかを、実務経験を含めて解説する。

到達目標

- 1.人体を構成する細胞・組織・器官および器官系の構造と機能を理解する。
- 2.上記の知識に基づき、それらの異常がどのような病気をもたらすかを推論できる。■
- 本科目の内容を十分に理解しておくことは、臨床医学総論、および臨床医学各論Ⅰ－Ⅵを学ぶための準備として不可欠である。

使用教材 ↑

テキスト：人体の構造と機能 第6版 医歯薬出版

テキストの中から、人体の構造と機能の基本を理解するための重要事項を選んで講義する。

参考文献 ↑

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」第8版 日本病院会

評価方法 ↑

期末試験50%、レポート、ミニテスト、授業参加度等を50%として、合計60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

講義中のレポート、ミニテストでは実施直後に出題の意図、模範解答を解説する。

オフィスアワー ↑

火曜日の3時限と4時限

メールアドレス（#→@） ↑

sozawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人体の構造と機能の概要、細胞	1,2	テキストの第1章1-6ページに目を通す。	1. 5h	人体の構造と機能の概要、細胞とその構成要素、およびそれらの役割を理解する。	1. 5h
2	人体の構成、細胞を取り巻く環境とその恒常性	1,2	テキストの第1章9-15ページに目を通す。	1. 5h	細胞・組織・器官・器官系の関連、および細胞を取り巻く環境とその恒常性、特に細胞外液の浸透圧濃度の恒常性を理解する。	1. 5h
3	遺伝子のはたらき	1,2	テキストの第1章6-9ページに目を通す。	1. 5h	遺伝子、DNAの複製、タンパク質合成の分子メカニズムを理解する。	1. 5h
4	骨格系・骨格筋系（1） 身体の区分、運動の方向、姿勢、骨格、骨と関節の構造	1,2	テキストの第2章17-44ページに目を通す。	1. 5h	身体の区分と表示法、骨格とその構成要素である骨と関節の構造を理解する。	1. 5h
5	骨格系・骨格筋系（2） 骨格筋の構造と機能	1,2	テキストの第2章44-63ページに目を通す。	1. 5h	骨格筋の構造と収縮メカニズムを理解する。主要な骨格筋の名称を覚える。	1. 5h
6	神経系の構造と機能（1） ニューロン、グリア、シナプス	1,2	テキストの第3章71-80ページに目を通す。	1. 5h	神経線維およびシナプスにおける情報伝達のメカ	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					二ズムを理解する。	
7	神経系の構造と機能（2） 中枢神経系（脳と脊髄）	1,2	テキストの第3章80-99ページに目を通す。	1. 5h	脳と脊髄の構造、および脳の区分と各部位の機能の概要を理解する。	1. 5h
8	神経系の構造と機能（3） 末梢神経系（体性神経系、自律神経系）	1,2	テキストの第3章99-113ページに目を通す。	1. 5h	体性神経系と自律神経系の区分、およびそれらの構造と機能を理解する。	1. 5h
9	循環器系の構造と機能 ■	1,2	テキストの第5章149-183ページに目を通す。	1. 5h	心臓と血管の構造と機能を理解する。特に、心臓弁の名称と機能、興奮伝導系、心電図、冠循環について時間をかけて復習する。	1. 5h
10	血液・体液	1,2	テキストの第6章187-203ページと第7章206-213ページに目を通す。	1. 5h	血液組成、血液凝固、血液型、体液区分、体液の恒常性（浸透圧、電解質組成、酸塩基平衡など）について理解する。	1. 5h
11	呼吸器系の構造と機能 ■	1,2	テキストの第9章233-256ページに目を通す。	1. 5h	呼吸器の構造、換気とガス交換のメカニズム、呼吸調節について理解する。	1. 5h
12	消化器系の構造と機能	1,2	テキストの第10章259-284ページに目を通す。	1. 5h	消化器系の構造、および胃、小腸、大腸、肝臓、膵臓、胆嚢の機能を理解する。	1. 5h
13	泌尿器系の構造と機能	1,2	テキストの第11章305-321ページに目を通す。	1. 5h	泌尿器系の構造、および腎臓において尿が生成される過程を理解する。	1. 5h
14	内分泌系とホルモン。および1-14回の講義の内容のうちで重要な事項を指摘する。特に、心と身体の不調がどのような人体構造と機能の異常によって生じるのかを具体例を挙げて説明する。	1,2	テキストの第12章323-348ページに目を通す。	1. 5h	内分泌の定義を理解し、主要なホルモンの名称、化学構造、機能を覚える。および1-14回の講義で指摘された重要事項の理解度を確認する。	1. 5h
15	まとめ、重要事項の解説	1,2	テキストおよび配布された講義教材を利用して1-14回の講義の内容を復習して、特に講義中に強調された重要事項について理解を深める。	1. 5h	まとめ、重要事項の解説で示された事項のすべてを理解したことを確認する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

臨床医学総論

MYカモクに追加

英文名 : Outline of Clinical Medicine

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB202

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

8 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 輝彦

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

各講義後に復習問題を課し、理解度を確認するほか、次回講義時にコメントを行い知識の定着を図る。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①病気の原因・診断・検査と治療の概要、先天奇形・染色体異常、および損傷・中毒・その他の外因が人体にもたらす影響を習得する。

②各講義で病気の分類、症状、検査、治療について実務経験を含めて解説する。C-learningで毎回復習問題を出題し、講義終了後にC-learning上でその都度解説を行う。

到達目標 ↑

- 1.病気の主な原因とその際に起こる人体の組織・器官の変化の概要を説明できる。
- 2.病気の診断と治療がどのように行われるか、および病気の診断と治療の過程で行われる多種類の検査のもつ意義を説明できる。■
- 3.先天奇形、主な染色体異常症候群、および損傷・中毒・その他の外因が人体にもたらす影響を説明できる。

使用教材 ↑

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」第8版 日本病院会

参考文献 ↑

学生のための医療概論 第4版 医学書院、「病気がみえる」シリーズ MEDIC MEDIA社、
人体の構造と機能 第5版 医歯薬出版

評価方法 ↑

期末試験80%、レポート、ミニテスト、授業参加度等を20%として、合計60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

各講義の際に毎回出題する復習問題は、各講義終了後にC-learning上で解説を行う。
期末試験は全般理解度を確認し、試験後にC-learning上で解説を行う。

オフィスアワー ↑

質問等はメールで受け付ける。

メールアドレス（#→@） ↑

sakamoto-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康と疾病、疾病の原因（1）	1	テキスト113-114ページ、医療概論62-81ページに目を通す。	1. 5h	健康と疾病の言葉の定義、病気の原因を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
2	疾病の原因（2）	1	テキスト114-119ページ、医療概論82-90ページに目を通す。	1. 5h	病気の原因を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
3	組織・臓器の病理学的変化、病気の診断、治療の方針	1	テキストの121-122ページと134-136ページに目を通す。	1. 5h	組織・臓器の病理学的変化、病気の診断方法および治療方針を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
4	検査所見	1,2	テキストの123-134ページに目を通す。	1. 5h	さまざまな検査の概要を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
5	先天奇形：神経系、眼、耳、顔面、頸部、呼吸器系の奇形	3	テキストの137-143ページに目を通す。	1. 5h	神経系、眼、耳、顔面、頸部、呼吸器系の奇形を理解し、復習問題を解く。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	先天奇形：消化器系、生殖器、腎・尿路系、筋骨格系の奇形	3	テキストの144-150ページに目を通す。	1. 5h	消化器系、生殖器、腎・尿路系、筋骨格系の奇形を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
7	染色体異常	3	テキストの151-152ページに目を通す。	1. 5h	染色体異常の定義、疾患について理解し、復習問題を解く。	1. 5h
8	損傷（1）皮膚、筋・腱、血管、靱帯など軟部組織の損傷 ■	3	テキストの153-155ページに目を通す。	1. 5h	皮膚、筋・腱、血管、靱帯など軟部組織の損傷の概要を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
9	損傷（2）頭部、頸部、胸部の損傷	3	テキストの156-160ページに目を通す。	1. 5h	頭部、頸部、胸部の損傷の概要を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
10	損傷（3）腹部、下背部、腰椎、骨盤部の損傷 ■	3	テキストの161-165ページに目を通す。	1. 5h	腹部、下背部、腰椎、骨盤部の損傷の概念について理解し、復習問題を解く。	1. 5h
11	損傷（4）肩、四肢の損傷	3	テキストの165-178ページに目を通す。	1. 5h	肩、四肢の損傷の概念について理解し、復習問題を解く。	1. 5h
12	薬物による中毒、非薬物の毒作用（1） ■	3	テキストの178-185ページに目を通す。	1. 5h	薬物による中毒、非薬物の毒作用（1）の概要を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
13	非薬物の毒作用（2）	3	テキストの185-193ページに目を通す。	1. 5h	非薬物の毒作用（2）の概要を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
14	1-13回の講義の振り返り、重要事項を含む例題問題の出題と学生がグループワークにより例題問題の解答を行い、その都度解説を行う。	3	テキスト、C-learning上の講義資料を利用して1-13回の講義内容を復習する。特に授業中に強調された点について理解を深める。	1. 5h	例題、まとめ、重要事項の解説で示された項目を見直し、理解する。	1. 5h
15	まとめ	1, 2,3	復習問題、例題問題、講義資料により講義内容の復習をし、期末試験の準備を行う。	1. 5h	C-learningの解説を参考にしながら期末試験を復習し、まとめ、重要事項の解説で示された事項のすべてを理解したことを確認する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

臨床医学各論 I (感染症・寄生虫・血液)

MYカモクに追加

英文名 : Clinical Medicine I (Infection, Blood etc.)

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB203

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

8 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 輝彦

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務 (現在)

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
			○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

各講義後に復習問題を課し、理解度を確認するほか、次回講義時にコメントを行い知識の定着を図る。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①病原微生物による疾患、および血液疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などについて、基本的な知識を習得する。

②各講義で病気の分類、症状、検査、治療について実務経験を含めて解説する。各講義で毎回復習問題を出題し、講義終了

後にC-learningにて解説を行う。

到達目標

- 1.病原微生物による疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項を説明できる。■
- 2.血液疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項を説明できる。■

使用教材

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」第8版 日本病院会

参考文献

「病気がみえる」シリーズ MEDIC MEDIA社
免疫・膠原病・感染症編第2版、血液編第2版

評価方法

期末試験80%、レポート、ミニテスト、授業参加度等を20%として、合計60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

各講義の際に毎回出題する復習問題については、各講義終了後C-learningにて解説を行う。終了試験では、全般理解度を確
認し、試験後にC-learningでまとめの解説を行う。

オフィスアワー

質問等は電子メールで受け付ける。

メールアドレス（#→@）

sakamoto-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	感染症総論（1） 病原微生物の種類、検査など	1	テキストの197-200ページに目を通す。	1. 5h	感染症の発生するメカニズムや検査法などを理解し、復習問題を解く。	1. 5h
2	感染症総論（2） 治療、予防など■	1	テキストの199-201ページに目を通す。	1. 5h	感染症の治療と予防を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
3	腸管感染症■	1	テキストの202-206ページに目を通す。	1. 5h	腸管感染症の概要を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
4	結核および非結核性抗酸菌症■	1	テキストの207-209、213、214ページに目を通す。	1. 5h	結核および非結核性抗酸菌症を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
5	人獣共通感染症、種々の感染症	1	テキストの210-221ページ目を通す。	1. 5h	呼吸器および人獣共通感染症の概略を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
6	性感染症、スピロヘータなど	1	テキストの225-233ページに目を通す。	1. 5h	性感染症、スピロヘータの概略を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
7	ウイルス感染症 総論、種々のウイルス感染症	1	テキストの234-240ページに目を通す。	1. 5h	ウイルス感染症総論および代表的ウイルス疾患を理解し、復習問題を解く。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	ウイルス肝炎、HIV、その他ウイルス疾患	1	テキストの244-252ページに目を通す。	1. 5h	ウイルス肝炎、HIVおよび関連感染症を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
9	真菌症、原虫疾患、寄生虫疾患など■	1	テキストの253-262ページに目を通す。	1. 5h	真菌症、原虫疾患、寄生虫疾患などを理解し、復習問題を解く。	1. 5h
10	血液疾患総論	2	テキストの319-325ページに目を通す。	1. 5h	血液疾患総論（組成、造血メカニズムなど）を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
11	貧血疾患■	2	テキストの328-334ページに目を通す。	1. 5h	さまざまな貧血疾患につき理解し、復習問題を解く。	1. 5h
12	無形成性貧血およびその他の貧血、凝固障害など	2	テキストの335-341ページに目を通す。	1. 5h	無形成性貧血、その他の貧血、凝固障害を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
13	その他の血液造血器疾患、免疫機構の障害	2	テキストの342-345ページに目を通す。	1. 5h	その他の血液造血器疾患、免疫機構の障害につき理解し、復習問題を解く。	1. 5h
14	1-13回の講義の振り返り、重要事項を含む例題問題の出題と学生がグループワークにより例題問題の解答を行い、その都度解説を行う。	1,2	テキスト、C-learning上の講義資料を利用して1-13回の講義内容を復習する。特に授業中に強調された点について理解を深める。	1. 5h	例題、まとめ、重要事項の解説で示された項目を見直し、理解する。	1. 5h
15	まとめ	1,2	復習問題、例題問題、講義資料により講義内容の復習をし、期末試験の準備を行う。	1. 5h	C-learningの解説を参考にしながら期末試験を復習し、まとめ、重要事項の解説で示された事項のすべてを理解したことを確認する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

臨床医学各論Ⅱ（新生物、代謝・内分泌）

MYカモクに追加

英文名：Clinical Medicine Ⅱ (Neoplasm, Metabolism etc)

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB204

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

8 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 輝彦

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

各講義後に復習問題を課し、理解度を確認するほか、次回講義時にコメントを行い知識の定着を図る。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①腫瘍（新生物）による疾患、および内分泌・代謝系疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などについて、基本的な知識を習得する。

②各講義で病気の分類、症状、検査、治療について実務経験を含めて解説する。C-learningで毎回復習問題を出題し、講義終了後にC-learning上でその都度解説を行う。

到達目標 ↑

- 1.腫瘍（新生物）による疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。■
- 2.内分泌・代謝系疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。■

使用教材 ↑

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」第8版 日本病院会

参考文献 ↑

「病気がみえる」シリーズ 消化器第6版、呼吸器第3版、血液第2版、婦人科・乳腺外科第2版、腎・泌尿器第3版、耳鼻科第1版、糖尿病・代謝・内分泌編第5版、皮膚科第1版 MEDIC MEDIA社
「がんがみえる」 第1版MEDIC MEDIA社

評価方法 ↑

期末試験80%、レポート、ミニテスト、授業参加度等を20%として、合計60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

各講義の際に毎回出題する復習問題については、各講義終了後にC-learning上で解説を行う。
期末試験は全般理解度を確認し、試験後にC-learning上で解説を行う。

オフィスアワー ↑

質問等はメールで受け付ける。

メールアドレス（#→@） ↑

sakamoto-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	腫瘍（新生物）総論（1） 腫瘍の定義、分類など	1	テキストの265-266ページに目を通す	1. 5h	腫瘍の総論（腫瘍の定義、分類）につき理解し、復習問題を解く。	1. 5h
2	腫瘍（新生物）総論（2） 画像診断、治療、予防など■	1	テキストの123-136ページの該当部分に目を通す。	1. 5h	腫瘍の総論(画像診断、治療、予防)につき理解し、復習問題を解く。	1. 5h
3	食道・胃の悪性新生物■	1	テキストの270-276、279-280ページに目を通す。	1. 5h	食道・胃の悪性新生物につき理解し、復習問題を解く。	1. 5h
4	大腸・肝・胆・膵の悪性新生物■	1	テキストの276-285ページに目を通す。	1. 5h	大腸および肝胆膵系の悪性新生物を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
5	頭頸部、呼吸器、骨、皮膚の悪性新生物	1	テキストの266-270、287-293ページに目を通す	1. 5h	頭頸部、呼吸器、骨、皮膚の悪性新生物を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
6	乳房、子宮、卵巣の新生物	1	テキストの293-298ページに目を通す。	1. 5h	乳房、子宮、卵巣の新生物を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
7	前立腺、泌尿器、脳などの新生物	1	テキストの298-302、312ページに目を通す。	1. 5h	前立腺、泌尿器、脳の新生物を理解し、復習問題を解く。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	内分泌腺、リンパ組織・造血器関連の悪性新生物	1	テキストの302-305ページに目を通す	1. 5h	内分泌腺、リンパ組織・造血器関連の新生物を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
9	造血器の悪性新生物、上皮内新生物、良性新生物 ■	1	テキストの305-313ページに目を通す。	1. 5h	造血器の悪性新生物、上皮内新生物、良性新生物を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
10	内分泌、甲状腺、副甲状腺疾患	2	テキストの347-353、359-361ページに目を通す。	1. 5h	内分泌、甲状腺、副甲状腺疾患を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
11	糖尿病、低血糖症、膵内分泌障害 ■	2	テキストの355-359ページに目を通す。	1. 5h	糖尿病、低血糖症、膵内分泌障害を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
12	下垂体、副腎疾患	2	テキストの362-370ページに目を通す。	1. 5h	下垂体、副腎疾患を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
13	栄養・代謝障害、体液・電解質異常	2	テキストの370-384ページに目を通す。	1. 5h	栄養・代謝障害、体液・電解質異常を理解する。	1. 5h
14	1-13回の講義の振り返り、重要事項を含む例題問題の出題と学生がグループワークにより例題問題の解答を行い、その都度解説を行う。	1,2	テキストC-learning上の講義資料を利用して1-13回の講義内容を復習する。特に授業中に強調された点について理解を深める。	1. 5h	例題、まとめ、重要事項の解説で示された項目を見直し、理解する。	1. 5h
15	まとめ	1,2	復習問題、例題問題、講義資料により講義内容の復習をし、期末試験の準備を行う。	1. 5h	C-learningの解説を参考にしながら期末試験を復習し、まとめ、重要事項の解説で示された事項のすべてを理解したことを確認する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

臨床医学各論Ⅲ（循環器・呼吸器）

MYカモクに追加

英文名：Clinical MedicineⅢ（Cardiovascular & Respiratory systems）

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB205

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

8 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

佐藤 賢

科目に関連した実務経験

常勤医師として病院・診療所に勤務（現在）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①循環器、呼吸器系の疾患の特徴・病因・症状・診断・治療・予後などについて、基本的な知識を習得する。
- ②各講義で循環・呼吸器疾患の分類、症状、検査、治療について実務経験を含めて解説する。

到達目標

- 1.循環器系疾患の特徴・病因・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。■

2.呼吸器系疾患の特徴・病因・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。■

使用教材

テキスト：診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」第8版 日本病院会

参考文献

「病気がみえる」シリーズ MEDIC MEDIA社
人体の構造と機能 第5版 医歯薬出版

評価方法

期末試験50%、レポート、ミニテスト、授業参加貢献度等を50%として、合計60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義中のレポート、ミニテストでは、実施後の講義で出題の意図、問題に対する模範解答を解説する。

オフィスアワー

質問等はメールで受け付ける

メールアドレス（#→@）

sato-ken@takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	循環器疾患（1） 循環器疾患総論 ①主要症候	1	参考書（人体構造・機能論のテキスト）第5章 循環系と講義教材、およびテキストの92-94, 473-474ページに目を通す。病気がみえる（循環器）4-15, 30-37ページに目を通す。	1. 5h	循環器疾患の主要症候の発生メカニズムを理解する。	1. 5h
2	循環器疾患（2） 循環器疾患総論 ②心不全	1	テキストの519-523ページに目を通す。病気がみえる（循環器）110-125ページに目を通す。	1. 5h	左心不全と右心不全の発生メカニズムと症状を理解する。	1. 5h
3	循環器疾患（3） 循環器疾患総論 ③検査（ⅰ）心音、血液生化学、心電図■	1	テキストの474-476ページに目を通す。病気がみえる（循環器）38-79ページに目を通す。	1. 5h	循環器疾患の際に、心音、血液生化学検査、心電図で検出される代表的な変化を理解する。	1. 5h
4	循環器疾患（4） 循環器疾患総論 ④検査（ⅱ）心電図、心エコー、心カテーテルなど	1	テキストの476-478ページに目を通す。病気がみえる（循環器）56-73, 80-95ページに目を通す。	1. 5h	心電図、心エコー、心カテーテル検査の概要を理解する。	1. 5h
5	循環器疾患（5） リウマチ性心疾患、弁膜症	1	テキストの487-495ページに目を通す。病気がみえる（循環器）210-233ページに目を通す。	1. 5h	僧房弁と大動脈弁の異常に重点をおいて、弁膜症の原因、症状、検査、治療法を理解する。	1. 5h
6	循環器疾患（6） 先天性心疾患	1	テキストの487-495ページに目を通す。病気がみえる（循環器）274-327ページに目を通す。	1. 5h	先天性心疾患の種類、症状、検査、治療法を理解する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	循環器疾患 (7) 高血圧性疾患	1	テキストの495-500ページに目を通す。病気がみえる(循環器) 376-398ページに目を通す。	1. 5h	高血圧の定義、原因、治療の目的、高血圧による臓器障害を理解する。	1. 5h
8	循環器疾患 (8) 虚血性心疾患 ■	1	テキストの501-506ページに目を通す。病気がみえる(循環器) 126-159ページに目を通す。	1. 5h	狭心症と急性心筋梗塞の原因、症状、検査、治療法を理解する。	1. 5h
9	循環器疾患 (9) 肺性心疾患、その他の心疾患(心膜炎、心筋症など)	1	テキストの507-519ページに目を通す。病気がみえる(呼吸器) 259, 272-278 ページ, 病気がみえる(循環器) 242-272ページに目を通す。	1. 5h	肺性心疾患、心膜炎、急性心筋炎、心筋症の概要を理解する。	1. 5h
10	循環器疾患 (10) 動脈と静脈の疾患	1	テキストの532-542ページに目を通す。病気がみえる(循環器) 328-375ページに目を通す。	1. 5h	動脈硬化、大動脈瘤、大動脈解離、動脈血栓・塞栓、静脈血栓、痔核、食道静脈瘤などの概要を理解する。	1. 5h
11	呼吸器疾患 (1) 呼吸器疾患総論、呼吸不全	2	参考書(人体構造・機能論のテキスト) 第9章 呼吸器系と講義教材、およびテキストの545-546ページと578-580ページに目を通す。病気がみえる(呼吸器) 2-91ページに目を通す。	1. 5h	呼吸器疾患の主要症候の発生するメカニズムと呼吸不全の定義を理解する。	1. 5h
12	呼吸器疾患 (2) 上気道感染症、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症 ■	2	テキストの548-558ページに目を通す。病気がみえる(呼吸器) 92-101ページに目を通す。	1. 5h	普通感冒とインフルエンザの区別、インフルエンザウイルスの多型性について理解する。また、新型コロナウイルス感染症の特徴、感染経路、症状、検査、治療と予防の要点について理解する。	1. 5h
13	呼吸器疾患 (3) 肺炎	2	テキストの550-558, 573-575ページに目を通す。病気がみえる(呼吸器) 118-133, 190-201ページに目を通す。	1. 5h	肺炎の分類、原因、症状、検査、治療法について理解する。	1. 5h
14	呼吸器疾患 (4) 慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、肺癌、その他の疾患	1,2	テキストの561-564, 565-566ページに目を通す。病気がみえる(呼吸器) 206-254, 156-168ページに目を通す。	1. 5h	慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、肺癌、その他の疾患の原因、症状、検査、治療法を十分に復習して理解する。	1. 5h
15	まとめ、重要事項の解説	1,2	テキスト、講義教材等を利用して1-14回の講義の内容を復習して、特に講義中に強調された重要事項について理解を深める。	1. 5h	まとめ、重要事項の解説で示された事項のすべてを理解したことを確認する。	1. 5h

合計時間(予習・復習)

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

臨床医学各論Ⅳ（消化器・腎泌尿器、皮膚）

MYカモクに追加

英文名：Clinical Medicine Ⅳ (Digestive & Urinary Systems etc.)

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB206

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

8 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 輝彦

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

各講義後に復習問題を課し、理解度を確認するほか、次回講義時にコメントを行い知識の定着を図る。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①消化器系、腎・泌尿器系の疾患、および皮膚疾患の特徴・病因・症状・診断・治療・予後などについて、基本的な知識を習得する。

②各講義で病気の分類、症状、検査、治療について実務経験を含めて解説する。C-learningで毎回復習問題を出題し、C-learning上でその都度解説を行う。

到達目標 ↑

- 1.消化器系疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。■
- 2.腎・泌尿器系疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。■
- 3.皮膚疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。■

使用教材 ↑

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」第8版 日本病院会

参考文献 ↑

「病気がみえる」シリーズ 消化器第6版、腎・泌尿器第2版、皮膚科第1版 MEDIC MEDIA社
皮膚科ビジュアルブック 学研メディカル社

評価方法 ↑

期末試験80%、レポート、ミニテスト、授業参加度等を20%として、合計60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

各講義の際に毎回出題する復習問題は、各講義終了時にC-learning上で解説を行う。
終了試験では、全般理解度を確認し、試験後にC-learning上でまとめの解説を行う。

オフィスアワー ↑

質問等はメールで受け付ける。

メールアドレス（#→@） ↑

sakamoto-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	消化器疾患（1） 消化器疾患総論	1	テキストの585-588、608-611、623-627ページに目を通す。	1.5h	消化器疾患の主要症候・検査などを理解し、復習問題を解く。	1.5h
2	消化器疾患（2） 口腔、食道、胃・十二指腸の疾患 ■	1	テキストの588-596ページに目を通す。	1.5h	口腔、食道、胃・十二指腸の疾患の検査・症状・治療を理解し、復習問題を解く。	1.5h
3	消化器疾患（3） 小腸、大腸の疾患 ■	1	テキストの596-608ページに目を通す。	1.5h	小腸、大腸の疾患の検査・症状・治療を理解し、復習問題を解く。	1.5h
4	消化器疾患（4） 肝臓疾患（1）	1	テキストの608-615ページに目を通す。	1.5h	肝臓疾患、肝障害(アルコール性、薬剤性)、肝不全の特徴・症状・検査・治療を理解し、復習問題を解く。	1.5h
5	消化器疾患（5） 肝臓疾患（2）	1	テキストの616-623ページに目を通す。	1.5h	慢性肝炎、脂肪肝などの特徴・症状・検査・治療を理解し、復習問題を解く。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	消化器疾患（5） 胆嚢、胆管、膵臓の疾患■	1	テキストの623-638ページに目を通す。	1.5h	胆嚢、胆管、膵臓の特徴・症状・検査・治療を理解し、復習問題を解く。	1.5h
7	腎・泌尿器疾患（1） 腎臓疾患総論	2	テキストの639-642ページに目を通す。	1.5h	腎疾患の症状・検査などを理解し、復習問題を解く。	1.5h
8	腎・泌尿器疾患（2） 腎糸球体疾患	2	テキストの643-652ページに目を通す。	1.5h	腎糸球体疾患の症状・検査・治療などを理解し、復習問題を解く。	1.5h
9	腎・泌尿器疾患（3） 全身疾患と腎、腎尿細管間質性疾患■	2	テキストの653-659ページに目を通す。	1.5h	全身疾患と腎、腎尿細管間質性疾患の症状、検査、治療法を理解し、復習問題を解く。	1.5h
10	腎・泌尿器疾患（4） 腎不全、尿管結石、尿細管疾患	2	テキストの659-668ページに目を通す。	1.5h	腎不全、尿路系、尿細管疾患を理解し、復習問題を解く。	1.5h
11	腎・泌尿器疾患（5） 尿路系疾患、生殖器疾患、不妊症	2	テキストの669-683ページに目を通す。	1.5h	尿路系疾患、生殖器疾患、不妊症の概要を理解し、復習問題を解く。	1.5h
12	皮膚疾患（1） 皮膚疾患総論、皮膚の感染症、水疱症	3	テキストの735-741ページに目を通す。	1.5h	皮膚疾患、感染症、水疱症の症状・治療を理解し、復習問題を解く。	1.5h
13	皮膚疾患（2） 皮膚炎、湿疹、真菌症、自己免疫疾患■	3	テキストの743-753、760-763ページに目を通す。	1.5h	皮膚炎、湿疹、真菌症、自己免疫疾患を理解し、復習問題を解く。	1.5h
14	皮膚疾患（3） 毛髪疾患、褥瘡、皮膚の結合繊維病（膠原病）、悪性腫瘍	3	テキストの754-760、763-768ページに目を通す。	1.5h	毛髪疾患、褥瘡、皮膚の結合繊維病（膠原病）、悪性腫瘍を理解し、復習問題を解く。	1.5h
15	1-13回の講義の振り返り、重要事項を含む例題問題の出題と学生がグループワークにより例題問題の解答を行い、その都度解説を行う。まとめ、重要ポイントの解説など。	1,2,3	期末試験に向け、復習問題の理解、講義内容の復習を行う。	1.5h	C-learningの解説を参考にしながら終了試験を復習し、まとめ、重要事項の解説で示された事項のすべてを理解したことを確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

臨床医学各論Ⅴ（周産期、筋骨格）

MYカモクに追加

英文名：Clinical Medicine Ⅴ (Perinatal Medicine etc.)

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB207

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

8 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 輝彦

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

各講義後に復習問題を課し、理解度を確認するほか、次回講義時にコメントを行い知識の定着を図る。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①妊娠、周産期における疾患、および筋・骨格系の疾患の特徴・病因・症状・診断・治療・予後などについて、基本的な知識を習得する。

②各講義で病気の分類、症状、検査、治療について実務経験を含めて解説する。C-learningで毎回復習問題を出題し、C-learning上でその都度解説を行う。

到達目標 ↑

- 1.妊娠、周産期における疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。■
- 2.骨格系の疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。■

使用教材 ↑

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」第8版 日本病院会

参考文献 ↑

「病気がみえる」シリーズ MEDIC MEDIA社
産科編第4版、整形外科編第1版、免疫・膠原病編第2版

評価方法 ↑

期末試験80%、レポート、ミニテスト、授業参加度等を20%として、合計60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

各講義の際に毎回出題する復習問題については、各講義終了後C-learningにて解説を行う。
期末試験は全般理解度を確認し、試験後にC-learningで解説を行う。

オフィスアワー ↑

質問等はメールで受け付ける。

メールアドレス（#→@） ↑

sakamoto-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生殖器の構造と機能、性周期、妊娠の成立	1	テキストの689ページに目を通す。	1.5h	生殖器の構造と機能、性周期、妊娠の成立を理解し、復習問題を解く。	1.5h
2	正常の妊娠の成立と維持、分娩	1	テキストの689-692ページに目を通す。	1.5h	妊娠の成立、維持、分娩を理解し、復習問題を解く。	1.5h
3	流産	1	テキストの692-701ページに目を通す。	1.5h	流産の概要を理解し、復習問題を解く。	1.5h
4	妊娠高血圧症候群、妊娠悪阻 ■	1	テキストの701-704ページに目を通す。	1.5h	妊娠高血圧症候群、妊娠悪阻の症状・検査などを理解し、復習問題を解く。	1.5h
5	予想される分娩の諸問題（1） 多胎妊娠、胎位異常など	1	テキストの705-708ページに目を通す。	1.5h	多胎妊娠、胎位異常などの概念を理解し、復習問題を解く。	1.5h
6	予想される分娩の諸問題（2） 回旋異常など	1	テキストの709-713ページに目を通す。	1.5h	回旋異常などの症状・治療などを理解し、復習問題を解く。	1.5h
7	予想される分娩の諸問題（3） 前期破水、前置胎盤など	1	テキストの714-718ページに目を通す。	1.5h	前期破水、前置胎盤などを理解し、復習問題を解く。	1.5h
8	分娩・産褥における合併症	1	テキストの719-724ページに目を通す。	1.5h	分娩・産褥における合併症を理解し、復習問題を解く。	1.5h
9	周産期の児に発生する病態	1	テキストの724-732ページに目を通す。	1.5h	周産期の児に発生する病態概要を理解し、復習問題を解く。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	関節障害 ■	2	テキストの769-776ページに目を通す。	1.5h	関節障害をきたす疾患を理解し、復習問題を解く。	1.5h
11	全身性結合組織障害 ■	2	テキストの776-787ページに目を通す。	1.5h	全身性結合組織障害の特徴を理解し、復習問題を解く。	1.5h
12	脊柱障害	2	テキストの787-798ページに目を通す。	1.5h	脊柱障害の特徴を理解し、復習問題を解く。	1.5h
13	骨軟部組織障害	2	テキストの798-810ページに目を通す。	1.5h	骨軟部組織障害の特徴を理解し、復習問題を解く。	1.5h
14	第1-13回の講義の振り返り、重要事項を含む例題問題の出題と学生がグループワークにより例題問題の解答を行い、その都度解説を行う。	1,2	テキスト、授業教材をもう一度見直し、例題問題が解答できるように準備する。	1.5h	テキストや例題解説を見直し、期末試験に備える。	1.5h
15	まとめ	1,2	復習問題、例題問題、講義資料により講義内容の復習をし、期末試験の準備を行う。	1.5h	C-learningの解説を参考にしながら期末試験を復習し、まとめ、重要事項の解説で示された事項のすべてを理解したことを確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



臨床医学各論VI（精神・脳神経・感覚器、医学英語Ⅱ）

MYカモクに追加

英文名：Clinical Medicine VI (Nervous system) & Medical English II

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB208

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

7 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 輝彦、上原 徹

科目に関連した実務経験

坂本：非常勤医師として病院に勤務（現在）

上原：非常勤医師として病院に勤務（現在）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

各講義後に復習問題を課し、理解度を確認するほか、次回講義時にコメントを行い知識の定着を図る。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①精神・神経系、感覚器の疾患の特徴・病因・症状・診断・治療・予後などに関する基本的事項、および疾患の症状・検査・診断・治療に関する英語表現法を理解する。

②各講義で精神神経疾患の分類、症状、検査、治療について実務経験を含めて解説する。医学英語では、学生が問題集の演習問題を解いて、解答に至る過程を他者に説明することにより授業を進める。

到達目標

- 1.神経系疾患の特徴・病因・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。■
- 2.精神疾患の基本的事項を理解する。■
- 3.眼疾患の特徴・病因・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。
- 4.耳鼻科疾患の特徴・病因・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。
- 5.多様な疾患の症状・検査・診断・治療に関する英語表現を日本語に訳することができる。

使用教材

テキスト：

- ①診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」第8版 日本病院会
- ②診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅱ（基礎・医学用語編）」第8版 日本病院会
- ③診療情報管理士教育練習問題集 2021 基礎・医学編 日本病院会

参考文献

「病気がみえる」シリーズ MEDIC MEDIA社
脳・神経編第2版、眼科編第1版、耳鼻科編第1版

評価方法

期末試験80%、レポート、ミニテスト、授業参加度等を20%として、合計60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

各講義の際に毎回出題する復習問題については、各講義終了後C-learningにて解説を行う。終了試験では、全般理解度を確
認し、試験後にC-learningでまとめの解説を行う。

オフィスアワー

質問等はメールで受け付ける。

メールアドレス（#→@）

sakamoto-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	神経系疾患（1） 神経疾患を理解するための基礎的事項	1	テキスト①の425-427ページに目を通す。	1. 5h	神経系の構造と機能に関する知識に基づき、主要症状の発生メカニズムを理解し、復習問題を解く。	1. 5h
2	神経系疾患（2） 脳血管疾患 ■	1	テキスト①の527-532ページに目を通す	1. 5h	脳血管疾患を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
3	神経系疾患（3） 中枢神経系の炎症性疾患、変性疾患	1	テキスト①の427-433ページに目を通す。	1. 5h	中枢神経系の炎症性疾患、変性疾患を理解し、復習問題を解く。	1. 5h
4	神経系疾患（4） 脱髄疾患、てんかん、末梢神経障害など	1	テキスト①の433-441ページに目を通す。	1. 5h	脱髄疾患、てんかん、末梢神経疾患などを理解し、復習問題を解く。	1. 5h
5	神経系疾患（5） 神経・筋接合部疾患、脳性麻痺、水頭症	1	テキスト①の441-446ページに目を通す。	1. 5h	重症筋無力症、筋ジストロフィー、脳性麻痺、水頭症	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	など				などを理解し、復習問題を解く。	
6	眼疾患(1) 結膜疾患、白内障、緑内障など	3	テキスト①の447-455ページに目を通す。	1. 5h	結膜疾患、白内障、緑内障などを理解し、復習問題を解く。	1. 5h
7	眼疾患(2) 硝子体、眼球疾患など。耳鼻科疾患 めまい、中耳疾患など。■	3,4	テキスト①の456-470ページに目を通す。	1. 5h	硝子体、眼球疾患、めまい、中耳疾患などを理解し、復習問題を解く。	1. 5h
8	医学英語Ⅱ (1) 造語法の基本 (医学英語Ⅰの復習)	5	テキスト②の1-10ページに目を通す。	1. 5h	テキスト③の12章 問題12-1から12-35を解き直し、復習問題を解く。	1. 5h
9	医学英語Ⅱ (2) 循環器・呼吸器・消化器疾患の症状・検査・診断・治療の用語	5	テキスト③の12章で指定された問題を予め解いてから授業に臨むこと。	1. 5h	授業で解いた問題について、テキスト②を参照して正解に至る道筋を確認する。	1. 5h
10	医学英語Ⅱ (3) 泌尿生殖器・血液・代謝・内分泌疾患等の症状・検査・診断・治療の用語	5	テキスト③の12章で指定された問題を予め解いてから授業に臨むこと。	1. 5h	授業で解いた問題について、テキスト②を参照して正解に至る道筋を確認する。	1. 5h
11	医学英語Ⅱ (4) 精神神経・感覚器・骨格系・皮膚疾患等の症状・検査・診断・治療の用語	5	テキスト③の12章で指定された問題を予め解いてから授業に臨むこと。	1. 5h	授業で解いた問題について、テキスト②を参照して正解に至る道筋を確認する。	1. 5h
12	精神と行動の障害 (1) 精神疾患総論、器質性精神障害、精神作用物質など	2	テキスト①の391-396ページに目を通す。	1. 5h	C-learning上の講義資料に基づき、テキスト対応箇所を再読する。	1. 5h
13	精神と行動の障害 (2) 統合失調症、気分障害、神経症性障害、広汎性発達障害など	2	テキスト①の397-422ページに目を通す。	1. 5h	C-learning上の講義資料に基づき、テキスト対応箇所を再読する。	1. 5h
14	1-13回の講義の振り返り、重要事項を含む例題問題の出題と学生がグループワークにより例題問題の解答を行い、その都度解説を行う。	1,2,3,4,5	テキスト、C-learning上の講義資料を利用して1-13回の講義内容を復習する。特に授業中に強調された点について理解を深める。	1. 5h	例題、まとめ、重要事項の解説で示された項目を見直し、各自で理解する。	1. 5h
15	まとめ	1,2,3,4,5	復習問題、例題問題、講義資料により講義内容の復習をし、期末試験の準備を行う。	1. 5h	C-learningの解説を参考にしながら期末試験を復習し、まとめ、重要事項の解説で示された事項のすべてを理解したことを確認する。	1. 5h

合計時間 (予習・復習)

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

保健医療情報学

MYカモクに追加

英文名：Outline of Healthcare Informatics

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB209

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

7 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松尾 仁司

科目に関連した実務経験

情報系企業で医療情報システムの研究開発に従事（経験）

保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）運営幹事（経験）

履修を必須とする資格

診療情報管理士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①保健医療情報学は、情報技術を応用し、医療の質的向上・安全性向上と医療サービスの効率化などを実践的に達成することを目的とする分野である。本講義では、医療情報の特徴、医療情報化に関連する政策、病院や地域で活用される医療情報システム、医療情報の標準化、情報セキュリティなどを全般的に学ぶ。

②講義の中で小テストを実施し、理解度の確認と解答の解説による再学習を行う。

到達目標



- 1.日本病院会が認定する診療情報管理士認定試験の該当専門分野で合格点を取ることができる。
- 2.病院における情報システムの役割と診療情報管理上重要な標準化及びセキュリティに関する知識を理解することができる。■

使用教材



診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ（専門課程編）初版 （社）日本病院会発行

参考文献



適宜紹介する

評価方法



期末試験の成績70%、授業中の小テスト30%で評価。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



小テストに関しては授業で解説を行う。

オフィスアワー



水曜日3限
（研究室：1号館6階607室）

メールアドレス（#→@）



matsuo#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	導入・医療情報学とは	1	教科書のp.243~247に目を通す。	1.5h	医療情報学の概念について理解する。	1.5h
2	医療情報の特徴と種類 ■	1	教科書のp.247~252に目を通す。	1.5h	医療情報の特徴と種類、利活用について理解する。	1.5h
3	保健医療の情報化政策の歴史と関連法令 ■	1	教科書のp.252~258に目を通す。	1.5h	医療の情報化には行政が深く関わっていることを理解する。	1.5h
4	保健医療情報化政策の今後の方向性 ■	1	教科書のp.258~260に目を通す。	1.5h	行政による医療の情報化推進策の方向性を理解する。	1.5h
5	病院情報システム概論 ■	1	教科書のp.260~262に目を通す。	1.5h	病院情報システムの特徴、歴史について理解する。	1.5h
6	医事会計システム ■	1	教科書のp.263 ~264に目を通す。	1.5h	医事会計システムについて理解する。	1.5h
7	病院の部門情報システム ■	1	教科書のp.264~269に目を通す。	1.5h	臨床検査システム、放射線部門システムなどについて理解する。	1.5h
8	オーダエントリシステムと電子カルテシステム ■	1	教科書のp.269~276に目を通す。	1.5h	オーダエントリシステムと電子カルテシステムの役割・特徴について理解する。	1.5h
9	地域医療情報システム ■	1	教科書のp.277~284に目を通す。	1.5h	遠隔医療システム、地域医療情報ネットワークシステムについて理解する。	1.5h
10	診療情報の二次利用 ■	1	教科書のp.285~288に目を通す。	1.5h	データウェアハウス、医療ビッグデータ処理について概念を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					る。	
11	個人が管理する保健医療記録 ■	1	教科書のp.288～291に目を通す。	1.5 h	EHR,PHRなど個人健康情報の概念を理解する。	1.5 h
12	医療情報の標準化 ■	1,2	教科書のp.291～297に目を通す。	1.5 h	用語・コードの標準化、伝送規格などの重要性を理解する。	1.5 h
13	情報セキュリティ ■	1,2	教科書のp.297～305に目を通す。	1.5 h	セキュリティポリシーや安全管理について理解する。	1.5 h
14	医学系研究に関する倫理指針と保健医療の情報化のこれから ■	1	教科書のp.305～308に目を通す。	1.5 h	医学系研究に関する倫理指針と保健医療情報分野の将来について理解する。	1.5 h
15	全体まとめ	1,2	講義全体を通して重要なポイントを確認する。	1.5 h	保健医療情報学の重要なポイントを整理する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



生体情報学 I

MYカモクに追加

英文名 : Biological Information I

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB210

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

10 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 大志

履修を必須とする資格

診療情報管理士 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義終了時には振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生体は多くの優れた機能を有しており、これらの優れた機能を測定・解析し応用することにより医学的価値の高い医療機器を開発することが可能である。そのためには、生体信号（血圧や体温などの生体からの情報）を感度良く検出し解析する必要がある。

②本講義では、血圧計、心電計、脳波計など、医療現場で使用されている機器の生体情報検出や計測原理、デバイス構造を理解することを目的とする。なお、講義では教科書の内容をスライドで説明する。

到達目標

- 1.生体の特性及び生体情報の解析法を理解する。
- 2.医療機器の情報検出法及び測定原理、安全性について理解する。

使用教材

「医用工学入門」 木村雄治著（コロナ社） 及び自作スライドを使用する。

評価方法

期末レポートの成績にて評価（100%）し、60%以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

3年生後期の「生体情報学Ⅱ」（必修）において実験・実習を行うので、その実習内で講義の理解度を確認する。

オフィスアワー

質問はメールで受け付ける。

研究室：1号館314

メールアドレス（#→@）

takahashi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	導入	1,2	教科書のp.1～6を熟読する。	1.5h	生体情報学で何を学ぶのか理解する。	1.5h
2	心臓の刺激伝導系と心電計	1,2	教科書のp.7～24を熟読する。	1.5h	心電図の発生とその検出法について理解する。	1.5h
3	脳波計	1,2	教科書のp.25～36を熟読する。	1.5h	脳波の発生とその検出法について理解する。	1.5h
4	血圧計	1,2	教科書のp.36～41を熟読する。	1.5h	血圧とその測定法について理解する。	1.5h
5	筋電計	1,2	教科書のp.81～84を熟読する。	1.5h	筋電図の発生とその検出法について理解する。	1.5h
6	体温計測法（サーモグラフィ、体温計）	1,2	教科書のp.49～51を熟読する。	1.5h	生体から発生する体温情報について理解する。	1.5h
7	パルスオキシメータと血液の光吸収特性	1,2	教科書のp.87～90を熟読する。	1.5h	動脈血酸素飽和度とパルスオキシメータの原理について理解する。	1.5h
8	呼吸流量計（スパイロメータ）	1,2	教科書のp.84～87を熟読する。	1.5h	呼吸流量とスパイロメータの原理について理解する。	1.5h
9	画像診断装置Ⅰ（単純X線撮影、X線CT）	1,2	教科書のp.115～118を熟読する。	1.5h	X線による撮像原理について理解する。	1.5h
10	画像診断装置Ⅱ（MRI）	1,2	教科書のp.122～126を熟読する。	1.5h	MRIの原理について理解する。	1.5h
11	画像診断装置Ⅲ（PET・SPECT）	1,2	教科書のp.119～122を熟読する。	1.5h	PET・SPECTの原理について理解する。	1.5h
12	超音波診断装置	1,2	教科書のp.105～111を熟読する。	1.5h	超音波診断装置の原理について理解する。	1.5h
13	内視鏡	1,2	教科書のp.127～128を熟読する。	1.5h	内視鏡の原理と応用について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	患者監視システム	1,2	教科書のp.94~104を熟読する。	1.5h	患者監視システムの種類と用途について理解する。	1.5h
15	安全対策（電撃の安全対策）	1,2	教科書のp.162~170を熟読する。	1.5h	医療機器の電氣的安全対策について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



物理エネルギーと生体計測装置の関連を理解できるように、必ず予習と復習に取り組むこと。
 オンラインで実施する場合、成績は期末に課すレポートで評価（100%）し、未提出は不合格とする。
 また、毎週のレポート提出等をもって当該講義に出席したものとする。
 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。

印刷 

診療情報演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Medical Information Exercise I

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB211

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

2 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

木村 憲洋

科目に関連した実務経験

病院における経営企画室に15年従事し、病院経営、医療政策、新規事業の立ち上げなどを行ってきた。同時に診療情報管理士としても5年間ICDコーディングや統計業務などを行ってきた。

履修を必須とする資格

診療情報管理士 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①診療情報管理を行う上で必要な基礎的な知識の習得と実践的な能力を養う。
 ②実際の認定試験と同様に問題集を解き、その後間違いについて調べていく。

到達目標

- 1.診療情報管理に必要な基礎的知識が習得できる。■
- 2.診療情報管理をスムーズに行うために必要な実践的能力を身に付ける。■

使用教材

^

診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅰ、診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲ、診療情報管理士教育問題集（基礎、専門）

評価方法

^

授業中に出される課題の提出（50％）、診療情報管理士の模擬テストなどを評価に使用する（50％）。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題については、全体の状況について授業中に報告する。

オフィスアワー

^

月曜日1時限

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	診療情報管理士に関する医学知識について■	1,2	診療情報管理士に関する医学知識について、臨床医学総論・各論で習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
2	医学と医療■	1,2	医学と医療について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
3	医療概論■	1,2	医療概論について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
4	人体構造・機能論	1	人体構造・機能論について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
5	外傷学	1	外傷学について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
6	先天異常	1	先天異常について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
7	中毒	1	中毒について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
8	感染症および寄生虫症	1	感染症および寄生虫症について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
9	新生物	1	新生物について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	血液・代謝・内分泌	1	血液・代謝・内分泌について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
11	精神	1	精神について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
12	脳神経・神経	1	脳神経・神経について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
13	循環器・呼吸器	1	循環器・呼吸器について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
14	消化器・泌尿器	1	消化器・泌尿器について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h
15	皮膚・筋骨	1	皮膚・筋骨について、これまで習ったことをまとめる。	1h	授業中に行う問題集の間違った部分について、教科書を用いて正答を探す。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

診療情報演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Clinical Information Exercise Ⅱ

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB212

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

2 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

木村 憲洋

科目に関連した実務経験

病院における経営企画室に15年従事し、病院経営、医療政策、新規事業の立ち上げなどを行なってきた。

履修を必須とする資格

診療情報管理士 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーシ ョン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①診療情報管理士認定試験合格のため、医療制度や病院経営に関する理解を目標とする。

②事前に与えられる現在の医療制度や病院経営に関する課題を調べてまとめる。授業時間にグループによる発表を行い、参加者で講評する。

到達目標

- 1.医療制度と病院経営に関する理解の深化■
- 2.診療情報管理士試験へ向けて問題集などの正答率を上げる

使用教材

^

病院のしくみ、医療費のしくみ、病院と医療のしくみ、診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅰ、診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲ、診療情報管理士教育問題集（基礎、専門）

評価方法

^

授業中に出される課題の提出（50％）、診療情報管理士の模擬テストなどを評価に使用する（50％）。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

現在の医療制度や病院経営に関する課題を与え、調べ、まとめる。そして授業で発表し、参加者で講評する。

オフィスアワー

^

月曜日1時限

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医療制度の課題1■	1,2	現状の課題を提示：例えば、医師不足について	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
2	医療制度の課題2■	1,2	現状の課題を提示：例えば、働き方改革	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
3	医療制度の課題3■	1,2	現状の課題を提示：例えば、公立病院の再編リスト	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
4	医療制度の課題4■	1,2	現状の課題を提示：例えば、高額医薬品問題	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
5	医療制度の課題5■	1,2	現状の課題を提示：例えば、デバイスラグ	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
6	医療制度の課題6■	1,2	現状の課題を提示：例えば、遠隔医療	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
7	医療制度の課題7■	1,2	現状の課題を提示：例えば、国民医療費の高騰	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
8	医療制度の課題8■	1,2	現状の課題を提示：例えば、地域包括ケアシステム	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
9	病院経営に関する課題1■	1,2	現状の課題を提示：例えば、人件費率の高騰	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
10	病院経営に関する課題2■	1,2	現状の課題を提示：例えば、共同購入	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
11	病院経営に関する課題3■	1,2	現状の課題を提示：例えば、老朽化した建物の建て替え	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
12	病院経営に関する課題4■	1,2	現状の課題を提示：例えば、病院経営の複雑化	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
13	病院経営に関する課題5■	1,2	現状の課題を提示：例えば、診療報酬改定への対応	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h
14	病院経営に関する課題6■	1,2	現状の課題を提示：例えば、優秀な事務系人材の採用と活用	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	病院経営に関する課題7■	1,2	現状の課題を提示：例えば、医師の採用	3h	グループによる発表を聞きディスカッション後に個々人でまとめる	0.5h

合計時間（予習・復習）

↑

52.5h

備考

↑

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



バイオサイエンス

MYカモクに追加

英文名 : Bioscience

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB213

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

10 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 大志

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義終了時には振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①物理学の知識をもとに生体の物理学的な特性（生体物性）や医用材料について理解し説明できるように学習を進める。
- ②講義では教科書を使用し、その内容について説明する。

到達目標

- 1.電気、機械、熱、光（放射線）等に対する生体物性を理解し説明できる。
- 2.医用材料と生体の相互作用について理解し説明できる。

使用教材

「臨床工学講座 生体物性・医用材料工学（医歯薬出版）」を使用する。

評価方法

期末レポート（100%）で評価し、60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポート採点后にポイントを解説する。

オフィスアワー

質問はメールで受け付ける。

研究室：1号館314

メールアドレス（#→@）

takahashi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生体物性序論	1	教科書p.1～5を読む。	1.5h	教科書p.1～5を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
2	生体の電氣的特性（1）	1	教科書p.7～16を読む。	1.5h	教科書p.7～16を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
3	生体の電氣的特性（2）	1	教科書p.16～25を読む。	1.5h	教科書p.16～25を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
4	能動的電気特性	1	教科書p.25～33を読む。	1.5h	教科書p.25～33を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
5	生体と磁気、機械的特性	1	教科書p.34～42を読む。	1.5h	教科書p.34～42を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
6	生体の音響特性、流体力学的特性	1	教科書p.43～56を読む。	1.5h	教科書p.43～56を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
7	生体の熱的特性	1	教科書p.57～63を読む。	1.5h	教科書p.57～63を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
8	生体物性と熱作用	1	教科書p.63～70を読む。	1.5h	教科書p.7～16を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
9	生体と放射線	1	教科書p.71～77を読む。	1.5h	教科書p.71～77を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
10	生体組織における放射線作用と障害、放射線の医療応用	1	教科書p.77～92を読む。	1.5h	教科書p.77～92を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
11	生体の光学特性	1	教科書p.93～108を読む。	1.5h	教科書p.93～108を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
12	光（レーザ）の生体作用	1	教科書p.108～118を読む。	1.5h	教科書p.108～118を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
13	医用材料序論	2	教科書p.139～148を読む。。	1.5h	教科書p.139～148を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
14	医用材料の種類	2	教科書p.149～167を読む。	1.5h	教科書p.149～167を熟読し不明な点を調べる。	1.5h
15	生体と医用材料の相互作用	2	教科書p.167～199を読む。	1.5h	全講義を復習し期末レポートを作成し提出する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

備考

本講義では、物理学をもとに生体物性を理解してもらうため、必ず予習と復習に取り組むこと。
オンラインで実施する場合であっても内容は変更せず、期末レポートで評価（100%）し、60%以上で合格とする。
また、課題やレポート等の提出をもって当該講義に出席したものとする。

印刷 

生活支援工学

MYカモクに追加

英文名 : Assistive Technology

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB214

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

鈴木 亮二

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①生活を支援する技術に関する基礎的知識を習得することを目標とする。
- ②車椅子や歩行器の構造と操作方法を習得する。
- ③講義とグループワークによる演習を行う。

到達目標

- 1.高齢者の体について説明できる。
- 2.福祉用具の構造と操作方法について説明できる。
- 3.生活を支援する技術について説明できる。
- 4.アクセシビリティについて説明できる。
- 5.ユニバーサルデザインについて説明できる。

使用教材

評価方法

レポート課題（80％）、演習課題（20％）を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

次回講義の最初に解説を行う。

オフィスアワー

授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

suzuki-r#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	高齢者の体と高齢者体験	1	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
2	車椅子の構造	2	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
3	車椅子の演習	2	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
4	杖・歩行器・シルバーカーの構造	2	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
5	杖・歩行器・シルバーカーの演習	2	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
6	服薬の支援	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
7	入浴の支援	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
8	排泄の支援	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
9	睡眠の支援	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
10	移動の支援	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
11	（演習）支援技術 1	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
12	（演習）支援技術 2	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
13	アクセシビリティ（コミュニケーションエイド）	4	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
14	ユニバーサルデザイン	5	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4,5	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

備考



オンラインで実施する場合にも同様の講義内容で行う。

印刷 

生体信号処理入門

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Bio-signal Processing

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB215

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

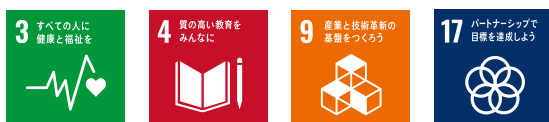
担当教員

光山 訓

科目に関連した実務経験

企業において医療機器の研究開発に従事（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

ウェアラブルデバイスなど、従来よりも安価かつ簡便に様々な生体信号が取得されるようになってきており、予防や疾病の早期発見などへの活用が期待されている。本講義では、一次元の時系列データとして取得される生体信号を対象とし、信号の特徴の定量化に有用な周波数解析等の処理手法を習得し、プログラムを作成できるようになることを目標とする。

②講義の実施方法

授業は、独自資料を用いた講義により基礎知識の習得と理論の理解を進める。さらにPythonにより実際に信号を処理するプログラムを作成し、動作させることにより知識の定着と実践・応用力の獲得を図る。最終段階では総合的な知識の定着度を確認するために総合演習を行う。内容を理解し、スキルを身につけるためには、予習復習が必要である。

到達目標



1. 時系列信号の特徴を理解し、説明できる■
2. 周期信号の特徴を理解し、説明できる
3. 三角関数の性質を理解し、説明できる
4. フーリエ変換の原理、方法、特徴を理解し、説明できる
5. 離散フーリエ変換のプログラムを作成することができる

使用教材



講義資料・演習教材は随時プリントして配布またはネット配信する。

評価方法



総合演習80%、授業への参加度20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



毎週プログラミング演習を行い、授業中に作成方法のポイントを説明する。誤りの多かった箇所については、気を付けるべきポイントを翌週フィードバックする。

オフィスアワー



火曜日2限、木曜日2限

質問はメールでも受け付ける。

1号館6階602研究室

メールアドレス（#→@）



mitsuyama#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、生体信号の種類と特徴	1	インターネットなどで生体信号の種類と特徴を調べておく。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
2	デジタル信号■	1,5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
3	周期信号■	2,5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
4	三角関数(1)	3,5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
5	三角関数(2)	3,5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
6	三角関数(3)	3,5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
7	フーリエ級数展開(1)	4,5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
8	フーリエ級数展開(2)	4,5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
9	フーリエ級数の指数関数表現	4,5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
10	フーリエ変換	4,5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
11	離散フーリエ変換	4,5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	離散フーリエ変換の性質・高速フーリエ変換	4,5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
13	サンプリング定理・窓関数	4,5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
14	総合演習(1) 信号処理プログラミング	5	これまでの講義内容を講義資料と作成したプログラムで復習しておく。	2.0h	演習内容を振り返り、演習課題を再度解くことで理解を深める。	1.0h
15	総合演習(2) 本講義全体の復習	1～4	これまでの講義内容を講義資料で復習しておく。	2.0h	演習内容を振り返り、演習問題を再度解くことで理解を深める。	1.0h

合計時間（予習・復習）

45h

↑

備考

↑

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



情報数学基礎

MYカモクに追加

英文名 : Basic Mathematics for Informatics

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB216

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性と幅広い教養
- 7 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 2 問題解決力
- 0 コミュニケーションスキル
- 0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

東福寺 幾夫

科目に関連した実務経験

メーカー在職中に、血液分析装置等の制御用デジタル回路の研究開発やシステム開発に従事した。特に、デジタル回路の設計には、ブール代数の知見が役に立った。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①コンピュータやデジタル機器の原理を理解する上で必須となる基数変換、数の表現方法、論理演算、集合、関係などについて、その基礎知識を習得する。

②配布するプリントを基に、板書を中心に解説する。さらに全員が演習問題を解き、指名された代表者が解答を板書することで、授業は進行する。また、理解度を確認する宿題や演習問題を課すことがある。学期末には、総合的な演習問題を配布し、授業内容の総復習を行う。

到達目標

- 1.情報学を学ぶ基礎である、数と量についてその特徴や表現方法を理解する。
- 2.位取り記数法の意味を理解し、整数及び小数の基数変換ができる。
- 3.論理値を対象とする論理演算の基礎を理解し、真理値表から論理式を作成ができる。■
- 4.論理演算法則を理解し、論理式の変換や簡略化ができる。■
- 5.論理演算と論理回路の対応を理解し、簡単な論理式と論理回路図の相互変換ができる。■
- 6.集合の基礎を理解し、集合の演算ができる。

使用教材

^

自作のプリントを配布する。

評価方法

^

授業への参加と貢献20%、単元毎の小テスト20%、期末試験60%で評価し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

単元ごとに小テスト・演習を行い、理解度を確認し、必要に応じて補充の説明を実施する。

オフィスアワー

^

月曜日の4時限と水曜日3時限
1号館6階605

メールアドレス（#→@）

^

tofukuji#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、離散的数と連続的量、位取り記数法	1,2	シラバスを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h
2	整数の表現と基数変換	1,2	プリントを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h
3	2進数の四則演算	1,2	プリントを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h
4	小数の表現と基数変換	1,2	プリントを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h
5	負数の表現法、2の補数	1,2	プリントを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h
6	実数の表現法、正規化表現、SI接頭語の使い方	1,2	プリントを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h
7	計測と誤差、計算と誤差 ■	3,4	プリントを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h
8	真理値とブール代数、論理演算、論理演算法則 ■	3,4	プリントを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h
9	真理値表、論理式と論理演算、論理式の簡略化 ■	3,4	プリントを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h
10	論理式と論理回路 ■	5	プリントを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h
11	行列とベクトル	5	プリントを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h
12	行列の演算	5	プリントを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	単位行列、逆行列	5	プリントを読む	1h	プリントの演習問題を解く	1.5h
14	連立一次方程式の解法	6	プリントの第4章を読む	1h	プリントの練習問題を解く	1.5h
15	まとめ 総復習	1,2,3,4,5	演習問題を解く	1h	演習問題を解き直す	1.5h

合計時間（予習・復習）

37.5h

↑

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

↑

印刷



情報システム各論

MYカモクに追加

英文名：Special of Information System

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB217

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

4 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 真悟

履修を必須とする資格

ITパスポート

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に授業内容の振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①Society5.0において、IT技術はますます必要不可欠なものとなっている。IT技術や知識を習得し、今後のIT社会を担うことができるよう学んでいく。

②本講義はテキストを用いて進めていく。また、毎回、テストを実施する。

到達目標

- 1.企業と法務に関する専門的な知識を説明できる。
- 2.経営戦略、システム戦略に関する専門的知識を説明できる。
- 3.開発技術やマネジメントに関する専門的な知識を説明できる。
- 4.コンピュータシステムに関する専門的な知識を説明できる。

使用教材

↑

ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集（FOM出版）、最新版を使用する。

評価方法

↑

授業毎のテスト90%、授業への取り組み10%。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

小テストの正答率が低い箇所などをフィードバックする。

オフィスアワー

↑

火曜日 3時限、4時限
（1号館6階612研究室）
質問はメールでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）

↑

takahashi-shin#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	教科書の目次とシラバスを熟読し、勉強の進め方についても理解する	1.5h	講義の概要、目的、評価方法を理解する。	1.5h
2	企業活動に関する専門的な内容	1	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
3	法務に関する専門的な内容	1	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
4	ネットワークの基礎とセキュリティの最新状況	2	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
5	システム戦略に関する専門的な内容	2	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
6	開発技術に関する専門的な内容	3	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
7	プロジェクトマネジメントに関する専門的な内容	3	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
8	サービスマネジメントに関する専門的な内容	3	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
9	システム構成要素に関する専門的な内容	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	ハードウェアに関する専門的な内容	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
11	ソフトウェアに関する専門的な内容	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
12	ネットワークに関する専門的な内容	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
13	ユーザ・インタフェースに関する専門的な内容	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
14	セキュリティに関する専門的な内容	4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4	テキストを読み、単元の内容を理解する	1.5h	課題で知識をアウトプットし、知識を確認する	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



講義では、大学が推奨する性能のPCを使用する。
※オンラインでの実施となった場合、各講義の課題提出をもって出席とする。

印刷



ネットワーク I

MYカモクに追加

英文名：Network I (Introduction to Network)

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB218

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

6 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

長澤 亨

履修を必須とする資格

ITパスポート、基本情報技術者試験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディベ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 移動体通信とインターネットにより、ユビキタスの情報通信の環境が整いつつある。このような情報基盤を作る情報通信ネットワークに関する基本的な知識と技術を習得することによって、現状と今後の方向について効果的な活用をめざす。

情報通信ネットワークの歴史的な変遷を踏まえて、通信工学の基本的な考え方、ネットワークの構築・管理側に必要となるネットワークの基礎知識を学ぶ。本講義のみでネットワークやインターネットに公開するサーバの構築は難しいが、構築・運営をする上で知っておくべきネットワーク全体の知識を習得する。

②授業の進め方は、基本指定教科書の内容をまとめたスライドで進める。内容補足のために板書によってより詳しく解説し、知識の定着を図る。基本定期試験で成績を付けるが、章毎に練習問題で知識を確認する。

到達目標

- 1.ネットワーク通信の基礎技術を説明できる。
- 2.インターネットの仕組みを説明できる。
- 3.OSIの参照モデルとTCP/IPの階層モデルを説明できる。
- 4.無線LANの仕組みを説明できる。
- 5.ネットワークセキュリティを説明できる。

使用教材

^

教科書「図解ネットワーク仕事で使える基本の知識」増田若菜著（技術評論社）
ISBN978-4-7741-3880-0C3055
講義のスライドを随時プリントして配布する。

評価方法

^

定期試験70%、レポート20%、授業の参加度10%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートにはコメントを付けて返却する。
定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。

オフィスアワー

^

月曜日の1時限と3時限
質問はメールでも受け付ける。
研究室：1号館6階608

メールアドレス（#→@）

^

nagasawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1.5h
2	ネットワークの基礎知識	1,2	教科書の第1章1-1～1-5に目を通す	1h	ネットワークのプロトコルやレイヤ構造を理解する。	1.5h
3	LANとインターネット	1,3	教科書の第1章1-6～1-10に目を通す。	1.5h	インターネットの接続、回線事業者、ISPの役割ADSLなどを理解する。	1.5h
4	OSI参照モデル	1,3	教科書の第2章2-1～2-5に目を通す。	1.5h	OSI参照モデルとネットワーク標準プロトコルTCP/IPを理解する。	1.5h
5	TCP/IPモデル	1,3	教科書の第2章2-6～2-10に目を通す。	1.5h	OSI参照モデルとネットワーク標準プロトコルTCP/IPを理解する。	1.5h
6	TCP/IPでネットワーク接続機器を識別する	1,3	教科書の第3章3-1～3-5に目を通す。	1.5h	TCP/IPの仕組みとポート番号について理解する。	1.5h
7	TCP/IPとIPアドレス	2,3	教科書の第3章3-6～3-9に目を通す。	1.5h	IPアドレスのクラス、サブネットマスク、VLSMとCIDRについて理解する。	1.5h
8	IPアドレスとMACアドレス	1,2,3	教科書の第3章3-10～3-13に目を通す。	1.5h	MACアドレス、ブロードキャストやARP要求について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	LANで使われる技術	1,2,3	教科書の第4章4-1～4-5目を通す。	1.5h	ネットワークトポロジ、LANとWAN、ルーティングについて理解する。	1.5h
10	LANで使われるサービス	1,2,3	教科書の第4章4-6～4-10目を通す。	1.5h	ルーティングプロトコル、DHCP、NATとNAPTについて理解する。	1.5h
11	VPNの仕組み	1,2	教科書の第4章4-11に目を通す。	1.5h	VPNを実現する（SSL-VPN、IPsec-VPN、IP-VPN）について理解する。	1.5h
12	無線LANの仕組み	1,2,4	教科書の第4章4-12～4-13に目を通す。	1.5h	無線LANの仕組みとCSMA/CD、CSMA・CAについて理解する。	1.5h
13	ネットワークセキュリティ	1,2,5	教科書の第6章6-6～6-12に目を通す。	1.5h	ネットワークのセキュリティとファイアウォールについて理解する。	1.5h
14	コンピュータウイルス	1,2,5	教科書の第6章6-6～6-12に目を通す。	1.5h	ネットワークのセキュリティとファイアウォールについて理解する。	1.5h
15	ネットワークの構築と管理	1,2	教科書の第7章7-1～7-5に目を通す。	1.5h	ネットワークの構成、ネットワーク機器、冗長化について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

VOD：出席と成績は課題提出で評価する。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム「多職種連携コース」の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。

印刷 

データベース概論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Database Systems

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB219

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

7 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石川 雅弘

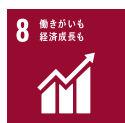
科目に関連した実務経験

研究員としてWebDBシステムを開発（経験）。

履修を必須とする資格

基本情報技術者試験（対応科目）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

時間内にオンラインで小テストを行い、間違いの多い点について解説を行うとともに質問に答える。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①情報の電子化と通信ネットワークの普及が進み、さまざまな分野でますます大量の電子化データが収集・蓄積されるようになり、蓄積されたデータの利活用が進められている。その基盤として、データベース管理システムの重要性は一層高まっている。

本科目では、表計算ソフトとデータベース管理システムの違いを理解するところから始め、業務向けデータベース管理システムの主流である関係データベース管理システム（RDBMS）について学ぶ。前半は主にRDBMSにおけるデータモデルである関係モデルと正規化の理論、トランザクションや同時実行制御などRDBMSにおける重要な概念について学び、後半はRDBMSの標準的問い合わせ言語であるSQLの基礎を身につけるのが目標である。

②講義はスライドを用いて教材テキストに沿った解説をベースに進め、毎回オンラインで小テストを行う。

到達目標

^

1. データベース技術が社会の中でどのように利用されているかを説明することができる。
2. 表計算ソフトとデータベース管理システムの違いを理解し、データベース技術の重要性を説明できる。
3. データの一貫性保持とトランザクション管理、同時実行制御、障害復旧、セキュリティ管理など、データベース管理システムの役割について説明できる。
4. リレーシジョンの正規化の目的と手順を説明できる。■
5. SQLを用いて、RDBMSで基本的なデータ操作ができる。■

使用教材

^

[改訂新版]これだけはおさえない データベース基礎の基礎」, 谷尻かおり著, 技術評論社, ISBN-13: 978-4774139937

評価方法

^

期末試験（100％）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

解答例の提示と解説を行う。

オフィスアワー

^

月曜 5 限

メールアドレス（#→@）

^

ishikawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	暮らしの中のデータベース	1	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	講義の内容をまとめる。	1.5 h
2	ファイル、表計算ソフト、関係データベース	2	テキストの該当範囲を読んでおく。		ファイルや表計算ソフトによるデータ管理とデータベース管理システムによるデータ管理の違い、トランザクションの概念を理解する。	
3	関係データベースの基礎概念	3	テキストの該当範囲を読んでおく。		テーブル、レコード、フィールド、主キーについて理解する。	
4	リレーシジョンシップと参照性制約	3	テキストの該当範囲を読んでおく。		テーブル間のリレーシジョンシップと参照性制約の意味を理解する。	
5	関係演算、索引、ビュー	3	テキストの該当範囲を読んでおく。		テーブル間の関係演算を理解し、索引やビューの役割と利用目的を理解する。	
6	データベース設計の流れ	3	テキストの該当範囲を読んでおく。		データベース設計の流れの各ステップを理解する。	
7	第一正規形 ■	4	テキストの該当範囲を読んでおく。		データベース設計における第一正規形の意義を理解し、テーブルを第一正規形に整理する手順を理解する。	
8	第二正規形 ■	4	テキストの該当範囲を読んでおく。		部分関数従属性、完全関数従属性、第二正規形を理解し、テーブルを第二正規形に分	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					解する手順を理解する。	
9	第三正規形 ■	4	テキストの該当範囲を読んでおく。		推移的関数従属性、第三正規形を理解し、テーブルを第三正規形に分解する手順を理解する。	
10	主キーと主キー制約、外部キーと参照性制約 ■	4	テキストの該当範囲を読んでおく。		主キーと主キー制約、外部キーと参照性制約を理解する。	
11	SQL (1) : DDL (データ定義言語) ■	5	テキストの該当範囲を読んでおく。		SQLの書き方の基本を理解し、簡単なスキーマ定義ができるようにする。	
12	SQL (2) : DML (データ操作言語) ① ■	5	テキストの該当範囲を読んでおく。		SELECT文とWHERE句を用いた基本的な問い合わせ方法とテーブルの結合方法を理解する。	
13	SQL (3) : DML (データ操作言語) ② ■	5	テキストの該当範囲を読んでおく。		副問合せ、集約関数、レコードの挿入・削除・更新方法を理解する。	
14	SQL (4) : DCL (データ制御言語) ■	5	テキストの該当範囲を読んでおく。		ユーザー権限とアクセス管理、トランザクション管理などの意味を理解し、SQLでの実現方法を理解する。	
15	まとめ	1,2,3,4,5	テキスト全体に目を通し、これまでの疑問点などを整理する。		これまでの疑問点を解消し、理解を深める。	

合計時間（予習・復習）

45

備考

基本情報技術者試験に対応。

基本情報技術者試験受験者は特によく復習すること。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。

副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含まれない。

【オンラインで授業を実施する場合】

オンデマンド形式のリモート講義の形で進める。

時間内のチャット・ビデオ通話での質問にも応じるので、積極的に利用して欲しい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

プログラミングⅡ（Cプログラミング実用）

MYカモクに追加

英文名：Programming Ⅱ（C Programming Practical Use）

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB220

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 孝

科目に関連した実務経験

SEとして情報通信企業に勤務（経験）

履修を必須とする資格

基本情報技術者試験対応科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーシ ョン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①「プログラミングⅠ」で学習したC言語の基本的なプログラミング技法を基に、主にデータ処理技法を習得することを目的とする。毎回5～10題程度の小課題に取り組み、ステップアップ学習方式で多くの課題をこなすことにより、プログラミングにおける様々な手法を身につける。

②講義テーマごとに教員が作成したプリントを使い、各回、前半は例題の説明を行い、後半は例題を参考にしながら各自課題に取り組む形式で進める。

課題は毎回5～10題程度あるので、授業内にできなかった分も含めて、次回授業までに仕上げて提出する。

到達目標							^
1.応用的な繰り返し処理について理解できる。■ 2.実数型データを使った適切なデータ処理ができる。■ 3.文字型データを使った適切なデータ処理ができる。■ 4.配列を使った集計・探索等、様々なデータ処理ができる。■ 5.文字型データ配列と文字列の関連について理解できる。■							
使用教材							^
自作のプリント							
評価方法							^
課題提出状況（80%）、授業における学習姿勢（20%）により評価する。							
課題・評価に対するフィードバック方法							^
課題の解答例を提示し、解説する。							
オフィスアワー							^
火曜日4時限と5時限							
メールアドレス（#→@）							^
sakamoto#takasaki-u.ac.jp							
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	二重ループ処理 ■	1	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h	
2	long型変数とfloat型変数 ■	2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h	
3	double型変数と数値演算関数 ■	2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h	
4	配列の基本 ■	1,2,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h	
5	配列の基本 初期化 ■	1,2,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h	
6	配列を利用した計算 ■	1,2,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h	
7	配列を利用した計算（テーブル集計） ■	1,2,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h	
8	二次元配列 ■	1,2,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h	
9	配列の応用 テーブルサーチ ■	1,2,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	金種計算 ■	1,2,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
11	文字型データ① 文字コードの扱い ■	3	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
12	文字型データ② 文字範囲の判定 ■	3	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
13	文字型データ③ 文字定数表記と文字の判定・変換 ■	3	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
14	文字型データの配列 ■	1,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
15	文字型データの配列=>文字列 ■	1,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習についての時間は参考程度であり、単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

プログラミングⅢ（Cプログラミング応用）

MYカモクに追加

英文名：Programming Ⅲ (C Programming Application)

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB221

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 孝

科目に関連した実務経験

SEとして情報通信企業に勤務（経験）

履修を必須とする資格

基本情報技術者試験対応科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①C言語プログラミングの最も特徴的な機能であるポインタを中心に、応用的なプログラミング技法を習得することを目的とする。毎回5～10題程度の小課題に取り組み、ステップアップ学習方式で多くの課題をこなすことにより、プログラミングにおける様々な手法を身につける。

②講義テーマごとに教員が作成したプリントを使い、各回、前半は例題の説明を行い、後半は例題を参考にしながら各自課題に取り組む形式で進める。

課題は毎回5～10題程度あるので、授業内にできなかった分も含めて、次回授業までに仕上げて提出する。

到達目標



- 1.文字列について適切に処理ができる。■
- 2.自作の関数が作れる。■
- 3.構造体を使ったデータ処理ができる。■
- 4.ポインタのメリット・デメリットを理解し、ポインタ操作を駆使したデータ処理ができる。■
- 5.ファイルからデータを取込んで処理し、ファイルに書き出すことができる。■
- 6.2進数のビット操作ができる。■
- 7.資料を参照しながら、再帰プログラムを自分自身で作成することができる。■

使用教材



自作のプリント

評価方法



課題提出状況（80%）、授業における学習姿勢（20%）により評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



課題の解答例を提示し、解説する。

オフィスアワー



火曜日4時限と5時限

メールアドレス（#→@）



sakamoto#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	文字列の入力と編集 ■	1	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
2	関数（引数がない場合） ■	2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
3	関数（引数がある場合） ■	2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
4	構造体 ■	3	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
5	構造体配列 ■	3	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
6	構造体と関数 ■	3	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
7	ポインタ ■	4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
8	ポインタと関数① 変数、配列を関数に渡す ■	2,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
9	ポインタと関数② 文字列を関数に渡す ■	2,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
10	構造体ポインタ ■	2,3,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
11	ファイル処理① 書式指定入出力 ■	5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	ファイル処理② 行単位・文字単位入出力 ■	5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
13	ビット演算① 基本演算 ■	6	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
14	ビット演算② 指定ビットのON/OFF ■	6	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h
15	再帰呼出し ■	7	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



予習・復習についての時間は参考程度であり、単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



プログラミングⅣ（Windowsプログラミング）

MYカモクに追加

英文名：Programming Ⅳ (Windows Programming)

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB222

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 孝

科目に関連した実務経験

SEとして情報通信企業に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①プログラミング言語としてVisual C#を用い、ボタン、メニュー、テキストボックス等の部品やグラフィックスを使ったWindowsアプリケーションの作成方法を習得する。

②講義テーマごとに教員が作成したプリントを使い、各回、前半は例題の説明を行い、後半は例題を参考にしながら各自課題に取り組む形式で進める。課題は毎回1～3題程度。

到達目標

- 1.プログラミングに必要なPC環境と操作方法について理解できる。
- 2.各種コントロールを利用したプログラムの作成ができる。■
- 3.タイマーを利用した定期更新プログラムの作成ができる。■

- 4.画像を利用したアニメーションプログラムの作成ができる。■
- 5.乱数を利用した簡単なゲームプログラムの作成ができる。■

使用教材

↑

自作のプリント

評価方法

↑

課題提出状況（80％）、授業における学習姿勢（20％）により評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

課題の解答例を提示し、解説する。

オフィスアワー

↑

火曜日4時限と5時限

メールアドレス（#→@）

↑

sakamoto#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	環境設定とプロジェクト作成	1	不要	0h	講義での説明内容をまとめ、基本操作の復讐をしておく。	3h
2	テキストボックス、ボタン、ラベル■	1,2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
3	ラジオボタン、チェックボックス、ピクチャーボックス■	1,2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
4	グループボックス、リストボックス■	1,2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
5	コンボボックス、ローカル変数とグローバル変数■	1,2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
6	メニューバー■	1,2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
7	日時取得、文字列操作■	1,2	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
8	タイマー■	1,2,3	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
9	コントロール有効化と無効化■	1,2,3	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
10	イメージリスト■	1,2,3,4	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
11	乱数■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行してお	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出す	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			く。		る。	
12	画像の移動アニメと座標制御 ■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
13	簡易ゲームプログラムの制作①じゃんけんゲーム ■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
14	簡易ゲームプログラムの制作②画像当てゲーム ■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
15	簡易ゲームプログラムの制作③スロットゲーム ■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、例題を入力・実行しておく。	1h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



予習・復習についての時間は参考程度であり、単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



情報演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Information Exercise I

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB223

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

7 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石川 雅弘

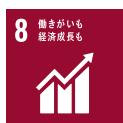
科目に関連した実務経験

会社員としてシステム開発（経験）

履修を必須とする資格

基本情報技術者試験（対応科目）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 情報技術や情報システム開発、業務知識に関する基本的な知識を身に付け、それらに関する文書を読解する能力を身につけるのが目標である。到達レベルの確認指標として、基本情報技術者試験科目A試験の合格を目指す。
- ② 授業は基本情報技術者試験科目Aの過去問題やe-learningへの取り組みを中心に進める。

到達目標

1. 基本情報技術者試験科目A試験におけるテクノロジー系問題で、合格水準に達している。■
2. 基本情報技術者試験科目A試験におけるストラテジ系問題で、合格水準に達している。■

3. 基本情報技術者試験科目A試験におけるマネジメント系問題で、合格水準に達している。■

使用教材

「令和07年 基本情報技術者 合格教本」，角谷一成・イエローテールコンピュータ著，技術評論社，ISBN-13: 978-4297144333

参考文献

科目A試験（午前試験）過去問題とe-learning用教材（e-Festa）

評価方法

期末試験か科目A免除試験（100％）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

解答例の提示と解説を行う。

オフィスアワー

月曜 5 限

メールアドレス（#→@）

ishikawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	基礎理論	1	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h
2	アルゴリズムとプログ ラミング■	1	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h
3	コンピュータシステム ■	1	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h
4	データベース■	1	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h
5	ネットワーク	1	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h
6	セキュリティ	1	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h
7	システム開発■	2	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h
8	プロジェクトマネー ジメント	3	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h
9	問題演習①	1,2,3	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h
10	問題演習②	1,2,3	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h
11	問題演習③	1,2,3	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h
12	問題演習④	1,2,3	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h
13	問題演習⑤	1,2,3	テキストの該当範囲を読 んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に 取り組む。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	問題演習⑥	1,2,3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	e-learning、過去問題に取り組む。	1.5h
15	実践問題	1,2,3	テキスト全体を見直しておく。	1.5h	実践問題に取り組む。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



基本情報技術者試験に対応。（受験予定者には受講を強く勧める。他の試験対応科目も履修することが望ましい。）
合格水準に到達するには、各人の積極的な学習姿勢が重要となるので、合格への強い意欲を持った参加が求められる。

【オンラインで授業を実施する場合】

オンデマンド形式のリモート講義の形で進める。

時間中のチャット・ビデオ通話での質問にも応じるので、積極的に利用して欲しい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



情報演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Information Exercise Ⅱ

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB224

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

7 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石川 雅弘

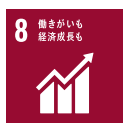
科目に関連した実務経験

会社員としてシステム開発（経験）

履修を必須とする資格

基本情報技術者試験（対応科目）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 現代は医療を含めあらゆる分野において情報・通信システムが導入されており、その活用の範囲はますます広がっている。情報技術の重要性が高まる中で、情報技術者の質の確保も重要な課題となっている。IPAが主催する情報技術者試験は、情報技術者の質の評価の重要な指標であるが、その中で入門的位置付けの試験が基本情報技術者試験である。本科目では、基本情報技術者試験の科目B試験の合格を目指し、その内容の8割を占めるデータ構造とアルゴリズムに関する基礎知識を身につけ、また、それらについての擬似コードの読み書き能力を身につけることを目標とする。
- ② 授業はデータ構造とアルゴリズムに関する講義と、その内容に関する科目B形式の問題による演習の形で進める。

到達目標							^
1. プログラムの基本構造を疑似コードで読み書きできる。■ 2. 基本的なデータ構造とアルゴリズムについて、簡単な説明ができる。■ 3. 基本的なデータ構造とアルゴリズムについて、疑似コードの読み書きができる。■							
使用教材							^
適宜資料を配布する。							
評価方法							^
期末試験（100%）で評価する。							
課題・評価に対するフィードバック方法							^
解答例の提示と解説を行う。							
オフィスアワー							^
月曜4限							
メールアドレス（#→@）							^
ishikawa#takasaki-u.ac.jp							
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	アルゴリズムと疑似コード■	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	
2	配列・リスト・スタック・キュー■	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	
3	線形探索と二分探索■	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	
4	選択ソート・バブルソート・挿入ソート・シェルソート■	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	
5	ヒープ構造とヒープソート■	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	
6	クイックソート・マージソート■	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	
7	文字列探索（単純法・KMP法・BM法）■	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	
8	二分木と木のなぞり■	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	
9	二分探索木・B木■	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	
10	幅優先探索と深さ優先探索■	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	
11	ハッシュ法■	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	
12	ハフマン符号■	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	
13	最短経路問題■ ・ダイクストラ法、	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	・ベルマン・フォード法 ・ワーシャル・フロイド法					
14	総合演習（1）	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h
15	総合演習（2）	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	関連する科目B問題に取り組む。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



基本情報技術者試験に対応。（受験予定者は受講すること。**すでに合格している学生にも受講を強く勧める。**）
合格水準に到達するには、各人の積極的な学習姿勢が重要となるので、合格への強い意欲を持った参加が求められる。
【オンラインで授業を実施する場合】
オンデマンド形式のリモート講義の形で進める。
時間中のチャット・ビデオ通話での質問にも応じるので、積極的に利用して欲しい。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



WebデザインⅡ

MYカモクに追加

英文名：Web Design Ⅱ (HTML5 & JavaScript Programming)

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：HIB225

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田村 拓郎、長澤 亨

履修を必須とする資格

Webクリエイタ認定試験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①レスポンシブWebデザインは、これからのウェブ制作を支える重要な制作手法の一つである。本講義の目標は、レスポンシブWebデザインの理念、HTML5をベースにした基本的な制作手法、必要とされるワークフローの考え方から制作の実践を通じて、レスポンシブWebデザイン技術を修得することにある。

②授業の進め方は、教科書と資料を基本に進め、Webプログラミングの技術であるレスポンシブデザインの技術を習得させる。また、各単元において演習課題をクリアすることで知識の定着度を確認する。最終的に各自レスポンシブWebページのWebサイトを構築する。知識が不足で課題が解けない場合は、予習復習が不足しているため、自習で補うことを促す。

到達目標

- 1.レスポンスWebデザインの必要性や考え方を説明できる。
- 2.レスポンスWebデザインの基礎知識を説明できる。
- 3.レスポンスWebデザインに必要なワークフローを説明できる。
- 4.ブラウザ・端末対応の仕様やブレイクポイントとレファレンスポイントの仕様を決めることができる。レスポンスなコンテンツを作成することができる。

使用教材 ↑

HTML5 & CSS3標準デザイン講座 30LESSONS
ISBN978-4-7981-5813-6

評価方法 ↑

定期試験50%、課題提出40%、授業の参加度10%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

提出物（ファイル）の内容が、求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し、その結果を学生に伝え、必要に応じ、再提出を求める。

オフィスアワー ↑

火曜日の3時限、4時限
質問はメールでも受け付ける。
研究室：1号館6階604

メールアドレス（#→@） ↑

tamura-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、HTML文章とは	1,2	WebデザインIを復習しておく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
2	floatレイアウト	2,3	LESSON13を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
3	flexboxレイアウト	2,3	LESSON15を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
4	CSS3セレクト	2,3	LESSON16～19を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
5	CSS3の装飾表現	2,3	LESSON20を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
6	変形・アニメーション、メディアクエリ	2,3,4	LESSON21～22を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
7	メディアクエリによるレイアウトの変更	1,2,3,4	LESSON22を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
8	レスポンス対応webページの作成	1,2,3,4	LESSON22を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
9	ナビゲーションメニューのあるwebページの作成	2,3,4	LESSON13、15、22を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
10	リンクのあるwebページの作成	2,3,4	CHAPTER1～6を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
11	カラムレイアウトのwebページの作成	2,3,4	CHAPTER1～6を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	positionレイアウト	2,3	LESSON14を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
13	Webページの作成練習1	1,2,3,4	CHAPTER1～6を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
14	Webページの作成練習2	1,2,3,4	CHAPTER1～6を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h
15	Webページの作成練習3	1,2,3,4	CHAPTER1～6を読んでおく	1h	提出課題を完成させる	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷



情報処理演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Information Processing Exercise I

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB226

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 真悟

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーシ ョン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①Office製品は世界の多くの企業で利用されているビジネスツールである。VBAはExcelなどに標準搭載されているVisual Basicをベースとしたプログラミング言語で、作業の自動化やシステム開発にも用いられている。本講義ではVBAの基礎から実践的なコーディングまでを学ぶことを目的とする。

②授業では、教員が各回の内容を教材や実演を通じて説明し、学生は指示された課題を実施しファイルにまとめて提出する。

到達目標

- 1.VBAの基礎的な機能、使い方を説明することができる。
- 2.VBAを用いた実践的なテクニックを説明することができる。

使用教材

自作教材

参考文献 ^						
図解！ExcelVBAのツボとコツがゼッタイにわかる本 秀和システム						
評価方法 ^						
課題提出状況（50%）、学習姿勢（50%）で評価する。						
課題・評価に対するフィードバック方法 ^						
提出物（ファイル）の内容が、求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し、必要に応じ、再提出を求める。						
オフィスアワー ^						
火曜日 3時限、4時限 （1号館6階612研究室） 質問はメールでも受け付ける。						
メールアドレス（#→@） ^						
takahashi-shin#takasaki-u.ac.jp						
授業計画表 ^						
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、VBAとは	1,2	シラバスを確認しておく。	0h	提出課題を完成させる	1.5h
2	ブック操作、シート操作、セルの選択	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
3	変数、ループ処理	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
4	条件分岐、サブルーチン	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
5	フォームコントロール、ActiveXコントロール	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
6	InputBox	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
7	MsgBox、配列	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
8	ユーザーフォーム	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
9	オブジェクトの表示、フォーカスの移動	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
10	VBA作成練習1	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
11	動きのあるマクロ	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
12	VBAを用いた物理演算	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
13	キーボードからの入力	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
14	VBA作成練習2	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	VBA作成練習3	1,2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	2.5h

合計時間（予習・復習）

^

37.5h

備考

^

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷 

アルゴリズムとデータ構造 I

MYカモクに追加

英文名 : Algorithm and Data Structure I

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB227

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 孝

科目に関連した実務経験

SEとして情報通信企業に勤務（経験）

履修を必須とする資格

基本情報技術者試験対応科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①データが加工されやすいように格納しておく形態をデータ構造といい、加工手順のことをアルゴリズムという。本講義では、情報処理技術者として必須となるデータ構造とアルゴリズムの代表的な知識を習得する。

②各講義において、教員が作成したプリントを使って説明を行い、毎回、確認テストまたは実習課題を課す。

到達目標

- 1.フローチャートをもとにトレースができる。■
- 2.基本記号を使ったフローチャートの作成ができる。■
- 3.代表的なアルゴリズムについて説明できる。■
- 4.代表的なアルゴリズムを疑似言語で表現できる。■
- 5.代表的なデータ構造について説明できる。■

使用教材

▲

自作のプリント

評価方法

▲

確認テスト（40％）、課題提出状況（40％）、授業における学習姿勢（20％）により評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

▲

確認テストについては採点して翌週返却する。課題については解答例を提示して解説する。

オフィスアワー

▲

火曜日4時限と5時限

メールアドレス（#→@）

▲

sakamoto#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	フローチャートを使った反復処理のトレース■	1,2	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
2	C言語プログラムを使った反復処理のトレース■	1,2	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
3	配列内容のトレース■	1,2	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
4	線形探索■	1,2,3	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
5	二分探索■	1,2,3	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
6	基本選択法による整列■	1,2,3	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
7	隣接交換法による整列■	1,2,3	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
8	基本挿入法による整列■	1,2,3	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
9	疑似言語■	1,2,3,4	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
10	ハッシュ探索■	1,2,3,4	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
11	再帰呼出し■	1,2,3,4	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
12	クイックソート■	1,2,3,4	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
13	スタックとキュー■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	木構造 ■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h
15	リスト構造 ■	1,2,3,4,5	配布資料を読み、問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに提出する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

37.5h

備考

予習・復習についての時間は参考程度であり、単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



マルチメディア I

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Multimedia

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB228

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田村 拓郎、木幡 直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①本講義では、受講者がマルチメディアに関連する基礎的な事項を理解するとともに、クリエイターやデザイナーに用いられているPhotoshop、Illustratorというふたつのアプリケーションの演習を通じて、マルチメディアコンテンツを作成するための基礎的な能力を身につけることを目標とする。

②授業では、教員が各回の内容を教材や実演を通じて説明し、学生は指示された課題を実施しファイルにまとめて提出する。

到達目標

1. マルチメディアに関連する基礎的な事項に関して、その概要を説明できる。
2. Photoshopの基本操作を習得し、画像を素材として、加工して利用することができる。
3. Illustratorの基本操作を習得し、CGを作成することができる。

使用教材

評価方法

課題の提出状況とその出来栄え90%、授業への参加態度10%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出物（ファイル）の内容が、求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し、その結果を学生に伝え、必要に応じ、再提出を求める。

オフィスアワー

（田村）火3,4限
（木幡）水3限、金3限

メールアドレス（#→@）

tamura-t#takasaki-u.ac.jp
kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義全体のガイダンス、PhotoShop,Illustratorとは	1,2	シラバスを確認しておく。	0h	提出課題を完成させる	1.5h
2	Photoshop（1） 描画の練習	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
3	Photoshop（2） 選択範囲	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
4	Photoshop（3） 画像サイズ、解像度	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
5	Photoshop（4） 写真合成	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
6	Photoshop（5） ノイズ除去、色補正	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
7	Photoshop（6） 透明化、レイヤー効果	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
8	Photoshop（7） 透明化、グラデーション	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
9	Photoshop（8） 製作課題作成	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	2.5h
10	CG作成演習（1） 基本操作	3	CG作成ソフトの機能について調べておく。	0h	提出課題を完成させる	1.5h
11	CG作成演習（2） 基本図形と変形操作	3	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
12	CG作成演習（3） パスの描画と編集	3	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
13	CG作成演習（4） レイヤーの基本	3	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
14	CG作成演習（5） 変形、合成、特殊効果	3	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
15	CG作成演習（6） 画像の配置と編集	3	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	2.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、G P Aの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にC A Pのカウントには含めない。
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷



データサイエンスⅡ

MYカモクに追加

英文名 : Data science Ⅱ (Basic statistics for data science)

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : HIB229

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

1 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

光山 訓

科目に関連した実務経験

企業において医療、産業分野のデータ分析に関連した製品・サービス開発に従事（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

データサイエンスは、単なる数値、記号の集まりであるデータから情報を読み取り、現実世界に役立つ判断を行うことを目的とした分野である。データの取得、蓄積、解析、モデル構築、検証、課題解決の全てを含む広範な知識が必要になる。大学4年間を通じて関連科目を学び知識を涵養する。本講義では、データに基づいた判断を行う際に重要となる統計的推測の基礎知識を習得するとともに、実践力を身に着ける。

②講義の実施方法

授業は、指定教科書に基づいた講義により基礎知識の習得と理論の理解を進め、PCを利用した演習により知識の定着と実践・応用力の獲得を図る。最終段階では総合的な知識の定着度を確認するために総合演習を行う。なお、内容を理解し、スキルを身につけるためには、予習復習が必要である。

到達目標

^

- 1. 確率の基本的な性質を説明することができる
- 2. 確率分布とは何かを説明することができる
- 3. 代表的な確率分布を説明することができる■
- 4. 母集団、標本、標本分布を説明することができる
- 5. 区間推定とは何かを説明することができる
- 6. 統計的検定とは何かを説明することができる
- 7. 代表的な統計的検定手法を説明し、実際のデータに適用することができる

使用教材

^

「統計学基礎」日本統計学会編、東京図書、ISBN978-4-489-02227-2
講義資料・演習教材は随時プリントして配布またはネット配信する。

評価方法

^

総合演習80%、授業への参加度20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎週演習を行い、授業中に解き方を説明する。誤りの多かった箇所については、気を付けるべきポイントを翌週フィードバックする。

オフィスアワー

^

火曜日2限、木曜日2限
質問はメールでも受け付ける。
1号館6階602研究室

メールアドレス（#→@）

^

mitsuyama#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	本講の概要、記述統計(データサイエンスⅠ)の復習	2, 3, 5, 6	教科書「1.1 変数の分類」「1.2 量的データの分布」「1.3 分布の特徴を表す指標」「1.6 2変数データの記述と要約」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5
2	確率の基礎	1	教科書「2.1 事象と確率」「2.2 条件付き確率」「2.3 ベイズの定理」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5
3	確率分布の基礎	2	教科書「2.4 確率変数と確率分布」「2.5 期待値と分散」「2.6 モーメント」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5
4	いろいろな確率分布■	3	教科書「2.4 確率変数と確率分布」「2.5 期待値と分散」「2.6 モーメント」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5
5	2変数の確率分布	3	教科書「2.9 2変数の確率分布」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5
6	大数の法則と中心極限定理	1, 2	教科書「2.11 大数の法則と中心極限定理」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5
7	母集団と標本	4	教科書「3.1 母集団と標本」「3.2 統計的な研究の種類」「2.10 標本分布」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	点推定と区間推定	5	教科書「3.3 点推定と区間推定」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5
9	1標本問題の区間推定	5	教科書「3.4 1標本問題：1つの母集団の母数に関する推定」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5
10	2標本問題の区間推定	5	教科書「3.5 2標本問題：2つの母集団の母数に関する推定」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5
11	統計的仮説検定の基礎	6	教科書「4.1 仮説検定の考え方」「4.2 基本的な仮説検定の構造」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5
12	1標本問題の仮説検定	7	教科書「4.3 1標本問題：1つの母集団の母数に関する検定」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5
13	2標本問題の仮説検定	7	教科書「4.4 2標本問題：2つの母集団の母数に関する検定」を読む。	1.5	講義資料を読み、復習する。	1.5
14	総合演習(1) Excelを使った検定	7	これまでの講義内容を講義資料、教科書で復習しておく。	2.0	理解できていなかった事柄について、講義資料、教科書で復習する。	1.0
15	総合演習(2) 本講義全体の復習	1～7	これまでの講義内容を講義資料、教科書で復習しておく。	2.0	理解できていなかった事柄について、講義資料、教科書で復習する。	1.0

合計時間（予習・復習）



45

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



医療管理総論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Medical Management Theory

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID301

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

6 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

木村 憲洋

科目に関連した実務経験

病院における経営企画室に15年従事し、病院経営、医療政策、新規事業の立ち上げなどを行なってきた。同時に診療情報管理士としても5年間ICDコーディングや統計業務などを行ってきた。

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①医療業界を理解するにあたり、医療の管理について知る必要がある。そこで、医療業界における医療資源を中心に医療管理について知識を習得する。

②授業は、教科書の内容について、実際の病院の業務内容を説明しながら理解してもらう。

到達目標

- 1.医療資源に関して説明することができる。
- 2.医療における法律を説明することができる。
- 3.診療情報管理士と医療業界の位置づけについて説明することができる。■

使用教材

^

診療情報管理Ⅲ（日本病院会）
病院のしくみ（日本実業出版社）
病院と医療のしくみ（日本能率協会マネジメントセンター）

評価方法

^

授業中の課題提出による評価（50％）、最終課題で提出した内容と口頭試問（50％）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

講義終了時に課題を提出し、フィードバックする。

オフィスアワー

^

月曜日1時限

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医療資源について■	1,2,3	教科書で医療資源についてまとめる。	1h	医療資源について理解する。	2h
2	医療における物的資源■	1,2,3	教科書で物的資源についてまとめる。	1h	物的資源について理解する。	2h
3	医療における人的資源■	1,2,3	教科書で人的資源についてまとめる。	1h	物的資源について理解する。	2h
4	医療における財的資源■	1,2,3	教科書で財的資源についてまとめる。	1h	財的資源についてまとめる。	2h
5	医療における情報資源■	1,2,3	教科書で情報資源についてまとめる。	1h	情報資源について理解する。	2h
6	日本の医療制度■	1,2,3	教科書で日本の医療制度についてまとめる。	1h	日本の医療制度について理解する。	2h
7	医療保障■	1,2,3	教科書で医療保障についてまとめる。	1h	医療保障について理解する。	2h
8	医療制度の特徴■	1,2,3	教科書で医療制度の特徴についてまとめる。	1h	医療制度の特徴について理解する。	2h
9	医療制度の成り立ち■	1,2,3	教科書で医療制度の成り立ちについてまとめる。	1h	医療制度の成り立ちについて理解する。	2h
10	国民医療費の現状と将来■	1,2,3	教科書で国民医療費の現状と将来についてまとめる。	1h	国民医療費の現状と将来について理解する。	2h
11	医療の需要と供給■	1,2,3	教科書で医療の需要と供給についてまとめる。	1h	医療の需要と供給について理解する。	2h
12	人口の推移■	1,2,3	教科書で人口の推移についてまとめる。	1h	人口の推移について理解する。	2h
13	地域医療■	1,2,3	教科書で地域医療についてまとめる。	1h	地域医療について理解する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	医療の提供構造 ■	1,2,3	教科書で医療の提供構造についてまとめる。	1h	医療の提供構造について理解する。	2h
15	医療計画 ■	1,2,3	教科書で医療計画の提供構造についてまとめる。	1h	医療計画について理解する。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



医療管理各論 I

MYカモクに追加

英文名：Medical Management Theory I

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID302

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

6 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

木村 憲洋

科目に関連した実務経験

病院における経営企画室に15年従事し、病院経営、医療政策、新規事業の立ち上げなどを行ってきた。同時に診療情報管理士としても5年間ICDコーディングや統計業務などを行ってきた。

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①病院を的確に維持、運営していく上で重要な、病院の経営管理をはじめとする基礎的な知識を見につけることを目標とする。

②授業は、教科書の内容について、実際の病院の業務内容を説明しながら理解してもらう。

到達目標

- 1.病院経営における経営資源を説明できる。
- 2.病院経営の基本を説明できる。■

使用教材

^

診療情報管理Ⅲ（日本病院会）
病院のしくみ（日本実業出版社）
病院と医療のしくみ（日本能率協会マネジメントセンター）

評価方法

^

授業中のグループワークの成果物（50%）、最終課題はプレゼンテーションを評価（50%）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業においてグループワークを行い、その内容でディスカッションする。

オフィスアワー

^

月曜日1時限

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	病院経営管理 ■	1,2	教科書で病院経営管理についてまとめる。	1h	病院経営管理について理解する。	2h
2	プロセス（工程）とは ■	1,2	教科書で医療のプロセスについてまとめる。	1h	医療のプロセスについて理解する。	2h
3	組織と機能 ■	1,2	教科書で組織と機能についてまとめる。	1h	組織と機能について理解する。	2h
4	管理と組織 ■	1,2	教科書で病院の管理と組織についてまとめる。	1h	病院の管理と組織についてまとめる。	2h
5	財務・経営管理 ■	1,2	教科書で財務・経営管理についてまとめる。	1h	財務・経営管理について理解する。	2h
6	人事・労務管理 ■	1,2	教科書で人事・労務管理についてまとめる。	1h	人事・労務管理について理解する。	2h
7	施設管理 ■	1,2	教科書で施設管理についてまとめる。	1h	施設管理について理解する。	2h
8	医療管理 ■	1,2	教科書で医療管理についてまとめる。	1h	医療管理について理解する。	2h
9	診療部門 ■	1,2	教科書で診療部門についてまとめる。	1h	診療部門について理解する。	2h
10	看護部門 ■	1,2	教科書で看護部門についてまとめる。	1h	看護部門について理解する。	2h
11	医療技術部門・診療協力部門・メディカルスタッフ部門 ■	1,2	教科書で医療技術部門・診療協力部門・メディカルスタッフ部門についてまとめる。	1h	医療技術部門・診療協力部門・メディカルスタッフ部門について理解する。	2h
12	教育研究部門 ■	1,2	教科書で教育研究部門についてまとめる。	1h	教育研究部門について理解する。	2h
13	チーム医療 ■	1,2	教科書でチーム医療についてまとめる。	1h	チーム医療について理解する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	チーム医療の主な活動 ■	1,2	教科書でチーム医療の主な活動についてまとめる。	1h	チーム医療の主な活動について理解する。	2h
15	チーム医療の推進 ■	1,2	教科書でチーム医療の推進についてまとめる。	1h	チーム医療の推進について理解する。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、G P Aの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にC A Pのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

医療管理各論Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Medical Management Theory Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID303

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

6 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

木村 憲洋

科目に関連した実務経験

病院における経営企画室に15年従事し、病院経営、医療政策、新規事業の立ち上げなどを行ってきた。同時に診療情報管理士としても5年間ICDコーディングや統計業務などを行ってきた。

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①日本における医療制度について理解とDPC制度の成立とDPCによる請求について理解することを目的とする。
- ②授業は、教科書の内容について、実際の病院の業務内容を説明しながら理解してもらう。

到達目標

- 1.日本の医療制度を説明できる。■
- 2.DPC制度を説明できる。

使用教材

^

診療情報管理Ⅲ（日本病院会）、診療情報管理士教育問題集（基礎、専門）
病院のしくみ（日本実業出版社）
病院と医療のしくみ（日本能率協会マネジメントセンター）

評価方法

^

授業中のグループワークの成果物(50%)、最終課題はプレゼンテーションを評価(50%)

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業においてグループワークを行い、その内容でディスカッションする。

オフィスアワー

^

月曜日1時限

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	わが国の医療保険制度 ■	1,2	教科書で我が国の医療保険制度についてまとめる。	1h	我が国の医療保険制度について理解する。	2h
2	保険診療と医療費の支払いの仕組み ■	1,2	教科書で保険診療と医療費の支払いの仕組みについてまとめる。	1h	保険診療と医療費の支払いの仕組みについて理解する。	2h
3	診療報酬制度の概要 ■	1,2	教科書で診療報酬制度の概要についてまとめる。	1h	診療報酬制度の概要について理解する。	2h
4	診療報酬請求業務 ■	1,2	教科書で診療報酬請求業務についてまとめる。	1h	診療報酬請求業務についてまとめる。	2h
5	ケースミックス区分法 ■	1,2	教科書でケースミックス区分法についてまとめる。	1h	ケースミックス区分法について理解する。	2h
6	診断群分類 ■	1,2	教科書で診断群分類についてまとめる。	1h	診断群分類について理解する。	2h
7	わが国の診断群分類誕生の背景 ■	1,2	教科書でわが国の診断群分類誕生の背景についてまとめる。	1h	わが国の診断群分類誕生の背景について理解する。	2h
8	DPCの成り立ち ■	1,2	教科書でDPCの成り立ちについてまとめる。	1h	DPCの成り立ちについて理解する。	2h
9	DPCのコーディング ■	1,2	教科書でDPCのコーディングについてまとめる。	1h	DPCのコーディングについて理解する。	2h
10	DPCとコーディング ■	1,2	教科書でDPCとコーディングについてまとめる。	1h	DPCとコーディングについて理解する。	2h
11	DPCと経営分析 ■	1,2	教科書でDPCと経営分析についてまとめる。	1h	DPCと経営分析について理解する。	2h
12	DPCと診療報酬点数 ■	1,2	教科書でDPCと診療報酬点数についてまとめる。	1h	DPCと診療報酬点数について理解する。	2h
13	DPCと包括評価 ■	1,2	教科書でDPCと包括評価についてまとめる。	1h	DPCと包括評価について理解する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	介護保険制度 ■	1,2	教科書で介護保険制度についてまとめる。	1h	介護保険制度について理解する。	2h
15	病院経営と診療報酬と介護報酬 ■	1,2	教科書で病院経営と診療報酬と介護報酬についてまとめる。	1h	病院経営と診療報酬と介護報酬について理解する。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、G P Aの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にC A Pのカウントには含めない。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

医療管理各論Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Medical Management Theory Ⅲ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID304

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

6 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

木村 憲洋

科目に関連した実務経験

病院における経営企画室に15年従事し、病院経営、医療政策、新規事業の立ち上げなどを行なってきた。同時に診療情報管理士としても5年間ICDコーディングや統計業務などを行ってきた。

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①質の高い医療を提供するための診療情報管理士に役割と医療安全や医療の質に関する基本について理解することを目標とする。

②授業は、教科書の内容について、実際の病院の業務内容を説明しながら理解してもらう。

到達目標

- 1.医療の質と診療情報管理士の役割について説明できる。■
- 2.医療安全の基本を説明できる。

使用教材

^

診療情報管理Ⅲ（日本病院会）、診療情報管理士教育問題集（基礎、専門）
病院のしくみ（日本実業出版社）
病院と医療のしくみ（日本能率協会マネジメントセンター）

評価方法

^

授業中のグループワークの成果物（50%）、最終課題はプレゼンテーションを評価（50%）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業においてグループワークを行い、その内容でディスカッションする。

オフィスアワー

^

月曜日1時限

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医療安全概論 ■	1,2	教科書で医療安全概論についてまとめる。	1h	医療安全概論について理解する。	2h
2	医療におけるリスクマネジメント ■	1,2	教科書で医療におけるリスクマネジメントについてまとめる。	1h	医療におけるリスクマネジメントについて理解する。	2h
3	ヒューマンエラー ■	1,2	教科書でヒューマンエラーについてまとめる。	1h	ヒューマンエラーについて理解する。	2h
4	医療事故 ■	1,2	教科書で医療事故についてまとめる。	1h	医療事故についてまとめる。	2h
5	医事紛争 ■	1,2	教科書で医事紛争についてまとめる。	1h	医事紛争について理解する。	2h
6	医療事故調査制度 ■	1,2	教科書で医療事故調査制度についてまとめる。	1h	医療事故調査制度について理解する。	2h
7	医療の質と保障 ■	1,2	教科書で医療の質と保証についてまとめる。	1h	医療の質と保証について理解する。	2h
8	チーム医療における診療情報共有 ■	1,2	教科書でチーム医療における診療情報共有についてまとめる。	1h	チーム医療における診療情報共有について理解する。	2h
9	医療の質マネジメント ■	1,2	教科書で医療の質マネジメントについてまとめる。	1h	医療の質マネジメントについて理解する。	2h
10	医療の質の評価 ■	1,2	教科書で医療の質の評価についてまとめる。	1h	医療の質の評価について理解する。	2h
11	医療の質の公表 ■	1,2	教科書で医療の質の公表についてまとめる。	1h	医療の質の公表について理解する。	2h
12	医療マーケティング ■	1,2	教科書で医療マーケティングについてまとめる。	1h	医療マーケティングについて理解する。	2h
13	診療情報管理におけるデータの活用 ■	1,2	教科書で診療情報管理におけるデータの活用についてまとめる。	1h	診療情報管理におけるデータの活用について理解する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	電子カルテデータ、オーダーデータと医事会計データ■	1,2	教科書で電子カルテデータ、オーダーデータと医事会計データについてまとめる。	1h	電子カルテデータ、オーダーデータと医事会計データについて理解する。	2h
15	診療情報管理データと医事会計データ■	1,2	教科書で診療情報管理データと医事会計データについてまとめる。	1h	診療情報管理データと医事会計データについて理解する。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



診療情報管理 I

MYカモクに追加

英文名 : Health information management I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID305

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

6 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 喜代美

科目に関連した実務経験

診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中、單元ごとに質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①診療情報管理の意義と役割について系統的に学習する。診療情報管理に関わる法令や諸規則、診療情報の機能的な記録方法やルール、構成を学ぶ。診療情報管理を実施するための基礎として診療情報の重要性を説明できる。。診療情報を適切に取り扱い、責任ある情報管理を行う能力を身に付ける。

- ②授業期間全体を通じた授業の進め方
- ・各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はテキストにて要点を提示する。
 - ・予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。

到達目標 ↑

- 1.診療情報管理の意義と役割を説明できる。■
- 2.診療情報管理の歴史について知識を深める。
- 3.診療情報管理と法規等を説明できる。■
- 4.診療情報管理に関するガイドラインを説明できる。
- 5.診療記録の記載方法を説明できる。
- 6.診療記録の記載について知識を深める。

使用教材 ↑

診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ 専門課程編（2020.7初版）
診療情報管理士教育問題集（専門・8章～12章）

参考文献 ↑

診療情報管理学 診療情報管理士業務指針 診療情報の記録指針

評価方法 ↑

授業参加への積極性10%、定期試験90%

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

授業時間内に期末試験について、出題の意図と内容の解説を行う。

オフィスアワー ↑

大川（情報）：木曜日2限
（1号館609研究室）

メールアドレス（#→@） ↑

大川（情報）：okawa-ki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	診療情報管理士テキストⅢ第8章「診療情報管理Ⅰ（法令・諸規則）」を読み、講義の目標を説明できる。。	1h	講義内容、到達目標、評価方法を確認し、診療情報管理士に必要な知識を認識する。	2h
2	8-1-1診療情報管理に関する用語の定義	1	診療録（カルテ）に記載されている用語の定義に目を通す。	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療情報管理に関する用語の定義を説明できる。。	2h
3	8-1-2診療記録の価値 ■	1	診療記録の価値に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療記録の価値を説明できる。	2h
4	8-1-3診療情報管理の役割 ■	1	診療情報管理の役割に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療情報管理の役割を説明できる。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	8-2-1診療記録のルーツと8-2-2諸外国における診療情報管理	1	診療記録のルーツと諸外国における診療情報管理に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療記録のルーツと諸外国における診療情報管理を説明できる。	2h
6	8-2-3わが国における診療情報管理	2	診療情報管理士テキストⅣ第8章「診療情報管理Ⅰ」の日本における診療情報管理に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、日本における診療情報管理を説明できる。	2h
7	8-3診療情報管理と法規等1■	2	8-3-1診療記録の記載と保存についての法規および、8-3-2電子化に関する法規に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療記録の記載と保存についての法規および、電子化に関する法規を説明できる。	2h
8	8-3診療情報管理と法規等2■	1	8-3-3診療記録の提示に関する法規および、8-3-4医療事故にともなう法的責任に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療記録の提示に関する法規および、医療事故にともなう法的責任を説明できる。	2h
9	8-3診療情報管理と法規等3■	3	8-3-5診療情報の守秘に関する法規および、8-3-6個人情報の保護に関する法律に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療情報の守秘に関する法規および、個人情報の保護に関する法律を説明できる。	2h
10	8-3診療情報管理と法規等4■	4	8-3-7医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンスおよび、8-3-8個人情報保護法と厚生労働省のガイダンスに基づく病院の対応に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンスおよび、個人情報保護法と厚生労働省のガイダンスに基づく病院の対応を説明できる。	2h
11	8-3診療情報管理と法規等5■	4	8-3-9診療情報の提供に関する指針に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療情報の提供に関する指針を説明できる。	2h
12	8-4診療記録の記載方式■	4	診療記録の記載方式である8-4-1POSと8-4-2クリニカルパスに目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療記録の記載方式であるPOSとクリニカルパスを説明できる。	2h
13	8-5診療情報の記載	5	8-5-1診療記録の記載方法および、8-5-2診療録の基本的な記載事項に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療記録の記載方法および、診療録の基本的な記載事項を説明できる。	2h
14	8-5-3診療記録の種類	6	8-5-3診療記録の種類に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療記録の種類を説明できる。	2h
15	診療情報管理の意義と役割まとめ	6	診療録、診療記録に関する法律や法規を踏まえて診療情報管理の意義と診療情報管理士の役割を考える	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療録、診療記録に関する法律や法規を踏まえて診療情報管理の意義と診療情報管理士の役割を説明できる。	2h

備考

診療情報管理士資格必修科目

質問はメールでも可能。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

診療情報管理Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Health information management Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID306

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

6 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 喜代美

科目に関連した実務経験

診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中、單元ごとに質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①診療情報管理士の専門性について理解し、医療に貢献する診療情報管理を実践していくための能力の基礎を身に付ける。診療情報管理を実施する場で容易に想起され、応用可能な基礎知識を習得する。

②授業期間全体を通じた授業の進め方

- ・各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はテキストにて要点を提示する。
- ・予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。

到達目標

- 1.診療情報管理士について説明できる。■
- 2.診療情報管理士に求められる資質について知識を深める。
- 3.診療情報管理士の基本業務について説明できる。■
- 4.紙カルテ運用における診療情報管理について知識を深め説明できる。
- 5.電子カルテ運用における診療情報管理を説明できる。
- 6.診療情報管理士による改善への取り組みについて知識を深め実務に生かせるようにする。
- 7.診療情報管理士の活動組織について知識を深め、実務に活用できるようにする。

使用教材

診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ 専門課程編（2020.7版）
診療情報管理士教育問題集（専門・8章～12章）

参考文献

診療情報管理学 診療情報管理士業務指針 診療情報の記録指針

評価方法

授業参加への積極性10%、定期試験90%

課題・評価に対するフィードバック方法

授業時間内に期末試験について、出題の意図と内容の解説を行う。

オフィスアワー

大川（情報）：月曜日3限
（1号館609研究室）

メールアドレス（#→@）

大川（情報）：okawa-ki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	9-1診療情報管理士について■	1	9-1-1診療情報管理士とは何かおよび、9-1-2診療情報管理士の業務指針に目を通す	1h	講義内容、到達目標、評価方法を確認し、診療情報管理士とは何かおよび、診療情報管理士の業務指針を理解する	2h
2	9-2診療情報管理士に求められる資質	2	9-2-1知識と技能、9-2-2視点に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療情報管理士に求められる知識と技能、視点を理解する	2h
3	9-3診療情報管理士の基本業務1	3	9-3-1診療情報を体系的・一元的に管理する業務、9-3-2診療情報を安全に保存・管理する業務に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療情報を体系的・一元的に管理する業務、安全に管理する業務を理解する	2h
4	9-3診療情報管理士の基本業務2	3	9-3-3診療情報を点検・管理する業務、9-3-4個人情報としての診療情報を保護する業務、に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療情報を点検・管理する業務、個人情報としての診療情報を保護する業務、病院管理・運営のための業務とその実施方法を理解する	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	9-3診療情報管理士の基本業務3 ■	3	9-3-5病院管理・運営のための業務とその実施方法、9-3-6診療情報の活用に向けたデータ処理・提供方法に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、病院管理・運営のための業務とその実施方法、診療情報の活用に向けたデータ処理・提供方法を理解する	2h
6	9-4個人情報保護の視点からの保管管理 ■	4	9-4個人情報保護の視点からの保管管理に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、個人情報保護の視点からの保管管理を理解する	2h
7	9-5紙カルテ運用における診療情報管理1	4	9-5-1ナンバリング、9-5-2ファイリング（保管法）に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、ナンバリング、ファイリング（保管法）を理解する	2h
8	9-5紙カルテ運用における診療情報管理2	4	9-5-3診療記録の保存期間と保存方法、9-5-4パーキングに目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療記録の保存期間と保存方法、パーキングを理解する	2h
9	9-5紙カルテ運用における診療情報管理3	5	9-5-5紙カルテの管理方式および9-5-6紙カルテの貸出管理に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、紙カルテの管理方式および紙カルテの貸出管理を理解する	2h
10	9-5紙カルテ運用における診療情報管理4	5	9-5-7診療記録の回収および9-5-8記録内容の点検に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、の回収および記録内容の点検を理解する	2h
11	9-6電子カルテ運用における診療情報管理1	5	9-6-1電子カルテの運用、9-6-2記載する場所の明確化、9-6-3紙媒体情報の保存に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、電子カルテの運用、記載する場所の明確化、紙媒体情報の保存を理解する	2h
12	9-6電子カルテ運用における診療情報管理2	5	9-6-4診療情報の点検および、9-6-5個人情報保護への対応に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療情報の点検および、個人情報保護への対応を理解する	2h
13	9-7診療情報の提供に係る業務	6	9-7-1院内職員および9-7-2院外への情報提供と、9-7-3医療機能情報の提供制度、9-7-4患者への診療情報提供に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、院内職員および院外と、医療機能情報の提供制度、患者への診療情報提供を理解する	2h
14	9-8診療情報管理士による改善への取り組み	7	9-8-1医療の質の評価、9-8-2医療安全管理、9-8-3チーム医療、9-8-4病院経営に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、医療の質の評価、医療安全管理、チーム医療、病院経営を理解する	2h
15	9-9診療情報管理士の活動組織	7	9-9-1診療情報管理部門、9-9-2診療情報管理委員会、9-9-3適切なコーディングに関する委員会に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、診療情報管理室、診療情報管理委員会、適切なコーディングに関する委員会について理解する	2h

合計時間（予習・復習）

45h



備考



診療情報管理士資格必修科目

質問はメールでも可能。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

診療情報管理Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Health information management Ⅲ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID307

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

6 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 喜代美

科目に関連した実務経験

診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中、單元ごとに質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①診療情報管理士の実務で重要なDPC、医師事務作業補助、がん登録について理解を深める
 ②授業期間全体を通じた授業の進め方

- ・各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はテキストにて要点を提示する。
- ・予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。

到達目標

- 1.DPC業務について、実務上求められることを踏まえて実務者の視点から説明できる。■
- 2.医師事務作業補助者業務について、実務上求められることを踏まえて実務者の視点から説明できる。■
- 3.がん登録業務について、実務上求められることを踏まえて実務者の視点から説明できる。■
- 4.診療情報管理士認定試験対策

使用教材

診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ 専門課程編（2020.7版）
診療情報管理士教育問題集（専門・8章～12章）

参考文献

診療情報管理学 診療情報管理士業務指針 診療情報の記録指針

評価方法

授業参加への積極性10%、定期試験90%

課題・評価に対するフィードバック方法

授業時間内に期末試験について、出題の意図と内容の解説を行う。

オフィスアワー

大川（情報）：木曜日2限
（1号館609研究室）

メールアドレス（#→@）

大川（情報）：okawa-ki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	10-1DPC制度と実務1■	1	10-1-1DPCと診療情報管理士（診療情報管理部門）との関わりに目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、DPCと診療情報管理士（診療情報管理部門）との関わりを理解する	2h
2	10-1DPC制度と実務2■	1	10-1-2影響調査（基礎調査）と診療情報管理士に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ影響調査（基礎調査）と診療情報管理士を理解する	2h
3	10-1DPC制度と実務3■	1	10-1-3DPCと影響調査（基礎調査）に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、DPCと影響調査（基礎調査）を理解する	2h
4	10-1DPC制度と実務4■	1	10-1-4病院指標の公表と診療情報管理士に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ病院指標の公表と診療情報管理士を理解する	2h
5	10-1DPC制度と実務5■	1	10-1-5データ精度と診療情報管理士に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べデータ精度と診療情報管理士を理解する	2h
6	10-1DPC制度と実務6■	1	10-1-6DPCデータの活用を目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べDPCデータの活用を理解する	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	10-2医師事務作業補助者業務について1	2	10-2-1医師事務作業補助者の業務と体制に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ医師事務作業補助者の業務と体制を理解する	2h
8	10-2医師事務作業補助者業務について2	2	10-2-2医師事務作業補助者と診療情報管理士の関わりに目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ医師事務作業補助者と診療情報管理士の関わりを理解する	2h
9	10-3がん登録の実務について1■	3	10-3-1わが国のがん対策とがん登録に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べわが国のがん対策とがん登録を理解する	2h
10	10-3がん登録の実務について2■	3	10-3-2がん登録に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べがん登録を理解する	2h
11	診療情報管理まとめ1	3	診療情報管理士教育問題集 専門の8章の問題を解いておく	1h	診療情報管理士教育問題集 専門の8章の全問の正解をテキストで確認する	2h
12	診療情報管理まとめ2	4	診療情報管理士教育問題集 専門の9章の問題を解いておく	1h	診療情報管理士教育問題集 専門の9章の全問の正解をテキストで確認する	2h
13	診療情報管理まとめ3	4	診療情報管理士教育問題集 専門の10章の問題を解いておく	1h	診療情報管理士教育問題集 専門の10章の全問の正解をテキストで確認する	2h
14	診療情報管理まとめ4	4	診療情報管理士教育問題集 専門の10章の問題を解いておく	1h	診療情報管理士教育問題集 専門の10章の全問の正解をテキストで確認する	2h
15	期末テスト	4	DPC業務・医師事務作業補助者業務・がん登録実務について、テキスト及び問題集で復習しておく	1h	解けなかった問題についてテキストで確認する	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

診療情報管理士資格必修科目

質問はメールでも可能。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

医療統計学 I

MYカモクに追加

英文名：Medical Statistics I

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID308

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

7 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石川 雅弘

履修を必須とする資格

- ・診療情報管理士（必修科目）
- ・データサイエンス・AI実務パスポート（選択必修）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

時間内にオンラインで小テストを行い、間違いの多い点について説明を行うとともに質問に答える。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 今日の社会では、多種多様なデータが絶え間なく生成・蓄積されている。医療の現場においても、患者や医療従事者の状態、ケアの内容や程度、病院の経営状況などの様々なデータが存在する。データは適切に処理し意思決定に結びつける必要があるが、適切な分析手法の選択とその結果の解釈には統計的知識が不可欠である。

本科目では、データの整理、表現、比較のための、記述統計学の基礎的な概念や手法と、病院統計の基本を理解することを

目標とする。

② 講義はスライドを用いて教材テキストに沿った解説をベースに進め、毎回オンラインで小テストを行う。

到達目標 ↑

- 1. データの尺度を説明できる。
- 2. 基本統計量を計算できる。
- 3. 箱ひげ図、ヒストグラム、散布図を作図・解釈でき、ピアソンの相関係数を計算・評価できる。
- 4. 適切なグラフ表現を選択し、作成できる。
- 5. 各種医療評価指標の意味を理解し、計算できる。

使用教材 ↑

「ブレストップ統計学Ⅰ 記述統計学 第2版」，稲葉由之著，弘文堂，ISBN-13: 978-4335001598

参考文献 ↑

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅲ」，一般社団法人日本病院会

評価方法 ↑

期末試験（100％）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

解答例の提示と解説を行う。

オフィスアワー ↑

月曜 5 限

メールアドレス（#→@） ↑

ishikawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	記述統計学と推測統計学、データの尺度	1	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	テキストの該当範囲を読んでデータ尺度について理解を定着させる。	1.5 h
2	統計データの分類と集計	1,2	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	例題を解き直し、質的データと量的データの統計表を作成できるようにする。	1.5 h
3	統計表のグラフ表現	2,3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	例題を解き直し、棒グラフとヒストグラムの違いを確認し、正しいヒストグラムを作成できるようにする。	1.5 h
4	中心位置の統計量	2,3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	例題を解き直し、平均と中央値の意味と計算方法を確認する。	1.5 h
5	散らばりの統計量	2,3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	例題を解き直し、分散と標準偏差の意味と計算方法を確認する。	1.5 h
6	散らばりのグラフ表現	2,3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	例題を解き直し、四分位数・四分位範囲の求め方を確認し、箱ひげ図を作成できるようにする。	1.5 h
7	二変数の関連性1	2,3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	共分散と相関係数、散布図に関する例題を解き直し、理解を深める。	1.5 h
8	二変数の関連性2	2,3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	誤用を避け適切に活用できるよう、相関係数を評価する際の注意点を確認する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	ここまで（記述統計学）のまとめ	1,2,3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	テキストと授業資料を見直し、疑問の解消に努める。	1.5h
10	検査を評価する様々な指標	5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	例題を解き直し、陽性的中率などの主要な指標の意味と計算方法を理解する。	1.5h
11	データのグラフ表現	5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	例題を解き直し、目的に応じた適切なグラフ選択ができるように各種グラフの特徴の理解を深める。	1.5h
12	病院の統計指標	5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	該当範囲を読み直し、主な病院統計・患者統計の内容と目的を確認する。	1.5h
13	主な医療評価指標	5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	例題を解き直し、各種医療評価指標の意味を理解し、実際に計算できるようにする。	1.5h
14	様々な実験スタイルと倫理指針	5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	テキスト・授業資料を読み直し、ケースコントロール研究とコホート研究の違いを理解し、また、人を対象とした研究に関する倫理指針への理解を深める。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4,5	テキストと授業資料の全体に目を通し、これまでの疑問点などをピックアップする。	1.5h	疑問だった点についての理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

診療情報管理士試験受験予定者だけでなく、基本情報技術者試験受験予定者にも履修を勧める。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。

副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含まれない。

【オンラインで授業を実施する場合】

オンデマンド形式のリモート講義の形で進める。

時間内のチャット・ビデオ通話での質問にも応じるので、積極的に利用して欲しい。

印刷 

医療統計学Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Medical Statistics Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID309

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

7 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石川 雅弘

履修を必須とする資格

診療情報管理士（必修科目）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

時間内にオンラインで小テストを行い、間違いの多い点について説明を行うとともに質問に答える。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 他の様々な分野同様、医療の現場においても様々なデータが生産・蓄積され続けている。医療の質の向上や病院の経営状況の改善には、蓄積されたデータを適切に処理し有効に活用する必要があるが、データの適切な分析と解釈には統計的知識が不可欠である。特に、関心の対象である全体（母集団）のデータが得られずその一部（標本）のデータしか得られない場合には、推測統計学の知識が必須である。

本科目では、推測統計学の基本的な考え方と、基本的な統計学的推定・検定手法について学ぶ。特に各検定手法の利用シー

ンを理解し、実際に計算し検定を行えるようになることを目標とする。
② 講義はスライドを用いて教材テキストに沿った解説をベースに進め、毎回オンラインで小テストを行う。

到達目標 ^

- 1. 記述統計学と推測統計学の違いを説明できる。
- 2. 母集団と標本の関係、標本に望まれる性質を説明できる。
- 3. 点推定と区間推定を説明できる。
- 4. 統計学的検定の考え方と有意水準などの基本的概念の意味を説明できる。
- 5. 基本的な検定手法を適用すべき状況と前提条件を説明でき、検定を実行できる。

使用教材 ^

「ブレストップ統計学Ⅱ 推測統計学」，稲葉由之著，弘文堂，ISBN-13: 978-4335000874

参考文献 ^

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅲ」，一般社団法人日本病院会

評価方法 ^

期末試験（100％）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

解答例の提示と解説を行う。

オフィスアワー ^

月曜 4 限

メールアドレス（#→@） ^

ishikawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	母集団と標本	1	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	記述統計学と推測統計学の違いについて理解し、医療における推測統計学の役割への理解を深める。特に、母集団と標本の違い、標本抽出時に注意すべき点の理解を深める。	1.5 h
2	確率と確率変数	1,2	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	講義内容をまとめ直し、確率変数への理解を深める。	1.5 h
3	確率分布	2,3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	講義内容をまとめ直し、経験確率と先験確率、確率変数と確率分布の概念の理解を深める。また、例題を解き直し二項分布に基づく確率計算ができるようにする。	1.5 h
4	大数の法則	2,3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	例題を解き直し、経験確率と大数の法則の理解を深める。	1.5 h
5	中心極限定理	2,3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	例題を解き直し、中心極限定理とそこから導かれる標本平均の分布の理解を深める。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	正規分布と χ^2 分布（カイ二乗分布）	2,3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	例題を解き直し、正規分布・標準正規分布の性質について理解を深める。また、自由度の概念を確認する。	1.5h
7	母数の点推定	2,3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	例題を解き直し、母数の点推定量に望まれる不偏性について理解し、母平均の点推定量と母分散の点推定量（不偏分散）の定義の理解を深める。また、Z分布とt分布の関係を確認する。	1.5h
8	母平均の区間推定	2,3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	例題を解き直し、母平均の区間推定の考え方と中心極限定理の関係の理解を深める。また、信頼区間の考え方を確認する。	1.5h
9	母分散の区間推定	2,3,4	ここまでの内容で疑問点を明らかにしておく。	1.5h	例題を解き直し、母分散の区間推定の考え方とカイ二乗分布の関係の理解を深める。	1.5h
10	統計的仮説検定の考え方	4,5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	例題を解き直し、統計的仮説検定と背理法の類似性を確認し、検定の考え方の理解を深め、検定の流れを把握する。	1.5h
11	母平均のZ検定、母分散のt検定、母比率の検定（二項検定、Z検定）	5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	例題を解き直し、Z検定、t検定、二項検定の考え方の理解を深める。	1.5h
12	対応のない2群の平均値の差の検定 ・ Studentのt検定 ・ Welchのt検定	5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	例題を解き直し、それぞれの検定法の考え方と適用されるべき状況の理解を深める。特に、studentのt検定は2つの母分散が等しい場合にしか適用できないこと、Welchのt検定は前提無しに適用可能であり、より好ましい検定であることを理解する。	1.5h
13	対応のある2群の平均値の差の検定	5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	例題を解き直し、対応のある2群とはどのような2群かを理解し、検定を行えるようにする。	1.5h
14	χ^2 検定 ・ 適合度の検定 ・ 独立性の検定	5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	例題を解き直し、適合度の検定・独立性の検定の考え方への理解を深める。特に、検定は帰無仮説の下での期待値と観測値のズレを評価するものであり、片側検定となる点を理解する。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4,5	テキスト全体に目を通し、これまでの疑問点などをピックアップする。	1.5h	疑問だった点についての理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

医療統計学Ⅰを履修済みである前提で進める。

医療統計学演習を並行して履修することが望ましい。（医療統計学演習は、医療統計学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容をExcelで実践

する科目であり、本科目の内容の理解を深めるのに役立つ。) 診療情報管理士試験受験者や基本情報技術者試験受験者には、履修を強く勧める。
【オンラインで授業を実施する場合】
オンデマンド形式のリモート講義の形で進める。
時間内のチャット・ビデオ通話での質問にも応じるので、積極的に利用して欲しい。

印刷 

医療統計学演習

MYカモクに追加

英文名：Medical Statistics Practice

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID310

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

7 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

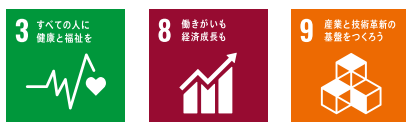
担当教員

石川 雅弘

履修を必須とする資格

- ・診療情報管理士（選択必修）
- ・データサイエンス・AI実務パスポート（選択必修）
- ・上級データサイエンス・AI実務パスポート（選択必修）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 医療の現場では日々様々なデータが発生・蓄積されており、医療や病院経営の改善などに役立つ可能性を秘めている。しかし、データを客観的に評価し活用するには統計学的知識が不可欠であり、また、必要な計算を実際に行える必要がある。本科目では、医療統計学Ⅰ・Ⅱで学んだ様々な統計指標や手法について、Excelを用いて実際に計算・評価できるようになることを目標とする。
- ② 演習はテキスト内容に沿った解説と課題を記したExcelファイルを配付し、その中で実際に問題を解きながら理解を深める形で進める。

到達目標



1. Excelで基本統計量を計算できる。
2. Excelで棒グラフ、折れ線グラフ、ヒストグラムなどが作成できる。
3. Excelで散布図の作成、ピアソンの相関係数の計算、回帰直線による予測ができる。
4. Excelで二項分布、Z分布、t分布、カイニ乗分布の確率計算ができる。
5. Excelで母平均の点推定と区間推定ができる。
6. Excelで基本的な検定手法の計算ができる。

使用教材



- ・「Excelで学ぶ統計解析入門 Excel2019/2016対応版」，菅民郎，オーム社，ISBN-13: 978-4274226410
- ・Excelファイルを配布

評価方法



期末試験（100％）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



解答例の提示と解説を行う。

オフィスアワー



月曜 4 限

メールアドレス（#→@）



ishikawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	基本統計量の計算	1,2	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
2	度数分布表、ヒストグラム、箱ひげ図の作成（1）	1,2	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
3	度数分布表、ヒストグラム、箱ひげ図の作成（2）	1,2	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
4	基準値・偏差値の計算	2	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
5	相関係数の計算、散布図の作成、回帰直線の描画と予測	3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
6	二項分布に基づく確率計算	3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
7	正規分布に基づく確率計算、正規確率プロットの作成	4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
8	母平均の区間推定	4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
9	母比率の推定、母分散の推定	4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
10	母平均のt検定	4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
11	平均値の検定、Z検定、t検定、二項検定	5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	母平均の検定（Studentのt検定、Welchのt検定）	6	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
13	対応のある2群の平均値の検定 ・ Excelの分析ツールによる検定 ・ T.TEST()関数による検定	6	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
14	カイ自乗検定 ・ 適合度の検定 ・ 独立性の検定 ・ CHISQ.TEST()関数による検定	6	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	Excelファイルの課題を完成させる。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4,5,6	これまでの課題を見直し、疑問点をピックアップする。	1.5h	疑問を解消するよう、課題を見直す。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



毎回ノートPCを持参すること。演習は各自のPCで行う。
医療統計学Ⅰを履修済みかつ医療統計学Ⅱを履修中（もしくは履修済み）である前提で進める。
（本科目は、医療統計学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容をExcelで実践する科目である）
【オンラインで授業を実施する場合】
オンデマンド形式のリモート講義の形で進める。
時間内のチャット・ビデオ通話での質問にも応じるので、積極的に利用して欲しい。

印刷 

医療情報学各論

MYカモクに追加

英文名：Theories of Medical Informatics

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID311

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

6 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松尾 仁司

科目に関連した実務経験

情報系企業で医療情報システムの研究開発に従事（経験）

保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）運営幹事（経験）

医療機器企業で画像診断機器の研究開発に従事（経験）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ゲストスピーカーの講演と質疑によるディスカッションを予定。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①本講義では、少子高齢化が進展する社会での医療機関において今後必要となる医療機器・情報システムの具体例を挙げ、その機能・役割を考えることを通して保健医療情報学で学んだことの肉付けを行う。参考資料で予習し、小課題を講義中にディスカッションして理解を深める。
- ②医療機器関連の事業所紹介・ゲストスピーカーの講演等を実施する予定。

到達目標 ↑

- 1.少子高齢化社会を展望し、今後の医療サービスの姿と、それに相応しい新たな医療機器・情報システムとは何かを考える力をつけることができる。■
- 2.最先端の医療機器・情報システムの特徴を説明できる。■

使用教材 ↑

予習のための参考資料を共有フォルダにて配布する。

参考文献 ↑

適宜紹介する。

評価方法 ↑

期末試験70%、レポート課題30%で評価。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

講義中のディスカッション・レポート結果を参照しながら次回以降の講義を行う。

オフィスアワー ↑

水曜日3限
(研究室：1号館6階607室)

メールアドレス（#→@） ↑

matsuo#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	導入・社会の潮流と展望	1	シラバスを読む。	1.5h	講義全体の目標を理解する。	1.5h
2	少子高齢化社会	1	講義資料を熟読する。	1.5h	少子高齢化を意識して21世紀のあるべき社会について考えを整理する。	1.5h
3	健康寿命の延伸■	1	講義資料を熟読する。	1.5h	21世紀における健康・医療・介護の在り方について考えを整理する。	1.5h
4	基盤技術の動向■	1,2	講義資料を熟読する。	1.5h	医療機器・情報システムの基盤技術の動向について整理する。	1.5h
5	医療分野のデータ活用（Ⅰ）■	1,2	講義資料を熟読する。	1.5h	健康・医療・介護分野でのデータ活用の現状を把握する。	1.5h
6	医療分野のデータ活用（Ⅱ）■	1,2	講義資料を熟読する。	1.5h	健康・医療・介護分野でのデータ活用の将来について整理する。	1.5h
7	健康支援システム■	1,2	講義資料を熟読する。	1.5h	健康支援システムの動向について整理する。	1.5h
8	高度医療機器（Ⅰ）－医療機器の実例－■	1,2	講義資料を熟読する。	1.5h	医療機関で活用される小型医療機器について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	高度医療機器（Ⅱ）－高度先端医療－ ■	1,2	講義資料を熟読する。	1.5h	高度先端医療機関での活用が期待される高度医療機器について整理する。	1.5h
10	遠隔医療システム ■	1,2	講義資料を熟読する。	1.5h	遠隔医療システムの動向について整理する。	1.5h
11	地域包括ケアシステム ■	1,2	講義資料を熟読する。	1.5h	地域包括ケアシステムの現状と動向について整理する。	1.5h
12	介護支援システム	1,2	講義資料を熟読する。	1.5h	介護支援システムの現状と展望についてまとめ理解する。	1.5h
13	AI技術の活用 ■	1,2	講義資料を熟読する。	1.5h	医療情報分野におけるAI技術の現状と課題を理解する。	1.5h
14	医療機関の将来像	1	講義資料を熟読する。	1.5h	ICT技術の発展による医療機関の将来像を整理する。	1.5h
15	全体まとめ	1,2	講義全体を通しての重要なポイントに目を通す。	1.5h	今後必要となる医療機器・情報システムについて整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

生体情報学Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Biological Information Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID312

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

東福寺 幾夫、長澤 亨、鈴木 亮二、高橋 大志、田村 拓郎、高橋 真悟

履修を必須とする資格

診療情報管理士 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生体情報学Ⅱでは、生体情報学Ⅰで学んだ知識をもとに、生体計測機器および電子機器を用いて実験することで、その原理と仕組みについて理解するとともに、報告書（レポート）の作成方法について学ぶ。

②実験は班単位で実施するが、報告書（レポート）は個人毎に作成する。

到達目標

- 医療に利用されている機器の原理や操作方法を説明できる。
- 電気電子回路の理解や心電・筋電などの生体情報データの取得と解析ができる。
- 人体の構造を理解し、超音波エコーを用いて目的部位を表示できる。

使用教材

↑

学科で作成した実験書を使用する。

評価方法

↑

実験毎に報告書を提出してもらい、提出された報告書の総合成績で評価する（100％）。特に報告書に記載されている考察・課題の項目を重点的に評価する。報告書は実験終了後1週間以内に担当教員まで提出する。報告書未提出及び再提出等の教員受け取りが完了していない場合は不合格となる。また、再提出は2回までで、それ以上は不合格となる。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

提出された報告書に不備がある場合は、その個所を明示して再提出とする。

オフィスアワー

↑

最初講義時に示す。

メールアドレス（#→@）

↑

初回講義時に示す。

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	特になし	0h	配布された実験書の実験レポート作成要領を熟読する。	0.5h
2	電流計の原理とテスタによる直流電圧、抵抗の測定	1,2	実験書の該当箇所を熟読する。	2h	レポート作成	5h
3	レポート指導①	1,2	特になし	0h	レポート修正	1.5h
4	オシロスコープを用いたCR回路定数の測定	1,2	実験書の該当箇所を熟読する。	2h	レポート作成	5h
5	レポート指導②	1,2	特になし	0h	レポート修正	1.5h
6	血圧計、サーモグラフィー	1,2	実験書の該当箇所を熟読する。	2h	レポート作成	5h
7	レポート指導③	1,2	特になし	0h	レポート修正	1.5h
8	筋電図、心電図	1,2	実験書の該当箇所を熟読する。	2h	レポート作成	5h
9	レポート指導④	1,2	特になし	0h	レポート修正	1.5h
10	脳波、眼球運動	1,2	実験書の該当箇所を熟読する。	2h	レポート作成	5h
11	レポート指導⑤	1,2	特になし	0h	レポート修正	1.5h
12	超音波診断（腹部）	1,3	実験書の該当箇所を熟読する。	2h	レポート作成	5h
13	レポート指導⑥	1,3	特になし	0h	レポート修正	1.5h
14	レポート指導総括：全6回の実験レポート作成のポイントの解説	1,2,3	提出したレポートを見直しておく。	1.5h	レポート作成のポイントを理解。	1h
15	全体まとめ：実験に用いた電子機器、生体計測機器の原理と仕組みを総括	1,2,3	実験書全体にもう一度目を通す。	1.5h	特になし	0h

合計時間（予習・復習）

↑



国際統計分類 I

MYカモクに追加

英文名 : International Statistical Classification I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID313

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

6 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 喜代美

科目に関連した実務経験

診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中、單元ごとに質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①診療情報管理士に必要とされるコーディングの能力は、医学に対する広い知識と、死因・疾病に係る国際的な統計の知識である。医学・医療の知識と共に日々研鑽し、新しい知識を習得するとともに、医療に対する社会のニーズをいち早く受け止め、診療情報を利活用できるようにする。

②授業期間全体を通じた授業の進め方

- ・各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はテキストにて要点を提示する。
- ・予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。

到達目標

- 1.日本の人口動態統計のしくみと意義を理解する。
- 2.人口動態統計に用いられる国際疾病分類（ICD）についての理解を深め、その歴史と現在の譲許を理解する。
- 3.国際統計分類群（ファミリー）に属するその他の分類体系についての理解を深め、健康情報に関する幅広いコード体系についての意義と問題点を理解する。
- 4.日本に導入されているDPC/PDPS（Diagnosis Procedure Combination/Per-Diem Payment System）制度におけるICDの利用について理解する。■

使用教材

診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ 専門課程編（2020.7版）

診療情報管理士教育問題集（専門・8章～12章）

ICD-10第1巻「内容例示表」（2013年版）

参考文献

診療情報管理学 診療情報管理士業務指針 診療情報の記録指針

評価方法

授業参加への積極性10%、定期試験90%

課題・評価に対するフィードバック方法

授業時間内に期末試験について、出題の意図と内容の解説を行う。

オフィスアワー

大川（情報）：月曜日3限
（1号館609研究室）

メールアドレス（#→@）

大川（情報）：okawa-ki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	11-1国際疾病分類論1	1	11-1-1わが国の人口動態統計に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、わが国の人口動態統計を理解する	2h
2	11-1国際疾病分類論2	2	11-1-2国際疾病分類（ICD）の歴史に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、国際疾病分類（ICD）の歴史を理解する	2h
3	11-1国際疾病分類論3	2	11-1-3国際疾病分類(ICD)の現状に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、国際疾病分類(ICD)の現状を理解する	2h
4	11-1国際疾病分類論4	2	11-1-4国際疾病分類（ICD）の構造に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、国際疾病分類（ICD）の構造を理解する	2h
5	11-2国際疾病分類群ファミリー論1	3	11-1-2-1国際疾病分類群ファミリー（WHO-EIC）の概念と構造に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、国際疾病分類群ファミリー（WHO-EIC）の概念と構造を理解する	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	11-2国際疾病分類群ファミリー論2	3	11-2-2国際疾病分類群ファミリーに含まれる分類、国際生活機能分類（ICF）に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、国際疾病分類群ファミリーに含まれる分類、国際生活機能分類（ICF）を理解する	2h
7	11-2国際疾病分類群ファミリー論3	3	11-2-2 2.国際疾病分類-腫瘍学（ICD-O）に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、国際疾病分類-腫瘍学（ICD-O）を理解する	2h
8	11-3国際疾病分類の利用1	3	11-3-1原死因選択ルール 1.死因の定義と死亡診断書に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、死因の定義と死亡診断書を理解する	2h
9	11-3国際疾病分類の利用2	3	11-3-1原死因選択ルール 2.原死因の選択ルールに目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、原死因の選択ルールを理解する	2h
10	11-3国際疾病分類の利用3	3	11-3-1原死因選択ルール 3.各原則・ルールの内容 「一般原則」「選択ルール1～3」に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、各原則・ルールの内容「一般原則」「選択ルール1～3」の例題に回答し理解する	2h
11	11-3国際疾病分類の利用4	3	11-3-1原死因選択ルール 各原則・ルールの内容「修正ルールA～F」に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、各原則・ルールの内容「修正ルールA～F」の例題に回答し理解する	2h
12	11-3国際疾病分類の利用5	3	4.周産期死亡に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、周産期死亡について理解する	2h
13	11-3-2主要病態のコーディングと再選択ルール■	3	11-3-2主要病態のコーディングと再選択ルール、1.主要病態の定義に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、主要病態のコーディングと再選択ルールおよび主要病態の定義を理解する	2h
14	11-3-2 2.主要病態の再選択ルール、3.コーディングのためのガイドライン	4	11-3-2 2.主要病態の再選択ルール、3.コーディングのためのガイドラインに目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、主要病態の再選択ルール、コーディングのためのガイドラインを理解する	2h
15	11-3-3ICDを用いるうえでの注意点■	4	11-3-3ICDを用いるうえでの注意点に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、ICDを用いるうえでの注意点を理解する	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

診療情報管理士資格必修科目

質問はメールでも可能。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



国際統計分類Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：International Statistical Classification Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID314

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

6 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 喜代美

科目に関連した実務経験

診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中、單元ごとに質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人体構造（解剖生理）、医学各論等で学習した知識を生かし、国際統計分類Ⅰの学習と関連付けながら、ICD-10の各章に沿った疾病分類体系を学習し、その特徴を踏まえて統計として正しい分類ができるよう理解を深める。退院時要約や死亡診断書等を用いて診療記録の記載内容を把握し、主傷病名等の診断名および原死因の統計上必要な分類コードを正確に選択

- できる知識を習得する。
- ②授業期間全体を通じた授業の進め方
- ・各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はテキストにて要点を提示する。
 - ・予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。

到達目標

1.ICD-10各章の分類体系およびその特徴と留意事項を説明できる。
2.分類コードの演習を含めた総合学習■

使用教材

診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ 専門課程編（2020.7版）
診療情報管理士教育問題集（専門・8章～12章）
ICD-10第1巻「内容例示表」（2013年版）
ICD-10第3巻「索引表」（2013年版）（貸出）

参考文献

診療情報管理学 診療情報管理士業務指針 診療情報の記録指針

評価方法

授業参加への積極性10%、定期試験90%

課題・評価に対するフィードバック方法

授業時間内に期末試験について、出題の意図と内容の解説を行う。

オフィスアワー

大川（情報）：木曜日2限
（1号館609研究室）

メールアドレス（#→@）

大川（情報）：okawa-ki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	12-1国際疾病分類の基本1	1	「12-1-1コーディングを始めるにあたって」、「コーディングの目的および注意事項」、「12-1-2 ICD-10(2013年版)準拠の概説」、「ICDと医学用語集の違い」、12-1-3「国際統計分類（ICD）」編さんの基準とその特徴」に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、「コーディングを始めるにあたって」、「コーディングの目的および注意事項」、「ICD-10(2013年版)準拠の概説」、「ICDと医学用語集の違い」、「国際統計分類（ICD）」編さんの基準とその特徴」を理解する	2h
2	12-1国際疾病分類の基本2	1	12-1-4「内容例示表」と「索引表」の使用方法、12-1-5複数病態分類、複合病態分類及び二重分類、12-1-6「内容例示表」及び「索引表」で用いられている表示記号と符号、12-1-7用語の定義及び傷病名の構成に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、「内容例示表」と「索引表」の使用方法、複数病態分類、複合病態分類及び二重分類、「内容例示表」及び「索引表」で用いられている表示記号と符号、用語の定義及び傷病名の構成を理解する	2h
3	第1章・第3章・第4章の	2	第1章・第3章・第4章の特徴と疾病構造に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、第1章・第3章・第4章の疾病分類体系の理解	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	疾病分類体系の理解 ■					
4	第5章～第7章の疾病分類体系の理解 ■	2	第5章～第7章の特徴と疾病構造に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、第5章～第7章の疾病コーディングを理解する	2h
5	第8章～第10章の疾病分類体系の理解 ■	2	第8章～第10章特徴と疾病構造に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、第8章～第10章の疾病コーディングを理解する	2h
6	第11章～第13章の疾病分類体系の理解 ■	2	第11章～第13章特徴と疾病構造に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、第11章～第13章疾病コーディングを理解する	2h
7	第2章新生物 疾病分類体系の理解 1 ■	2	第2章新生物のこの章の特徴に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、第2章新生物のこの章の特徴を理解する	2h
8	第2章新生物のこの章の特徴を理解する ■	2	新生物の分類を理解するための基本事項に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、新生物の分類を理解するための基本事項を理解する	2h
9	第2章新生物 疾病分類体系の理解 3 ■	2	新生物の分類に際しての注意事項1) 原発部位等に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、新生物の分類に際しての注意事項1) 原発部位等を理解する	2h
10	第2章新生物 疾病分類体系の理解 4 ■	2	2) 機能的活性および、異所性組織に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、2) 機能的活性および、異所性組織を理解する	2h
11	第2章新生物 疾病分類体系の理解 5 ■	2	新生物における主傷病名の選択に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、新生物における主傷病名の選択を理解する	2h
12	第2章新生物 疾病分類体系の理解 6 ■	2	第2章新生物の疾病構造に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、第2章新生物疾病コーディングを理解する	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 3	第14章～第16章の疾病分類体系の理解 ■	2	第14章～第16章徴と疾病構造に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、第14章～第16章疾病コーディングを理解する	2h
1 4	第17章～第19章の疾病分類体系の理解 ■	2	第17章～第19章特徴と疾病構造に目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、第17章～第19章特徴と疾病構造を理解する	2h
1 5	第20章・第21章の疾病分類体系の理解 ■	2	第20章・第21章の疾病分類体系と、原死因コーディングに目を通す	1h	講義内容を基に板書したキーワードをテキストで調べ、第20章・第21章疾病コーディングと原死因コーディングを理解する	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



診療情報管理士資格必修科目

質問はメールでも可能。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

医療事務論 I（医療事務の基礎知識）

MYカモクに追加

英文名：Medical Clerical Theory I

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID315

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

三澤 安利沙、大川 喜代美

科目に関連した実務経験

病院に勤務

診療情報管理士、医療事務管理士の実務経験

履修を必須とする資格

医療事務管理士技能認定試験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に授業内容の振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①診療報酬に関する基礎知識を学び、病院勤務に必要な知識を身に付ける。

②各講義で当該箇所を解説し、例題などの問題を説明する。また、当該箇所について適宜宿題レポートの課題を出す。

到達目標

- 1.病院概論が理解できる。■
- 2.医療保障制度が理解できる。■
- 3.請求事務の基本を知る。■
- 4.診察料について理解する。■
- 5.医学管理料について理解する。■
- 6.在宅医療について理解する。■
- 7.投薬料について理解する。■
- 8.注射料について理解する。■
- 9.処置料を理解する。■
- 10.リハビリテーション料を理解する。■

使用教材

医科医療事務テキスト1～3、トレーニングブック、資料ブック、レセプト用紙、診療報酬点数表

評価方法

授業への取り組み20%、期末試験80%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題を出した授業の翌週に答え合わせを行い、確認後、誤りの多い箇所について解説を行う。

オフィスアワー

水曜日4限（質問はメールでも可能）

メールアドレス（#→@）

misawa#takasaki-u.ac.jp

okawa-ki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	医科医療事務テキスト1「1章 医療保険のしくみ」に目を通す	1.5h	テキストの使い方、予習復習方法を理解し、実践する。	1.5h
2	病院概論と保険給付■	1,2	医科医療事務テキスト1「2章 保険給付のしくみ」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
3	医療保障制度について■	2	医科医療事務テキスト1「3章 その他の医療保障制度」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
4	診療報酬請求事務の基本と上書き■	3	医科医療事務テキスト2「1章 医療事務の基礎知識」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
5	診察料①■	4	医科医療事務テキスト2「2章 初・再診料」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
6	診察料②■	4	医科医療事務テキスト2「2章 初・再診料」の例題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
7	医学管理料■	5	医科医療事務テキスト2「3章 医学管理等」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
8	在宅医療料■	6	医科医療事務テキスト2「4章 在宅医療」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
9	投薬料①■	7	医科医療事務テキスト2「5章 投薬」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	投薬料② ■	7	医科医療事務テキスト2「5章 投薬」の例題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
11	投薬料③ ■	7	医科医療事務テキスト2「5章 投薬」の例題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
12	注射料 ■	8	医科医療事務テキスト2「6章 注射」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
13	処置料① ■	9	医科医療事務テキスト2「7章 処置」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
14	処置料② ■	9	医科医療事務テキスト2「7章 処置」の例題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
15	リハビリテーション料 ■	10	医科医療事務テキスト2「8章 リハビリテーション」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



医療事務管理士資格取得希望学生は必須科目。
医療事務論Ⅱとセットで必ず受講すること。（セットで履修できない場合は予め要相談）

印刷



医療事務論Ⅱ（点数計算とレセプトの書き方Ⅰ）

MYカモクに追加

英文名：Medical Clerical Theory Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID316

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

三澤 安利沙、大川 喜代美

科目に関連した実務経験

病院に勤務

診療情報管理士、医療事務管理士の実務経験

履修を必須とする資格

医療事務管理士技能認定試験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に授業内容の振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①診療報酬に関する基礎知識を学び、医療分野を学習する力を養う。

②各講義で当該箇所を解説し、テキスト内の問題を解く。また、当該箇所について適宜宿題レポートの課題を出す。

到達目標

- 1.病院概論の詳細を説明できる。■
- 2.医療保障制度の詳細を説明できる。■
- 3.請求事務の上書きをかけるようにできる。■
- 4.診察料について、計算・請求できる。■
- 5.医学管理料について、計算・請求できる。■
- 6.在宅医療について、計算・請求できる。■
- 7.投薬料について、計算・請求できる。■
- 8.注射料について、計算・請求できる。■
- 9.処置料を計算・請求できる。■
- 10.リハビリテーション料を計算・請求できる。■

使用教材

医科医療事務テキスト1～3、トレーニングブック、資料ブック、レセプト用紙、診療報酬点数表

評価方法

授業への取り組み20%、期末試験80%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題を出した授業の翌週に答え合わせを行い、回収後、誤りの多い箇所について解説を行う。

オフィスアワー

水曜日4限（質問はメールでも可能）

メールアドレス（#→@）

misawa#takasaki-u.ac.jp

okawa-ki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	医科医療事務テキスト1「1章 医療保険のしくみ」内の問題を解く	1.5h	テキストの使い方、予習復習方法を理解し、実践する。	1.5h
2	病院概論 ■	1,2	医科医療事務テキスト1「2章 保険給付のしくみ」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
3	医療保障制度について ■	2	医科医療事務テキスト1「3章 その他の医療保障制度」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
4	診療報酬請求事務の基本と上書き ■	3	医科医療事務テキスト2「1章 医療事務の基礎知識」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
5	診察料① ■	4	医科医療事務テキスト2「2章 初・再診料」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
6	診察料② ■	4	医科医療事務テキスト2「2章 初・再診料」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
7	医学管理料 ■	5	医科医療事務テキスト2「3章 医学管理等」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
8	在宅医療料 ■	6	医科医療事務テキスト2「4章 在宅医療」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	投薬料①■	7	医科医療事務テキスト2「5章 投薬」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
10	投薬料②■	7	医科医療事務テキスト2「5章 投薬」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
11	投薬料③■	7	医科医療事務テキスト2「5章 投薬」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
12	注射料■	8	医科医療事務テキスト2「6章 注射」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
13	処置料①■	9	医科医療事務テキスト2「7章 処置」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
14	処置料②■	9	医科医療事務テキスト2「7章 処置」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
15	リハビリテーション料■	10	医科医療事務テキスト2「8章 リハビリテーション」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



医療事務管理士資格取得希望学生は必修科目。
医療事務論Ⅰとセットで必ず受講すること。（セットで履修できない場合は予めご相談ください）

印刷



医療事務論Ⅲ（点数計算とレセプトの書き方Ⅱ）

MYカモクに追加

英文名：Medical Clerical Theory Ⅲ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID317

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

三澤 安利沙、大川 喜代美

科目に関連した実務経験

病院に勤務

診療情報管理士、医療事務管理士の実務経験

履修を必須とする資格

医療事務管理士技能認定試験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に授業内容の振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①診療報酬に関する専門的な知識を学び、病院勤務に必要な知識を身に付ける。

②各講義で当該箇所を解説し、例題などの問題を説明する。また、当該箇所について適宜宿題レポートの課題を出す。

到達目標

- 1.検査料、病理診断料を理解する。■
- 2.手術料を理解する。■
- 3.麻酔料を理解する。■
- 4.画像診断料を理解する。■
- 5.入院料について理解する。■
- 6.レセプト点検作業について理解する。■

使用教材

医科医療事務テキスト1～3、トレーニングブック、資料ブック、レセプト用紙、診療報酬点数表

評価方法

授業への取り組み20%、期末試験80%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題を出した授業の翌週に答え合わせを行い、回収後、誤りの多い箇所について解説を行う。

オフィスアワー

水曜4限（質問はメールでも可能）

メールアドレス（#→@）

misawa#takasaki-u.ac.jp

okawa-ki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	検査料①■	1	医科医療事務テキスト3「1章 検査／病理診断」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
2	検査料②■	1	医科医療事務テキスト3「1章 検査／病理診断」の例題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
3	病理診断料■	1	医科医療事務テキスト3「1章 検査／病理診断」の例題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
4	手術料①■	2	医科医療事務テキスト3「2章 手術」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
5	手術料②■	2	医科医療事務テキスト3「2章 手術」の例題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
6	麻酔料■	3	医科医療事務テキスト3「3章 麻酔」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
7	画像診断料①■	4	医科医療事務テキスト3「4章 画像診断」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
8	画像診断料②■	4	医科医療事務テキスト3「4章 画像診断」の例題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
9	入院料①■	5	医科医療事務テキスト3「6章 入院料等」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
10	入院料②■	5	医科医療事務テキスト3「6章 入院料等」の例題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
11	レセプトの点検①■	6	医科医療事務テキスト3「7章 レセプトの点検」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	レセプトの点検②■	6	医科医療事務テキスト3「7章 レセプトの点検」の例題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
13	総括・まとめ	1,2,3,4,5,6	医科医療事務テキスト内のまとめ部分に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
14	模擬試験①	1,2,3,4,5,6	トレーニングブックの外来レセプト1枚を作成する	1.5h	模擬テストの解答を見直し、本試験に備える	1.5h
15	模擬試験②	1,2,3,4,5,6	トレーニングブックの入院レセプト1枚を作成する	1.5h	模擬テストの解答を見直し、本試験に備える	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



医療事務管理士資格取得希望学生は必須科目。
医療事務論Ⅳとセットで必ず受講すること。（セットで履修できない場合は予め要相談）

印刷



医療事務論Ⅳ（公費負担医療他、総合演習）

MYカモクに追加

英文名：Medical Clerical Theory Ⅳ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID318

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

三澤 安利沙、大川 喜代美

科目に関連した実務経験

病院に勤務

診療情報管理士、医療事務管理士の実務経験

履修を必須とする資格

医療事務管理士技能認定試験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に授業内容の振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①診療報酬に関する専門的な知識を学び、医療分野を学習する力を養う。

②各講義で当該箇所を解説し、テキスト内の問題を解く。また、当該箇所について宿題レポートの課題を出す。

到達目標

- 1.検査料、病理診断料の計算・請求できる。■
- 2.手術料の計算・請求できる。■
- 3.麻酔料の計算・請求できる。■
- 4.画像診断料の計算・請求できる。■
- 5.入院料について、計算・請求できる。■
- 6.レセプト点検作業について、実践ができる。■

使用教材

医科医療事務テキスト1～3、トレーニングブック、資料ブック、レセプト用紙、診療報酬点数表

評価方法

授業への取り組み20%、期末試験80%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題を出した授業の翌週に答え合わせを行い、回収後、誤りの多い箇所について解説を行う。

オフィスアワー

水曜4限（質問はメールでも可能）

メールアドレス（#→@）

misawa#takasaki-u.ac.jp

okawa-ki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	検査料①■	1	医科医療事務テキスト3「1章 検査／病理診断」に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
2	検査料②■	1	医科医療事務テキスト3「1章 検査／病理診断」の例題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
3	病理診断料■	1	医科医療事務テキスト3「1章 検査／病理診断」の例題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
4	手術料①■	2	医科医療事務テキスト3「2章 手術」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
5	手術料②■	2	医科医療事務テキスト3「2章 手術」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
6	麻酔料■	3	医科医療事務テキスト3「3章 麻酔」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
7	画像診断料①■	4	医科医療事務テキスト3「4章 画像診断」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
8	画像診断料②■	4	医科医療事務テキスト3「4章 画像診断」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
9	入院料①■	5	医科医療事務テキスト3「6章 入院料等」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
10	入院料②■	5	医科医療事務テキスト3「6章 入院料等」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
11	レセプトの点検①■	6	医科医療事務テキスト3「7章 レセプトの点検」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	レセプトの点検②■	6	医科医療事務テキスト3「7章 レセプトの点検」内の問題を解く	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
13	総括・まとめ	1,2,3,4,5,6	医科医療事務テキスト内のまとめ部分に目を通す	1.5h	宿題レポートを作成する	1.5h
14	模擬試験①	1,2,3,4,5,6	トレーニングブックの外来レセプト1枚を作成する	1.5h	模擬テストの解答を見直し、本試験に備える	1.5h
15	模擬試験②	1,2,3,4,5,6	トレーニングブックの入院レセプト1枚を作成する	1.5h	模擬テストの解答を見直し、本試験に備える	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



医療事務管理士資格取得希望学生は必須科目。
医療事務論Ⅲとセットで必ず受講すること。（セットで履修できない場合は予め要相談）

印刷



医療経済学

MYカモクに追加

英文名 : Health Economics

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID319

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

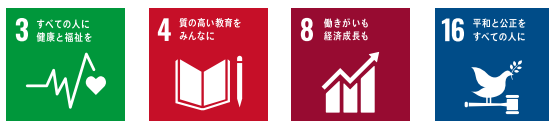
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

町田 修三

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

問いかけ、Quiz、質疑応答（ミニツツペーパー上の質問を含む）などを用いた双方向性授業の実施

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 将来、医療関連の現場で働く可能性のある学生が、医療経済関連の知識や医療の実態を学び、専門家としての基礎知識を身につけることを目標としている。知識豊かな医療人となることを目指す。

講義では、日本の医療の特性や現状を理解することに主眼を置くが、医療の国際化をにらんで海外諸国との比較を導入することで更に理解度を深めてゆく。また、新しい学問領域である薬剤経済学のエッセンスも一部紹介する。

②授業のはじめに、コメントペーパー上に学生より出された質問や疑問に答えることで、前回の復習をする。知識提供型の講義ではあるが、可能な限りアクティブラーニングの手法を用いた講義にする。積極的な参加が求められる。

到達目標

- 1.経済財としての医療の特徴を説明できる。
- 2.医療の供給体制の構築、医療スタッフそれぞれの役割、連携について説明できる。
- 3.国民医療費の推移・動向と国民医療費の増大要因について理解し、他者に説明できる。
- 4.診療報酬の基礎を理解したうえで、日本の薬価基準制度について他国との比較もふまえて説明できる。
- 5.日本の社会保障制度の枠組みと特徴、特に医療制度、医療保険制度について説明できる。
- 6.これまで実施されてきた医療改革の事例を理解し、今後必要となる改革（混合診療や高齢者医療など）について自分の意見をもち、他者に説明できる。
- 7.アメリカやヨーロッパ諸国の医療制度について、日本との違いを列挙し個々に説明できる。
- 8.発展途上国の医療制度について、日本との違いを列挙し個々に説明できる。
- 9.日本の病医院経営の現状分析ができ、医療経営や医療マネジメントの理論と実践手法を身につけている。また、医療スタッフをとりまく医療マネジメントの実際について理解している。
- 10.製薬企業や医薬品市場の特徴と、医薬品流通の仕組みや特性について概説できる。
- 11.薬剤経済学の一分野として、薬物療法の経済評価手法について、そのエッセンスを理解し概説できる。

使用教材

必修テキストはない。講義では毎回資料、データを配布する

参考文献

推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。

評価方法

定期試験80%、講義評価（コメントペーパー、クイズ、小レポート）20%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

コメントペーパーに記載された学生からの質問事項、疑問点については、次回の講義で解説する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートについては、後日出題意図を解説するとともに、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

月曜日4限目、金曜日2限目
研究室：1号館6階603

メールアドレス（#→@）

machida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション、日本の医療の基礎知識	1	シラバスを熟読し、講義の概要と目標を理解しておく	1h	クイズ形式で学習した日本の医療の特徴について確認する	1h
2	医療需要（医療需要の特徴）	1	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容についての理解を深める	1h
3	医療の供給体制（医療労働市場、医療の質）（一部AL[アクティブラーニング]実施）	2	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、興味を持った部分の自主的リサーチ	1h
4	国民医療費の分析	3	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、興味を持った部分の自主的リサーチ	1h
5	診療報酬と薬価制度（医療と薬剤の価格の決まり方）	4	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、興味を持った部分の自主的リサーチ	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	日本の医療制度と医療改革（一部AL実施）	5,6	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、興味を持った部分の自主的リサーチ	1.5h
7	世界の医療制度Ⅰ（アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ）	7	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、興味を持った部分の自主的リサーチ	1.5h
8	世界の医療制度Ⅱ（途上国と新興国）	8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、興味を持った部分の自主的リサーチ	1.5h
9	医療マネジメントⅠ（病院の経営分析）	9	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、興味を持った部分の自主的リサーチ	1.5h
10	医療マネジメントⅡ（選ばれる病院になるための戦略）（一部AL実施）	9	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、興味を持った部分の自主的リサーチ	1.5h
11	医薬品産業の分析Ⅰ（製薬企業の行動と産業構造）	10	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、興味を持った部分の自主的リサーチ	1.5h
12	医薬品産業の分析Ⅱ（医薬品卸企業の行動と産業構造）（一部AL実施）	10	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、興味を持った部分の自主的リサーチ	1.5h
13	薬剤経済学Ⅰ（薬剤療法の費用-効果分析、モデル分析）	11	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解、特に解答方法の再確認	1.5h
14	薬剤経済学Ⅱ（演習）	11	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておくとともに、練習問題を解いておく	1.5h	講義内容の再理解、特に解答方法の再確認	1.5h
15	全体のまとめと確認テスト	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3h	試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5h

合計時間（予習・復習）



38h

備考



記載した予習・復習時間に加え、推薦テキストの講読や新聞・雑誌の医療関連記事のチェック等により、単位修得に必要な時間数を各自確保すること。

印刷

ソフトウェア工学

MYカモクに追加

英文名 : Software Engineering

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID320

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

7 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

東福寺 幾夫

科目に関連した実務経験

メーカ勤務中に、血液分析装置等の組込み用ソフトウェア開発や、病院検査室向け臨床検査システムのシステム開発管理に従事した。特に臨床検査システム開発では、QCD管理に苦心し、プロジェクト管理の重要性を痛感した。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①一人が短期間に作成できるプログラムでは、その作成方法が大きな問題値なることはない。しかし大勢の人が分担して長期にわたって開発に従事するような大規模なソフトウェアでは、その開発手法によりQCDが異なってくる。要求仕様を確定し、効率的に正しくシステム開発を行うためには適切な方法論が必要である。大学のプログラミング実習等では大規模開発を体験することはできないが、就職後に開発の現場にはいると、複数の人がチームを組みプログラム開発に従事し、QCDを達成することが求められる。

本講義では、こうした大規模ソフトウェア開発で利用される基本的な方法論を学ぶ。
②教科書を中心に、ポイントを板書で解説する。さらに全員が演習問題を解き、指名された代表者が解答を板書することで、授業は進行する。また、理解度を確認する宿題や演習問題を課すことがある。学期末には、総合的な演習問題を配布し、授業内容の復習を行う。

到達目標

^

- 1.大規模ソフトウェア開発に係る様々な課題を理解し、課題解決への取り組みについて説明できる。■
- 2.ソフトウェアの開発工程を説明できる。■
- 3.要求分析についてしっかりと理解して説明することができる。
- 4.ソフトウェアの設計や開発について説明できる。■
- 5.開発したソフトウェアの品質管理、保守・再利用について説明できる。

使用教材

^

「情報工学レクチャーシリーズ ソフトウェア工学」、高橋直久・丸山勝久共著、森北出版株式会社、2010年、3,000円、ISBN978-4-627-81061-7
必要に応じて資料を配布する。

評価方法

^

期末試験70%、授業参加度30%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業内で適宜コメントする。

オフィスアワー

^

月曜日の4時限と水曜日3時限
1号館6階605

メールアドレス（#→@）

^

tofukuji#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義全体のガイダンス	1	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する	1h	講義内容、到達目標、成績評価法などを確認する	1.5h
2	大規模ソフトウェア開発の課題	1	教科書第1章に目を通す	1h	ソフトウェア危機、大規模ソフトウェアがもたらす問題、問題解決への取り組みについて理解する。	1.5h
3	ソフトウェアの開発工程■	2	教科書第2章に目を通す	1h	ソフトウェアの開発工程、ウォーターフォールモデル、進化型プロセスモデルについて理解する。	1.5h
4	プロジェクト管理■	2	教科書第3章に目を通す	1h	プロジェクト管理、開発工数の見積、品質管理について理解する。	1.5h
5	要求分析（1）■	3	教科書第4章に目を通す	1h	要求分析、要求獲得について理解する。	1.5h
6	要求分析（2）■	3	教科書第4章に目を通す	1h	要求仕様化、要求確認について理解する。	1.5h
7	構造化分析■	3	教科書第5章に目を通す	1h	構造化分析、DFD、実体関連図、状態遷移図について理解する。	1.5h
8	オブジェクト指向分析	3	教科書第6章に目を通す	1h	オブジェクト指向開発方法論、オブジェクト指向分析の手順について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	アーキテクチャ設計	4	教科書第7章に目を通す	1h	アーキテクチャ設計、アーキテクチャ設計のプロセス、アーキテクチャスタイルについて理解する。	1.5h
10	ユーザインタフェース設計	4	教科書第8章に目を通す	1h	ユーザインタフェース設計、対話方式、画面設計について理解する。	1.5h
11	モジュール設計	4	教科書第9章に目を通す	1h	モジュール設計、モジュール分割の評価基準、構造化システム設計について理解する。	1.5h
12	プログラミング	4	教科書第10章に目を通す	1h	プログラミング、構造化プログラミング、データ中心アプローチについて理解する。	1.5h
13	テストと検証■	5	教科書第11章に目を通す	1h	ソフトウェアテスト、テスト技法、ソフトウェア検証、検証技法について理解する。	1.5h
14	保守と再利用■	5	教科書第12章に目を通す	1h	ソフトウェア保守、保守技法、ソフトウェア再利用、再利用技法について理解する。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4,5	教科書全体に目を通す	1h	教科書全体に目を通す	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



ネットワークⅡ

MYカモクに追加

英文名：Network Ⅱ (Network Construction Technology)

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID321

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

6 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

長澤 亨

履修を必須とする資格

ITパスポート、基本情報技術者試験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①ネットワーク技術は日々発展進化し、高速化がなされると同時に身の回りの機器がすべてネットワークに接続する時代になってきた。また、PC以外にも様々なスマートメディアの利用が進む中で、セキュリティ技術の重要性が増すとともに、ネットワークの技術が大きく変わってきた。特に高速化技術と常時接続性、そして冗長化技術である。本講義では、実際のケーブル、PCはもちろん実際のルータやスイッチの設定を通して、ネットワーク技術を身に付けることを目的とする。

②授業の進め方は、基本指定教科書の内容をまとめたスライドで進めるが、内容補足のために板書によってより詳しく解説し、知識の定着を図る。定期試験に代えて章ごとに演習課題を解き、知識定着の確認を行う。演習課題の作成において知識が不足していると思われる場合は、教科書や関連資料等を熟読して補完するよう促す。

到達目標

- 1.ネットワーク構築の流れを説明できる。
- 2.物理設計を説明できる。
- 3.論理設計を説明できる。
- 4.セキュリティ設計・負荷分散設計を説明できる。
- 5.高可用性を説明できる。
- 6.管理設計を説明できる。

使用教材

^

教科書：ネットワーク技術&設計入門 みやたひろし著
ISBN978-4-7973-7351

参考文献

^

配布資料

評価方法

^

定期試験60%、演習課題40%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題に対する正解を示し、提出内容にコメントを付けて返却する。
定期試験の後、正解を示し、評価を返却する。

オフィスアワー

^

月曜日の1時限、3時限
質問はメールでも受け付ける。
研究室：1号館6階608

メールアドレス（#→@）

^

nagasawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ネットワーク構築の流れ	1	「ネットワーク構築の流れ」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
2	物理層の技術	2	「物理層の技術」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
3	物理設計	3	「物理設計」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
4	論理設計1	3	「論理設計のデータリンク層の技術」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
5	論理設計2	3	「論理設計のネットワーク層の技術」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
6	論理設計3	3	「論理設計」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
7	セキュリティ設計・負荷分散設計1	4	「トランスポート層の技術」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
8	セキュリティ設計・負荷分散設計2	4	ファイアウォールでシステムを守る」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
9	セキュリティ設計・負荷分散設計3	4	「セッション層からアプリケーション層」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
10	セキュリティ設計・負荷分散設計4	4	「セキュリティ設計・負荷分散設計」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	高可用性設計1	5	「冗長化技術」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
12	高可用性設計2	5	「高可用性」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
13	管理設計1	6	「管理技術」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
14	管理設計2	6	「監理設計」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h
15	ネットワーク技術&設計入門のまとめ	1,2,3,4,6	「ネットワーク技術&設計入門」を読んでおく	1.5h	学修内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、G P Aの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にC A Pのカウントには含めない。

VOD：出席と成績は課題提出で評価する。

印刷

コンピュータアーキテクチャ

MYカモクに追加

英文名：Computer Architecture

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID322

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

9 健康・医療および情報に関する知識・技能

1 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

東福寺 幾夫

科目に関連した実務経験

メーカ勤務中に、組み込みマイコン応用回路の設計やシステムデバッグのためのエミュレータを開発し、マルチタスク処理のためのモニタプログラム（OS）を開発した。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①情報技術を学んでいくうえではコンピュータの基本的な知識を押さえておく必要がある。プログラミングを学ぶ上でも、コンピュータの仕組みや動作の原理を知っておくことは有用である。コンピュータシステムの設計原理であるコンピュータアーキテクチャを理解することで、効率のよいプログラム作成の基礎力を養成することを目標とする。

②教科書を中心に、ポイントを板書で解説する。さらに全員が演習問題を解き、指名された代表者が解答を板書することで、授業は進行する。また、理解度を確認する宿題や演習問題を課すことがある。学期末には、総合的な演習問題を配布し、授業内容の復習を行う。

到達目標

- 1.「コンピュータアーキテクチャ」という用語を説明できる。
- 2.命令の形式とアドレス指定の方式について説明できる。
- 3.命令の実行サイクルと、割り込み制御について説明できる。
- 4.コンピュータの演算の仕組みを説明できる。
- 5.記憶装置の階層化・高速化と仮想記憶方式について説明できる。
- 6.システムの構成方法と信頼性について説明できる。

使用教材

^

教科書「わかりやすく図で学ぶコンピュータアーキテクチャ」 野地保著 共立出版
ISBN 978-4-320-12092-1

評価方法

^

授業への参加と貢献10%、授業毎のドリル20%、期末試験70%で評価し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回の授業の冒頭でドリルを実施し、前回授業の振り返りを行う。また、出席カードで自宅での学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集する。

オフィスアワー

^

月曜日の4時限と水曜日3時限
1号館6階605

メールアドレス（#→@）

^

tofukuji#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバスおよび教科書のまえがきを読み、講義の目標を理解する。	1h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価法などを確認する。	1.5h
2	コンピュータアーキテクチャの基本－1 コンピュータアーキテクチャとは・コンピュータ発達の歴史	1	教科書第1章1.1, 1.2を読む	1h	教科書第1章の演習問題及びドリルを解く	1.5h
3	コンピュータアーキテクチャの基本－2 コンピュータアーキテクチャの概要	1	教科書第1章1.3を読む	1h	教科書第1章の演習問題及びドリルを解く	1.5h
4	情報の表現と単位－1 情報の単位・数値の表現	1	教科書第2章2.1, 2.2を読む	1h	教科書第2章の演習問題及びドリルを解く	1.5h
5	情報の表現と単位－2 文字の表現・誤り検出と訂正・論理演算■	1	教科書第2章2.3～2.5を読む	1h	教科書第2章の演習問題を及びドリル解く	1.5h
6	命令セットアーキテクチャー1 命令の形式	2,3	教科書第3章3.1を読む	1h	教科書第3章の演習問題及びドリルを解く	1.5h
7	命令セットアーキテクチャー2 アドレス方式・命令の種類■	2,3	教科書第3章3.2, 3.2を読む	1h	教科書第3章の演習問題及びドリルを解く	1.5h
8	制御アーキテクチャー1 命令実行制御・マイクロプログラム制御	2,3	教科書第4章4.1, 4.2を読む	1h	教科書第4章の演習問題及びドリルを解く	1.5h
9	制御アーキテクチャー2 高速化アーキテクチャ・割り込み制御	2,3	教科書第4章4.3, 4.4を読む	1h	教科書第4章の演習問題及びドリルを解く	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	演算アーキテクチャー1 演算の基本	4	教科書第5章5.1を読む	1h	教科書第5章の演習問題及びドリルを解く	1.5h
11	演算アーキテクチャー2 演算アルゴリズム	4	教科書第5章5.2を読む	1h	教科書第5章の演習問題を解く	1.5h
12	メモリアーキテクチャー1 記憶階層・仮想記憶■	5	教科書第6章6.1を読む	1h	教科書第6章の演習問題及びドリルを解く	1.5h
13	メモリアーキテクチャー2 高速化手法	5	教科書第6章6.2を読む	1h	教科書第6章の演習問題及びドリルを解く	1.5h
14	システムアーキテクチャ 性能評価・信頼性■	6	教科書第10章10.1, 10.2を読む	1h	教科書第10章の演習問題及びドリルを解く	1.5h
15	まとめと演習	1,2,3,4,5	教科書を読み直す	1h	演習問題を見直す	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



情報セキュリティⅡ

MYカモクに追加

英文名：Cyber Security Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID323

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

2 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松尾 仁司

科目に関連した実務経験

情報系企業で医療情報システムの研究開発に従事（経験）

保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）運営幹事（経験）

履修を必須とする資格

情報セキュリティマネジメント(SG)対応科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○			○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会のデジタルトランスフォーメーションが進む中、世界的にサイバー攻撃のリスクが高まっている。本講義では情報セキュリティの専門的知識と技術学び、病院や企業におけるセキュリティ対策を理解する。

②講義中に議論や課題演習を行い、知識を活用して情報セキュリティマネジメントの応用を学ぶ。

到達目標

- 1.情報セキュリティマネジメントの基礎知識を習得することができる。■
- 2.セキュリティインシデントに対する適切な対応を説明することができる。

使用教材

↑

情報セキュリティマネジメント合格教本 （株）技術評論社

参考文献

↑

適宜紹介する

評価方法

↑

期末試験の成績70%、授業中の課題演習への取組30%で評価。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

課題演習に関しては授業の中で解説を行う。

オフィスアワー

↑

水曜日3限
（研究室：1号館6階607室）

メールアドレス（#→@）

↑

matsuo#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	導入：情報セキュリティ■	1	シラバスを読む	0.5h	講義の目標と情報セキュリティの基礎知識を確認する	2.5h
2	ネットワーク	1	テキストを読み基礎知識を確認する	0.5h	ネットワーク関連技術とセキュリティを理解する	2.5h
3	脆弱性と攻撃■	1	テキストを読み基礎知識を確認する	0.5h	情報セキュリティの脅威と脆弱性を理解する	2.5h
4	マルウェアと不正アクセス対策	1	テキストを読み基礎知識を確認する	0.5h	マルウェア、不正アクセスについて理解する	2.5h
5	暗号化と認証技術■	1	テキストを読み基礎知識を確認する	0.5h	暗号・認証システムを理解する。	2.5h
6	アクセス管理と情報漏洩対策	1	テキストを読み基礎知識を確認する	0.5h	情報漏えい対策、アクセス管理について理解する	2.5h
7	情報セキュリティの評価と管理■	1	テキストを読み基礎知識を確認する	0.5h	リスクコントロール手法と情報セキュリティポリシーについて理解する	2.5h
8	情報セキュリティ関連法規とガイドライン■	1	テキストを読み基礎知識を確認する	0.5h	個人情報保護やセキュリティ関連法規、ガイドラインを理解する	2.5h
9	ストラテジとマネジメント■	1,2	テキストを読み基礎知識を確認する	0.5h	セキュリティシステム戦略とプロジェクトマネジメントについて理解する	2.5h
10	コンピュータシステム■	1,2	テキストを読み基礎知識を確認する	0.5h	データベース等のシステム技術を理解する	2.5h
11	情報セキュリティ対策（1）	1,2	基礎知識を整理して事例検討の準備をする	0.5h	事例を用いてセキュリティ課題と対策を理解する	2.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	情報セキュリティ対策（2）	1,2	基礎知識を整理して事例検討の準備をする	0.5h	事例を用いてセキュリティ課題と対策を理解する	2.5h
13	情報セキュリティ対策（3）	1,2	基礎知識を整理して事例検討の準備をする	0.5h	事例を用いてセキュリティ課題と対策を理解する	2.5h
14	情報セキュリティ対策（4）	1,2	基礎知識を整理して事例検討の準備をする	0.5h	事例を用いてセキュリティ課題と対策を理解する	2.5h
15	全体まとめ	1,2	情報セキュリティマネジメントの重要なポイントを確認する	0.5h	情報セキュリティマネジメントの理解を確実にする	2.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



アニメーション制作演習

MYカモクに追加

英文名 : Animation Production Exercise

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID324

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 孝

科目に関連した実務経験

Webクリエイターとしての大学広報業務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①PCやモバイル、Webブラウザなどさまざまなデバイスやプラットフォームに向けたインタラクティブなアニメーションを作ることができるAdobe Animate を使って、基本的な操作からグラフィック描画やアニメーション制作ができるまでを学ぶ。

②講義テーマごとに、前半は操作説明を行い、後半は各自課題に取り組む形式で進める。
毎回課題を出題するので、指定期日までに仕上げて提出する。

到達目標

- アニメーション制作に必要なPC環境と操作方法について説明できる。
- 描画ツールを使ったベクターグラフィックの描画ができる。■

- 3.フレームアニメーションや各種トゥイーンアニメーションの制作ができる。■
- 4.画像を利用したアニメーションの制作ができる。■
- 5.スクリプトを利用したアニメーション制御ができる。■

使用教材

自作の教材

評価方法

課題提出状況（80％）、授業における学習姿勢（20％）により評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題の解答例を提示し、解説する。

オフィスアワー

火曜日4時限と5時限

メールアドレス（#→@）

sakamoto#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	描画ツールの基本操作■	1,2	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
2	フレームアニメーション■	2,3	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
3	トゥイーンアニメーション■	2,3	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
4	レイヤー■	2,3	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
5	文字アニメーション■	2,3	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
6	グラデーション■	2,3	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
7	モーションガイド■	2,3	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
8	カラーアニメーション■	2,3	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
9	シェイプアニメーション■	2,3	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
10	画像を利用したアニメーション■	2,3,4	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
11	ムービークリップ■	2,3	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
12	ボタン■	2,3,5	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
13	アクションスクリプト■	2,3,5	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h
14	コンテンツのパブリッシュ■	2,3,5	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	作品制作	2,3,4,5	不要	0h	講義で出題された課題に取り組み、指定日までに提出する。	10h

合計時間（予習・復習）

^

38h

備考

^

予習・復習についての時間は参考程度であり、単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



アルゴリズムとデータ構造Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Algorithm and Data Structure Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID325

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

坂本 孝

科目に関連した実務経験

SEとして情報通信企業に勤務（経験）

履修を必須とする資格

基本情報技術者試験対応科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①「アルゴリズムとデータ構造Ⅰ」で学習した基本知識を基に、基本情報技術者試験対策用の問題に取り組む。
- ②各講義において、問題の解決方法について解説を行い、毎回、確認テストまたは実習課題を課す。

到達目標

- 1.基本情報技術者試験で使用される疑似言語が説明できる。
- 2.探索処理、整列処理の基本的なアルゴリズムが説明できる。■

- 3.文字列操作の応用アルゴリズムが説明できる。■
- 4.スタック構造、木構造等のデータ構造が理解でき、これを処理するアルゴリズムが説明できる。■

使用教材

↑

自作のプリント 他（未定）

評価方法

↑

課題提出状況（40％）、確認テスト（40％）、授業における学習姿勢（20％）により評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

確認テストについては採点して翌週返却する。課題については解答例を提示して解説する。

オフィスアワー

↑

火曜日4時限と5時限

メールアドレス（#→@）

↑

sakamoto#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	1次元配列の基本操作	1	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
2	順位付け処理■	1	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
3	2次元配列の基本操作	1	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
4	配列を利用した図形処理■	1	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
5	データ探索	1,2	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
6	整列 基本選択法、隣接交換法	1,2	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
7	整列 基本挿入法、クイックソート	1,2	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
8	文字列の比較	1,3	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
9	文字列の転記	1,3	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
10	文字列の圧縮/復元	1,3	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
11	ボイヤ・ムーア法	1,3	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
12	スタック	1,4	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
13	木構造	1,4	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h
14	ハッシュ法	1,4	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	数学的アルゴリズム	1	指定された問題を解いてくる。	1h	講義で出題された課題に取り組み、次回講義までに仕上げる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

↑

37.5h

備考

↑

予習・復習についての時間は参考程度であり、単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



データサイエンスⅢ

MYカモクに追加

英文名 : Data science Ⅲ

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID326

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

光山 訓

科目に関連した実務経験

企業において機械学習を利用した製品、サービスの開発に従事（経験）

履修を必須とする資格

上級データサイエンス・AI実務パスポート

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

データサイエンスは、単なる数値、記号の集まりであるデータから情報を読み取り、現実世界に役立つ判断を行うことを目的とした分野である。データの取得、蓄積、解析、モデル構築、検証、課題解決の全てを含む広範な知識が必要になる。大学4年間を通じて関連科目を学び知識を涵養する。本講義では、近年急速に発達、実用化が進み、社会を変えるほどのインパクトを与えているAI(人工知能)、機械学習についての基礎知識を習得し、自ら使うことにより理解を深める。

②講義の実施方法

授業は、指定教科書に基づいた講義により基礎知識の習得と理論の理解を進める。さらにPythonによるプログラミング演習により知識の定着と実践・応用力の獲得を図る。Pythonプログラミングの基礎についても同時に習得する。最終段階では総合的な知識の定着度を確認するために総合演習を行う。内容を理解し、スキルを身につけるためには、予習復習が必要である。

到達目標

^

- 1. AI、機械学習とは何かを説明できる■
- 2. PythonによるAIプログラミングができる
- 3. 機械学習を用いた課題解決ができる■
- 4. 主要な機械学習モデルの概要を理解し、使うことができる■
- 5. 機械学習を適用する上での課題を理解し、対処することができる

使用教材

^

「スッキリわかるPythonによる機械学習入門」、インプレス、ISBN978-4295009948
講義資料・演習教材は随時プリントして配布またはネット配信する。

評価方法

^

総合演習80%、授業への参加度20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎週演習を行い、授業中に解き方を説明する。誤りの多かった箇所については、気を付けるべきポイントを翌週フィードバックする。

オフィスアワー

^

火曜日2限、木曜日4限
質問はメールでも受け付ける。
1号館6階602研究室

メールアドレス（#→@）

^

mitsuyama#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、データサイエンスとAI・機械学習	1	教科書「第1章 AIと機械学習」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
2	機械学習の種類・機械学習に必要な基礎統計学(1)、Pythonプログラミングの基礎(1)	2,4	教科書「第2章 機械学習に必要な基礎統計学」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
3	機械学習の種類・機械学習に必要な基礎統計学(2)、Pythonプログラミングの基礎(2)	2,4	教科書「第2章 機械学習に必要な基礎統計学」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
4	機械学習によるデータ分析の流れ、Pythonプログラミングの基礎(3)■	2,3	教科書「第3章 機械学習によるデータ分析の流れ」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
5	Pythonプログラミングの基礎(4)	2	教科書「第0章 Python基本文法の復習」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
6	機械学習の体験	2,3	教科書「第4章 機械学習の体験」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	分類問題への機械学習の適用(1)	2,3,5	教科書「5.1 アヤメの花を分類する」「5.2 データの前処理」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
8	分類問題への機械学習の適用(2)	2,3,4,5	教科書「5.3 モデルの作成と学習」「5.4 モデルの評価」「5.5 決定木の図の作成」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
9	回帰問題への機械学習の適用(1)	2,3,4	教科書「6.1 映画の「興行収入を予測する」「6.2 データの前処理」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
10	回帰問題への機械学習の適用(2)	2,3,4,5	教科書「6.3 モデルの作成と学習」「6.4 モデルの評価」「6.5 回帰式による影響度の分析」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
11	機械学習における注意点(1)	2,3,4	教科書「7.1 客船沈没事故から生き残れるかを予測」「7.2 データの前処理」「7.3 モデルの作成と学習」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
12	機械学習における注意点(2)	2,3,4,5	教科書「7.5 モデルの評価」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
13	様々な教師あり学習	4	教科書「第11章 さまざまな教師あり学習：回帰」「第12章 さまざまな教師あり学習：分類」を読む。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
14	総合演習(1) 機械学習プログラミング	2,4	これまでの講義内容を講義資料、教科書で復習しておく。	2.0h	授業内容を振り返り、練習問題を解くことで理解を深める。	1.0h
15	総合演習(2) 本講義全体の復習	1,3,4,5	これまでの講義内容を講義資料、教科書で復習しておく。	2.0h	授業内容を振り返り、練習問題を解くことで理解を深める。	1.0h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



情報処理演習 II

MYカモクに追加

英文名 : Information Processing Exercise II

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID327

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 真悟

履修を必須とする資格

データサイエンス・AI実務パスポート（選択必修）

上級データサイエンス・AI実務パスポート（選択必修）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①Society 5.0時代の中、IT分野はもちろんのこと、医療や健康分野においてもデータを管理、活用することが重要である。本講義では、リレーショナル型データベースであるACCESS、統計分析ソフトであるSPSS、統計解析向けのプログラミング言語であるR、Pythonなどを用いて、データの管理、処理、分析の基礎から活用まで学ぶことを目的とする。

②授業では、教員が各回の内容を教材や実演を通じて説明し、学生は指示された課題を実施しファイルにまとめて提出する。

到達目標

- 1.ACCESSの機能を説明および利用できる。
- 2.SPSSの機能を説明し、簡単な統計解析ができる。
- 3.R言語を説明および利用できる。
- 4.Pythonを利用できる。また、Pythonにより、簡単な解析ができる

使用教材

↑

自作教材

評価方法

↑

課題提出状況（50%）、学習姿勢（50%）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

提出物（ファイル）の内容が、求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し、必要に応じ、再提出を求める。

オフィスアワー

↑

火曜日 3時限、4時限
（1号館6階612研究室）
質問はメールでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）

↑

takahashi-shin#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、Accessの基本操作	1	シラバスを確認しておく。	0h	提出課題を完成させる	1.5h
2	Accessの基本操作	1	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
3	ACCESSによるテーブル機能 テーブルの作成	1	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
4	ACCESSによるテーブル機能 レコードの追加、インポート、エクスポート	1	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
5	SPSSの基本操作	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
6	SPSSによる記述統計	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
7	SPSSによる推測統計	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
8	SPSSによるデータ分析	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
9	R言語の基本操作	3	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
10	R言語による記述統計	3	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
11	R言語による推測統計	3	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
12	R言語によるデータ分析	3	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
13	Pythonの基本操作と分析	4	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	Pythonのその他の活用	4	前回学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	1.5h
15	実践的データを用いた分析（まとめ）	1,2,3,4	これまでに学んだ操作を再確認しておく。	1h	提出課題を完成させる	2.5h

合計時間（予習・復習）

37.5h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷

マルチメディアⅡ

MYカモクに追加

英文名：Multimedia Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID328

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田村 拓郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①本講義では、プロフェッショナルの映像制作の現場でも幅広く使用されている動画編集ソフトであるPremiere Proの演習を通じて、マルチメディアコンテンツを作成するためのビデオ編集の開始から完成までの基礎的な能力を身につけることを目的とする。

②授業では、教員が各回の内容を教材や実演を通じて説明し、学生は指示された課題を実施しファイルにまとめて提出する。

到達目標

1. コンピュータによる動画の編集と制作の基礎を説明できる。
2. 編集作業等に用いるソフトウェアの適切な活用法を説明できる。
3. 企画立案、動画制作を行なうことができる。

使用教材

評価方法

課題提出状況（40%）、提出された課題成果物の出来栄（40%）、学習姿勢（20%）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出物（ファイル）の内容が、求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し、その結果を学生に伝え、必要に応じ、再提出を求める。

オフィスアワー

火曜日3，4限

メールアドレス（#→@）

tamura-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義全体のガイダンス、映像編集の流れ、Premiereの使い方	1,2	シラバスを確認しておく。	0h	講義内容・到達目標・学位授与方針・成績評価方法などを理解する。	0.5h
2	カット編集とインサート編集、動画の書き出し	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5h	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1h
3	インタビュー動画作成(1)ワイプ効果、色補正	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5h	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1h
4	インタビュー動画作成(2)音声補正、動画編集課題	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5h	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1h
5	画面切り替え、カット演出、映像効果の挿入	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5h	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1h
6	タイムリマップ、フリーズフレーム	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5h	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1h
7	アニメーションの作り方	2	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5h	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1h
8	課題作品制作1(1)企画立案、映像撮影、動画編集	3	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5h	作品制作に必要な準備、動画編集を行っておく。	2h
9	課題作品制作1(2)映像撮影、動画編集	3	作品制作に必要な準備、動画編集を行っておく。	2h	作品制作が未完成だった場合は授業外で完成させる。	2h
10	グラフィックの作り方、アニメーション合成	2	これまでに学んだ操作を再確認しておく。	0.5h	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1h
11	課題作品制作2(1)企画立案、映像撮影、動画編集	3	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5h	作品制作に必要な準備、動画編集を行っておく。。	2h
12	課題作品制作2(2)映像撮影、動画編集	3	作品制作に必要な準備、動画編集を行っ	2h	作品制作が未完成だった場合は授業外で完成させる。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			ておく。			
13	マルチ画面の作成、クロマキー合成を使ったシーンの切り替え	2	これまでに学んだ操作を再確認しておく。	0.5h	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1h
14	課題作品制作3(1)企画立案、映像撮影、動画編集	3	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5h	作品制作に必要な準備、動画編集を行っておく。	5h
15	課題作品制作3(2)映像撮影、動画編集	3	作品制作に必要な準備、動画編集を行っておく。	5h	作品制作が未完成だった場合は授業外で完成させる。	10h

合計時間（予習・復習）



46h

備考



本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。
予習・復習の時間は参考程度であり、自らの習熟状況をふまえ各自で補完すること。

印刷 

WebデザインⅢ

MYカモクに追加

英文名：Web Design Ⅲ (Responsive Design)

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID329

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田村 拓郎、長澤 亨

履修を必須とする資格

Webクリエイタ認定試験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①WebデザインⅠではHTMLとCSSについて学んだ。ホームページを作成する場合HTMLとCSSだけでは十分ではなく、動きのあるホームページを作成できない。たとえば、マウスでボタンをクリックしたとき画像表示を変更や入力データをチェックする際、JavaScriptとサーバ側のCGIとの間で連携処理が必要である。このような、動的な処理を行うホームページを作成できるスキルを身につけることを目標とする。

②授業の進め方は、指定教科書およびプリントを基本に授業を進め、単元毎に演習問題を解き知識の定着を図る。最終段階では総合的な知識の定着度を確認するために総合演習課題を解く。

授業の進め方は、指定教科書およびプリントを基本に授業を進め、単元毎に演習問題を解き知識の定着を図る。

到達目標

- 1.JavaScriptの概要と記述ルールを説明できる。
- 2.JavaScriptの基本的な文法を説明できる。
- 3.HTML、CSS（Cascading Style Sheets）とJavaScriptの連携を説明できる。

使用教材

↑

情報演習36 JavaScriptワークブック
ISBN978-4-87783-841-6

評価方法

↑

定期試験50%、課題提出40%、授業の参加度10%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

提出物（ファイル）の内容が、求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し、その結果を学生に伝え、必要に応じ、再提出を求める。

オフィスアワー

↑

火曜日の3時限、4時限
質問はメールでも受け付ける。
研究室：1号館6階604

メールアドレス（#→@）

↑

tamura-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	JavaScriptの概要と記述ルール、イベントハンドラの利用	1,2,3	Step01とStep02を読 んでおくこと	1h	提出課題を完 成させる	1.5h
2	コンソールの使い方、関数の基本、変数の宣言	1,2,3	Step03～Step05を読 んでおくこと	1h	提出課題を完 成させる	1.5h
3	変数の演算、配列	1,2,3	Step06とStep07を読 んでおくこと	1h	提出課題を完 成させる	1.5h
4	関数の引数、要素の取得	1,2,3	Step08とStep09を読 んでおくこと	1h	提出課題を完 成させる	1.5h
5	複数の要素の取得、要素の追加と削除	1,2,3	Step10とStep11を読 んでおくこと	1h	提出課題を完 成させる	1.5h
6	繰り返し処理1、繰り返し処理2	1,2,3	Step12とStep13を読 んでおくこと	1h	提出課題を完 成させる	1.5h
7	条件分岐1、条件分岐2	1,2,3	Step14とStep15を読 んでおくこと	1h	提出課題を完 成させる	1.5h
8	breakとcontinue、関数の戻り値	1,2,3	Step16とStep17を読 んでおくこと	1h	提出課題を完 成させる	1.5h
9	文字入力とエラー処理、オブジェクト・メソッド・プロパティ	1,2,3	Step18とStep19を読 んでおくこと	1h	提出課題を完 成させる	1.5h
10	スタイルの変更、属性値の変更	1,2,3	Step20とStep21を読 んでおくこと	1h	提出課題を完 成させる	1.5h
11	イベントリスナー、フォームの操作1	1,2,3	Step22とStep23を読 んでおくこと	1h	提出課題を完 成させる	1.5h
12	フォームの操作2、日付時刻の操作	1,2,3	Step24とStep25を読 んでおくこと	1h	提出課題を完 成させる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	Mathオブジェクト、文字の操作	1,2,3	Step26とStep27を読んでおくこと	1h	提出課題を完成させる	1.5h
14	オブジェクト変数、一定間隔で処理を繰り返す	1,2,3	Step28とStep29を読んでおくこと	1h	提出課題を完成させる	1.5h
15	Jsファイルの分離とエラー対策	1,2,3	Step30を読んでおくこと	1h	提出課題を完成させる	1.5h

合計時間（予習・復習）

37.5h

^

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

^

印刷 

Webプログラミング I

MYカモクに追加

英文名 : Web Programing I (MySQL & PHP Programming)

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID330

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

長澤 亨、田村 拓郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現在、データベースでは関係データベースが使われている。膨大なデータを効率よく管理することを目的としている。一般にデータベースに追加、削除、検索などの管理機能を含めてデータベースシステムという。RDBMSの起源は、1970年にIBM社のEdgar F. Codd氏が関係DBに関する理論が基になっている。MySQLはMichael Widenius氏が開発し、1995年に誕生したRDBMSである。また、MySQLはオープンソースであるが、世界で1000万以上のサーバにインストールされて実際に動作している。本講義では、MySQL・MariaDBの基本と本質を理解することにある。

②授業の進め方は、教科書をベースに基本的な知識を習得させる。実際にデータベースを操作し知識の定着を図る。新しい知識に関しては教科書に立ち返り、知識定着のために演習を行う。以上の繰り返しで授業を進める。演習が解けない場合は予習復習時間が不足分しているため、追加自習で補うことを促す。

到達目標

1. 関係データベースを簡潔に説明することができる。
2. MySQLデータベースをインストールすることができる。
3. データベース、テーブルの作成、削除、変更ができる。

- 4.SQL文でデータベースのデータを検索・登録・削除することができる。
- 5.データベースの定義し、テーブルの作成方法を説明できる。

使用教材

教科書：基礎からのMySQL Soft Bank Creative西沢夢路（Amazonからデジタルコンテンツで購入）
ISBN978-4-7973-6945-8 C0055

評価方法

定期試験40%、課題提出50%、授業の参加度10%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題に対する正解を示し、提出内容にコメントを付けて返却する。

定期試験の後、正解を示し、評価を返却する。

オフィスアワー

月曜日の1時限、3時限
質問はメールでも受け付ける。
1号館6階608

メールアドレス（#→@）

nagasawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、Chapter1 MySQLの概要	1	MySQLの概要を読んでおく	1.5h	MySQLの概要を復習する	1.5h
2	Chapter2 MySQLの環境設定	1,2	MySQLの環境設定を読んでおく	1.5h	MySQLの環境設定を復習する	1.5h
3	Chapter3 MySQLの基礎知識	1,2	MySQLの基礎知識を読んでおく	1.5h	MySQLの基礎知識を復習する	1.5h
4	Chapter4 データベースの作成	1,2	データベースの作成を読んでおく	1.5h	課題を完成させる	1.5h
5	Chapter5 データ型とデータの入力	1,3	データ型とデータの入力を読んでおく	1.5h	課題を完成させる	1.5h
6	Chapter6 テーブルを改造する	1,3	「テーブルを改造する」を読んでおく	1.5h	課題を完成させる	1.5h
7	Chapter7 テーブルやレコードをコピー・削除する	1,4	「テーブルやレコードをコピー・削除する」を読んでおく	1.5h	課題を完成させる	1.5h
8	Chapter8 MySQLを使いこなす	1,4	「MySQLを使いこなす」を読んでおく	1.5h	課題を完成させる	1.5h
9	Chapter9 データを編集する	1,4	「データを編集する」を読んでおく	1.5h	課題を完成させる	1.5h
10	Chapter10 複数のテーブルを利用する	1,4	「複数のテーブルを利用する」を読んでおく	1.5h	課題を完成させる	1.5h
11	Chapter11 ビューを使いこなす	1,4	「ビューを使いこなす」を読んでおく	1.5h	課題を完成させる	1.5h
12	Chapter12 ストアドプロシージャを使いこなす	1,3,4	「ストアドプロシージャを使いこなす」を読んでおく	1.5h	課題を完成させる	1.5h
13	Chapter13 トランザクションを使いこなす	1,3,4	「トランザクションを使いこなす」を読んでおく	1.5h	課題を完成させる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	Chapter14 ファイルを使ったやり取り	1,3,4,5	ファイルを使ったやり取り読ん でおく	1.5h	課題を完成させる	1.5h
15	総合演習、まとめ	1,2,3, 4,5	理解できていなかった部分を明 確にする	1.5h	最終的な課題を 完成させる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

VOD：出席と成績は課題提出で評価する。

印刷



WebプログラミングⅡ

MYカモクに追加

英文名：Web Programing Ⅱ (Server Side Programming)

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID331

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

長澤 亨、田村 拓郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッシ ョン、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①PHPは1995年ごろ「Personal Home Page Tools」として作られ、Webアプリケーションに特化したサーバサイドスクリプト言語である。PHPの特徴は関数が大量にあり、それらは高速に動作する。また、オブジェクト指向的な手法をとることもでき、UNIXやWindowsのいずれのプラットフォームでも開発し、動作する。本講義では、PHPの基本を理解し、PHPとデータベースを連携したWebアプリケーション開発するための技能の習得を目指す。

②授業の進め方は、教科書と資料を基本に進め、Webサイトの管理運用技術を習得させる。まず、Webを構成する基本的な要素についての知識を学び、演習課題で知識を定着させる。最終的に独自のWebサイトを構築する。知識が定着しておらず予習復習が不足している場合には、自習で補うことを促す。

到達目標

- 1.PHPの基本を説明できる。
- 2.HTML、CSS、JavaScript、PHPの関係を説明できる。
- 3.HTMLとPHPの連携プログラムを作成できる。

- 4.PHPとMySQLの連携プログラムを作成できる。
- 5.インターネットに公開するときの対策を説明できる。

使用教材

教科書：基礎からのMySQL SoftBank Creative西沢夢路（Amazonでデジタルコンテンツを購入）
ISBN978-4-7973-6945-8 C0055

評価方法

定期試験40%、課題提出50%、授業の参加度10%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題に対する正解を示し、提出内容にコメントを付けて返却する。
定期試験の後、正解を示し、評価を返却する。

オフィスアワー

月曜日の1時限、3時限
質問はメールでも受け付ける。
1号館6階608

メールアドレス（#→@）

nagasawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、MySQL+PHPの基礎	1	Chapter15「MySQLを利用するためのPHP」を読んでおくこと	1.5h	授業の復習	1.5h
2	Chapter16 PHPの基礎知識1	1	「PHPの変数、文字列、関数」の部分を読んでおくこと	1.5h	「PHPの変数、文字列、関数」に関する課題を仕上げる	1.5h
3	Chapter16 PHPの基礎知識2	1	「比較演算子、繰り返し処理」を読んでおくこと	1.5h	「比較演算子、繰り返し処理」の課題を仕上げる	1.5h
4	Chapter16 PHPの基礎知識3	1	「条件分岐、配列」を読んでおくこと	1.5h	「条件分岐、配列」の課題を仕上げる	1.5h
5	Chapter17 PHPスクリプトとHTML1	1,2	HTMLの復習とHTMLファイルをPHPスクリプトで書き出す	1.5h	HTMLファイルをPHPスクリプトで書き出す課題を仕上げる	1.5h
6	Chapter17 PHPスクリプトとHTML2	1,2,3	「POSTとGETによるデータ送信」を読んでおくこと	1.5h	「POSTとGETによるデータ送信」の課題を仕上げる	1.5h
7	Chapter18 PHPスクリプトでMySQLを操作する1	1,2,4	PHPスクリプトでMySQLサーバに接続する。	1.5h	「PHPスクリプトでMySQLサーバに接続」の課題を仕上げる	1.5h
8	Chapter18 PHPスクリプトでMySQLを操作する2	1,2,4	PHPスクリプトでクエリを発行する。	1.5h	「PHPスクリプトでクエリを発行」の課題を仕上げる	1.5h
9	Chapter19 MySQL+PHPの実践1	1,2,3,4	「簡単掲示板を作る」を読んでおく	1.5h	「簡単掲示板を作る」の課題を仕上げる	1.5h
10	Chapter19 MySQL+PHPの実践2	1,2,3,4	「トップページの作成」を読んでおく	1.5h	「トップページの作成」の課題を仕上げる	1.5h
11	Chapter19 MySQL+PHPの実践2	1,2,3,4	「表示・挿入・削除・検索機能の作成」を読んでおく	1.5h	「表示・挿入・削除・検索機能の作成」の課題を仕上	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					げる	
12	Chapter20 インターネットに公開するときの対策1	1,2,3,4,5	「公開されるフォルダに重要な情報を置かない」を読んでおく	1.5h	学修した内容を復習する	1.5h
13	Chapter20 インターネットに公開するときの対策2	1,2,3,4,5	「正規表現を意図しないタグを実行させない」を読んでおく	1.5h	正規表現の課題を仕上げる	1.5h
14	実用掲示板の作成	1,2,3,4,5	「実用になる掲示板を作る」を読んでおく	1.5h	実用になる掲示板の課題を仕上げる	1.5h
15	環境設定	1,2,3,4,5	Windowsサービス、MySQLのパスワード変更を読んでおく	1.5h	学修した内容を仕上げる	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



VOD：出席と成績は課題提出で評価する。

印刷



オブジェクトプログラミング I

MYカモクに追加

英文名 : Object Programming I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID332

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石川 雅弘

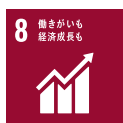
科目に関連した実務経験

会社員としてプログラム開発（経験）

履修を必須とする資格

基本情報技術者試験（対応科目）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 現代的プログラミング言語の多くは、オブジェクト指向の考え方を取り込んでいる。本科目では、プログラミング言語Javaを用い、プログラミングの基礎スキルを身につけるとともに、オブジェクト指向プログラミングの基礎的概念を理解し実践できるようになることを目標とする。

② 授業は統合開発環境を用いて実際にプログラミングを行うのが主体となる。教材テキストに沿った解説を行いつつ、テキストの例題や課題のプログラミングを行うことで理解を深めるが、各人が主体的にプログラミングに取り組むのが基本である。つまり点は人により様々であるので、問題があれば必ず質問・解消すること。

到達目標



1. 統合開発環境でJavaプログラムを作成・実行できる。■
2. Java言語の基本的な文法を理解し、プログラムを作成・実行できる。■
3. クラスの定義やクラスの継承など、Java言語のオブジェクト指向機構の基本的な機能を利用してプログラムを作成・実行できる。■
4. インターフェイス、例外処理などの機能を適切に利用したプログラムを作成できる。■

使用教材



「やさしいJava第7版」, 高橋麻奈著, SBクリエイティブ, ISBN-13: 978-4815600846

参考文献



「プロになるJava」, きしだなおき等著, 技術評論社, ISBN-13: 978-4297126858

評価方法



試験課題（100%）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



解答例の提示と解説を行う。

オフィスアワー



月曜 4 限

メールアドレス（#→@）



ishikawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	統合開発環境Eclipseの基本操作とプログラムの作成・実行■	1,2	課題に取り組む。	1.5 h	使用する統合開発環境の基本的な操作方法を習得する。	1.5 h
2	基礎問題演習（オブジェクト指向以前）（1）■	1,2	課題に取り組む。	1.5 h	課題を完成させる。	1.5 h
3	基礎問題演習（オブジェクト指向以前）（2）■	1,2	課題に取り組む。	1.5 h	課題を完成させる。	1.5 h
4	基礎問題演習（オブジェクト指向以前）（3）■	1,2	課題に取り組む。	1.5 h	課題を完成させる。	1.5 h
5	クラスの基本■	1,2	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	テキストを読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5 h
6	カプセル化とアクセス制限■	1,2	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	テキストを読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5 h
7	オーバーロード、クラス変数、クラスメソッド、this変数■	3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	テキストを読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5 h
8	既存クラスの利用（String, StringBuffer, Integer, Math）、オブジェクトの配列■	3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	テキストを読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	クラスの継承 ■	3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	テキストを読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5 h
10	抽象クラスと多態性 ■	3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	テキストを読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5 h
11	インターフェイスと多態性 ■	3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	テキストを読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5 h
12	パッケージ ■	3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	テキストを読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5 h
13	例外とファイル処理（1） ■	3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	テキストを読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5 h
14	例外とファイル処理（2） ■	3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5 h	テキストを読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5 h
15	総合課題 ■	1,2,3,4	テキスト全体を見直しておく。	1.5 h	総合課題を完成させる。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回ノートPCを持参すること。（演習は各自のPCで行う）

基本情報技術者試験に対応。（受験予定者は履修を強く勧める）

【オンラインで授業を実施する場合】

オンデマンド形式のリモート講義の形で進める。

時間内のチャット・ビデオ通話での質問にも応じるので、積極的に利用して欲しい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

オブジェクトプログラミングⅡ

MYカモクに追加

英文名：Object Programming Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：HID333

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石川 雅弘

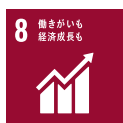
科目に関連した実務経験

会社員としてプログラム開発（経験）

履修を必須とする資格

基本情報技術者試験（対応科目）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 現代的プログラミング言語の多くはオブジェクト指向の考え方を取り込んでいる。本科目では、プログラミング言語Javaを用い、オブジェクト指向の基礎概念であるカプセル化、継承、多態性への理解を深め、オブジェクト指向プログラミングのスキルを身につける。また、例外処理、マルチスレッドプログラミング、GUIとイベント駆動型プログラミング、ネットワークプログラミングなどの基本を学ぶ。
- ② 授業は統合開発環境を用いて実際にプログラミングを行うのが主体となる。教材テキストに沿った解説を行いつつ、テキ

ストの例題や課題のプログラミングを行うことで理解を深めるが、各人が主体的にプログラミング作業に従事するのが基本である。つまり点是人により様々であるので、問題があれば必ず質問・解消すること。

到達目標

^

- 1.Java言語でオブジェクト指向やパッケージを利用したプログラムを作成できる。■
- 2.Java言語で例外を適切に扱ったプログラムを作成できる。■
- 3.Java言語で基本的なマルチスレッドプログラムを作成できる。■
- 4.Java言語で基本的なGUIプログラムを作成できる。■
- 5.Java言語で基本的なネットワークプログラムを作成できる。■

使用教材

^

適宜配布する。

参考文献

^

- ・「やさしいJava 活用編 第6版」, 高橋麻奈著, SBクリエイティブ, ISBN-13: 978-4815600839
- ・「プロになるJava」, きしだなおき等著, 技術評論社, ISBN-13: 978-4297126858

評価方法

^

試験課題（100%）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

解答例の提示と解説を行う。

オフィスアワー

^

月曜5限

メールアドレス（#→@）

^

ishikawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Javaにおけるオブジェクト指向の基本 ■	1,2	オブジェクトプログラミング I のテキストを全体的に読み返しておく。	1.5h	資料を読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
2	マルチスレッドプログラミング（1） ■	1,2,3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	資料を読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
3	マルチスレッドプログラミング（2） ■	1,2,3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	課資料を読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
4	マルチスレッドプログラミング（3） ■	1,2,3	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	資料を読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
5	GUIプログラミング（1） ■	1,2,3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	資料を読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
6	GUIプログラミング（2） ■	1,2,3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	資料を読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
7	GUIプログラミング（3） ■	1,2,3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	資料を読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	コレクションとジェネリクス (1) ■	1,2,3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	資料を読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
9	コレクションとジェネリクス (2) ■	1,2,3,4	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	資料を読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
10	ネットワークプログラミング (1) ■	1,2,3,4,5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	資料を読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
11	ネットワークプログラミング (2) ■	1,2,3,4,5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	資料を読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
12	ネットワークプログラミング (3) ■	1,2,3,4,5	テキストの該当範囲を読んでおく。	1.5h	資料を読み返した上で、課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
13	総合演習 (1) ■	1,2,3,4,5	テキスト全体を見直しておく。	1.5h	課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
14	総合演習 (2) ■	1,2,3,4,5	テキスト全体を見直しておく。	1.5h	課題プログラムを作成・実行する。	1.5h
15	総合演習 (3) ■	1,2,3,4,5	テキスト全体を見直しておく。	1.5h	総合課題を完成させる。	1.5h

合計時間 (予習・復習)

45h

備考

毎回ノートPCを持参すること。演習は各自のPCで行う。

オブジェクトプログラミング I を履修済みの前提で進める。

最初の4回はオブジェクトプログラミング I の教科書を使用するので、持参すること。

基本情報技術者試験に対応。（受験予定者には履修を強く勧める）

【オンラインで授業を実施する場合】

オンデマンド形式のリモート講義の形で進める。

時間内のチャット・ビデオ通話での質問にも応じるので、積極的に利用して欲しい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

画像処理入門

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Image Processing

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID334

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

光山 訓

科目に関連した実務経験

企業において画像処理技術を応用した医療用検査装置の開発に従事（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

医療現場では様々な診断が画像によって行われているが、近年、画像のデジタル化に伴い正確な診断を支援する画像処理の重要性が高まっている。日常生活においても様々な画像がデジタル化され、画像処理に適用範囲は広がり、重要性が増している。本講義では画像処理に関する基礎知識を習得するとともに、プログラムを作成して自ら使うことにより理解を深める。

②講義の実施方法

独自教材を使用した講義により基礎知識の習得と理論の理解を進める。同時に、講義で説明した処理を行うプログラムを、Pythonを用いて作成し、動作を確認することにより知識の定着と実践・応用力の獲得を図る。最終段階では総合的な知識の定着度を確認するために総合演習を行う。内容を理解し、スキルを身につけるためには、予習復習が必要である。

到達目標



1. 画像を数値データで表現する方法を理解し、説明できる
2. 画像の形状、色調、画質等を変換する代表的な方法を理解し、プログラムを作成できる
3. 代表的な領域抽出方法を理解し、プログラムを作成できる ■
4. 二値画像に対する処理を理解し、プログラムを作成できる ■
5. 画像中の対象物の特徴を数値化する方法を理解し、プログラムを作成できる ■

使用教材



講義資料・演習教材は随時プリントして配布またはネット配信する。

評価方法



総合演習80%、授業への参加度20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



毎週プログラミング演習を行い、授業中に作成方法のポイントを説明する。誤りの多かった箇所については、気を付けるべきポイントを翌週フィードバックする。

オフィスアワー



火曜日2限、木曜日2限
質問はメールでも受け付ける。
1号館6階602研究室

メールアドレス（#→@）



mitsuyama#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、画像のデジタル化	1	デジタル画像の特徴についてWebなどで調べておく。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
2	色空間、画像データフォーマット	1	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
3	ヒストグラムと濃度変換	2	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
4	トーンカーブによる濃度変換	2	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
5	ベクトルと行列	2	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
6	幾何学的変換(1)	2	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
7	幾何学的変換(2)	2	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
8	空間周波数とフィルタ処理	2	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
9	様々なフィルタ処理	2	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
10	領域抽出 ■	3	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
11	モルフォロジ処理 ■	4	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	ラベリングと特徴量算出(1)■	5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
13	ラベリングと特徴量算出(2)■	5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
14	総合演習(1) 画像処理プログラミング	1～5	これまでの講義内容を講義資料と作成したプログラムで復習しておく。	2.0h	演習内容を振り返り、演習課題を再度解くことで理解を深める。	1.0h
15	総合演習(2) 本講義全体の復習	1～5	これまでの講義内容を講義資料で復習しておく。	2.0h	演習内容を振り返り、演習問題を再度解くことで理解を深める。	1.0h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



人工知能

MYカモクに追加

英文名 : Artificial Intelligence

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID335

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性と幅広い教養
- 4 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 4 問題解決力
- 0 コミュニケーションスキル
- 1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

光山 訓

科目に関連した実務経験

企業においてニューラルネットワークを応用した医療用検査装置の開発に従事（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

人工知能(AI)が急速に発達し、応用分野を広げつつある。現在、人間が行っている仕事の多くはAIに置き換わるとも言われており、AIの活用方法を考えることのできる人材の重要性が増している。本講義では様々なAIの手法、特徴を習得するとともに、プログラムを作成することにより、AIの活用方法を考えることができるようになることを目標とする。

②講義の実施方法

独自教材を使用した講義により基礎知識の習得と理論の理解を進める。同時に、講義で説明した処理を行うプログラムを、Pythonを用いて作成し、動作を確認することにより知識の定着と実践・応用力の獲得を図る。最終段階では総合的な知識の定着度を確認するために総合演習を行う。内容を理解し、スキルを身につけるためには、予習復習が必要である。

到達目標



1. 機械学習の種類を理解し、説明できる
2. 代表的な教師あり学習の手法を理解し、説明できる■
3. 代表的な教師なし学習の手法を理解し、説明できる
4. ニューラルネットワークの原理を理解し、説明できる
5. 特殊な機械学習の手法を理解し、説明できる
6. 代表的な機械学習の手法を利用したプログラムを作成できる

使用教材



講義資料・演習教材は随時プリントして配布またはネット配信する。

評価方法



総合演習80%、授業への参加度20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



毎週プログラミング演習を行い、授業中に作成方法のポイントを説明する。誤りの多かった箇所については、気を付けるべきポイントを翌週フィードバックする。

オフィスアワー



火曜日2限、木曜日2限
質問はメールでも受け付ける。
1号館6階602研究室

メールアドレス（#→@）



mitsuyama#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、機械学習の種類	1	機械学習の種類についてWebなどで調べておく。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
2	線形回帰分析	2, 6	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
3	決定木	2, 6	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
4	アンサンブル学習	2, 6	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
5	クラスタリング	3, 6	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
6	次元削減	3, 6	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
7	ニューラルネットワーク(1)■	4, 6	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
8	ニューラルネットワーク(2)■	4, 6	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
9	ディープラーニング(1)	4, 6	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
10	ディープラーニング(2)	4, 6	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
11	リカレントニューラルネットワーク	4, 6	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	(1)					
12	リカレントニューラルネットワーク(2)	4, 6	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
13	敵対的生成ネットワーク・強化学習	5	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
14	総合演習(1) 人工知能プログラミング	6	これまでの講義内容、作成したプログラムを講義資料で復習しておく。	2.0h	演習内容を振り返り、演習課題を再度解くことで理解を深める。	1.0h
15	総合演習(2) 本講義全体の復習	1～5	これまでの講義内容を講義資料で復習しておく。	2.0h	演習内容を振り返り、演習問題を再度解くことで理解を深める。	1.0h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



デジタル回路入門

MYカモクに追加

英文名 : Introduction of Digital Circuit

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : HID336

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

7 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

東福寺 幾夫

科目に関連した実務経験

メーカ勤務の中で、生産ラインで使用する製品性能測定器や、血液分析装置のデータ処理方式の研究開発やシステム開発に従事し、多くのマイコン（MPU）と連携した入出力制御回路の設計を担当した。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

情報通信機器や家電製品、医療機器などの中核は電子機器であり、それらはデジタル回路を中心に構成されている。こうしたデジタル回路の動作原理や仕組みを理解するため、論理演算とデジタル回路の基礎を学ぶ。

ポイントを板書で解説する。さらに全員が演習問題を解き、指名された代表者が解答を板書することで、授業は進行す

る。また、理解度を確認する宿題や演習問題を課すことがある。学期末には、総合的な演習問題を配布し、授業内容の復習を行う。

到達目標

^

- 1.基本的な論理演算を真理値表で説明できる
- 2.真理値表から標準形の論理式を作成し、カルノー図を使用して論理式の簡略化ができる
- 3.論理式から論理回路図を作成できる
- 4.フリップフロップの動作を説明できる
- 5.記憶機能を有するデジタル回路の利用例が説明できる

使用教材

^

浜辺隆二著 論理回路入門第4版 森北出版 ISBN978-4-627-82364-8

参考文献

^

必要に応じて紹介する

評価方法

^

期末試験70%、授業参加度30%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業内で適宜コメントする。

オフィスアワー

^

月曜日の4時限と水曜日3時限
1号館6階605

メールアドレス（#→@）

^

tofukuji#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義全体のガイダンス、 1.理演算と真理値表 （1）集合とベン図 （2）集合の演算	1	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する	1h	講義内容、到達目標、成績評価法などを確認する	1.5h
2	1.論理演算と真理値表 ■ （3）論理演算とベン図（4）真理値表	1	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h
3	1.論理演算と真理値表 ■ （5）論理演算法則 （6）論理式の標準形	1	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h
4	2.論理式の簡略化 ■ （1）論理演算法則による簡略化	2	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h
5	2.論理式の簡略化 ■ （2）カルノー図による簡略化	2	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h
6	3.論理回路の描き方 ■ （1）MIL論理回路記 4.組み合わせ回路 （1）ゲート回路	3	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h
7	4.組み合わせ回路 ■ （2）半加算器・全加算器	3	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	4.組み合わせ回路 ■ (3) 減算器 (4) 比較器	3	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h
9	4.組み合わせ回路 ■ (5) エンコーダとデコーダ (6) マルチプレクサとデマルチプレクサ	4	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h
10	5. フリップフロップ ■ (1) フリップフロップの原理	4	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h
11	5. フリップフロップ ■ (2) 様々なFF (SR-FF、T-FF、JK-FF、D-FF)	4	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h
12	6. 順序回路 ■ (1) 非同期カウンタ	4	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h
13	6. 順序回路 ■ (2) 同期カウンタ (3) レジスタ	5	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h
14	7. A/D変換・D/A変換回路 ■	5	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4,5	資料を読み、練習問題を解く。	1h	講義を振り返り、演習問題を解く。	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

病院実習

MYカモクに追加

英文名：Hospital Training

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA351

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

3 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 喜代美

科目に関連した実務経験

診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①病院の基本的機能の理解、入院および外来診療録の具体的管理状況の理解、診療録管理部門の病院内で果たしている機能の理解、疾病統計・サマリー等がどのようなものかを学習する。

②実習期間全体を通じた学習の進め方

- ・各実習先病院に事前訪問し実習内容について説明を受ける。
- ・実習は各実習先病院にて担当者より要点をおよびに業務内容を提示される。指示に従い業務を遂行する。
- ・実習前指導を行うため、必ず出席すること。
- ・予習復習は毎日行うこと。

- ・実習終了後、コメントを頂いた実習ノート、推敲した内容の印刷したもの、推敲した原稿をwordで作成しmail添付して提出する。
- ・実習時間は合計40時間以上とする。

到達目標

実習内容は以下のとおりである。

- 1.病院の基本機能が説明できる。■
- 2.入院および外来診療録の具体的管理状況が説明できる。■
- 3.診療録管理部門が病院内で果たしている機能が説明できる。■
- 4.疾病統計・サマリー等がどのようなものかを具体的に説明できる。■
- 5.診療録の量的・質的点検の方法が説明できる。■
- 6.診療録の収納、検索、貸出業務が説明できる。■
- 7.傷病名、手術、処置等のコーディングの補助業務が説明できる。■

使用教材

診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ 専門課程編（2020.7版） ICD-10 第1巻・第3巻

参考文献

診療情報管理学 診療情報管理士業務指針 診療情報の記録指針

評価方法

実習報告書の提出（10%）および、実習先病院から返送される診療情報管理病院実習個人評価票（90%）に基づいて評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

実習ノートの提出後に実習先病院の担当者よりコメントが記入されて実習生に返却される。

オフィスアワー

大川（情報）：木曜日2限
（1号館609研究室）

メールアドレス（#→@）

大川（情報）：okawa-ki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

各病院の実習担当より、事前訪問時の打ち合わせおよび実習当日に説明がある。■

【予習】診療情報管理士テキストⅢを読んで復習し、病院に必要な法律、実務の知識を再確認しておく。

【予習時間】10h

【復習】実習中に担当者から受けた注意や、実習中に質問した事を毎日実習ノートに書く。実習終了後、実習ノート10日分を推敲し報告書をまとめる

【復習時間】20h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

診療情報管理士資格必修科目

実習ノートは、病院の実習担当者のコメントをもらい、報告書と共に提出すること

印刷



インターンシップ

MYカモクに追加

英文名：Internship

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA352

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

0 健康・医療および情報に関する知識・技能

0 問題解決力

5 コミュニケーションスキル

5 生涯学習力

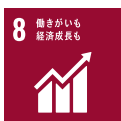
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田村 拓郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーシ ョン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会人としての仕事の取り組み方や就職活動への心構えなどを学び、キャリアデザイン力を向上させることを目的とする。

②本科目は以下の流れで進行する。

- ・学内で事前のガイダンスと研修を実施し、インターンの目的や必要なマナー、業界研究等について説明する。
- ・研修先において実地研修を1～2週間行い、社会や職業への理解を深める。
- ・実習終了後、学内で研修報告会を行い、インターンシップの成果について発表を行う。

到達目標

1. 業界研究等、資料をまとめることができる。
2. 企業人として真摯に職業に取り組む姿についてレポートできる。
3. 自らの職業選択についてデザインできる。

評価方法



事前学習と事後研修（課題提出、報告会への参加ならびに発表を含む）50%、実地研修（研修先の評価結果を含む）50%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



事前学習の課題は、授業担当者からのコメントを付して返却する。研修報告会に向けて作成した資料は資料集として当日配布を予定している。

オフィスアワー



火曜日3, 4限

メールアドレス（#→@）



tamura-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



4月中旬 概要説明ガイダンス

5月初旬～7月中旬 事前研修

夏休み-冬休み 実地研修（1～2週間）

2月初旬 事後研修（研修報告会）

【予習】実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認

【予習時間】期間中適宜

【復習】実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備

【復習時間】期間中適宜

印刷 

Web制作演習

MYカモクに追加

英文名：Web Production Exercise

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA353

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

長澤 亨、田村 拓郎

履修を必須とする資格

WebデザインとWebプログラミングを履修していること

データサイエンス・AI実務パスポート（選択必修）

上級データサイエンス・AI実務パスポート（選択必修）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①ネットワークを通して情報発信する場合、Web管理システムが用いられる。近年、Web制作技術を持たない多くの組織が社内でWebサイトの運営をするのが一般的になった。本演習では制作のしやすさ、拡張性の高さからWordPressを用いてWebサイトの制作技術を修得し、企画段階から制作後の運営方法を身に付けることを目的とする。

②授業の進め方は、WebデザインⅠ～Ⅲ、WebプログラミングⅠ・Ⅱに関する知識を確認するために、基本的な演習課題を解かせる。知識不足であると思われる部分に関しては、講義し定着を図る。最終的に実際のWebサイトのテーマを見つけ、共同作業において実用可能なWebサイトを構築する。そして公開におけるセキュリティやその運用に関する知識を習得させる。まず、LAN構築とWebサーバを構築する。なお、知識不足と思われる学生は追加自習を促す。

到達目標



- 1.CMS(Contents Management System)について説明できる。
- 2.Webサイト制作に必要な、企画、制作、運営について説明できる。
- 3.L3スイッチによるLAN構築が説明できる。
- 4.MAMPによるWebサーバの構築が説明できる。
- 5.CGIとしてPHPを使ったサーバの利用について説明できる。
- 6.Webサイト制作と基本的なフローやカスタマイズについて説明できる。

参考文献



印刷資料

評価方法



課題提出40%、授業の参加度30%、作成したシステム30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



課題に対する正解を示し、提出内容にコメントを付けて返却する。

オフィスアワー



月曜日の1時限、3時限、質問はメールでも受け付ける。1号館6階608

メールアドレス（#→@）



nagasawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Chapter1 WordPressのすすめ	1,2	Chapter1 WordPressのすすめ	1.5h	演習講義内容の復習	1.5h
2	Chapter2 サイト制作の準備	1,2	Chapter2 サイト制作の準備	1.5h	演習講義内容の復習	1.5h
3	Chapter3 WordPressのインストール	2	Chapter3 WordPressのインストール	1.5h	演習講義内容の復習	1.5h
4	Chapter4 WordPressの基本操作①	2	Chapter4 WordPressの基本操作を熟読	1.5h	演習講義内容の復習	1.5h
5	Chapter4 WordPressの基本操作②	4	Chapter4 WordPressの基本操作を熟読	1.5h	演習講義内容の復習	1.5h
6	Chapter4 WordPressの基本操作③	4	Chapter4 WordPressの基本操作を熟読	1.5h	演習講義内容の復習	1.5h
7	Chapter5 サイト制作の基本フロー	5	Chapter4 WordPressの基本操作を熟読	1.5h	演習講義内容の復習	1.5h
8	Chapter5 サイト制作の基本フロー	5	Chapter5 サイト制作の基本フロー	1.5h	演習講義内容の復習	1.5h
9	Chapter6 カスタマイズの基本知識	6	基本操作を熟読	1.5h	演習講義内容の復習	1.5h
10	サイト制作演習①	3,4,5,6	企画書の作成	1.5h	企画書の完成	1.5h
11	サイト制作演習②	3,4,5,6	制作編①	1.5h	制作作業	1.5h
12	サイト制作演習③	3,4,5,6	制作編②	1.5h	制作作業	1.5h
13	サイト制作演習④	3,4,5,6	制作編③	1.5h	制作作業	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	サイト制作演習⑤	3,4,5,6	運営編	1.5h	運営カスタマイズ作業	1.5h
15	作成したシステムのプレゼンテーション	1,2,3,4,5,6	全体を見直しておく	1.5h	総合的に復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

印刷



特別ゼミ I

MYカモクに追加

英文名 : Special Exercises on Information I

科目区分 : 応用展開科目

科目ナンバリング : HIA354

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

2 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

学科全教員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

「健康・医療および情報分野に関わる問題解決能力」の資質を備えた人材育成を目標とする。

②講義の実施方法

テーマごとにグループに分かれ、「実践体験型」の学習を行う。原則一方向的な講義形式ではなく、「問題の解決策を考え、調査し、話し合い、必要な知識を明確にし、獲得した知識を問題解決に適用し、まとめる」という流れのアクティブラーニング形式で進める。

到達目標

- 1.健康・医療および情報分野に関わる諸問題を発見することができる
- 2.健康・医療および情報分野に関わる諸問題を分析し、考察することができる
- 3.健康・医療および情報分野に関わる諸問題の解決法を提案することができる

使用教材



各教員が開講前または初回授業時に指示する。

評価方法



参加度、発表、レポートなどにより総合的に評価。具体的な評価方法は各教員より通知する。

課題・評価に対するフィードバック方法



プレゼンテーション内容や課題レポートの内容は、その都度教員が精査し、適切にアドバイスする。

オフィスアワー



各教員が最初の授業で提示する。

メールアドレス（#→@）



各教員が最初の授業で提示する。

授業計画表



各学生が希望テーマに分かれて学習し、到達目標の資質を涵養する

【テーマの例】

- ・電子情報工学
- ・生活支援工学
- ・医療とビジネス
- ・生体信号（血圧／心拍数／呼吸数）解析
- ・プログラミング(Python、VBAなど)
- ・データ分析・統計解析
- ・線形代数
- ・診療情報管理士の実務

合計時間（予習・復習）



45h

備考



集中講義として開講する。

予習・復習は各教員が指示する。

印刷 

特別ゼミⅡ

MYカモクに追加

英文名：Special Exercises on Information Ⅱ

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA355

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

2 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

学科全教員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

「健康・医療および情報分野に関わる問題解決能力」の資質を備えた人材育成を目標とする。

②講義の実施方法

テーマごとにグループに分かれ、「実践体験型」の学習を行う。原則一方向的な講義形式ではなく、「問題の解決策を考え、調査し、話し合い、必要な知識を明確にし、獲得した知識を問題解決に適用し、まとめる」という流れのアクティブラーニング形式で進める。

到達目標

- 1.健康・医療および情報分野に関わる諸問題を発見することができる
- 2.健康・医療および情報分野に関わる諸問題を分析し、考察することができる
- 3.健康・医療および情報分野に関わる諸問題の解決法を提案することができる

使用教材



各教員が開講前または初回授業時に指示する。

評価方法



参加度、発表、レポートなどにより総合的に評価。具体的な評価方法は各教員より通知する。

課題・評価に対するフィードバック方法



プレゼンテーション内容や課題レポートの内容は、その都度教員が精査し、適切にアドバイスする。

オフィスアワー



各教員が最初の授業で提示する。

メールアドレス（#→@）



各教員が最初の授業で提示する。

授業計画表



各学生が希望テーマに分かれて学習し、到達目標の資質を涵養する

【テーマの例】

- ・電子情報工学
- ・生活支援工学
- ・医療とビジネス
- ・生体信号（血圧／心拍数／呼吸数）解析
- ・プログラミング(Python、VBAなど)
- ・データ分析・統計解析
- ・線形代数
- ・診療情報管理士の実務

合計時間（予習・復習）



45h

備考



集中講義として開講する。

予習・復習は各教員が指示する。

印刷 

情報演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Information Practice Ⅲ

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA356

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

6 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石川 雅弘

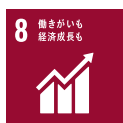
科目に関連した実務経験

会社員としてシステム開発、研究員としてWebDB開発

履修を必須とする資格

基本情報技術者試験（対応科目）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 現代は医療を含めあらゆる分野において情報・通信システムが導入されており、その活用の範囲はますます広がっている。情報技術の重要性が高まる中で、情報技術者の質の確保も重要な課題となっている。IPAが主催する情報技術者試験は、情報技術者の質の評価の重要な指標であるが、その中で入門的位置付けの試験が基本情報技術者試験である。

本科目では、基本情報技術者試験の科目B試験で扱われるアルゴリズム・プログラミングおよび情報セキュリティに関する知識・スキルを身につけることを目標とし、基本情報技術者試験の合格を目指す。

② 授業は基本情報技術者試験科目B問題レベルの問題演習を中心に進め、適宜補足的講義を行う。

到達目標



1. 情報システムに必要なセキュリティ対策や基本的セキュリティ技術を説明できる。
2. 基本的なデータ構造とアルゴリズムについて、説明できる。■
3. 基本的なデータ構造とアルゴリズムについて、疑似コードを読んで理解できる。■

使用教材



適宜資料を配布する。

評価方法



期末試験（100％）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



解答例の提示と解説を行う。

オフィスアワー



月曜5限

メールアドレス（#→@）



ishikawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	過去問題演習	1,2,3	各個別科目のテキストを見直しておく。	1.5h	過去問題に取り組む。	1.5h
2	情報セキュリティ（1）	1	データ構造とアルゴリズムのテキストを見返しておく。	1.5h	過去問題に取り組む。	1.5h
3	情報セキュリティ（2）	1	配布資料に目を通しておく。	1.5h	過去問題に取り組む。	1.5h
4	データ構造とアルゴリズム（1）■	2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	過去問題に取り組む。	1.5h
5	データ構造とアルゴリズム（2）■	2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	過去問題に取り組む。	1.5h
6	データ構造とアルゴリズム（3）■	2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	課題プログラムを完成・実行する。	1.5h
7	データ構造とアルゴリズム（4）■	2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	課題プログラムを完成・実行する。	1.5h
8	データ構造とアルゴリズム（5）■	2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	課題プログラムを完成・実行する。	1.5h
9	データ構造とアルゴリズム（6）■	2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	課題プログラムを完成・実行する。	1.5h
10	過去問題演習（1）	2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	課題プログラムを完成・実行する。	1.5h
11	過去問題演習（2）	2,3	指定した過去問題に取り組む。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h
12	過去問題演習（3）	2,3	指定した過去問題に取り組む。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h
13	総合演習（1）	1,2,3	指定した過去問題に取り組む。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	総合演習（2）	1,2,3	これまでの資料に目を通しておく。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h
15	総合演習（3）	1,2,3	これまでの資料に目を通しておく。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



基本情報技術者試験に対応。（受験予定者には受講を強く勧める。他の試験対応科目も履修することが望ましい。）
合格水準に到達するには、各人の積極的な学習姿勢が重要となるので、合格への強い意欲を持った参加が求められる。

【オンラインで授業を実施する場合】

オンデマンド形式のリモート講義の形で進める。

時間中のチャット・ビデオ通話での質問にも応じるので積極的に利用して欲しい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

情報演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Information Practice Ⅳ

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA357

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

6 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石川 雅弘

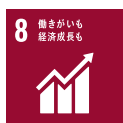
科目に関連した実務経験

会社員としてシステム開発、研究員としてWebDB開発

履修を必須とする資格

基本情報技術者試験（対応科目）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 現代は医療を含めあらゆる分野において情報・通信システムが導入されており、その活用の範囲はますます広がっている。情報技術の重要性が高まる中で、情報技術者の質の確保も重要な課題となっている。IPAが主催する情報技術者試験は、情報技術者の質の評価の重要な指標であるが、その中で入門的位置付けの試験が基本情報技術者試験である。本科目では、基本情報技術者試験の科目B試験で扱われるアルゴリズム・プログラミングおよび情報セキュリティに関する知識・スキルを確かなものとし、基本情報技術者試験の合格を目指す。

② 授業は基本情報技術者試験科目B問題レベルの課題・演習への取り組みを中心に進め、適宜補足的講義を行う。また、より深い理解と学習の自発性・協調性を高めるためのグループワークやプレゼンテーションも行う。

到達目標 ↑

- 1. 情報システムに必要な基本的セキュリティ対策を提案できる。
- 2. 基本的なデータ構造とアルゴリズムについて、考え方を説明できる。
- 3. 基本的なデータ構造とアルゴリズムについて、疑似コードで記述できる。■

使用教材 ↑

適宜資料を配布する

評価方法 ↑

期末試験（100％）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

解答例の提示と解説を行う。

オフィスアワー ↑

月曜 4 限

メールアドレス（#→@） ↑

ishikawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	過去問題演習	1,2,3	各個別科目のテキストを見直しておく。	1.5h	過去問題に取り組む。	1.5h
2	情報セキュリティ（1）	1	情報セキュリティのテキストを見直しておく。	1.5h	過去問題に取り組む。	1.5h
3	情報セキュリティ（2）	1	情報セキュリティのテキストを見直しておく。	1.5h	過去問題に取り組む。	1.5h
4	データ構造とアルゴリズム（1）■	2	配布資料に目を通しておく。	1.5h	過去問題に取り組む。	1.5h
5	データ構造とアルゴリズム（2）■	2	配布資料に目を通しておく。	1.5h	過去問題に取り組む。	1.5h
6	データ構造とアルゴリズム（3）■	3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	過去問題に取り組む。	1.5h
7	データ構造とアルゴリズム（4）■	3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	過去問題に取り組む。	1.5h
8	過去問題演習（1）	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h
9	過去問題演習（2）	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h
10	過去問題演習（3）	1,2,3	配布資料に目を通しておく。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h
11	過去問題演習（4）	1,2,3	指定した過去問題に取り組む。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h
12	過去問題演習（5）	1,2,3	指定した過去問題に取り組む。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	過去問題演習（6）	1,2,3	指定した過去問題に取り組む。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h
14	総合演習（1）	1,2,3	これまでの資料に目を通しておく。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h
15	総合演習（2）	1,2,3	これまでの資料に目を通しておく。	1.5h	課題とした過去問題に取り組む。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



基本情報技術者試験に対応。（受験予定者には受講を強く勧める。他の試験対応科目も履修することが望ましい。）
合格水準に到達するには、各人の積極的な学習姿勢が重要となるので、合格への強い意欲を持った参加が求められる。
【オンラインで授業を実施する場合】
オンデマンド形式のリモート講義の形で進める。
時間中のチャット・ビデオ通話での質問にも応じるので、積極的に利用して欲しい。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



診療情報演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Health Information Management Practice Ⅲ

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA358

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

6 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 喜代美、木村 憲洋

科目に関連した実務経験

診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中、單元ごとに質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①診療情報管理士認定試験合格のため分類法およびコーディングについてより深い知識を習得。診療情報『管理士テキスト』の『専門・診療情報管理』について良く理解し、問題集を全て正解する。

②授業期間全体を通じた授業の進め方

- ・各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はテキストにて要点を提示する。
- ・予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。

到達目標

- 1.診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱ 要約症例（サマリー）の主要病態の正しい選択、および正確なコーディングを理解し説明ができる。
- 2.模擬試験にて診療情報管理士認定試験合格ラインに到達できるようにする。■

使用教材

診療情報管理Ⅲ（2020.7版） 診療情報管理士教育練習問題2022 専門課程編、ICD-10（2013年版）第1巻・第3巻、プリント配布

参考文献

診療情報管理学 診療情報管理士業務指針 診療情報の記録指針

評価方法

授業参加への積極性10%、定期試験90%

課題・評価に対するフィードバック方法

次回の課題プリントを配布する。翌週課題の解答および解説をする。
模擬テストの実施により、不得意問題を把握し、個別に指導する。

オフィスアワー

大川（情報）：木曜日2限
（1号館609研究室）

メールアドレス（#→@）

大川（情報）：okawa-ki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	国際統計分類Ⅱ 第I章、第III章	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの第I章、第III章要約症例を読み、主傷病名を選択する方法を予習する。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h
2	国際統計分類Ⅱ 第IV章、第V章	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの第IV章、第V章の要約症例を解き、解らないところを質問できるようにしておく。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h
3	国際統計分類Ⅱ 第VI章、第VII章	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの第VI章、第VII章の要約症例を解き、解らないところを質問できるようにしておく。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h
4	国際統計分類Ⅱ 第VIII章、第IX章	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの第VIII章、第IX章の要約症例を解き、解らないところを質問できるようにしておく。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h
5	国際統計分類Ⅱ 第X章、第XI章	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの第X章、第XI章の要約症例を解き、解らないところを質問できるようにしておく。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	国際統計分類Ⅱ 第XII章、第II章①	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの第XII章、第II章の要約症例を解き、解らないところを質問できるようにしておく。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h
7	国際統計分類Ⅱ 第II章②	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの第II章の要約症例を解き、解らないところを質問できるようにしておく。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h
8	国際統計分類Ⅱ 第XIII章、第XIV章	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの第XIII章、第XIV章の要約症例を解き、解らないところを質問できるようにしておく。	1h	第XIII章、第XIV章の授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h
9	国際統計分類Ⅱ 第XV章、第XVI章	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの第XV章、第XVI章の要約症例を解き、解らないところを質問できるようにしておく。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h
10	国際統計分類Ⅱ 第XVII章、第XVIII章	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの第XVII章、第XVIIIの要約症例を解き、解らないところを質問できるようにしておく。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h
11	国際統計分類Ⅱ 第XIX章、第XX章	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの第XIX章、第XX章の要約症例を解き、解らないところを質問できるようにしておく。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h
12	国際統計分類Ⅱ 第XXI章 原死因	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの第XXI章 原死因の例題を解き、解らないところを質問できるようにしておく。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h
13	国際統計分類Ⅱ 原死因	1	診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲの国際統計分類Ⅱの原死因例題を解き、解らないところを質問できるようにしておく。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h
14	学内模擬試験 ■	2	前回までの問題と解説を読み返し模擬試験に備える。	1h	授業での模試の解答と解説を振り返り、理解する。	2h
15	第1回業者模試 ■	2	国際統計分類Ⅱ 傷病名コーディングで不得意な章の解答・解説を読み返し模擬試験に備える。	1h	授業での解答と解説を振り返り、理解する。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

診療情報管理士資格必修科目

質問はメールでも可能。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

診療情報演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名 : Health Information Management Practice Ⅳ

科目区分 : 応用展開科目

科目ナンバリング : HIA359

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

6 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 喜代美、木村 憲洋

科目に関連した実務経験

診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）

履修を必須とする資格

診療情報管理士 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中、單元ごとに質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①診療情報管理士認定試験対策

②基礎科目、専門科目の総復習を行う。

- ・各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はテキストにて要点を提示する。
- ・予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。

到達目標

- 1.診療情報管理士教育練習問題2022 専門課程編 国際統計分類Ⅱ 第1章～第21章の問題演習を習得する。■
- 2.診療情報管理士教育練習問題2022 専門課程編 国際統計分類Ⅱ 選択問題演習を習得する。■

使用教材

診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲ（2020.7版）、
診療情報管理士教育練習問題2022 専門課程編、
ICD-10(2013年版)第1巻・第3巻、プリント配布

参考文献

診療情報管理学 診療情報管理士業務指針 診療情報の記録指針

評価方法

授業への参加度90%（原則欠席不可）、課題完成10%

課題・評価に対するフィードバック方法

授業時間内に期末試験について、出題の意図と内容の解説を行う。

オフィスアワー

大川（情報）：木曜日2限
（1号館609研究室）

メールアドレス（#→@）

大川（情報）：okawa-ki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	国際統計分類Ⅱ 第I章、第II章 ■	1	診療情報管理士教育練習問題2022 専門課程編 12-187～12-192を解く	1h	授業での解答・解説を良く読み理解する。	2h
2	国際統計分類Ⅱ 第III章、第IV章 ■	1	診療情報管理士教育練習問題2022 専門課程編 12-193～12-198を解く	1h	授業での解答・解説を良く読み理解する。	2h
3	国際統計分類Ⅱ 第V章、第VI章 ■	1	診療情報管理士教育練習問題2022 専門課程編 12-199～12-204を解く	1h	授業での解答・解説を良く読み理解する。	2h
4	国際統計分類Ⅱ 第VII章、第VIII章 ■	1	診療情報管理士教育練習問題2022 専門課程編 12-205～12-210を解く	1h	授業での解答・解説を良く読み理解する。	2h
5	国際統計分類Ⅱ 第IX章、第X章 ■	1	診療情報管理士教育練習問題2022 専門課程編 12-211～12-216	1h	授業での解答・解説を良く読み理解する。	2h
6	国際統計分類Ⅱ 第XI章、第XII章 ■	1	診療情報管理士教育練習問題2022 専門課程編 12-217～12-222を解く	1h	授業での解答・解説を良く読み理解する。	2h
7	国際統計分類Ⅱ 第XIII章 第XIV章 ■	1	診療情報管理士教育練習問題2022 専門課程編 12-223～12-228を解く	1h	授業での解答・解説を良く読み理解する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	国際統計分類Ⅱ 第XV章、第XVI章 ■	1	診療情報管理士教育練習問題 2022 専門課程編 12-229～237を解く	1h	授業での解答・解説を良く読み理解する。	2h
9	国際統計分類Ⅱ 第XVII章、第XVIII章 ■	1	診療情報管理士教育練習問題 2022 専門課程編 12-238～12-243を解く	1h	授業での解答・解説を良く読み理解する。	2h
10	国際統計分類Ⅱ 第XIX章、第XXI章 ■	1	診療情報管理士教育練習問題 2022 専門課程編 12-244～12-250を解く	1h	授業での解答・解説を良く読み理解する。	2h
11	国際統計分類Ⅱ 原死因①	2	診療情報管理士教育練習問題 2022 専門課程編 12-177～12-181を解く	1h	授業での解答・解説を良く読み理解する。	2h
12	国際統計分類Ⅱ 原死因②	2	診療情報管理士教育練習問題 2022 専門課程編 12-182～12-186を解く	1h	授業での解答・解説を良く読み理解する。	2h
13	国際統計分類Ⅱ 演習問題①	2	診療情報管理士教育練習問題 2022 専門課程編 12-1～12-74を解く	1h	診療情報管理士テキストⅢ 第XII章国際統計分類Ⅱより正しい答えを探し手書きでまとめる。	2h
14	国際統計分類Ⅱ 演習問題②	2	診療情報管理士教育練習問題 2022 専門課程編 12-75～12-125を解く	1h	診療情報管理士テキストⅢ 第XII章国際統計分類Ⅱより正しい答えを探し手書きでまとめる。	2h
15	国際統計分類Ⅱ 演習問題③	2	診療情報管理士教育練習問題 2022 専門課程編 12-126～12-176を解く	1h	診療情報管理士テキストⅢ 第XII章国際統計分類Ⅱより正しい答えを探し手書きでまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

診療情報管理士資格必修科目

質問はメールでも可能。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

遠隔医療とeヘルス

MYカモクに追加

英文名：Telemedicine and e-Health

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA360

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

1 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

鈴木 亮二

科目に関連した実務経験

日本遠隔医療学会理事として、遠隔医療の普及について検討を行っている。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①ICTを用いた遠隔医療とヘルスケアに関する基礎的知識を習得することを目標とする。

②資料を用いた講義とグループワークを行う。

到達目標

- 1.遠隔医療の分類について理解できる。■
- 2.オンライン診療に必要な機器等について理解できる。■
- 3.オンライン診療の実例について理解できる。■
- 4.オンライン診療の法規制や診療報酬について理解できる。■
- 5.ICTを用いたヘルスケアについて理解できる。■

使用教材

配布資料

評価方法

レポート課題（80％）、演習課題（20％）を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

次回講義の最初に解説を行う。

オフィスアワー

授業開始前もしくは終了後に応じる

メールアドレス（#→@）

suzuki-r#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	遠隔医療とは何か ■	1	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
2	オンライン診療に必要なデバイス ■	2	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
3	セキュリティと認証 ■	2	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
4	オンライン診療・オンライン服薬指導の業務フロー ■	2	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
5	オンライン診療の実際1 ■	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
6	オンライン診療の実際2 ■	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
7	オンライン診療の実際3 ■	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
8	オンラインモニタリング ■	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
9	医療者間のオンライン診療 ■	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
10	テレナーシング ■	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
11	多職種連携 ■	3	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
12	法規制と診療報酬 ■	4	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
13	ICTを用いたヘルスケア1 ■	5	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
14	ICTを用いたヘルスケア2 ■	5	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h
15	まとめ ■	1,2,3,4,5	配布資料を読んでおく	1.5h	講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



オンラインで実施する場合にも同様の講義内容で行う。

■実務経験に基づく講義を示す。

印刷 

応用画像処理

MYカモクに追加

英文名 : Applied Image Processing

科目区分 : 応用展開科目

科目ナンバリング : HIA361

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

4 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

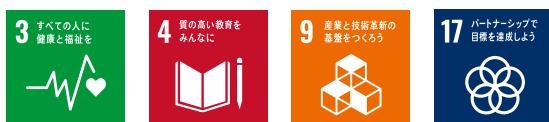
担当教員

光山 訓

科目に関連した実務経験

企業において画像処理技術を応用した医療用検査装置の開発に従事（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

画像上の対象物を自動判定する画像認識は、画像処理の有望な応用分野として研究が行われてきたが、近年AIの発達により急速に実用化が進んでいる。適用分野もデジタルカメラ、医療、自動運転など広がりつつあり、重要性が増している。本講義では基本的な画像認識の手法を理解し、画像認識プログラムを自ら作成できるようになることを目標とする。

②講義の実施方法

独自教材を使用した講義により知識の習得と理論の理解を進める。同時に、講義で説明した処理を行うプログラムを、Pythonを用いて作成し、動作を確認することにより知識の定着と実践・応用力の獲得を図る。最終段階では総合的な知識の定着度を確認するために総合演習を行う。内容を理解し、スキルを身につけるためには、予習復習が必要である。

到達目標



1. パターンマッチングによる画像認識の方法を理解し、プログラムを作成することができる
2. 特徴量に基づく画像認識の方法を理解し、プログラムを作成することができる■
3. ディープラーニングによる画像認識の方法を理解し、プログラムを作成することができる
4. 様々な画像認識方法の特徴を理解し、用途に応じて使い分けられるようになる

使用教材



講義資料・演習教材は随時プリントして配布またはネット配信する。

評価方法



総合演習80%、授業への参加度20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



毎週プログラミング演習を行い、授業中に作成方法のポイントを説明する。誤りの多かった箇所については、気を付けるべきポイントを翌週フィードバックする。

オフィスアワー



火曜日2限、木曜日2限

質問はメールでも受け付ける。

1号館6階602研究室

メールアドレス（#→@）



mitsuyama#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、画像認識の概要	4	画像認識がどのように活用されているかWebなどで調べておく。	1.0h	講義資料を読み、復習する。	2.0h
2	パターンマッチング(1)	1	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
3	パターンマッチング(2)	1	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
4	前処理■	2	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
5	領域抽出■	2	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
6	修正処理、特徴量抽出■	2	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
7	パターン認識(1)■	2	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
8	パターン認識(2)■	2	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
9	ディープラーニングによる画像認識(1)	3	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
10	ディープラーニングによる画像認識(2)	3	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	ディープラーニングによる画像認識(3)	3	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
12	画像認識の応用(1)	4	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
13	画像認識の応用(2)	4	講義資料を読んでおく。	1.0h	講義資料と作成したプログラムで復習する。	2.0h
14	総合演習(1) 画像認識プログラミング	1～4	これまでの講義内容を講義資料と作成したプログラムで復習しておく。	2.0h	演習内容を振り返り、演習課題を解くことで理解を深める。	1.0h
15	総合演習(2) 本講義全体の復習	1～4	これまでの講義内容を講義資料で復習しておく。	2.0h	演習内容を振り返り、演習問題を解くことで理解を深める。	1.0h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



組み込みシステム演習

MYカモクに追加

英文名 : Practice of Embedded System

科目区分 : 応用展開科目

科目ナンバリング : HIA362

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 大志

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①本講義では、生体情報を含む各種情報の計測機器や、計測機器の開発について理解する事を目標とする。
- ②電気電子回路の作製と本回路のコンピュータへの接続、及びRaspberry PiやArduino等といったシングルボードコンピュータ（以下、PC）を用いてプログラム（Python）作成を行い、入出力（通信）の制御結果を確認する演習を実施する。

到達目標

- 1.組み込み機器やシステムを理解し使用できる。
- 2.電気電子回路の作製とプログラム作成を通じてコンピュータの入出力（通信）を制御できる。
- 3.コンピュータの入出力（通信）制御によってコンピュータに接続された各種機器を制御できる。

使用教材

自作資料及び各種機器を用いる。

評価方法

演習結果（60%）、レポート（40%）の総合結果で評価し、60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

演習中に内容を解説する。

オフィスアワー

質問はメールで受け付ける。

研究室：1号館314

メールアドレス（#→@）

takahashi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	PC (Raspberry Pi) の利用1	1,2,3	電気回路（オームの法則、可変抵抗など）を理解する。	1.5 h	電気回路を復習する。	1.5 h
2	PC (Raspberry Pi) の利用2	1,2,3	電子回路（LED等の半導体素子）の仕組みを理解する。	1.5 h	電子回路（LED等の半導体素子）の仕組みを復習する。	1.5 h
3	PC (Raspberry Pi) の利用3	1,2,3	PCの入出力ピン（GPIO）の利用法を調べる。	1.5 h	PCの入出力ピン（GPIO）の利用法を復習する。	1.5 h
4	PC (Raspberry Pi) の利用4	1,2,3	ソフトウェア（Python3）による入出力ピン（GPIO）の制御方法を理解する。	1.5 h	ソフトウェア（Python3）による入出力ピン（GPIO）の制御方法を復習する。	1.5 h
5	PC (Raspberry Pi) の利用5	1,2,3	電子電気回路の作製とソフトウェアによる入出力回路について理解する。	1.5 h	作製したシステムを復習する。	1.5 h
6	PC (Raspberry Pi) の利用に関するレポート作成	1,2,3	1-5回目の講義を復習する。	1.5 h	レポートを提出する。	1.5 h
7	PCの入出力制御とアナログーデジタル変換器（ADC）の利用1	1,2,3	AD変換（標本化、量子化、符号化など）、SPI通信について理解する。	1.5 h	AD変換器、SPI通信について復習する。	1.5 h
8	PCの入出力制御とアナログーデジタル変換器（ADC）の利用2	1,2,3	電子電気回路、AD変換、SPI通信について統合的に理解する。	1.5 h	課題を実施する。	1.5 h
9	PCの入出力制御とアナログーデジタル変換器（ADC）の利用3	1,2,3	課題を実施する。	1.5 h	課題を実施する。	1.5 h
10	PCの入出力制御とアナログーデジタル変換器（ADC）の利用4	1,2,3	課題を実施する。	1.5 h	課題を実施する。	1.5 h
11	PCの入出力制御とアナログーデジタル変換器（ADC）の利用5	1,2,3	課題を実施する。	1.5 h	課題を完成させる。	1.5 h
12	PCの入出力制御とアナログーデジタル変換器（ADC）の利用6	1,2,3	7～12回目の講義を復習する。	1.5 h	レポートを提出する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	USBカメラとPC（各自）の接続による画像通信・表示1	1,2,3	デジタル画像情報の構成（画素、RGBなど）を理解する。	1.5h	課題を実施する。	1.5h
14	USBカメラとPC（各自）の接続による画像通信・表示2	1,2,3	課題を実施する。	1.5h	課題を完成させる。	1.5h
15	USBカメラとPC（各自）の接続による画像通信・表示3	1,2,3	13～14回目の講義を復習する。	1.5h	レポートを提出する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



本講義では、電気電子回路の作製やプログラム作成等を実施してもらうため、必ず予習と復習に取り組むこと。
また、時間数が不足している場合は各自で補完する事。
集中講義（夏休み期間中の連続3日間（5コマ/日））で実施する。

印刷



チーム医療アプローチ演習

MYカモクに追加

英文名：Interprofessional Practice

科目区分：応用専門科目

科目ナンバリング：HIA363

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

2 問題解決力

2 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

渡邊秀臣（理学）、倉林しのぶ・梅原里美・小池洋子・茂木佐智子・内田真理子・中川裕・生方敬美（看護）、篠原智行・齊田高介（理学）、大林恭子・青森達・前田恵里・高橋恵美利・高橋雄太・信田智哉・長嶺歩（薬学）、木村憲洋・三澤安利沙（情報）、竹内真理・河原田律子（栄養）、原田欣宏・富田俊・加藤大輔（福祉）、内田祥子（子ども教育）

科目に関連した実務経験

*各学科のコア教員のみ

渡邊秀臣（理学）：非常勤医師（整形外科医）として病院に勤務

小池（看護）：看護師として一般病院に勤務（経験）

篠原（理学）：理学療法士として急性期、回復期病院に勤務（経験）。生活期病院に非常勤勤務。

高橋雄太（薬学）：薬剤師として大学病院に勤務（経験）、調剤薬局に非常勤勤務。

木村（情報）：病院経営企画及び診療情報管理にて病院に勤務（経験）

竹内（栄養）：管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）。健大附属クリニック管理栄養士兼務。

加藤（社会福祉）：MSWとしてケアミックス病院に勤務（経験）

内田（子ども教育）：保育者養成校での学外実習の指導（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①より安全で質の高い医療の提供にはチーム医療が欠かせない。その上で最善の医療や福祉を提供することができるよう、チームや多職種連携のあり方や課題、工夫について学び、自身の考えを述べられるようになる。
- ②グループワークのテーマは事前に座学形式で示す。グループワークのほとんどは複数学科の履修生で構成したグループで行う。最終的に模擬症例に対する最善の医療についてグループの成果物を作成し発表する。

到達目標 ↑

1. 多職種間での情報伝達・共有の必要性を理解し、効果的な情報伝達・共有方法について考えを述べられる。■
2. 各専門職の役割と活動について理解し、多職種が連携・協働することの意義を述べられる。■
3. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の連携・協働の必要性を説明できる。■
4. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。■

使用教材 ↑

関連する資料を随時配布する。

参考文献 ↑

指定なし。

評価方法 ↑

1～4回の振り返りシートの記述内容、演習参加への積極性・授業態度40%、5・6回の模擬症例検討内容等20%、7・8回の演習参加への積極性・授業態度および発表内容・発表態度20%、授業後レポート20%

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

模擬症例検討ではグループごとに発表し、教室担当の教員がフィードバックする。

オフィスアワー ↑

渡邊（理学）：金曜3限、4号館2階学部長室
小池（看護）：月曜4限、5号館207研究室
篠原（理学）：水曜3限、4号館416研究室
高橋雄太（薬学）：水曜2限、7号館323研究室
木村（情報）：月曜1限、7号館610研究室
竹内（栄養）：木曜2限、1号館308研究室
加藤（社会福祉）：木曜2限、1号館513研究室
内田（子ども教育）：月曜1限、8号館410研究室

メールアドレス（#→@） ↑

渡邊（理学）：watanabe-h#takasaki-u.ac.jp
小池（看護）：koike-y#takasaki-u.ac.jp
篠原（理学）：shinohara-t#takasaki-u.ac.jp
高橋雄太（薬学）：takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp
木村（情報）：norihito#takasaki-u.ac.jp
竹内（栄養）：mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp
加藤（社会福祉）：kato-d#takasaki-u.ac.jp
内田（子ども教育）：uchida-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス/ノンテクニカルスキル【合同】■	1,2,3,4	チーム、チーム医療について調べておく。	1.5h	ノンテクニカルスキルとは何かを整理する。	1.5h
2	効果的なチーム、チーミング【合同】■	1,2,3,4	チーム、チーム医療について調べておく。	1.5h	チーム、チーミングとは何かを整理する。	1.5h
3	効果的な情報伝達と共有；実践【合同】■	1	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5h	情報伝達と共有方法についての課題を整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					る。	
4	効果的な情報伝達と共有；グループワーク【合同】■	1,2,3,4	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5h	情報伝達と共有方法についての課題と工夫を整理する。	1.5h
5	チームカンファレンスの目的と方法【各学科】■	1,2,3,4	病院の内外で実施されるチームカンファレンスにはどのようなものがあるかを調べておく。	1.5h	チームカンファレンスのあるべき姿や課題を整理する。	1.5h
6	模擬症例検討① 模擬症例に対する自職種の役割、アプローチ【各学科】■	1,2,3,4	模擬症例の疾病や治療について調べ、自職種の関わり方を考えておく。	1.5h	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5h
7	模擬症例検討② 模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチ；グループワーク【合同】■	1,2,3,4	模擬症例への自職種の役割、アプローチを他職種に説明する準備をしておく。	1.5h	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5h
8	模擬症例検討③ 模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチ；発表【合同】■	1,2,3,4	発表の準備をしておく。	1.5h	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

【履修条件】原則、チーム医療アプローチ論を履修していること。

【副専攻対象科目】（生物生産除く）本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム「多職種連携コース」の対象科目である。

副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する、また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

SPI講座 I（非言語能力 I）

MYカモクに追加

英文名：SPI Course I（Non-verbal ability I）

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA364

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石田 正史

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーシ ョン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①SPIは、あらゆる職業に共通して求められる潜在的な業務遂行能力適性、職業能力適性および性格適性を検査するものです。

SPIは能力適性検査（言語能力、非言語能力）と性格適性検査に大別される。本講座では能力適性検査の「非言語能力」を扱う。

「非言語能力」に関する領域において、円滑かつスピーディーに問題を処理できる力を修得する。

②テキストに沿って單元ごとに講義と演習を実施する。また、毎回授業の最後に小テストを実施する。

到達目標

1. 演習を通して、数理的な思考能力を身につける。
2. 演習を通して、数理的な処理能力を身につける。

使用教材

評価方法

授業への参加・貢献10%、自宅学習の状況10%、授業中に実施する小テスト20%、期末試験60%で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

単元ごとに小テストを実施し、単元の振り返りを行う。また、出席カードで自宅での学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集する。

オフィスアワー

木曜日の4・5時限、質問はメールでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）

ishida1206#hb.tp1.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2	シラバスに目を通しておく	1h	テキストに目を通す。	1h
2	基礎計算①分数、正負の加減乗除、公約数、公倍数	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
3	基礎計算②方程式、不等式等の計算	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
4	鶴亀算、年齢算、植木算	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
5	速さ①速さ、平均の速さ、旅人算	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
6	速さ②流水算、通過算、時計算	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
7	仕事算・給排水算	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
8	濃度	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
9	歩合算、割合	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
10	図形①平面図形と計量	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
11	図形②立体図形と計量	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
12	空間把握（軌跡、折り紙、展開図など）	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
13	場合の数・確率①場合の数、順列、組合せ	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
14	場合の数・確率②確率	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
15	規則性の発見（数列、魔方陣）	1,2	ポイント確認、例題を解く	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h

合計時間（予習・復習）

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷 

SPI講座Ⅱ（非言語能力Ⅱ）

MYカモクに追加

英文名：SPI Course Ⅱ（Non-verbal ability Ⅱ）

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA365

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石田 正史

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①SPIは、あらゆる職業に共通して求められる潜在的な業務遂行能力適性、職業能力適性および性格適性を検査するものです。

SPIは能力適性検査（言語能力、非言語能力）と性格適性検査に大別される。本講座では能力適性検査の「非言語能力」を扱う。

「非言語能力」に関する領域において、円滑かつスピーディーに問題を処理できる力を修得する。

②テキストに沿って單元ごとに講義と演習を実施する。また、毎回授業の最後に小テストを実施する。

到達目標

1. 演習を通して、数理的な思考能力を身につける。
2. 演習を通して、数理的な処理能力を身につける。

使用教材

評価方法

授業への参加・貢献10%、自宅学習の状況10%、授業中に実施する小テスト20%、期末試験60%で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

単元ごとに小テストを実施し、単元の振り返りを行う。また、出席カードで自宅での学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集する。

オフィスアワー

木曜日の3・4時限、質問はメールでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）

ishida1206#hb.tp1.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	記数法	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
2	演算、虫食い算	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
3	矢印問題（PERT法、ブラックボックス、物流と比率）	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
4	グラフとその領域（一次関数、二次関数、分数関数）	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
5	判断推理①論理	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
6	判断推理②集合	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
7	判断推理③文章推理	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
8	判断推理④順序、位置・方位	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
9	資料①分布図、構成比	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
10	資料②指数、増加率	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
11	物理①電気回路	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
12	物理②運動力学	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
13	物理③てこ、滑車	1,2	ポイント確認、例題を解く。	1h	チェック問題を解く。返却された小テストを見直す。	1h
14	SPI非言語分野模擬試験	1,2	テキスト全体を見直す。	1h	模擬試験を見直す。	1h
15	総まとめ	1,2	テキスト全体を見直す	1h	テキストで不得意分野を見直す。	1h

合計時間（予習・復習）

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷 

SPI講座Ⅲ（言語能力Ⅰ）

MYカモクに追加

英文名：SPI Course Ⅲ（Language Ability Ⅰ）

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA366

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

根本 敬彦

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

SPI模擬試験および小テストを実施し、要点解説ならびに質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①SPIの言語能力の各分野を網羅的に学習し、言語能力検査の出題傾向に即した問題演習を反復することによって、「就職力」の向上と幅広い教養の醸成を図ることを目的とします。SPIの能力適性検査の成績による「足切り」の増加という事態を踏まえ、年々SPIのスコアが上昇傾向にあるだけに、80%以上の正答率をあげることに伴う言語分野の攻略のために、実践的な知識・問題対応力の修得を目標とします。また最新の国際成人力調査（PIAAC）において日本は世界トップ水準を維持したものの、読解力格差の是正や基礎的読解力の底上げの必要性等の指摘もあり、依然として情報リテラシーの習得が重要であることから、そのための基本ツールとしての「読解力」の強化には十二分に注力します。

②授業は事前配布プリントを使用し、重要事項を確認したうえで問題演習を中心に行います。実践的な「就職力」の向上を目的とする科目であることを自覚し、授業には積極的に取り組み、また授業内容の定着度を高めるため、とくに復習は重視してください。

到達目標

^

- 1.語句の意味に関する多様な出題を検討し、理解できる。
- 2.語句の知識に関する多様な出題を検討し、理解できる。
- 3.文章読解に関する多様な出題を検討し、理解できる。

使用教材

^

毎回事前に、要点整理および問題演習のための自己作成プリントを配布します。

参考文献

^

適宜授業時に紹介します。

評価方法

^

平常授業への積極的参加度（質疑応答を含む）（15%）、小テスト（適宜実施）（15%）、定期試験（70%）で評価する。総合評価60%以上を合格とします。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

SPI模擬試験および小テストについては、実施後出題内容の重要ポイントについて解説します。

オフィスアワー

^

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

メールアドレス（#→@）

^

qgn335k9#outlook.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	言語能力の向上－ガイダンス	1	シラバスの内容を読み、言語分野克服のための要点を理解する。	0.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法について確認する。	0.5h
2	同義語・類義語	1	事前配布プリントによって、同義語・類義語の出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	同義語・類義語の多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
3	対義語・反対語	1	事前配布プリントによって、対義語・反対語の出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	対義語・反対語の多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
4	言葉の対応関係（1）－包含関係・行為関係	1	事前配布プリントにより、包含関係・行為関係の出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	包含関係・行為関係の多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
5	言葉の対応関係（2）－原料関係・用途関係	1	事前配布プリントにより、原料関係・用途関係の出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	原料関係・用途関係の多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
6	同音異義語・同訓異字	2	事前配布プリントにより、同音異義語・同訓異字の出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	同音異義語・同訓異字の多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
7	同音異字・同訓異義語	2	事前配布プリントにより、同音異字・同訓異義語の出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	同音異字・同訓異義語の多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
8	ことわざ・慣用句・故事成語	2	事前配布プリントにより、ことわざ・慣用句・故事成語の出題	0.5h	ことわざ・慣用句・故事成語の多様な出題を検討	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			形式を認識し、概要を知る。		し、理解する。	
9	三字熟語・四字熟語	2	事前配布プリントにより、三字熟語・四字熟語の出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	三字熟語・四字熟語の多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
10	その他・語句の知識（敬語・難解語句・文法・誤記しやすい字）	2	事前配布プリントにより、その他・語句の知識の出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	その他・語句の知識の多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
11	文章読解（1）－要旨把握・内容合致	3	事前配布プリントにより、要旨把握・内容合致問題の出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	要旨把握・内容合致問題の多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
12	文章読解（2）－文章整序	3	事前配布プリントにより、文章整序問題の出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	文章整序問題の多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
13	文章読解（3）－空欄補充	3	事前配布プリントにより、空欄補充問題の出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	空欄補充問題の多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
14	文章読解（4）－特定語理解	3	事前配布プリントにより、特定語理解の出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	特定語理解の多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
15	総合問題演習・解説	1,2,3	当該科目の既習内容の確認をする。	0.5h	総合問題演習の解説を踏まえ、要点を確認する。	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



コロナ禍後、私生活における「オンライン化」（Eコマース・フードデリバリー・動画配信等）が浸透した一方で、経済活動における「テレワーク」から「オフィス回帰」へと志向する企業の増加という想定外の事態を踏まえつつ、社会・就職事情の変容に十分配慮しながら、柔軟かつフレキシブルな対応力の獲得を目指し、さらなる意欲的な授業への参加を切望します。

予習・復習についての時間は参考程度であり、単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

印刷

SPI講座Ⅳ（言語能力Ⅱ）

MYカモクに追加

英文名：SPI Course Ⅳ (Language Ability Ⅱ)

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA367

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

5 健康・医療および情報に関する知識・技能

5 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

根本 敬彦

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

SPI模擬試験および小テストを実施し、要点解説ならびに質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①一般常識問題のうち、主に人文科学分野の各科目の頻出テーマの出題傾向に即した問題演習を反復することによって、「就職力」の向上と幅広い教養の醸成を図ることを目的とします。ゆえに一般常識テストの正答率をあげるために、実践的な知識・問題対応力の修得を目標とします。とくに近時の社会変容に伴う出題頻度の高い時事問題や国際社会の動向に関する問題などへの対策に極力傾注します。

②授業は事前配布プリントを使用し、重要事項を確認したうえで問題演習を中心にを行います。実践的な「就職力」の向上を目的とする科目であることを十二分に自覚し、授業には積極的に取り組み、また授業内容の定着度を高めるため、とくに復習は重視してください。

到達目標

- 1.日本史に関する多様な出題を検討し、理解できる。
- 2.世界史に関する多様な出題を検討し、理解できる。
- 3.地理に関する多様な出題を検討し、理解できる。

使用教材

^

毎回事前に、要点整理および問題演習のための自己作成プリントを配布します。

参考文献

^

適宜授業時に紹介します。

評価方法

^

平常授業への積極的参加度（質疑応答を含む）（15%）、小テスト（適宜実施）（15%）、定期試験（70%）で評価する。総合評価60%以上を合格とします。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

SPI模擬試験および小テストについては、実施後出題内容の重要ポイントについて解説します。

オフィスアワー

^

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

メールアドレス（#→@）

^

qgn335k9#outlook.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	日本史（1）－律令国家の形成と衰退	1	事前配布プリントにより、律令国家の形成と衰退についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	律令国家の形成と衰退についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
2	日本史（2）－中世の政治と経済	1	事前配布プリントにより、中世の政治と経済についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	中世の政治と経済についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
3	日本史（3）－近世の政治と経済	1	事前配布プリントにより、近世の政治と経済についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	近世の政治と経済についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
4	日本史（4）－近現代の政治と社会	1	事前配布プリントにより、近現代の政治と社会についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	近現代の政治と社会についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
5	世界史（1）－ヨーロッパ世界の形成	2	事前配布プリントにより、ヨーロッパ世界の形成についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	ヨーロッパ世界の形成についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
6	世界史（2）－近代ヨーロッパ世界の成立	2	事前配布プリントにより、近代ヨーロッパ世界の成立についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	近代ヨーロッパ世界の成立についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
7	世界史（3）－市民社会の成長	2	事前配布プリントにより、市民社会の成長についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	市民社会の成長についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5h
8	世界史（4）－中国史二つの世界大戦	2	事前配布プリントにより、二つの世界大戦についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5h	二つの世界大戦についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	世界史（５）－中国史	2	事前配布プリントにより、中国史についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5 h	中国史についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5 h
10	地理（１）－気候・植生・土壌	3	事前配布プリントにより、気候・植生・土壌についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5 h	気候・植生・土壌についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5 h
11	地理（２）－農牧業	3	事前配布プリントにより、農牧業についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5 h	農牧業についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5 h
12	地理（３）－エネルギー資源・鉱物資源	3	事前配布プリントにより、エネルギー資源・鉱物資源についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5 h	エネルギー資源・鉱物資源についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5 h
13	地理（４）－世界各国地誌	3	事前配布プリントにより、世界各国地誌についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5 h	世界各国地誌についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5 h
14	地理（５）－環境問題	3	事前配布プリントにより、環境問題についての出題形式を認識し、概要を知る。	0.5 h	環境問題についての多様な出題を検討し、理解する。	0.5 h
15	総合問題演習・解説	1,2,3	当該科目の既習内容の確認をする。	0.5 h	総合問題演習の解説を踏まえ、要点を確認する。	0.5 h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

コロナ禍後、私生活における「オンライン化」（Ｅコマース・フードデリバリー・動画配信等）が浸透した一方で、経済活動における「テレワーク」から「オフィス回帰」へと志向する企業の増加という想定外の事態を踏まえつつ、社会・就職事情の変容に十分配慮しながら、柔軟かつフレキシブルな対応力の獲得を目指し、さらなる意欲的な授業への参加を切望します。

予習・復習についての時間は参考程度であり、単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

印刷 

医療情報ゼミ

MYカモクに追加

英文名：Medical Information Seminar

科目区分：応用展開科目

科目ナンバリング：HIA368

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と幅広い教養
- 5 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 2 問題解決力
- 2 コミュニケーションスキル
- 0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

学科全教員（各学生が希望するゼミに分かれて受講する）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①専門導入科目、専門基幹科目、専門展開科目を踏まえて、実践的な応用を通じて、医療と情報に関する理解を深めることを講義目標とする。

②各学生が希望するゼミに分かれ、到達目標に沿って、様々な知識を修得するとともに、卒業研究に必要な基礎的な知識の修得、就活に必要な知識を学び、円滑な卒業研究と就職活動ができるように研鑽する。

到達目標

- 1.医療系資格を優先的に取得する学生は、医療現場における基礎的な知識として、「医療事務管理士」に合格する。
- 2.情報系資格を優先的に取得する学生は、情報現場における基礎的な知識として、「ITパスポート」に合格する。すでに合格している学生は、上位の資格を目指す。

3. 四年次の卒業研究に繋ぐため、各テーマに沿った基礎的な知識を修得する。
4. 就職活動に向けた自己PRなどの事項について、効果的な書類作成の術を身に付ける。

使用教材



教員が、必要に応じて作成し配布する。

評価方法



参加度（50%）、期末試験（50%）により総合的に評価する。ただし、医療系資格を優先的に取得する学生は「医療事務管理士」、情報系資格を優先的に取得する学生は「ITパスポート」の試験に合格することが、単位認定の必須条件となる。

課題・評価に対するフィードバック方法



模擬試験に関しては答案を返却し解説する。

卒論テーマに関するレポートでは、内容を精査し訂正やアドバイスを付加して返却する。また、就活に関する自己PR等の文章に関しては、添削指導を行う。

オフィスアワー



各教員が最初のゼミにて示す。

メールアドレス（#→@）



各教員が最初のゼミにて示す。

授業計画表



学生の状況と卒業研究のテーマを勘案した時間配分で、卒業研究および就職活動に必要な知識を学ぶ

【予習】各教員が必要に応じて予習内容を知らせる

【予習時間】期間中適宜

【復習】各教員が必要に応じて復習内容を知らせる

【復習時間】期間中適宜

備考



各自、単位修得に必要な学修時間を充足できるよう予習復習に努めること。

印刷 

医療情報学総合演習

MYカモクに追加

英文名 : Comprehensive Practice of Medical Informatics

科目区分 : 応用展開科目

科目ナンバリング : HIA369

学年 : 4年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と幅広い教養

4 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

0 コミュニケーションスキル

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

学科全教員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①これまでに学んできた健康医療の専門知識と情報のスキルをベースに、本演習では健康医療分野での現実の課題と情報技術を有機的に結び付け問題解決能力を養い、社会の一員として活躍できる力を身に付ける。

②オムニバスの演習形式で、各回の担当教員より提示された課題に取り組む。健康医療分野において、情報技術が活かされている具体的事例について学び、現実の課題と情報技術を有機的に結び付ける。

到達目標

- 1.我が国の健康医療を取り巻く状況や課題を理解し、それら課題の有力な解決手段の1つとしてこれまでに学んできた情報技術を捉える。
- 2.健康医療分野に情報技術が活かされている具体的事例を理解する。

使用教材

各担当教員自作の資料を使用する。

評価方法

^

レポート課題により評価し60%以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

オムニバス形式の演習科目なので、その都度担当教員がフィードバックを行う。

オフィスアワー

^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段については、各自で教員に確認すること。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	在宅健康モニタリング（鈴木）	1,2	参考資料に目を通し理解しておく。	1h	講義で提示された課題に取り組む。	2h
2	医療経営（木村）	1	病院経営について基本的な事項について調べてみる。	1h	病院経営における経営資源と特徴について講義で聞いたことを整理する。	2h
3	医療経済（町田）	1	あらかじめ配布する資料・データに目を通し理解しておく。	1h	日本の医療政策について理解を深め、海外との比較ができるようにする。	2h
4	医療倫理学（大石）	1	「医療倫理の四原則」について調べておく。	1h	配布資料を読み返し、ケーススタディについてさらに考察する。	2h
5	診療情報管理（大川）	1	チーム医療での診療情報管理士の役割と病院事務職について調べておく。	1h	配布資料を読み返し、理解を深める。	2h
6	医療の情報化（松尾）	1,2	参考資料に目を通し理解しておく。	1h	健康医療ビッグデータの活用について理解する。	2h
7	遠隔医療（東福寺）	1,2	不要。	0h	当日配布した課題について取り組む。	3h
8	医療機器（高橋大志）	1,2	資料を読み各種医療機器類を理解しておく。	1h	講義で提示された課題に取り組む。	2h
9	消化器病学及び臨床検査医学領域でのAIについて（坂本輝彦）	1,2	医学領域のAIにつき簡単に調べてみる	1h	講義内容を見直し、今後のAI医療について考察する	2h
10	臨床研究の手続き（高橋真悟）	1,2	研究や研究を進めていく上での注意点について理解しておく。	1h	配布資料中の課題に取り組む。	2h
11	人工知能（長澤）	1,2	講義用資料を事前に提示するので熟読する。	1h	講義時に配布したレポート課題に取り組む。	2h
12	統計学（石川）	1,2	3年生までに学習した基礎的な統計学を復習しておく。	1h	講義で提示された例題を理解する。	2h
13	医用画像処理（光山）	1,2	講義用資料を参照フォルダに入れておくので、それを熟読する。	1h	講義で配布した資料、提示した参考資料で復習し理解を深める。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	マルチメディア（田村）	1,2	不要。	0h	講義で行ったことをまとめ、課題を作成する。	3h
15	IoT（坂本孝）	1,2	講義用資料をあらかじめ各自で印刷し、内容について事前に調べておく。	1h	講義内容をまとめてレポート作成する。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



予習・復習については、試験前の学習で補完すること。

印刷



卒業研究

MYカモクに追加

英文名 : Graduation Study

科目区分 : 卒業研究

科目ナンバリング : HIG401

学年 : 4年

開講期 : 通年

選択・必修 : 必修

単位数 : 4単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と幅広い教養

3 健康・医療および情報に関する知識・技能

3 問題解決力

2 コミュニケーションスキル

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

学科全教員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①卒業研究は医療情報学についての勉学の総仕上げである。これまで、修得した知識・技能に基づいて、教員の指導のもとに、テーマを設定し、テーマに即した方法（文献研究、調査研究、実験研究、事例研究システム開発など）により研究をすすめる。

②実施に当たっては計画・データ収集・整理・討論・発表・卒業論文作成など一連の能力を涵養する。また推進プロセスにおいては学生の自主性を尊重するが、PDCAサイクルによる進捗管理や指導教員へのホウレンソウ（報告・連絡・相談）などによりコミュニケーションスキルの向上を目指す。また、2度の発表会では、自分の研究を他者に説明し理解を得るために、抄録作成およびプレゼンテーションを全員が体験する。

到達目標

1. 卒業研究を通じて、未知なるものを探究する考え方やその方法を身に付ける。
2. 研究の成果を整理まとめ、発表（プレゼンテーション）する技術を身に付ける。
3. 研究論文としての基本構成（背景・目的・方法・結果・考察・結論）に従った卒業論文をまとめる。

使用教材



教員が、必要に応じて作成し配布する。

評価方法



参加度（30%）、卒論発表2回（30%）、卒業論文（40%）により総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



卒業論文のテーマに関する資料や論文検索し、その内容をまとめ報告し、内容を討論する。プレゼンテーション内容や卒業論文の内容は、その都度教員が精査し、適切にアドバイスする。

オフィスアワー



各教員が最初の授業で提示する。

メールアドレス（#→@）



各教員が最初の授業で提示する。

授業計画表



各学生が希望するテーマに分かれ、到達目標に沿って下記のように研究を進める。

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究テーマに沿った文献・資料の収集と整理
- 3.研究内容の適切な課題設定と研究の実施
- 4.研究内容の中間発表（9月下旬）
- 5.研究内容の本発表（12月下旬）
- 6.卒業研究を卒業論文としてまとめ、提出する（1月下旬）。

【予習】各教員が必要に応じて指示する。

【予習時間】 期間中適宜

【復習】各教員が必要に応じて指示する。

【復習時間】 期間中適宜

備考



単位修得に必要な時間が確保されるよう、各自、データ収集・整理・論文作成などを行う。

印刷



生涯学習社会と図書館

MYカモクに追加

英文名：Lifelong Learning Society and Library

科目区分：司書科目

科目ナンバリング：－

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- － 豊かな人間性と幅広い教養
- － 健康・医療および情報に関する知識・技能
- － 問題解決力
- － コミュニケーションスキル
- － 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として社会教育課、公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ゲストスピーカー（司書、公民館主事など）による実践的な学習を実施。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、図書館と学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について理解できることを目標とする。

②授業は教科書を中心とするが、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジюмеに沿って進めていく。また、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。

到達目標 ↑

- 1.社会教育・生涯学習の役割と意義について理解する。■
- 2.生涯学習社会における図書館の役割について理解する。■
- 3.社会教育機関（図書館・博物館・公民館）、社会教育職員、委員等の役割について理解する。■

使用教材 ↑

馬場祐次朗執筆・編集代表『二訂 生涯学習概論』ぎょうせい ISBN 978-4-324-10464-4

参考文献 ↑

授業中に提示

評価方法 ↑

課題・ディスカッション・グループワーク60%、最終レポート・プレゼンテーション20%、授業貢献度等20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー ↑

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@） ↑

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、社会教育、生涯教育、生涯学習について	1	シラバス、教科書の「はじめに」～第1章1を読んでおく。	1h	社会教育、生涯教育、生涯学習の違いについて理解し、説明できるようにする。	2h
2	生涯学習の意義と生涯学習振興施策■	1	教科書第1章2を読んでおく。	1.5h	生涯学習の意義は何か、どのような政策が実施されているのを理解する。	1.5h
3	生涯学習・社会教育の意義と特質■	1,2	教科書第2章1,2を読んでおく。	1.5h	生涯学習・社会教育に関する法律と国の答申（政策）の変遷を知り、現代社会に何が必要とされているのか理解する。	1.5h
4	生涯学習・社会教育の歴史的展開	1,2,3	教科書第2章3,4を読んでおく。	1.5h	生涯学習・社会教育の歴史を踏まえ、生涯学習社会における社会教育の今日的な意義と課題について理解する。	1.5h
5	生涯学習・社会教育行政の意義と役割■	1,2,3	教科書第2章5～7を読んでおく。	1.5h	生涯学習・社会教育行政を担う国及び地方公共団体の組織と役割について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	生涯学習・社会教育行政に関わる委員・団体■	1,2,3	教科書第2章8,10を読んでおく。	1.5h	生涯学習・社会教育行政の各種委員及び関係団体の役割について理解する。	1.5h
7	社会教育主事の役割と職務	1,3	教科書第2章9を読んでおく。 ゲストスピーカーが勤務する公民館の取組について調べ、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	社会教育主事（士）、公民館主事の仕事の内容、意義について理解する。	0.5h
8	公民館の役割と機能	1,3	教科書第2章11,12を読んでおく。	1.5h	公民館の役割と機能について理解し、授業で紹介した取組事例についてさらに調べてみる。	1.5h
9	社会教育機関としての図書館の機能と役割■	1,2,3	教科書第2章13を読んでおく。任意の図書館の概要を調べ、発表の準備をしておく。	2h	社会教育機関としての図書館の役割と機能について理解し、授業で紹介され事例についてさらに調べてみる。	1h
10	生涯学習社会における図書館■	1,2,3	図書館における地域の課題解決型事業について調べ、ディスカッションできるように準備をしておく。	2.5h	図書館における読書活動以外の事業について知り、生涯学習社会における図書館の役割について理解する。	0.5h
11	公民館における読書活動■	1,2,3	公民館における読書活動について調べ、発表の準備をしておく。	2h	公民館図書室における読書活動についての理解を深め、公共図書館との連携協力について考える。	1h
12	図書館と他の社会教育機関との連携■	1,2,3	教科書第2章14,15を読んで、図書館と他の社会教育機関との連携について調べ、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	MLA（博物館・図書館・文書館）連携をはじめとする社会教育機関との連携について理解する。	0.5h
13	生涯学習社会と家庭・学校・地域	1,2,3	教科書第3章を読んでおく。	1.5h	生涯学習社会における家庭・学校・地域の連携について理解し、読書活動の推進について考える。	1.5h
14	最終レポートのプレゼンテーション及びディスカッション	1,2,3	最終レポートを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。 最終レポートは事前に提出し、冊子を作成する。	2.5h	最終レポートについて学生同士でディスカッションした結果を踏まえ、生涯学習についての理解をさらに深める。	0.5h
15	講義のまとめ	1,2,3	教科書、配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理しておく。	2h	生涯学習社会における図書館の意義と役割について論述できるようにする。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における発表、ディスカッションでは、積極的に発言することを期待する。

社会教育施設（図書館、博物館、美術館、公民館など）を積極的に活用して、理解を深めること。

※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合

①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。

②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。

③レポートの提出をもって「出席」とする。

■：実務経験に基づく内容を示す。

図書館概論

MYカモクに追加

英文名：Introduction to Librarianship

科目区分：司書科目

科目ナンバリング：－

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- － 豊かな人間性と幅広い教養
- － 健康・医療および情報に関する知識・技能
- － 問題解決力
- － コミュニケーションスキル
- － 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①図書館情報学の入門として、図書館の歴史、社会的意義、機能、役割、組織の運営、図書館の課題と展望までを概観し、図書館とは何かを理解できるようにする。
- ②授業は教科書を中心とするが、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。また、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。

到達目標

- 1.図書館の社会的意義、機能、役割等について論述できるようにする。■
- 2.図書館の歴史から将来展望までを、社会の変化に合わせて理解する。■
- 3.図書館の組織と運営について理解する。■

使用教材

↑

高山正也・岸田和明編著『改訂 図書館概論』樹村房 ISBN 978-4-88367-271-4

参考文献

↑

今まど子[ほか]編著『図書館情報学基礎資料 第5版』樹村房 ISBN 978-4-88367-386-5

評価方法

↑

課題レポート2回40%、最終レポート・プレゼンテーション30%、授業貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の講義で解説する。

オフィスアワー

↑

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）

↑

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、図書館の社会的意義	1	シラバス、教科書の監修者の言葉から1章1,2までを読んでおく。	1h	図書館の社会的意義について理解する。	2h
2	図書館の歴史（西洋・日本）	1,2	教科書第1章3を読んでおく。	1.5h	図書館の歴史と社会の変化を、関連づけて考えられるようにする。	1.5h
3	図書館の情報資源 ■	1,3	教科書第2章1,2を読んでおく。	1.5h	図書館の情報資源を知り、図書館の機能とサービスの基本的な考え方について理解する。	1.5h
4	図書館サービス（1）パブリックサービス ■	1,3	教科書第2章3を読み、図書館の利用者サービスについて調べ、発表の準備をしておく。	2h	利用者への直接サービス（パブリックサービス）について理解する。図書館を利用し、確認してみる。	1h
5	図書館サービス(2)テクニカルサービス ■	1,3	教科書第2章4を読んでおく。	1.5h	直接サービス（パブリックサービス）を支える間接的な業務（テクニカルサービス）について理解する。	1.5h
6	図書館の自由に関する宣言(1)宣言と図書館員の倫理綱領 ■	1,2,3	教科書第2章5を読んでおく。	1.5h	図書館の自由に関する宣言等が制定された社会的背景や意義を理解し、図書館員のあるべき姿について考える。	1.5h
7	図書館の自由に関する宣言(2)事例検討 ■	1,2,3	図書館の自由に関する事例を調べ、ディスカッションの準備をしておく。	2.5h	図書館の自由に関する宣言が、図書館業務にどのように関連しているか理解を深める。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	公共図書館 ■	1,2,3	教科書第3章1を読んでおく。自分が興味・関心のある公共図書館について調べ、発表の準備をしておく。	2h	公共図書館の機能と役割について理解する。	1h
9	公共図書館の歴史的展開 ■	1,2,3	教科書第3章2を読んでおく。公共図書館の読書週間の取組について調べ、発表の準備をしておく。	2h	現代における公共図書館の変遷と、図書館改革の動きについて理解する。	1h
10	図書館の職員と組織 ■	1,2,3	教科書第5章1,2読んでおく。	1.5h	図書館の組織及び職員（体制、職務、資質向上に関すること）について理解する。	1.5h
11	図書館の施設・設備 ■	1,2,3	教科書第5章3を読んでおく。施設・設備の点で優れた図書館を調べ、発表の準備をしておく。	2h	実際に公共図書館を訪問して施設・設備について調査し、理解を深める。	1h
12	各種図書館（国立図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館） ■	1,2,3	教科書第4章を読んでおく。大学図書館を利用して概要を把握しておく。	1.5h	各種図書館の特質を知り、各図書館のウェブサイトを利用して理解を深める。	1.5h
13	図書館に関係する機関・団体 ■	1,2,3	教科書第6章を読んでおく。	1.5h	図書館関連団体、その他の関連組織・団体等、出版・取次・書店の制度について理解する。	1.5h
14	最終レポートのプレゼンテーション及びディスカッション	1,2,3	最終レポートを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。最終レポートは事前に提出し、冊子を作成する。	2.5h	最終レポートについて学生同士でディスカッションした結果を踏まえ、テーマについての理解をさらに深める。	0.5h
15	講義のまとめ	1,2,3	教科書、配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理しておく。	2h	図書館とは何かを自ら考え、論述できるようにする。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における発表、ディスカッションでは、積極的に発言することを期待する。

できるだけ多くの図書館を訪ねたり、インターネットで検索したりして実際に体験してみること。

※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合

- ①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。
- ②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。
- ③レポートの提出をもって「出席」とする。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

図書館制度・経営論

MYカモクに追加

英文名：Introduction to Library Administration and Management

科目区分：司書科目

科目ナンバリング：－

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- － 豊かな人間性と幅広い教養
- － 健康・医療および情報に関する知識・技能
- － 問題解決力
- － コミュニケーションスキル
- － 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○		○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①司書として必要な図書館に関する法律、自治体行政の制度・図書館政策について学ぶ。また、「図書館学は実学である」という視点に立ち、できる限り実際の図書館の状況を交えながら図書館経営の考え方、職員、施設・設備等の経営資源、サービス計画、調査と評価、管理形態等について解説する。

②授業は、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジюмеに沿って進めていく。本講義では使用教材を指定しないが、参考文献として提示された資料については積極的に活用して学習を進めること。また、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。公共図書館でフィールドワークを実施する。

到達目標



- 1.図書館に関する法制度、自治体行政の制度・政策について理解する。■
- 2.図書館の理念を踏まえ、それが実際の図書館の運営にどのように反映されているか理解する。■
- 3.図書館職員の職務を学び、経営的な視点を身につける。■

参考文献



糸賀雅児・葉袋秀樹編集『図書館制度・経営論』樹村房 ISBN 978-4-88367-202-8
今まど子[ほか]編著『図書館情報学基礎資料 第5版』樹村房 ISBN 978-4-88367-386-5

評価方法



課題レポート2回40%、最終レポート・プレゼンテーション30%、授業貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）



メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、図書館における制度と経営 ■	1		0h	図書館における制度と経営を学ぶ必要性を理解する。	3h
2	図書館制度の概観 ■	1,2	図書館関係の法体系について調べておく。	1.5h	図書館関係法規の体系等を理解する。	1.5h
3	図書館に関する法制度（1）日本国憲法、教育基本法、社会教育法 ■	1,2	「日本国憲法」の基本的人権に関する条文及び「教育基本法」、「社会教育法」を読んでおく。	1.5h	図書館法の上位法を理解する。	1.5h
4	図書館に関する法制度（2）図書館法 ■	1,2	「図書館法」を読んでおく。	1.5h	図書館関係法規と図書館法の関係について確認し、図書館の役割と機能について理解する。	1.5h
5	読書活動に関する法制度 ■	1,2	「子ども読書活動推進法」及び「文字活字文化振興法」を読み、公共図書館で行われている事例を調べてディスカッションできるように準備する。	2.5h	子どもの読書活動の推進に関する法規等の成立過程及びその意義を理解する。	0.5h
6	図書館サービス及び経営関係の法制度 ■	1,2	「著作権法」の該当箇所及び「公共サービス基本法」を読んでおく。	1.5h	図書館サービスや経営に関連した法規を理解する。著作権法については、ICTの進展と関連づけて考えられるようにする。	1.5h
7	図書館の組織と職員 ■	1,2,3	図書館の職員に関する記事を取り上げ、関連する文献・資料などで調	2.5h	図書館を運営していくための組織、職員体制、職員の役割	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			べ、ディスカッションの準備をしておく。		について理解する。	
8	図書館長の役割 ■	1,2,3	図書館長論に関する資料を読み、ディスカッションの準備をしておく。	2.5h	図書館長論を参考に、図書館経営における館長の役割について考える。	0.5h
9	図書館の管理形態の多様化 ■	1,2,3	任意の公共図書館の管理形態について調べ、発表の準備をしておく。	2h	図書館の管理形態の多様化について理解する。	1h
10	図書館と指定管理者制度	1,2,3	指定管理者制度を導入している図書館について調べ、ディスカッションの準備をしておく。	2.5h	図書館の管理形態の多様化により、図書館サービスがどのように変化したかを理解する。	0.5h
11	公共図書館以外の図書館（1）国立図書館、学校図書館	1,2,3	「国立国会図書館法」「学校教育法」「学校図書館法」を読んでおく。	1.5h	国立図書館及び学校図書館の意義と役割について理解する。	1.5h
12	公共図書館以外の図書館（2）大学図書館、専門図書館	1,2,3	専門図書館の種類について調べておく。	1.5h	大学図書館及び専門図書館の意義と役割について理解する。	1.5h
13	日本の出版・流通・書店	1,2,3	日本の出版・流通・書店の課題について調べ、ディスカッションの準備をしておく。	2.5h	日本の出版・流通・書店の課題が、図書館とどのように関連するか理解する。	0.5h
14	最終レポートのプレゼンテーション及びディスカッション	1,2,3	最終レポートを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。	2.5h	ディスカッションした結果を踏まえ、テーマについての理解をさらに深める。	0.5h
15	講義のまとめ	1,2,3	配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理しておく。	2h	図書館の制度・経営論について自ら考え、論述できるようにする。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における発表、ディスカッションでは、積極的に発言することを期待する。

できるだけ多くの図書館を訪ねたり、インターネットで検索したりして実際に体験してみること。フィールドワークには積極的に参加すること。

※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合

- ①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。
- ②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。
- ③レポートの提出をもって「出席」とする。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷



図書館情報技術論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Library Service Technology

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性と幅広い教養
- 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 問題解決力
- コミュニケーションスキル
- 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田村 拓郎

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○			○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①近年の情報機器の多様化や進歩には目覚ましいものがある。図書館においてもCD、DVD、コンピュータソフトなどの多様なメディアやコンピュータに代表される各種の情報機器が整備されてきている。また、これらの図書館資料にネットワーク情報資源を加えて、図書館情報資源としてとらえる必要がある。図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、利用法について学修する。

②授業では、教員が各回の内容を教材や実演を通じて説明し、学生は指示された課題を実施しファイルにまとめて提出する。

到達目標

- 1.図書館業務やサービスに必要な、情報機器やコンピュータシステムの知識を習得できる。
- 2.実際にコンピュータ等を利用し検索などができる。

使用教材

^

『図書館情報技術論』 二村健・齋藤ひとみ 編著 学文社 2012年

評価方法

^

課題提出状況（70％）、学習姿勢（30％）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題発表を行い、受講生同士の質疑応答を行なう。

オフィスアワー

^

火曜日3，4限
（研究室1号館6階604）

メールアドレス（#→@）

^

tamura-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義全体のガイダンス	1	シラバスを確認しておく。	0h	講義内容・到達目標・学位授与方針・成績評価方法などを理解する。	0.5h
2	コンピュータとネットワークの基礎	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0.5h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
3	LANの構成、プロトコル	1	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
4	コンピュータシステムの管理	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0.5h	授業の課題の再確認を行い、発表の準備をする。	1h
5	データベースの仕組み	1	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
6	図書館業務システムの仕組み	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
7	図書館における情報技術活用の現状	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
8	電子資料	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
9	電子資料の管理技術	1	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
10	電子図書館とデジタルアーカイブ	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
11	情報技術と社会	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
12	インターネットと図書館	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
13	最新の情報技術と図書館	1	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
14	Web2.0とLibrary 2.0	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	展望、まとめ	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	4h

合計時間（予習・復習）

↑

42.5h

備考

↑

予習・復習の時間は参考程度であり、自らの習熟状況をふまえ各自で補完すること。

印刷



図書館サービス概論

MYカモクに追加

英文名：Introduction to Library Services

科目区分：司書科目

科目ナンバリング：－

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- － 豊かな人間性と幅広い教養
- － 健康・医療および情報に関する知識・技能
- － 問題解決力
- － コミュニケーションスキル
- － 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①図書館サービスの意義と理念を踏まえて歴史的な変遷を概観し、現状の課題を理解した上で今後の図書館サービスのあり方について考察する。

②授業は教科書を中心とするが、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジюмеに沿って進めていく。また、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。

到達目標

- 1.公立図書館が行っているサービスの意義を理解する ■
- 2.図書館サービスの歴史的経緯と背景を理解する ■
- 3.図書館サービスの基本を理解する ■

使用教材

^

高山正也[ほか]編著『図書館サービス概論』樹村房 ISBN 978-4-88367-294-3

参考文献

^

今まど子[ほか]編著『図書館情報学基礎資料 第5版』樹村房 ISBN 978-4-88367-386-5

竹内慈編訳『図書館のめざすもの 新版』日本図書館協会 ISBN 978-4-8204-1410-0

評価方法

^

課題・ディスカッション・グループワーク70%、授業貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー

^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）

^

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、図書館のめざすもの	1,3	シラバス、教科書の監修者の言葉から序文までを読んでおく。	1.5h	「図書館のめざすもの」を理解する。	1.5h
2	図書館サービスの意義と理念■	1,2,3	教科書第1章を読んでおく。	1.5h	図書館サービスの理念について理解し、図書館サービスの高度化について考察する。	1.5h
3	公共図書館サービスの変遷(1)1945年～1970年代	1,2,3	教科書第2章1,2を読み、日野市立図書館について調べ、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	戦後の復興から『市民の図書館』の時代までの公共図書館サービスの変遷を理解する。	0.5h
4	公共図書館サービスの変遷(2)1980年代～現代■	1,2,3	教科書2章3,4,5を読み、武雄市立図書館について調べ、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	社会の変化に伴う公共図書館サービスの変遷と現代的な課題について理解する。	0.5h
5	図書館サービスとコンプライアンス■	1,3	教科書第3章を読み、最近の図書館に関わる著作権法改正の動向について調べておく。	2h	知識のデジタル化・オープン化とコンプライアンスについて理解する。	1h
6	資料提供サービス■	1,3	教科書第4章を読み、図書館で各種サービスを利用してディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	資料提供サービスを体験的に理解する。	0.5h
7	情報提供サービス■	1,3	教科書第5章を読み、国立国会図書館ウェブサイトを利用してみる。	1.5h	情報サービスの種類と内容について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	図書館サービスの協力と連携(1)図書館間の協力・連携 ■	1,3	教科書第6章を読んでおく。	1.5 h	図書館間におけるさまざまな連携事例について理解する。	1.5 h
9	図書館サービスの協力と連携(2)他機関との協力・連携 ■	1,3	図書館と他機関との協力・連携の事例について調べ、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5 h	図書館と他機関が連携することにより、図書館サービスの向上につながることを理解する。	0.5 h
10	先進的な図書館サービス(1)海外	1,3	先進的な図書館サービス(世界)を調べ、発表できるように準備しておく。	2.5 h	発表された事例をさらに調べ、理解を深める。	0.5 h
11	先進的な図書館サービス(2)国内 ■	1,3	先進的な図書館サービス(日本)を調べ、発表できるように準備しておく。	2.5 h	発表された事例をさらに調べ、理解を深める。	0.5 h
12	課題解決支援 ■	1,3	教科書第7章を読み、課題解決支援サービスの実践例を調べ、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5 h	実践事例をさらに調べ、理解を深める。	0.5 h
13	図書館の利用に困難のある人へのサービス(障害者・高齢者) ■	1,3	教科書第8,9章を読んでおく。	1.5 h	図書館利用に困難を抱える人の特性を理解し、図書館サービスのあり方について考察する。	1.5 h
14	利用者とのコミュニケーション ■	1,3	教科書第10章を読んでおく。	1.5 h	さまざまな状況での利用者とのコミュニケーションのあり方について理解する。	1.5 h
15	図書館サービスの課題と展望 ■	1,2,3	教科書第11章を読んでおく。	1.5 h	図書館サービスの今日的な課題に対する理解を深め、展望について考察する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における発表、ディスカッションでは、積極的に発言することを期待する。
 できるだけ多くの図書館を訪ねたり、インターネットで検索したりして実際に体験してみること。
 ※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合
 ①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。
 ②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。
 ③レポートの提出をもって「出席」とする。
 ■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

情報サービス論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Information Services

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性と幅広い教養
- 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 問題解決力
- コミュニケーションスキル
- 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①図書館における情報サービスの意義を理解し、情報サービスの種類と方法、情報資源、図書館利用教育、発信型情報サービスを理解する。

②授業は教科書を中心とするが、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。実際の図書館における情報サービスを想定して、インターネット上の情報資源と図書館のレファレンス資料を用いて課題を解く。随時グループワーク、ディスカッションを行い、課題への理解を深める。

到達目標



- 1.図書館における情報サービスの意義を理解する■
- 2.情報サービスの種類と内容を理解する■
- 3.各種情報源の特徴と利用法を理解する■
- 4.レファレンスサービスの実際を理解する■
- 5.図書館利用教育や発信型情報サービスの意義を理解する■

使用教材



竹之内禎編著『情報サービス論』学文社 ISBN978-4-7620-3318-6

参考文献



山口真也〔ほか〕編著『情報サービス論』ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-08258-2
山崎久道編『情報サービス論』樹村房 ISBN978-4-88367-295-0
長澤雅男〔ほか〕共著『問題解決のためのレファレンスサービス 改訂版』日本図書館協会 ISBN978-4-8204-2305-8

評価方法



課題、制作物70%、授業貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



各授業終了後に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）



メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス 情報社会と図書館の情報サービス■	1	シラバス、教科書第1章を読んでおく。	1h	情報社会における図書館の情報サービスの意義と役割について理解する。	2h
2	図書館における情報サービスの種類■	1,2	教科書第2章を読んでおく。	1.5h	直接サービス、間接サービス、課題異解決型の情報サービスについて理解する。	1.5h
3	図書館における情報サービスの理論的展開■	1,2	教科書第3章を読んでおく。	1.5h	図書館における情報サービスの捉え方の変遷を理解する。	1.5h
4	レファレンスサービスの理論と実践■	2,4	教科書第4章を読んでおく。	1.5h	参考業務の業務構成と参考質問の類型を理解する。	1.5h
5	レファレンスサービスの実際■	2,4	教科書第5章を読んで、「発想ひまわり」の活用の仕方について理解しておく。	1.5h	「発想ひまわり」を活用した情報資源へのアクセスの方法を理解する。	1.5h
6	各種情報資源の特質と利用法(1)情報メディア・文献を探す■	1,2,3	教科書第7章を読んでおく。	1.5h	情報メディア・文献調査の種類と特性を理解して活用できるようにする。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	各種情報資源の特質と利用法(2)論文・記事を探す■	1,2,3	教科書第8章を読んでおく。	1.5h	論文・記事調査の種類と特性を理解して活用できるようにする。	1.5h
8	各種情報資源の特質と利用法(3)事項・事実を探す■	1,2,3	教科書第9章を読んでおく。	1.5h	事項・事実調査の種類と特性を理解して活用できるようにする。	1.5h
9	情報検索サービスの理論と方法	1,2,3	教科書第6章を読んでおく。	1.5h	論理演算子とトランケーションについて理解する。	1.5h
10	各種情報源の評価と解説・組織化■	1,2,3,4	教科書第10,11章を読んでおく。	1.5h	レファレンスブックの評価と解説、組織化の意義と役割について理解する。	1.5h
11	発信型情報サービスの意義と方法(1)ソーシャルメディアを活用した発信型情報サービス■	1,2,5	教科書第12章を読み、ソーシャルメディアを活用した発信型情報サービスを体験して、ディスカッションの準備をしておく。	2h	ソーシャルメディアを活用した発信型情報サービスの種類と特性について理解する。	1h
12	発信型情報サービスの意義と方法(2)ライブラリーナビ■	1,2,5	ライブラリーナビ作成の準備をしておく。	2h	ライブラリーナビを作成し、情報サービスへのアクセス方法を発信する意義を理解する。	1h
13	図書館利用教育と情報リテラシーの育成(1)図書館利用案内■	1,2,5	教科書第14章を読み、「図書館利用案内」作成の準備をしておく。	2.5h	「図書館利用案内」の意義と活用方法について理解する。	0.5h
14	図書館利用教育と情報リテラシーの育成(2)オリエンテーションプログラム■	1,2,5	「図書館利用案内」を活用したオリエンテーションプログラムの発表の準備をしておく。	2.5h	図書館における図書館利用教育と情報リテラシー育成を理解する。	0.5h
15	情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識■	1,2,3,4,5	教科書第13章を読んでおく。	1.5h	知的財産権、パブリックドメインについて理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における発表、ディスカッションでは、積極的に発言することを期待する。

図書館のさまざまな情報資源を実際に活用して、理解を深めること。

※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合

①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。

②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。

③レポートの提出をもって「出席」とする。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

児童サービス論

MYカモクに追加

英文名 : Library Service for Children

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性と幅広い教養
- 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 問題解決力
- コミュニケーションスキル
- 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小柳 聡美

科目に関連した実務経験

学校図書館司書として公立小中学校に勤務（現在）
教務職員として進学塾に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①児童サービス（対象は乳幼児からヤングアダルトまで）の概要と意義、担当者の専門的職務、歴史的変遷と発展内容、児童資料の特色と選択、発達と学習への「読書」の役割、児童コレクションの形成と管理、さらにヤングアダルトサービスの概要と資料の特色を認識する。

②生涯学習の一環としての児童サービスの重要性を理解するとともに、どのようにすれば子ども達に読書の楽しさと喜びを

伝えられるかについて学ぶ科目です。特に各自がオリジナルの図書館案内を作成することによって、児童サービスの内容を認識でき、キャリアプランへの構築へと繋がります。

到達目標 ↑

- 1.公共図書館における児童サービスの重要性を理解する。
- 2.児童資料の類型について理解し、選択・評価できる。
- 3.公共図書館を利用する児童のニーズを理解し、対応できる能力を身につける。■
- 4.子どもと本を結びつけることの重要性を理解し、援助できる。

使用教材 ↑

『児童サービス論 新訂版』JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ6 堀川照代 編著
(日本図書館協会) ISBN9784820419099

参考文献 ↑

『児童サービス論』JAL図書館情報学テキストシリーズⅢ6 堀川照代 編著 (日本図書館協会) ISBN9784820413158

評価方法 ↑

筆記試験60%、オリジナル図書館案内（児童向け）の作成及び読み聞かせ発表30%、授業への参加態度10%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。
筆記試験の意図は、第1回の講義で説明する。

オフィスアワー ↑

質問には講義開始前もしくは終了後に教室等で応じます。

メールアドレス（#→@） ↑

連絡手段は初回に提示します。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	児童サービスの概要と意義	1	シラパスの内容を読んで講義の目標などを理解する。 なぜ司書資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。	1.5h	教科書p.9～p.18を読む。	1.5h
2	児童サービス担当者の専門的職務	1	教科書p.19～p.35に目を通す。	1.5h	児童サービス担当者の専門性を理解する。 教科書p.254～p.261を読む。	1.5h
3	児童資料の類型	1,2	教科書p.36～p.38に目を通す。	1.5h	児童資料の形態と内容を理解する。	1.5h
4	児童資料の特色と選択1 絵本の種類とグレード	1,2	教科書p.39～p.44に目を通す。	1.5h	学んだ種類の絵本を、図書館等で探し、読む。	1.5h
5	児童資料の特色と選択2 児童文学・創作児童文学、昔話・伝承文学、詩	1,2	教科書p.45～p.54に目を通す。	1.5h	紹介された作品の中から1作品を選び、読む。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	児童資料の特色と選択3 ノンフィクション、レファレンスブック	1,2	教科書p.55～p.75に目を通す。	1.5h	レファレンスブックとは何か理解する。 図書館においてレファレンスブックの位置を確認する。	1.5h
7	児童資料の特色と選択4 児童資料の出版と流通	1,2	児童資料に限らず、現在の出版と流通について調べておく。	1.5h	児童資料の出版と流通について理解する。	1.5h
8	児童資料の特色と選択5 児童コレクションの形成と評価	1,2	教科書p.76～p.88に目を通す。	1.5h	児童コレクションの形成について理解し、評価できるようにする。	1.5h
9	児童サービスの業務1 資料提供サービス	1,3,4	教科書のp.89～p.94に目を通す。	1.5h	資料提供サービスについて理解する。	1.5h
10	児童サービスの業務2 情報サービス	1,3	教科書のp.95～p.100に目を通す。	1.5h	情報サービスについて理解する。	1.5h
11	児童サービスの業務3 乳幼児サービス	1,3	教科書のp.173～p.185に目を通す。	1.5h	乳幼児サービスについて理解する。	1.5h
12	児童サービスの方法・技術（読み聞かせとストーリーテリング）■	1,3,4	教科書のp.154～p.177に目を通す。	1.5h	次週、読み聞かせの実践で使用する絵本（1～3冊）と、ストーリーテリングしてみたい作品を選ぶ。	1.5h
13	絵本読み聞かせ指導■	1,4	選んだ絵本、作品を読む練習をする。	1.5h	読み聞かせの方法について理解する。	1.5h
14	ヤングアダルトサービスの概要と資料の特色	1,3	教科書p.186～p.204に目を通す。	1.5h	ヤングアダルトサービスとは何か理解する。	1.5h
15	まとめ 児童サービス 対象者向けオリジナル 図書館案内の提出・発表	1,3	図書館案内の作成。	1.5h	全講義の振り返り。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

可能であれば近隣の公共図書館を訪問し、現在の児童サービスの現状を実際に見聞すること。
基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料や読み聞かせ実践資料を配信する。連絡・相談にも随時応じる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

情報サービス演習

MYカモクに追加

英文名 : Practicum of Information Retrieval

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 3年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性と幅広い教養
- 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 問題解決力
- コミュニケーションスキル
- 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子、田村 拓郎

科目に関連した実務経験

(秋山) 地方公務員(管理職)として公共図書館に勤務(経験)

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①「情報サービス論」の理論を基に情報サービスの設計から評価に至る各種の業務(レファレンスツールの選択、レファレンスプロセスの構築)や発信型情報サービスの評価等を体験し、実践的な能力を養成する。
- ②使用教材は指定せず、講義毎に配付するレジュメや参考資料に沿って進めていく。情報検索の課題についてはグループワークで発表、ディスカッションを行う。課された制作物については、プレゼンテーションを行い、意見交換する。この過程を通して、利用者の情報ニーズに即した図書館の情報サービスのあり方を理解し、実践できるようにする。

到達目標



- 1.情報サービスの設計とレファレンスコレクションの構築等の準備を理解する。■
- 2.情報検索の技法を理解し、インターネット情報を活用する。■
- 3.質問に対する検索と回答(質問分析と情報源の選択)をする。■
- 4.レファレンス質問をめぐる図書館利用者とのコミュニケーションを想定する。■
- 5.発信型情報サービスを行う。■
- 6.情報サービスの評価を行う。■

参考文献



原田智子『三訂 情報サービス演習』樹村房 ISBN978-4-88367-337-7
長澤雅男[ほか]共著『レファレンスブックス 選び方・使い方 四訂版』日本図書館協会 ISBN：978-4-8204-2001-9

評価方法



(秋山) 演習問題・制作物70%、授業貢献度等30%で評価する。
(田村) 毎回の課題80%、講義中の質疑応答等20%
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



(秋山) 各授業終了後に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。
(田村) 課題発表を行い、受講生も含めた質疑応答等を行う

オフィスアワー



(秋山) 質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。
(田村) 月曜日4,5限(研究室1号館6階604)

メールアドレス(#→@)



(秋山) メールアドレスは初回授業時に提示する。
(田村) tamura-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、前期講義の説明	1,2,3,4,5,6		0h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	3h
2	情報検索の方法(1) ウェブページ、ウェブサイト■	2,3	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	2h
3	情報検索の方法(2) 図書、新聞記事、雑誌記事■	2,3	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	2h
4	情報検索の方法(3) 言葉・事柄・統計■	2,3	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	2h
5	情報検索の方法(4) 歴史・日時・地理・地名・地図■	2,3	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	2h
6	情報検索の方法(5) 人物・企業・団体■	2,3	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	2h
7	情報検索の方法(6) 法令・判例・知的財	2,3	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	産系情報 ■					
8	レファレンスプロセスの検討 ■	1,2,3,4	レファレンス事例を調べ、質問のテーマを考えておく。	1h	レファレンスプロセスを考え、レファレンスツールを選択して発表資料を作成する。	2h
9	レファレンスプロセスの発表 ■	1,2,3,4,6	レファレンスプロセスの発表、ディスカッションのための準備をしておく。	2.5h	ディスカッションした結果を踏まえ、発表内容のふりかえりを行い、レファレンスプロセスについて理解を深める。	0.5h
10	発信型情報サービス(1)パスファインダーの意義 ■	1,5	発信型情報サービスの種類について調べておく。	2h	パスファインダーの意義について理解する。	1h
11	発信型情報サービス(2)パスファインダーの作成・評価 ■	1,5,6	パスファインダー作成のための準備をしておく。	2h	パスファインダーの作成・評価を通して、発信型情報サービスについて理解を深める。	1h
12	発信型情報サービス(3)POPの意義 ■	1,5	書店等に出向き、POPの役割、効果を調べておく。	2h	POPの役割、効果について理解する。	1h
13	発信型情報サービス(3)POPの作成・評価 ■	1,5,6	POP作成のための準備をしておく。	2h	POPの作成・評価を通して、発信型情報サービスについて理解を深める。	1h
14	発信型情報サービス(5)リンク集 ■	1,5,6	各種リンク集を調べておく。	1.5h	リンク集の意義と課題について理解する。	1.5h
15	講義のまとめ	1,2,3,4,5,6	配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理しておく。	2h	各種のレファレンスツールを適切に選択・活用し、情報サービスが行えるようにする。	1h
16	ガイダンス 後期講義説明	1,2,3,4,5,6	特になし	0h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
17	Web検索の概要	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
18	Webによる情報の収集1	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
19	Webによる情報の収集2	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
20	Webによる情報の収集3	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
21	論文検索の概要	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
22	論文検索	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
23	論文検索の実際1	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
24	論文検索の実際2	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
25	論文検索の実際3	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
26	論文検索のまとめ1	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
27	論文検索のまとめ2	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
28	情報サービスの現状	1,2,3,4	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
29	新しい発信型情報サービス	1,2,3,4,5	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
30	講義のまとめ	1,2,3,4,5,6	課題の発表の準備をする。	1h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	3h

合計時間（予習・復習）↑

90h

備考↑

この科目は「情報サービス論」を履修していなければ受講できません

この科目は課題提出等で基本的なパソコンの操作が必要です。各自で習得しておいてください。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

図書館情報資源概論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Library Information Resources

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性と幅広い教養
- 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 問題解決力
- コミュニケーションスキル
- 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小柳 聡美

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①高度情報化社会の進展に伴い、図書館環境も大きく変わりつつある。ここでは、印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源について、類型と特質、選択・収集・保存等、図書館業務に必要な情報資源に関する知識の基本について理解できることを目標にする。

②授業では、テキストを単元ごとに読解し要約する。随時、図書館に関連する資料やニュースを紹介していく。

到達目標

- 1.多様化する図書館情報資源（印刷メディア）の有効活用を考えることができる。
- 2.多様化する図書館情報資源（非印刷メディア）の有効活用を考えることができる。
- 3.多様化する図書館情報資源（電子メディア）の有効活用を考えることができる。

使用教材 ^						
『図書館情報資源概論 新訂版』JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ8 馬場俊明 編著 (日本図書館協会) ISBN9784820418085						
評価方法 ^						
筆記試験60%、授業時間内発表及び提出物30%、授業参加態度10%で評価する。 総合評価60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。						
課題・評価に対するフィードバック方法 ^						
提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。 筆記試験の意図は、第1回の講義で説明する。						
オフィスアワー ^						
質問には講義開始前もしくは終了後に教室等で応じる。						
メールアドレス（#→@） ^						
連絡手段は初回に提示する。						
授業計画表 ^						
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	図書館情報資源概論について	1,2,3	シラバスを読んで、講義の目標などを理解する。	1.5h	UNIT 0を読み、図書館情報資源概論の学習計画を立てる。	1.5h
2	図書館情報資源の意義	1,2,3	教科書のUNIT 1～4に目を通す。	1.5h	図書館情報資源の定義と類型について理解する。	1.5h
3	印刷資料の類型と特質1	1	教科書のUNIT 5に目を通す。	1.5h	図書の特質を理解する。	1.5h
4	印刷資料の類型と特質2	3	教科書のUNIT 6～8に目を通す。	1.5h	雑誌・新聞等の特質を理解する。	1.5h
5	非印刷資料の類型と特質	3	教科書のUNIT 9～12に目を通す。	1.5h	各資料の特質を理解する。	1.5h
6	電子資料の類型と特質	3	教科書のUNIT 13～17に目を通す。	1.5h	電子メディアの特質を理解する。	1.5h
7	図書館情報資源と図書館の自由	1,2	教科書のUNIT 27～30に目を通す。	1.5h	表現の自由と検閲の問題を理解する。	1.5h
8	蔵書論	1,2	教科書のUNIT 31に目を通す。	1.5h	蔵書概念について理解する。	1.5h
9	蔵書論	1,2	教科書のUNIT 32～34に目を通す。	1.5h	蔵書の収集方針から更新までについて理解する。	1.5h
10	収集と選択	1,2	教科書のUNIT 35に目を通す。	1.5h	選書の意義について理解する。	1.5h
11	収集と選択	3	教科書のUNIT 36～38に目を通す。	1.5h	様々な選書論について理解する。	1.5h
12	蔵書管理	1,2,3	教科書のUNIT 39～43に目を通す。	1.5h	蔵書評価ができるように、基本知識を身につける。	1.5h
13	資料の組織化	1,2,3	教科書のUNIT 44～47に目を通す。	1.5h	資料組織化のための業務について理解する。	1.5h
14	書庫管理	1,2,3	教科書のUNIT 48～50に目を通す。	1.5h	蔵書点検の意義について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	まとめ・学習の整理と展望	1,2,3	キーワードについて確認する。	1.5h	近未来の図書館構想も視野に入れて理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

↑

45h

備考

↑

基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料を配信する。連絡・相談にも随時応じる。

印刷 

情報資源組織論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Library Information Resources Organization

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性と幅広い教養
- 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 問題解決力
- コミュニケーションスキル
- 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①情報資源の組織化の意義と内容を理解して説明することができ、実際の組織化業務に役立てられるようにする。

②授業は教科書を中心とするが、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。また、課題に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、講義内容の理解を深める。確認テストにより理解度を確認する。

到達目標

- 1.情報資源を組織化する意義と内容を理解して説明できるようにする。■
- 2.情報資源の組織化についての理論を理解し、実際の業務に役立てられるようにする。■

使用教材

^

榎本裕希子[ほか]著『情報資源組織論』学文社 ISBN978-4-7620-2889-2

参考文献

^

『日本目録規則 2018年版』日本図書館協会 ISBN978-4-8204-1814-6
『日本目録規則 1987年版改訂3版』日本図書館協会 ISBN978-4-8204-0602-7
もりきよし原著『日本十進分類法 新訂10版』日本図書館協会 ISBN978-4-8204-1413-1
もりきよし原著『日本十進分類法 新訂10版簡易版』日本図書館協会 ISBN978-4-8204-1807-8
『基本件名標目表 第4版』日本図書館協会 ISBN978-4-8204-2400-0

評価方法

^

課題・確認テスト70%、授業貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー

^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）

^

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス 情報資源組織化の意義と理論	1	教科書第1章を読んでおく。	1.5h	情報資源の組織化の意義と図書館における情報資源組織化について理解する。	1.5h
2	書誌コントロールの標準化	1,2	教科書第2章を読んでおく。	1.5h	書誌コントロールの機能と標準化について理解する。	1.5h
3	書誌記述法■	1,2	教科書第3章を読んでおく。	1.5h	目録の種類、目録法、目録規則について理解する。	1.5h
4	日本目録規則（1）NCR2018年度版■	1,2	教科書第4章を読んでおく。	1.5h	NCR2018年版の概要について理解する。	1.5h
5	日本目録規則（2）書誌階層構造、属性の記録、アクセスポイント■	1,2	教科書第5章を読んでおく。	1h	書誌階層構造と記述のタイプ、体现体の属性の記録（図書）について理解する。	2h
6	主題分析の意義と考え方■	1,2	確認テストの準備のため、教科書第1章～第5章と配布資料を再確認しておく。教科書第6章を読んでおく。	2.5h	主題組織法と統制語について理解する。	0.5h
7	主題分析と索引法■	1,2	教科書第7章を読んでおく。	1.5h	索引法と主な統制語（シソーラス、件名標目表）について理解する。	1.5h
8	基本件名標目表■	1,2	教科書第8章を読んでおく。	1.5h	基本件名標目表の構成と件名規程について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	主題分析と分類法 ■	1,2	教科書第9章を読んでおく。	1.5h	図書館における分類について理解する。	1.5h
10	日本十進分類法 ■	1,2	教科書第10章を読んでおく。	1h	確認テストのため第6章から第10章までの教科書と配布資料を読み、復習しておく。	2h
11	書誌情報の作成と流通 ■	1,2	教科書第11章を読んでおく。	1.5h	MARC、書誌ユーティリティについて理解する。	1.5h
12	書誌情報の提供 ■	1,2	教科書第12章を読んでおく。	1.5h	OPACの管理と運用方法について理解する。	1.5h
13	ネットワーク資源と多様な情報資源の組織化 ■	1,2	教科書第13,14章を読んでおく。	1h	ネットワーク情報資源と多様な情報資源の組織化について理解する。	2h
14	課題と展望	1,2	確認テストの準備のため、第11章から第14章までの教科書と配布資料を再確認しておく。教科書第15章を読んでおく。	1.5h	情報資源組織の課題と展望について理解する。	1.5h
15	講義のまとめ	1,2	教科書、配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理しておく。	2h	情報資源の組織化の意義と内容を理解して、実際の組織化業務に役立てられるようにする。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における発表、ディスカッションでは、積極的に発言することを期待する。

実際に図書館を利用して資料の排架の様子、図書の請求記号の情報、OPACの検索結果の情報などを調べてみる。

※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合

- ①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。
- ②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。
- ③レポートの提出をもって「出席」とする。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

情報資源組織演習

MYカモクに追加

英文名 : Library Information Resources Organization Practice

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 2年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 4単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性と幅広い教養
- 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 問題解決力
- コミュニケーションスキル
- 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①「情報資源組織論」の理論を基に情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

②各授業の前半は、教科書及び配付資料を使って要点をまとめ説明する。後半は、演習問題の検討をし、提出を求める。総合演習問題では、演習問題の解答をグループで発表し合い、内容を検討した上で、提出を求める。この過程を通して利用者の立場に立った資料・情報探索のニーズを考え、図書館のあり方を考える。項目ごとに確認テストを行う。

到達目標

- 1.『日本目録規則』に準拠し情報資源の書誌データの作成をする。■
- 2.『日本十進分類法』と『基本件名標目表』に準拠し、主題分析と分類作業・統制語彙の適用を行う。■

使用教材

宮沢厚雄著『目録法キイノート』（樹村房） ISBN978-4-88367-260-8

宮沢厚雄著『分類法キイノート』（樹村房） ISBN978-4-88367-343-8

参考文献

『日本目録規則 2018年版』（日本図書館協会） ISBN978-4-8204-1814-6

もりきよし原著『日本十進分類法 新訂10版』（日本図書館協会） ISBN978-4-8204-1413-1

もりきよし原著『日本十進分類法 新訂10版簡易版』（日本図書館協会） ISBN978-4-8204-1807-8

『基本件名標目表 第4版』（日本図書館協会） ISBN978-4-8204-2400-0

もりきよし著『日本著者記号表』（日本図書館協会） ISBN4-8204-7402-2

評価方法

演習問題・確認テスト70%、授業貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、目録の意義、目録の種類■	1	教科書『目録法キイノート』第1章を読んでおく。	1h	目録の種類と書誌の種類をまとめる。	2h
2	日本目録規則■	1	教科書『目録法キイノート』第2章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	書誌事項のエリアを把握する。記述の情報源の優先順を理解する。	0.5h
3	タイトルと責任表示 (1) タイトル関連表示、並列タイトル、責任表示■	1	教科書『目録法キイノート』第3章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	責任表示の役割の種類を理解する。	0.5h
4	タイトルと責任表示 (2) 部編名、別タイトル、複数責任表示■	1	教科書『目録法キイノート』第4章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	部編名、別タイトル、複数作品を収録する図書の記述を理解する。	0.5h
5	タイトルと責任表示に関する総合演習問題■	1	教科書『目録法キイノート』第5章の演習問題を解き、発表の準備をしておく。	3.0h		0h
6	版表示、出版・頒布等の事項■	1	教科書『目録法キイノート』第6章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	版と刷、出版地の記述を理解する。	0.5h
7	形態、注記、ISBN■	1	教科書『目録法キイノート』第7章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	形態、注記、標準番号の記述を理解する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	単行書に関する総合演習問題 ■	1	教科書『目録法キイノート』第8章の演習問題を解き、発表の準備をしておく。	3.0h		0h
9	書誌単位（1）出版形態、書誌単位、多冊ものの書誌記述 ■	1	教科書『目録法キイノート』第9章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	単行(基礎)単位と集合単位の記述を理解する。	0.5h
10	書誌単位（2）シリーズもの・セットものの、2層の書誌階層 ■	1	教科書『目録法キイノート』第10章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	シリーズものとセットものの記述を理解する。	0.5h
11	3層の書誌階層（1）集合・基礎・構成の書誌階層 ■	1	教科書『目録法キイノート』第11章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	単行（基礎）単位、集合単位、構成単位の3層の記述を理解する。	0.5h
12	3層の書誌階層（2）下位シリーズが加わった書誌階層 ■	1	教科書『目録法キイノート』第12章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	本シリーズと下位シリーズの構造の記述を理解する。	0.5h
13	書誌単位に関する総合演習問題 ■	1	教科書『目録法キイノート』第13章を読んで演習問題を解き、発表の準備をしておく。	3.0h		0h
14	目録法に関する総合演習問題 ■	1	確認テストの準備として第1章～13章までの授業内容を復習し、教科書『目録法キイノート』第14章を読んで演習問題を解いておく。	3h		0h
15	見出し項目の選出と編成 ■	1	教科書『目録法キイノート』第15章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	見出し項目の選出、表記、編成の記述について理解する。	0.5h
16	ガイダンス、分類記号の位置づけ、主題分析(1)分類記号付与の基本手順 ■	2	教科書『分類法キイノート』第1,2章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	主要な図書館分類法と『日本十進分類表』（本表）の見方を理解する。	0.5h
17	主題分析(2)本表（細目表）と階層構造 ■	2	教科書『分類法キイノート』第3章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	階層構造と本表（細目表）の見方を理解する。	0.5h
18	主題分析(3)主題の特定と相関索引 ■	2	教科書『分類法キイノート』第4章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	相関索引、分類記号付与、列举型項目の省略について理解する。	0.5h
19	補助表(1)形式区分 ■	2	教科書『分類法キイノート』第5章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	補助表、形式区分を理解する。	0.5h
20	補助表(2)地理区分・海洋区分 ■	2	教科書『分類法キイノート』第6章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	地理区分、日本地方区分、海洋区分を理解する。	0.5h
21	補助表(3)言語区分・言語共通区分 ■	2	教科書『分類法キイノート』第7章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	言語区分、言語共通区分を理解する。	0.5h
22	補助表(4)文学共通区分・地域的論述の細区分・その他の固有補助表 ■	2	教科書『分類法キイノート』第8章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	文学共通区分(固有補助表)と、地域的論述の細区分（固有補助表）、その他の固有補助表を理解する。	0.5h
23	補助表に関する総合演習問題 ■	2	教科書『分類法キイノート』第9章の演習問題を解き、発表の準備をしておく。	3h		0h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
24	分類規程(1)複数主題（対等と相互作用）■	2	教科書『分類法キイノート』の第10章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	複数主題（対等と相互作用）の分類規程を理解する。	0.5h
25	分類規程(2)複数主題（重点処置）と原著作・関連著作■	2	教科書『分類法キイノート』の第11章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	複数主題（重点処置）と原著作・関連著作の分類規程を理解する。	0.5h
26	分類規程(3)伝記■	2	教科書『分類法キイノート』の第12章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	伝記の分類規程を理解する。 分類法の心得25選を理解する。	0.5h
27	分類規程に関する総合演習問題■	2	教科書『分類法キイノート』第13章の演習問題を解き、発表の準備をしておく。	3h		0h
28	分類法に関する総合演習問題■	2	確認テストの準備として第16回～第27回授業の内容を復習し、教科書『分類法キイノート』第14章の演習問題を解いておく。	3h		0h
29	請求記号■	2	教科書『分類法キイノート』第15章の演習問題を解いておく。任意の公共図書館の請求記号と排架場所について調べ、発表できるように準備しておく。	2.5h	請求記号の中の分類記号、図書記号、補助記号、別置記号を理解する。	0.5h
30	目録法・分類法のまとめ	1,2	教科書、配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理しておく。	2h	情報資源組織化に関する知識と技術を身につけ、実際に組織化できるようにする。	1h

合計時間（予習・復習）

90h

備考

この科目は「情報資源組織論」を履修していなければ受講できない。

各章の演習問題を解いて授業に臨むこと。

※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合

①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。

②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。

③レポートの提出をもって「出席」とする。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



図書館サービス特論

MYカモクに追加

英文名 : Lecture on Library Services

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性と幅広い教養
- 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 問題解決力
- コミュニケーションスキル
- 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小柳 聡美

科目に関連した実務経験

学校図書館司書として公立小中学校に勤務（現在）
教務職員として進学塾に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①司書資格取得必修科目で学んだ内容を実際に司書業務の中に活かすには、カウンターサービス並びにフロアワークに必要なコミュニケーション能力を伸ばすことが不可欠である。特に日本人に固有なノンバーバル・コミュニケーションの理解と将来の超高齢化・少子化を考慮しながらのコミュニケーション能力の育成により、生涯学習としての図書館利用を促せるサービス環境の構築を目指す。

②第2回より、導入で前回の講義内容を400字にまとめて発表してもらう。

到達目標

^

- 1.対人業務に必要なコミュニケーション能力を学び、その能力を具体的に修得できる。■
- 2.コミュニケーションの定義を正確に理解する。
- 3.多種多様な利用者に対し、円滑なコミュニケーションが実現できる対応力を身につける。■

使用教材

^

なし（講義内で適宜紹介）

参考文献

^

『コミュニケーション学入門』大田信男（大修館書店）
ISBN9784469211863

評価方法

^

筆記試験60%、授業時間内発表、及び提出物30%、授業参加態度10%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。
筆記試験の意図は、第1回の講義で説明する。

オフィスアワー

^

質問には講義開始前もしくは終了後に教室等で応じます。

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回に提示します。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コミュニケーションの必要性	1,2	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。 なぜ司書資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。	2h	コミュニケーションとは何かを理解する。	2h
2	ノンバーバル・コミュニケーションのメッセージ性	1,2	ノンバーバル・コミュニケーションのメッセージ性について考える。	2h	バーバル・コミュニケーション、ノンバーバル・コミュニケーションとは何か理解する。	2h
3	マス・コミュニケーションと社会	1	マス・コミュニケーションと社会について考える。	1.5h	マス・コミュニケーション、マス・メディアとは何か理解する。	2h
4	若者文化とコミュニケーション	1,3	若者文化とコミュニケーションについて考える。	1.5h	（現在「若者」である）自分にとっての若者文化とは何か考察する。	2h
5	図書館サービスとコミュニケーションの関係	1	図書館における自身の「コミュニケーション」体験について発表できるように準備しておく。	1.5h	図書館において必要なコミュニケーションとは何か考察する。	1.5h
6	カウンターサービスとフロアワークの目的と意義■	1	カウンターサービスとフロアワークについて考える。	1.5h	カウンターサービス、フロアワークとは何か、違いも含めて理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	情報化の進展と図書館サービス	1	図書館サービスにおける情報の進展について考える。	2h	図書館における情報化の必要性について理解する。	2h
8	「モノ」と「コト」に付けられた「名前」	1	なぜ「名前」をつけるのか、について考える。	2h	全講義の振り返り。	2h

合計時間（予習・復習）



29h

備考



キーワード：「ノンバーバル・コミュニケーション」「フロアワーク」「カウンターサービス」「生涯学習」
基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料を配信する。連絡・相談にも随時応じる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



図書館情報資源特論

MYカモクに追加

英文名 : Lecture on Library Information Resources

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性と幅広い教養
- 健康・医療および情報に関する知識・技能
- 問題解決力
- コミュニケーションスキル
- 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小柳 聡美

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①「図書館情報資源概論」で学んだ内容をさらに発展的に学習し理解を深める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題を選択し、高度化・多様化する利用者のニーズに応えられることを目標にする。

②授業では、テキストを單元ごとに読解し要約する。随時、図書館に関連する資料やニュースを紹介していく。

到達目標

- 1.各分野の情報資源の特性を知る。
- 2.各分野の情報資源にアクセスできる。

使用教材

評価方法

筆記試験60%、授業時間内発表及び提出物30%、授業参態度10%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。
筆記試験の意図は、第1回の講義で説明する。

オフィスアワー

質問には講義開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	資料特論（灰色文献）	1,2	教科書UNIT 18に目を通す。	2h	灰色文献にアクセスし、理解を深める。	2h
2	資料特論（政府刊行物）	1,2	教科書UNIT 19に目を通す。	1h	政府刊行物にアクセスし、理解を深める。	1.5h
3	資料特論（地域資料）	1,2	教科書UNIT 20に目を通す。	1h	地域社会分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。	1.5h
4	人文・社会科学分野の情報資源	1,2	教科書UNIT 21に目を通す。	1h	人文・社会科学分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。	1.5h
5	自然科学・技術分野の情報資源	1,2	教科書UNIT 22に目を通す。	1h	自然科学・技術分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。	1.5h
6	出版流通システム	1,2	教科書UNIT 23～26に目を通す。	1.5h	出版流通システムについて、理解を深める。	1.5h
7	NIE（教育に新聞を！）の活動報告	1,2	新聞を読む。	1.5h	新聞記事をスクラップにまとめることについて、理解を深める。	1.5h
8	まとめ・筆記試験	1	キーワードについて確認する。	2h	全講義を振り返る。	2h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料を配信する。連絡・相談にも随時応じる。

印刷 